

柳川市人口ビジョン

【第2期】

平成31年3月

 柳川市

目次

はじめに 人口ビジョンについて

I 柳川市の人口構造

1 柳川市の人口構造	1
(1) 総人口の推移と将来推計	1
(2) 年齢3区分人口の推移と将来推計	2
(3) 人口ピラミッド	4
(4) 人口メッシュ分析	6
(5) 自然動態（出生・死亡）の推移	8
(6) 社会動態（転入・転出）の推移	9
2 校区別人口の状況	10
(1) 校区別自然動態（出生・死亡）の推移	10
(2) 校区別自然増減数の推移	11
(3) 校区別社会動態の状況	12
(4) 校区別人口移動及び将来推計人口	13
① 柳河小校区	14
② 城内小校区	16
③ 東宮永小校区	18
④ 矢留小校区	20
⑤ 両開小校区	22
⑥ 昭代第一小校区	24
⑦ 昭代第二小校区	26
⑧ 蒲池小校区	28
⑨ 豊原小校区	30
⑩ 大和小校区	32
⑪ 皿垣小校区	34
⑫ 有明小校区	36
⑬ 中島小校区	38
⑭ 六合小校区	40
⑮ 藤吉小校区	42
⑯ 矢ヶ部小校区	44
⑰ 二ツ河小校区	46
⑱ 垂見小校区	48
⑲ 中山小校区	50
3 通勤・通学者の状況	52
(1) 通勤者の推移	52
(2) 通学者の推移	54

II 柳川市の住まいの状況

- 1 住まいの状況57
 - (1) 持ち家の状況57
 - (2) 空き家の状況58

III 柳川市の産業構造

- 1 就業人口の状況59
 - (1) 産業別就業人口の推移60
 - (2) 産業大分類別就業人口の推移62
 - (3) 年齢階級別産業人口構造64
- 2 市内総生産の状況65
 - (1) 市内総生産の推移65
- 3 民営事業所の状況66
 - (1) 法人登録数の推移66
 - (2) 新設・廃業事業所の比較67
- 4 求人の状況68

IV 柳川市の産業別状況

- 1 農業69
 - (1) 農業就業者の状況69
 - (2) 農業産出額の状況70
 - (3) 耕地面積の状況71
 - (4) 農業経営体の状況72
- 2 水産業73
 - (1) 漁業就業者の状況73
 - (2) ノリ生産の状況74
- 3 観光業76
 - (1) 観光入込客数の状況76
 - (2) 観光消費額の状況77
- 〈参考〉産業大分類別就業人口の状況78

V 柳川市の経済構造分析

1 地域の経済循環構造	97
2 産業構造	98
(1) 地域の中で規模の大きい産業、得意な産業	99
(2) 域外から所得を獲得している産業	101
(3) 地域間取引の収支からみた産業類型	103
(4) 地域で所得を稼いでいる産業	104
(5) 住民の生活を支えている産業	106
(6) 地域の産業構造	108
① 影響力係数と感応度係数	108
② 生産誘発額	109
③ 地域の取引構造	110

VI 将来展望

1 目指すべき本市の将来展望	111
----------------	-----

VII 市民アンケート結果

1 アンケート概要	115
(1) 調査概要	115
(2) 調査結果概要	116
2 各設問調査結果	118
(1) 回答者の属性	118
(2) 就業状況	122
(3) 転入出	128
(4) 住みやすさの満足度・重要度他	136
(5) 定住意向・郷土愛他	146

VIII 高校生アンケート結果

1 アンケート概要	151
(1) 調査概要	151
(2) 調査結果概要	152
2 各設問調査結果	154
(1) 回答者の属性	154
(2) 地方・地元に対する関心・認識	156
(3) 進学・就職希望	162
(4) 柳川市の住みやすさ	176
(5) その他	180

<参考資料>

1 市民アンケート調査票	185
2 高校生アンケート調査票	194

はじめに 人口ビジョンについて

◆ 策定の趣旨

国立社会保障・人口問題研究所（以下、「社人研」という）の推計によれば、わが国の総人口は、平成 27（2015）年の 1 億 2,709 万人から平成 72（2060）年には 9,284 万人まで減少するものと見込まれ、人口減少に対する抜本的な対策が求められています。

こうした背景に対応するため、国は「まち・ひと・しごと創生法」を施行し、この法律に基づき、「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」及び「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定、平成 26 年 12 月 27 日に閣議決定されました。

この「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」において、国は、将来にわたって「活力ある日本社会」を維持するため、若い世代の生活・就労、結婚・出産・子育てに関する希望を実現することなどによって人口減少に歯止めをかけ、平成 72（2060）年の総人口を 1 億人程度に維持することを目指しています。

柳川市においても、国の「長期ビジョン」を踏まえつつ、本市の人口の現状と将来の展望（目標人口）を提示する「柳川市人口ビジョン」を策定することとしました。

この人口ビジョンは、「第 2 次柳川市総合計画後期基本計画（第 2 期総合戦略）」を策定するにあたり、本市における人口の現状を分析するとともに、人口の将来展望として、総人口の目標値を示すものです。

◆ 柳川市人口ビジョンの位置づけ

柳川市人口ビジョンは、人口の現状や人口の推計、産業状況等を分析することで、市の人口動向の特性や課題を把握し、目標とする将来人口を把握し、「第 2 次柳川市総合計画後期基本計画（第 2 期総合戦略）」の施策検討の重要な基礎資料とするものです。

◆ 対象期間

対象期間は、国の「長期ビジョン」と同じく、2060 年までとしますが、当面の目標として 2040 年を目指します。

◆ 本分析で用いられている柳川市独自の将来人口推計について

将来人口推計の主な手法には、過去の人口変化率が継続すると仮定する「コーホート変化率法」と、過去の人口動態に基づき自然増減（出生・死亡）率、社会増減（転入・転出）率を仮定する「コーホート要因法」の2種類があります。

本分析においては、「コーホート変化率法」を用い、以下の手順により、柳川市独自の将来人口推計を行いました。

- ① 市全体の将来推計人口については、2011年から2017年までの住民基本台帳人口（各年10月1日現在）の変化率に基づいた値を算出し、独自推計における市全体の推計値とする。なお、出生に関しては、社人研「日本の地域別将来推計人口（平成30（2018）年推計）」における仮定値を使用する。
- ② 行政区単位の将来推計人口については、2011年から2017年までの住民基本台帳人口（各年10月1日現在）の変化率に基づいた値を算出し、異常値を補正後、行政区単位で積み上げた推計値が市全体の推計値と一致するよう補正を実施し、独自推計における行政区単位の推計値とする。なお、出生に関しては、社人研推計における柳川市全体の仮定値を使用する。

【参考】柳川市独自推計と社人研推計の比較

単位（人）

	2015年	2017年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年
柳川市独自推計	68,808	67,374	65,072	60,951	56,601	52,147	47,696	43,385
社人研推計	67,777		63,882	59,796	55,654	51,485	47,293	43,200

※社人研推計は国勢調査に基づく5年単位の推計であるため、2017年の値はなし

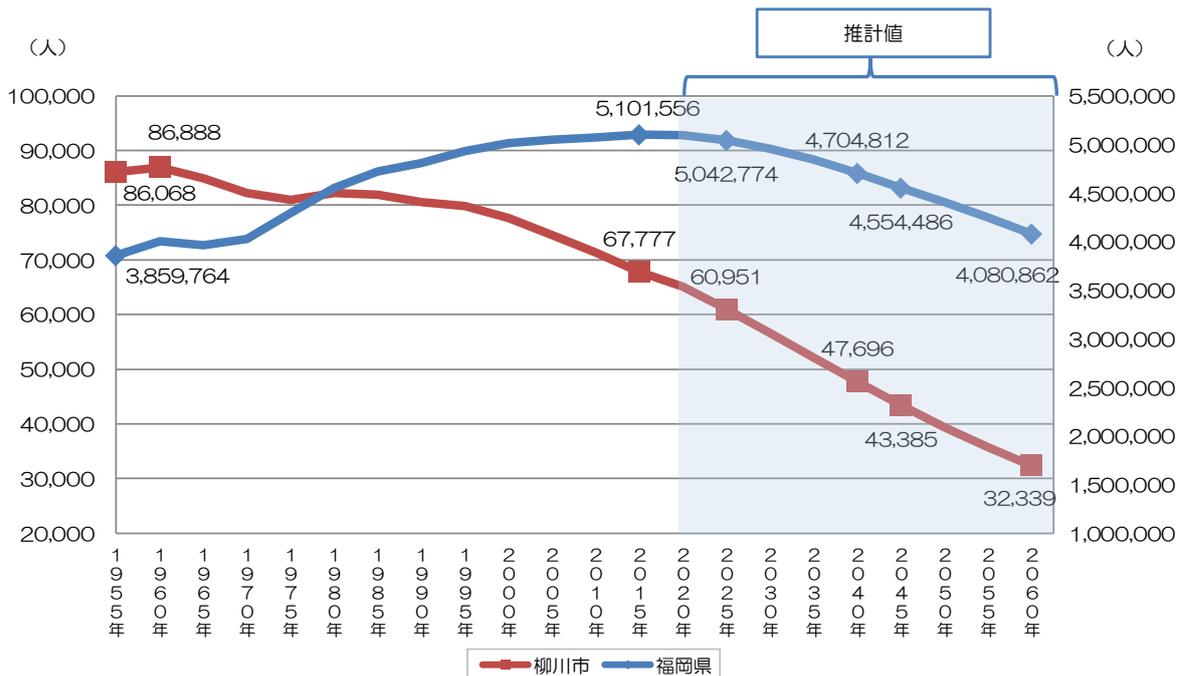
I 柳川市の人口構造

1 柳川市の人口構造

(1) 総人口の推移と将来推計

柳川市の人口は、2015年に行われた国勢調査では67,777人でした。
 今後も減少傾向は続き、2040年には47,696人、2060年には32,339人まで減少すると予測されます。
 関連指標について、筑後地域の他市と比較すると、概ね中位に位置しています。

総人口の推移



※2015年までは「総務省：国勢調査」、2020年以降は「柳川市独自推計」「社人研推計」より作成

総人口に関する指標（他市等との比較）

	柳川市		八女市	筑後市	大川市	みやま市	大牟田市	久留米市	福岡県	国
	偏差値	数値								
人口増減率 (%)	47.5	-5.0	-6.7	-0.4	-7.0	-6.4	-5.1	0.7	0.6	-0.8
人口定着率 (%)	48.1	65.7	55.0	88.6	64.9	53.0	63.3	86.7	96.8	97.9
将来推計人口増減率 (%)	47.0	-29.6	-34.2	-9.0	-37.7	-35.8	-30.0	-5.7	-7.8	-12.7

※「総務省：国勢調査」「柳川市独自推計」「社人研推計」より作成。偏差値は、筑後地域の7市の数値により算出。比率や数値が低いことが望ましいと考えられる項目については、比率や数値が低いほど偏差値が高くなるよう設定している（以下、同様）。人口増減率は、2010年と比較した2015年の人口増減割合、人口定着率は、2000年の10～14歳人口に対する2015年の25～29歳人口の割合、将来推計人口増減率は2015年と比較した2040年の人口増減割合をそれぞれ示す

(2) 年齢3区分人口の推移と将来推計

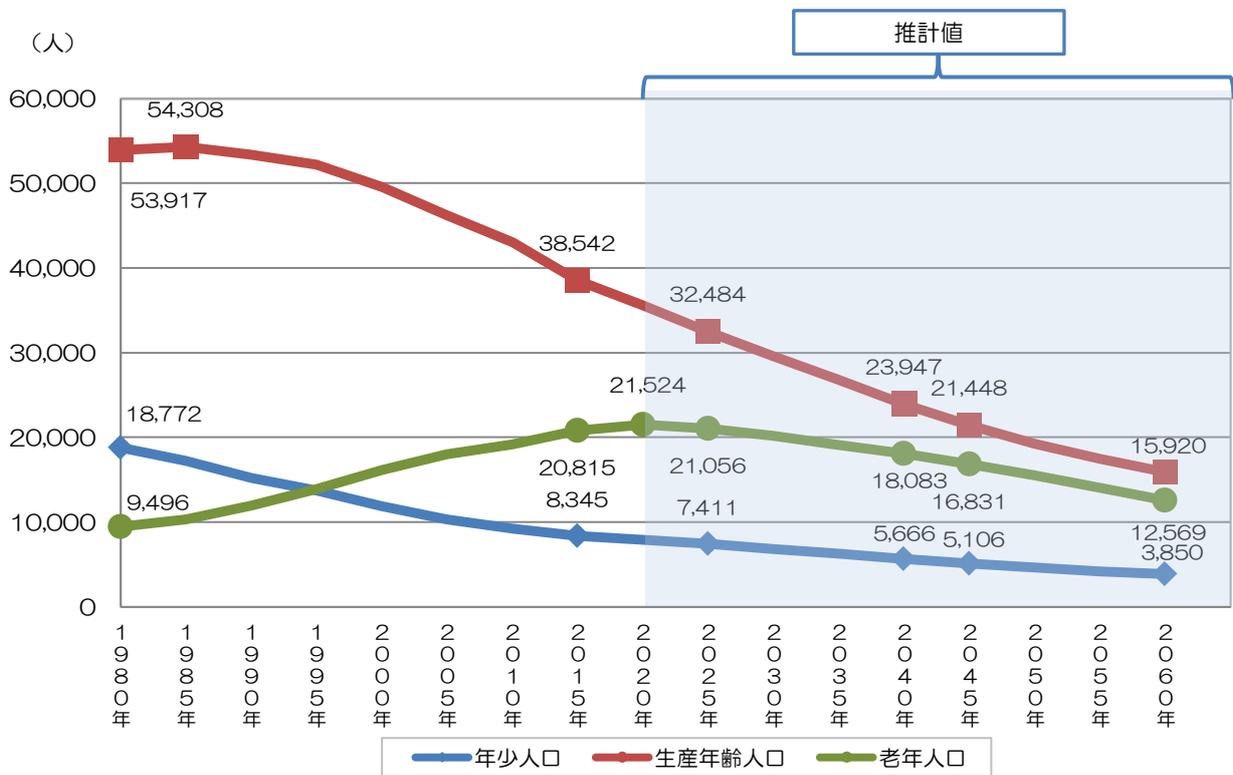
柳川市の人口を「年少人口（0～14歳）」、「生産年齢人口（15～64歳）」、「老年人口（65歳以上）」の3区分に分け、その推移をみると、老年人口が増加する一方、年少人口および生産年齢人口は減少しています。

今後は、老年人口も2020年をピークに減少に転じ、すべての年齢層で減少が進むことが予測されます。

年齢3区分別人口割合をみると、2045年に生産年齢人口の割合が50%を切ると予測されます。

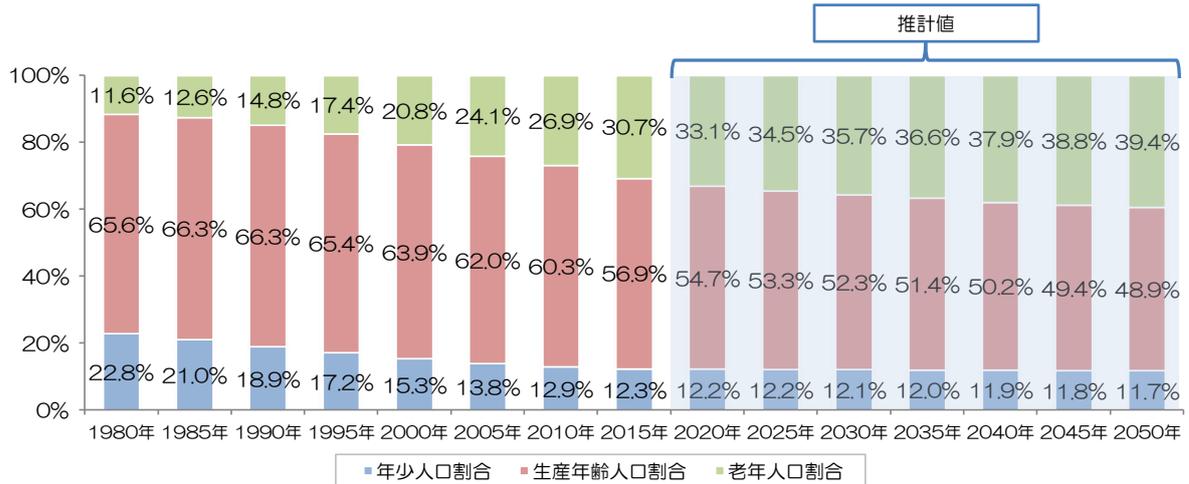
関連指標について、筑後地域の他市と比較すると、概ね中位に位置していますが、25～39歳の未婚率が男女ともに高くなっています。

年齢3区分人口の推移



※2015年までは「総務省：国勢調査」、2020年以降は「柳川市独自推計」より作成。2015年までの総人口には年齢不詳を含んでいるため、年齢3区分人口の合計は必ずしも総人口と一致しない

年齢3区分人口割合の推移



※2015年までは「総務省：国勢調査」、2020年以降は「柳川市独自推計」より作成

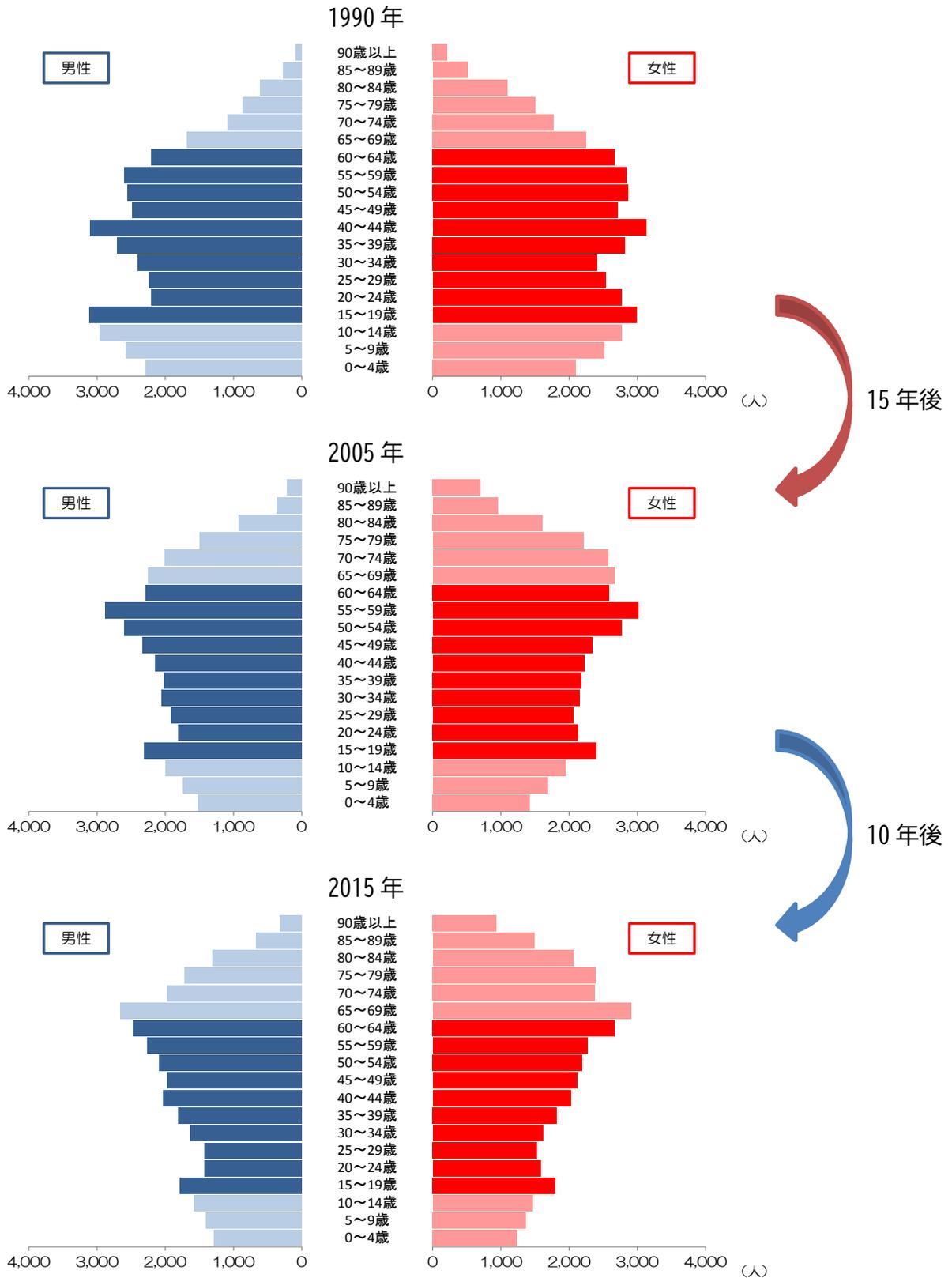
年齢3区分人口に関する指標（他市等との比較）

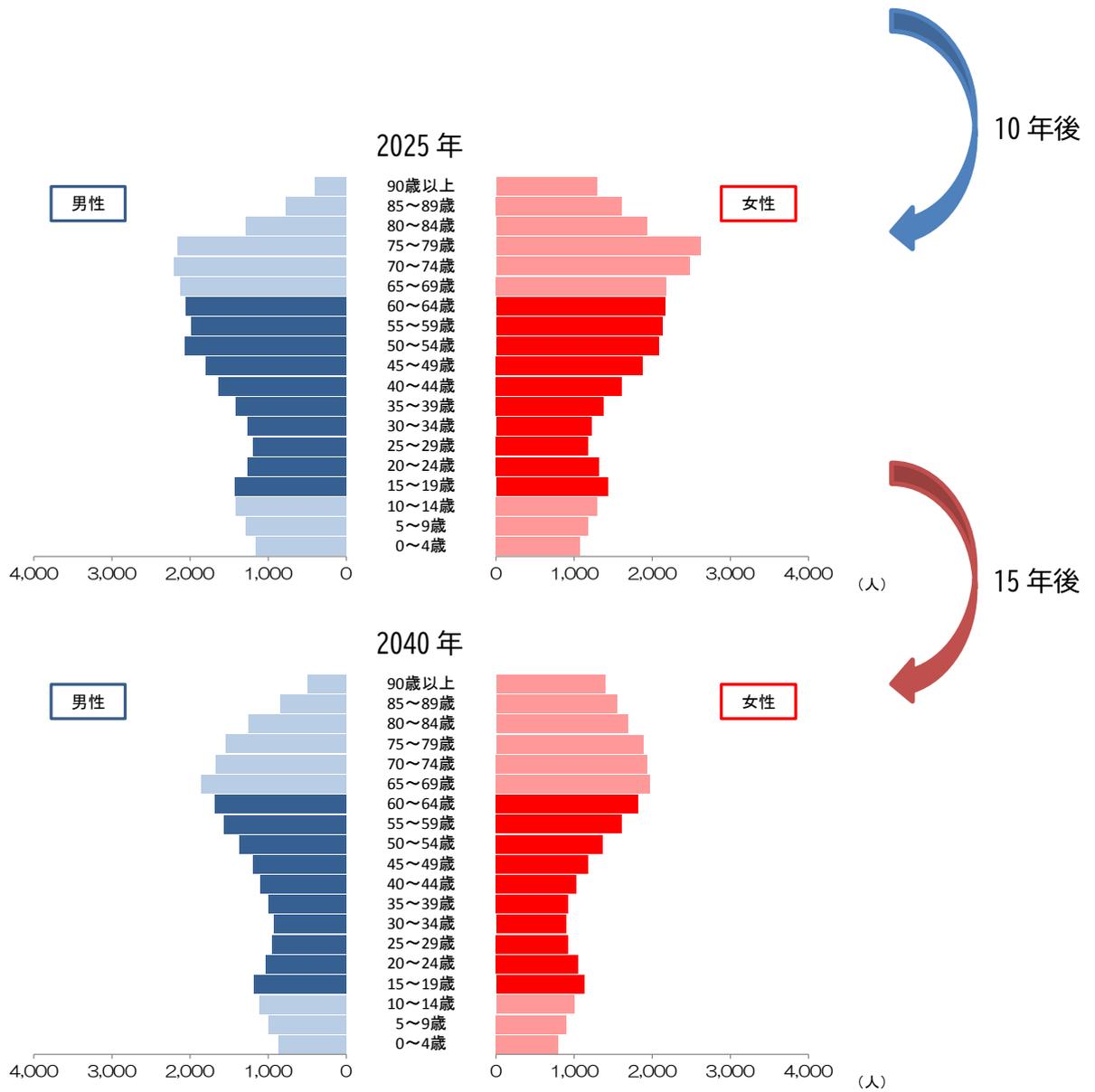
	柳川市		八女市	筑後市	大川市	みやま市	大牟田市	久留米市	福岡県	国
	偏差値	数値								
年少人口割合 (%)	50.3 (56.0)	12.3 (11.9)	11.8 (9.9)	14.8 (13.9)	10.6 (8.4)	11.4 (9.6)	11.0 (9.4)	13.9 (12.5)	13.4 (11.9)	12.6 (10.8)
老年人口割合 (%)	51.4 (55.3)	30.7 (37.9)	33.4 (45.8)	25.8 (31.8)	33.0 (46.4)	34.8 (46.4)	35.1 (44.1)	25.7 (34.2)	25.9 (33.7)	26.6 (35.3)
年齢中位数 (歳)	51.1	51.1	54.1	46.0	52.7	55.8	55.0	46.0	46.0	46.7
男性 25～39歳の未婚率 (%)	45.1	52.3	51.3	44.3	54.6	53.8	51.5	46.0	47.0	49.9
女性 25～39歳の未婚率 (%)	48.5	40.6	38.2	34.0	45.6	42.8	40.8	38.5	40.1	38.2
一般世帯に占める65歳以上の単身世帯の割合 (%)	54.5	10.8	12.4	9.3	10.6	12.2	17.9	10.6	11.8	11.1

※「総務省：2015年国勢調査」「柳川市独自推計」「社人研推計」より作成。年少人口割合・老年人口割合の()内は2040年の数値を示す。年齢中位数は、人口を年齢順に並べたとき、その中央で人口を2等分する境界点にある年齢を示す

(3) 人口ピラミッド

柳川市の人口ピラミッドは、つりがね型からつぼ型に変化していくことが予測されます。





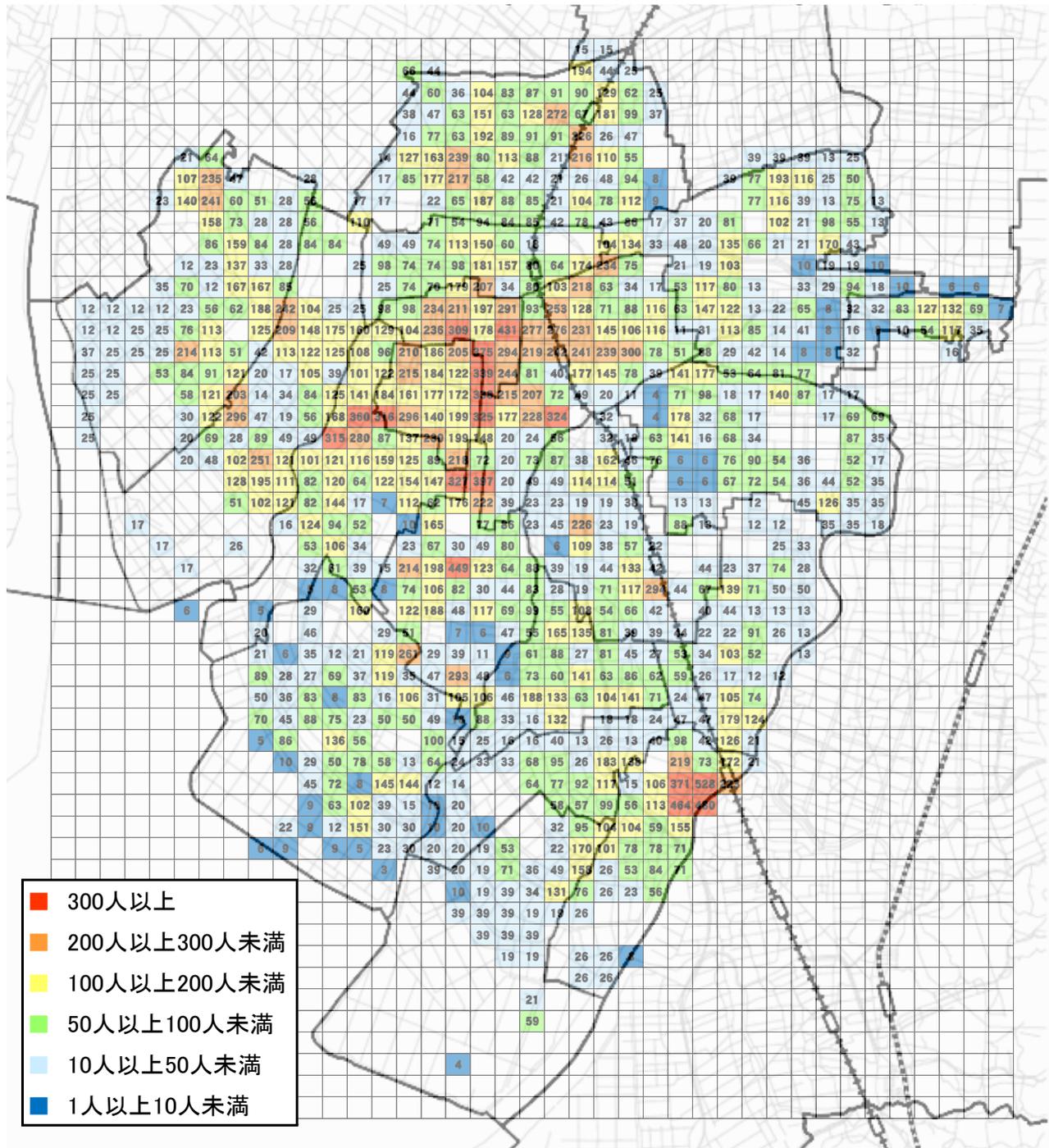
※2015年までは「総務省：国勢調査」、2025年以降は「柳川市独自推計」より作成

(4) 人口メッシュ分析

柳川市全域を 250mメッシュで区分し、区分毎の人口をみると、各図のようになります。

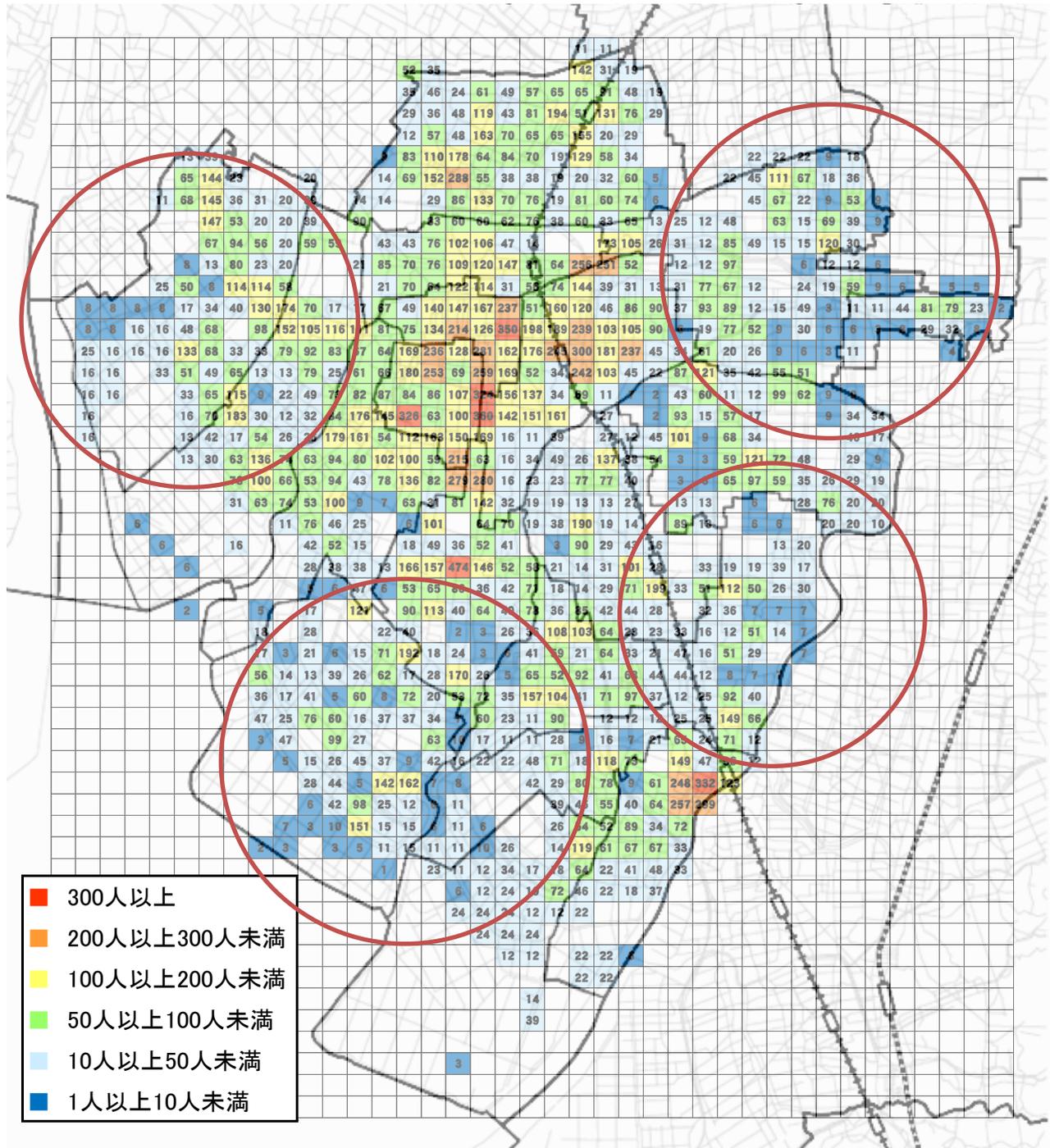
2017 年から 2040 年の変化をみると、特に丸で囲んだ4つのエリアにおいて、人口減少が進むと予測されます。

柳川市の 250mメッシュ人口 (2017 年)



※「柳川市：住民基本台帳人口」より作成。各メッシュ人口は概算値

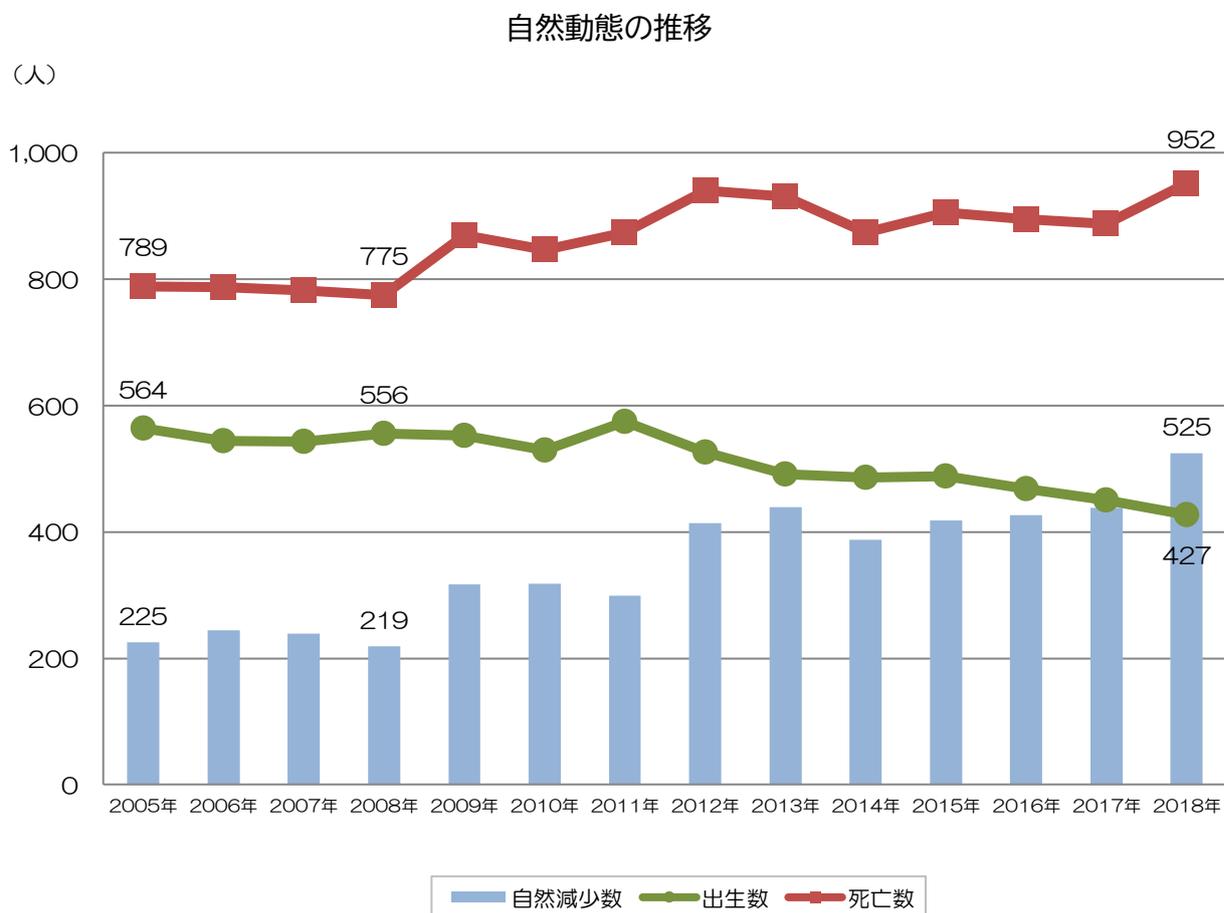
柳川市の250mメッシュ人口（2040年）



※「柳川市独自推計」より作成。各メッシュ人口は概算値

(5) 自然動態（出生・死亡）の推移

柳川市は、出生数が死亡数を常に下回る「自然減」の状態にあります。出生数と死亡数の差は年々拡大しており、2018年の自然減少数は525人に達しています。

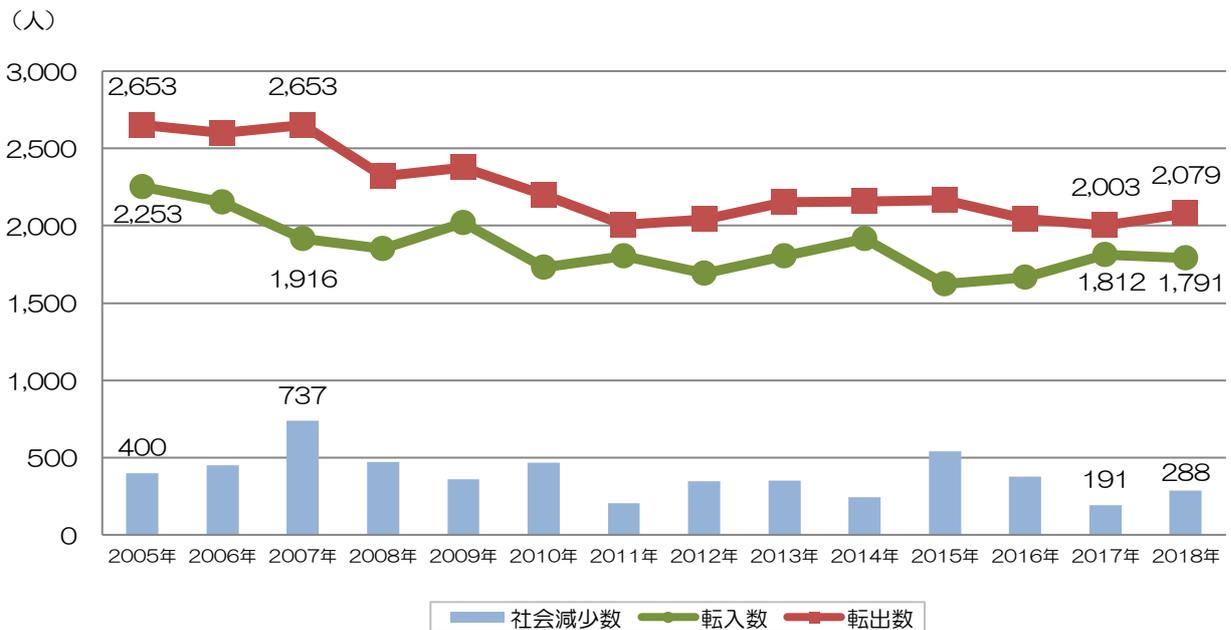


※「福岡県：人口移動調査」より作成

(6) 社会動態（転入・転出）の推移

柳川市は、転入数が転出数を常に下回る「社会減」の状態にあります。
 転入数、転出数ともに減少傾向にあり、各年の社会減少数にはバラツキがあるものの、直近10年間の平均は約340人です。
 内訳をみると、阿蘇市、みやま市、粕屋町等から人口流入がある一方、福岡市、久留米市等の都市部への人口流出が大きく、社会減につながっています。

社会動態の推移



※「福岡県：人口移動調査」より作成

柳川市と全国市町村間における人口移動（2012～2017年度）

	第1位		第2位		第3位		第4位		第5位	
	市町村	人数	市町村	人数	市町村	人数	市町村	人数	市町村	人数
転入超過数	阿蘇市	129	みやま市 粕屋町	30	/	/	大牟田市	29	長崎市	20
転出超過数	福岡市	639	久留米市	370	筑後市	117	北九州市	113	佐賀市	59

柳川市と筑後地域他市間における人口移動（2012～2017年度）

	計	八女市	筑後市	大川市	みやま市	大牟田市	久留米市
転入者数	3,750	209	438	810	643	658	992
転出者数	4,176	193	555	824	613	629	1,362
社会移動数 (転入－転出)	-426	16	-117	-14	30	29	-370

※住民基本台帳データより作成

2 校区別人口の状況

(1) 校区別自然動態（出生・死亡）の推移

2012年度から2017年度の出生・死亡の変化率をみると、出生数については11小学校区で減少傾向、死亡については11小学校区で増加傾向となっています。

小学校区別・出生数の推移

単位（人）

	市全体	柳河	城内	東宮永	矢留	両開	昭代第一	昭代第二	蒲池	豊原
2012年度	499	30	19	22	29	23	35	24	39	30
2013年度	503	32	23	33	25	23	44	23	39	33
2014年度	488	28	15	28	33	22	38	29	49	30
2015年度	472	30	23	28	24	22	41	25	37	27
2016年度	461	26	24	32	19	14	41	15	43	22
2017年度	411	31	21	15	27	18	24	22	45	30
変化率	-3.7%	1.4%	6.3%	-0.8%	2.4%	-2.4%	-4.3%	3.0%	4.4%	1.8%

	大和	皿垣	有明	中島	六合	藤吉	矢ヶ部	二ツ河	垂見	中山
2012年度	14	13	16	24	24	72	27	24	22	12
2013年度	16	8	6	24	23	69	30	25	17	10
2014年度	17	4	7	27	14	67	20	29	22	9
2015年度	12	7	5	24	17	76	24	24	20	6
2016年度	17	9	10	30	15	58	22	28	26	10
2017年度	8	10	4	18	13	60	28	17	13	7
変化率	-4.0%	5.2%	-6.9%	-2.7%	-9.4%	-2.8%	3.3%	-3.9%	-4.5%	-4.7%

小学校区別・死亡数の推移

単位（人）

	市全体	柳河	城内	東宮永	矢留	両開	昭代第一	昭代第二	蒲池	豊原
2012年度	950	73	44	50	68	51	62	70	117	43
2013年度	920	66	57	52	72	38	74	58	103	36
2014年度	914	56	60	43	81	44	68	55	82	72
2015年度	849	49	34	47	61	40	57	50	93	52
2016年度	919	66	53	42	64	63	59	59	97	49
2017年度	904	61	57	43	77	55	72	48	81	52
変化率	-0.9%	-2.0%	11.0%	-2.5%	3.8%	5.2%	4.1%	-6.4%	-6.2%	11.3%

	大和	皿垣	有明	中島	六合	藤吉	矢ヶ部	二ツ河	垂見	中山
2012年度	42	28	20	52	27	75	19	42	55	12
2013年度	36	15	24	60	37	73	18	43	48	10
2014年度	34	20	14	56	33	62	23	44	56	11
2015年度	40	24	18	53	36	69	24	48	45	9
2016年度	44	28	16	62	33	68	21	38	47	10
2017年度	37	18	17	59	31	52	21	60	45	18
変化率	-1.6%	-2.4%	0.4%	3.1%	4.2%	-6.3%	2.9%	10.2%	-3.1%	13.3%

※住民基本台帳データより作成。変化率は2012～2017年度の各年度間の変化率の平均値を示す

(2) 校区別自然増減数の推移

2012年度から2017年度までの「出生数」から「死亡数」を差し引いた自然増減数は、17小学校区で、マイナス（自然減）となっています。特に減少率の高い校区は「大和小校区」「垂見小校区」「矢留小校区」となっています。

小学校区別・自然増減数の推移

単位（人）

	市全体	柳河	城内	東宮永	矢留	両開	昭代第一	昭代第二	蒲池	豊原
2012年度	-451	-43	-25	-28	-39	-28	-27	-46	-78	-13
2013年度	-417	-34	-34	-19	-47	-15	-30	-35	-64	-3
2014年度	-426	-28	-45	-15	-48	-22	-30	-26	-33	-42
2015年度	-377	-19	-11	-19	-37	-18	-16	-25	-56	-25
2016年度	-458	-40	-29	-10	-45	-49	-18	-44	-54	-27
2017年度	-493	-30	-36	-28	-50	-37	-48	-26	-36	-22
計	-2,622	-194	-180	-119	-266	-169	-169	-202	-321	-132
増減率	-3.9%	-4.3%	-5.1%	-3.2%	-5.7%	-5.3%	-3.4%	-5.0%	-4.9%	-4.1%

	大和	皿垣	有明	中島	六合	藤吉	矢ヶ部	二ツ河	垂見	中山
2012年度	-28	-15	-4	-28	-3	-3	8	-18	-33	0
2013年度	-20	-7	-18	-36	-14	-4	12	-18	-31	0
2014年度	-17	-16	-7	-29	-19	5	-3	-15	-34	-2
2015年度	-28	-17	-13	-29	-19	7	0	-24	-25	-3
2016年度	-27	-19	-6	-32	-18	-10	1	-10	-21	0
2017年度	-29	-8	-13	-41	-18	8	7	-43	-32	-11
計	-149	-82	-61	-195	-91	3	25	-128	-176	-16
増減率	-7.0%	-5.5%	-4.3%	-5.2%	-3.7%	0.0%	1.1%	-3.3%	-5.8%	-2.0%

※住民基本台帳データより作成。自然増減数は出生数－死亡数、増減率は自然増減数／住民基本台帳人口（2018年3月31日現在）を示す

(3) 校区別社会動態の状況

17 小学校区で、転出が転入を上回っています。

「中山小校区」や「皿垣小校区」は転入率と転出率の差のマイナスが大きく、「藤吉小校区」「矢ヶ部小校区」は6年間で3割弱の転入・転出率があり、人の出入りが多い校区となっています。

小学校区別社会動態の状況（2012～2017年度）

単位（人）

	市全体	柳河	城内	東宮永	矢留	両開	昭代第一	昭代第二
転入	10,353	810	602	545	523	297	713	415
転出	12,152	874	719	665	761	382	911	543
差（転入－転出）	-1,799	-64	-117	-120	-238	-85	-198	-128
転入率	15.5%	17.8%	17.2%	14.5%	11.2%	9.3%	14.4%	10.2%
転出率	18.2%	19.2%	20.6%	17.7%	16.2%	12.0%	18.4%	13.3%
差（転入率－転出率）	-2.7	-1.4	-3.3	-3.2	-5.1	-2.7	-4.0	-3.1

	蒲池	豊原	大和	皿垣	有明	中島	六合	藤吉
転入	1,172	585	257	108	130	410	321	1,858
転出	1,300	564	320	227	183	564	400	1,867
差（転入－転出）	-128	21	-63	-119	-53	-154	-79	-9
転入率	17.8%	18.1%	12.1%	7.3%	9.3%	10.9%	13.0%	26.7%
転出率	19.8%	17.4%	15.0%	15.3%	13.0%	15.1%	16.2%	26.8%
差（転入率－転出率）	-1.9	0.6	-3.0	-8.0	-3.8	-4.1	-3.2	-0.1

	矢ヶ部	二ツ河	垂見	中山
転入	692	452	369	94
転出	620	627	444	181
差（転入－転出）	72	-175	-75	-87
転入率	29.6%	11.5%	12.2%	11.8%
転出率	26.5%	15.9%	14.7%	22.7%
差（転入率－転出率）	3.1	-4.4	-2.5	-10.9

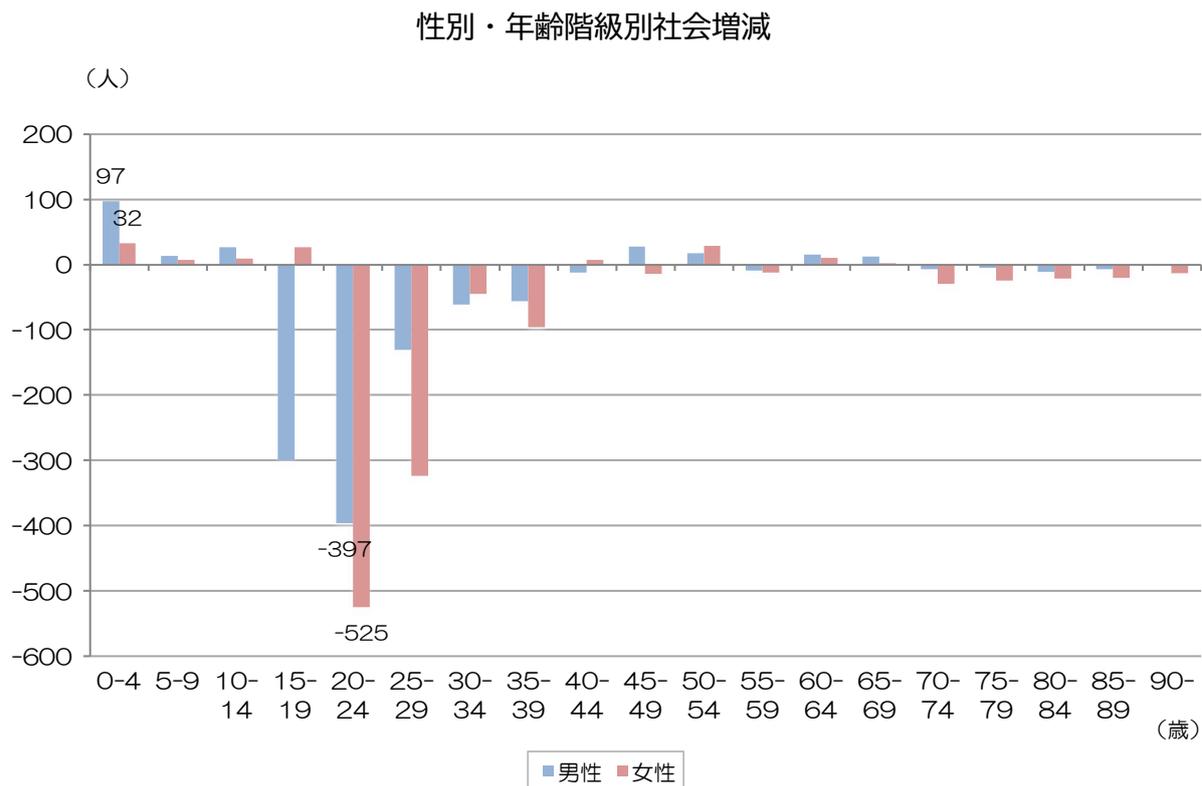
※住民基本台帳データより作成。転入（出）率は、転入（出）者数／住民基本台帳人口（2018年3月31日現在）を示す

(4) 校区別人口移動及び将来推計人口

【参考】市全体

6年間の社会増減についてみると、多くの年代で社会減となっている一方、4歳以下の年代は増加しており、子育て世帯においては社会増となっています。

・社会増減（2012～2017年度）



※住民基本台帳データより作成

① 柳河小校区

人口動態をみると、自然減かつ社会減の状態にあります。

社会増減の内訳をみると、子育て世帯において社会増となっている一方、多くの年代で社会減となっています。

2040年の推計人口は、2017年の4,597人と比べて1,341人（29.2%）減の3,256人になると予測されます。

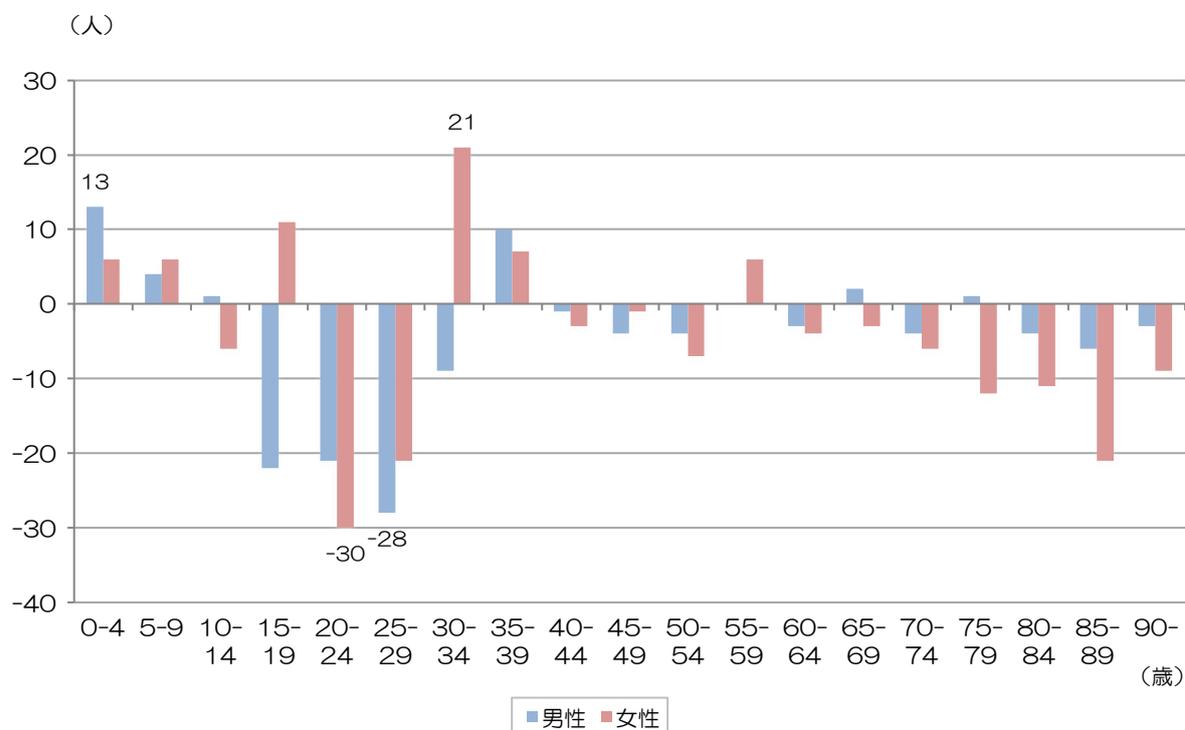
・人口動態（2012～2017年度）

自然増減数	出生数	死亡数
-194	177	371

	社会増減数	転入数	転出数
市内間移動	-91	466	557
市外間移動	-64	810	874

・社会増減（2012～2017年度）

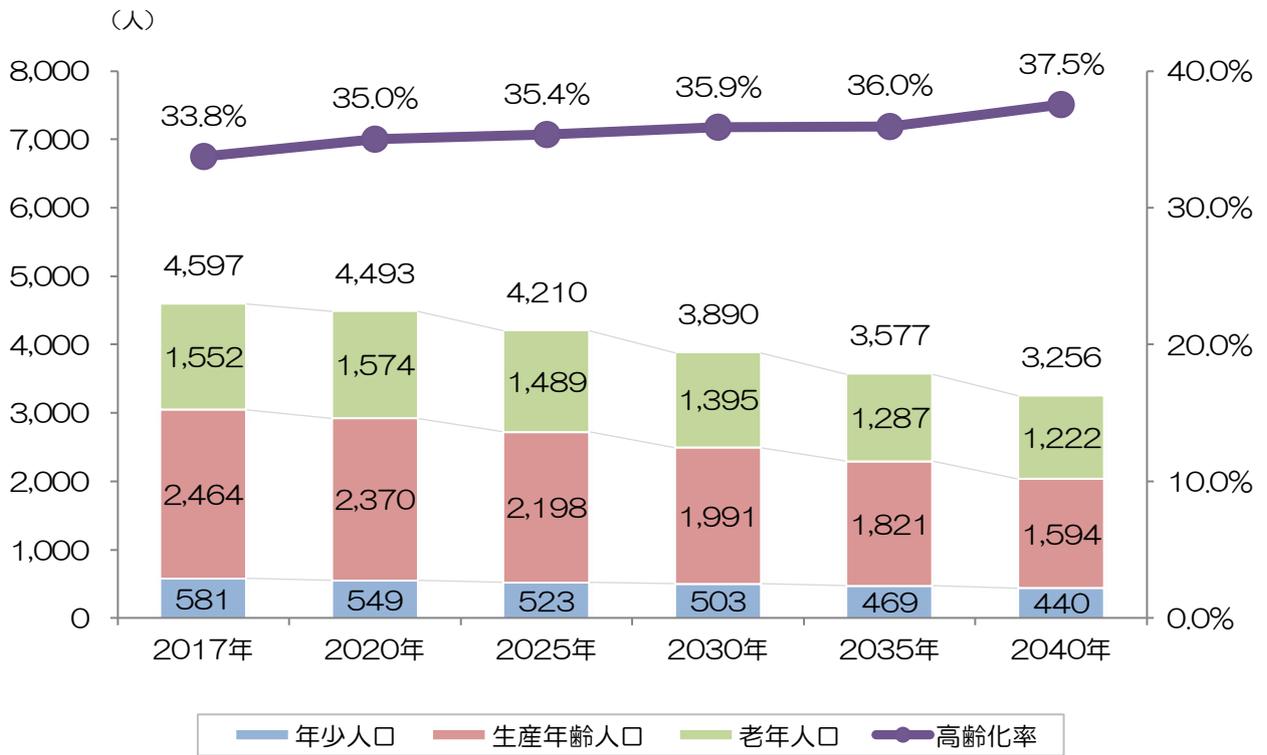
性別・年齢階級別社会増減



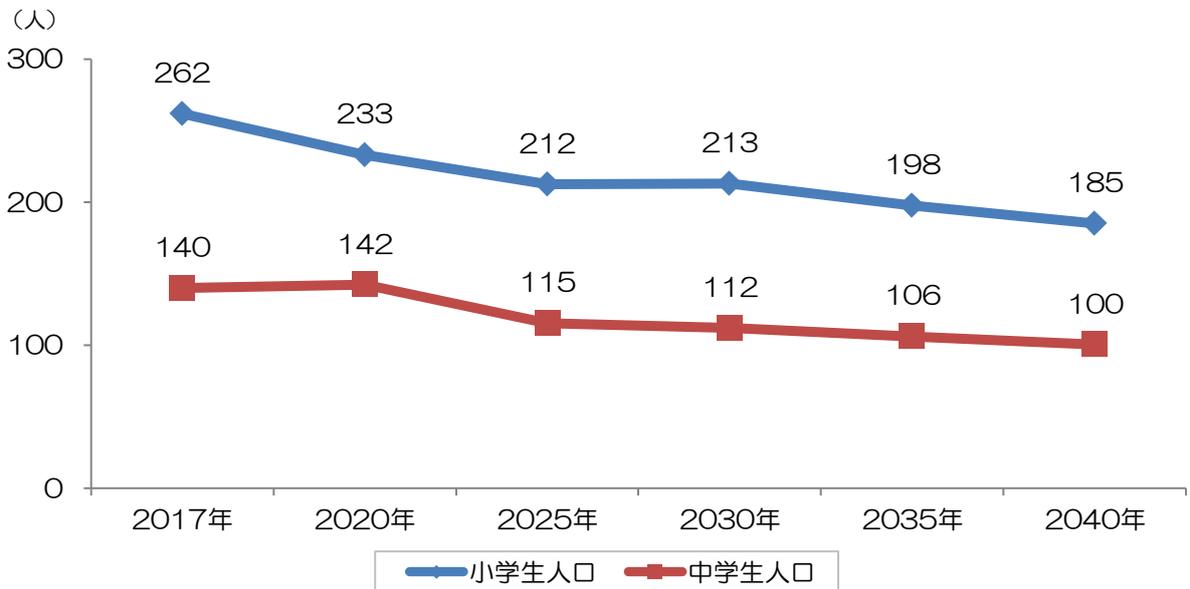
※住民基本台帳データより作成

・将来推計人口

年齢3区分と高齢化率



小・中学生



※2017年は住民基本台帳人口、2020年以降は柳川市独自推計より作成。小学生人口は7～12歳人口、中学生人口は13～15歳人口を示す

② 城内小校区

人口動態をみると、自然減かつ社会減の状態にあります。市内間移動では社会増となっている一方、市外間移動では社会減となっています。

社会増減の内訳をみると、子育て世帯において社会増となっている一方、20代を中心に多くの年代で社会減となっています。

2040年の推計人口は、2017年の3,516人と比べて731人（20.8%）減の2,785人になると予測されます。

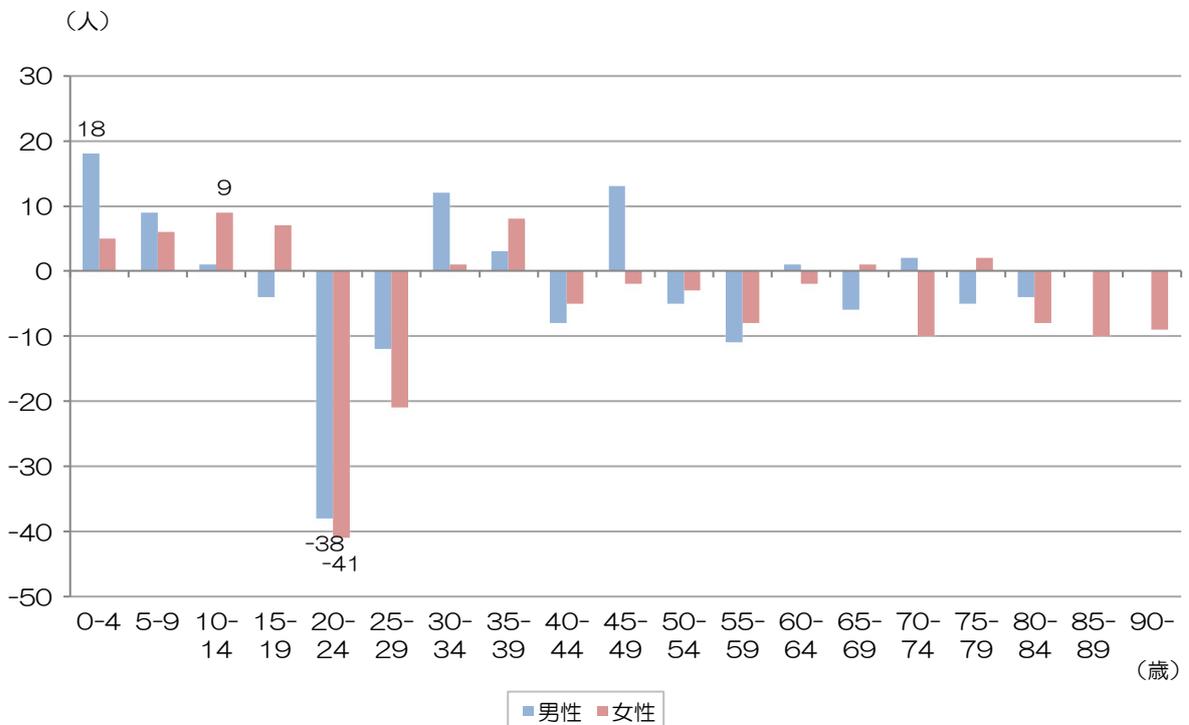
・人口動態（2012～2017年度）

自然増減数	出生数	死亡数
-180	125	305

	社会増減数	転入数	転出数
市内間移動	3	494	491
市外間移動	-117	602	719

・社会増減（2012～2017年度）

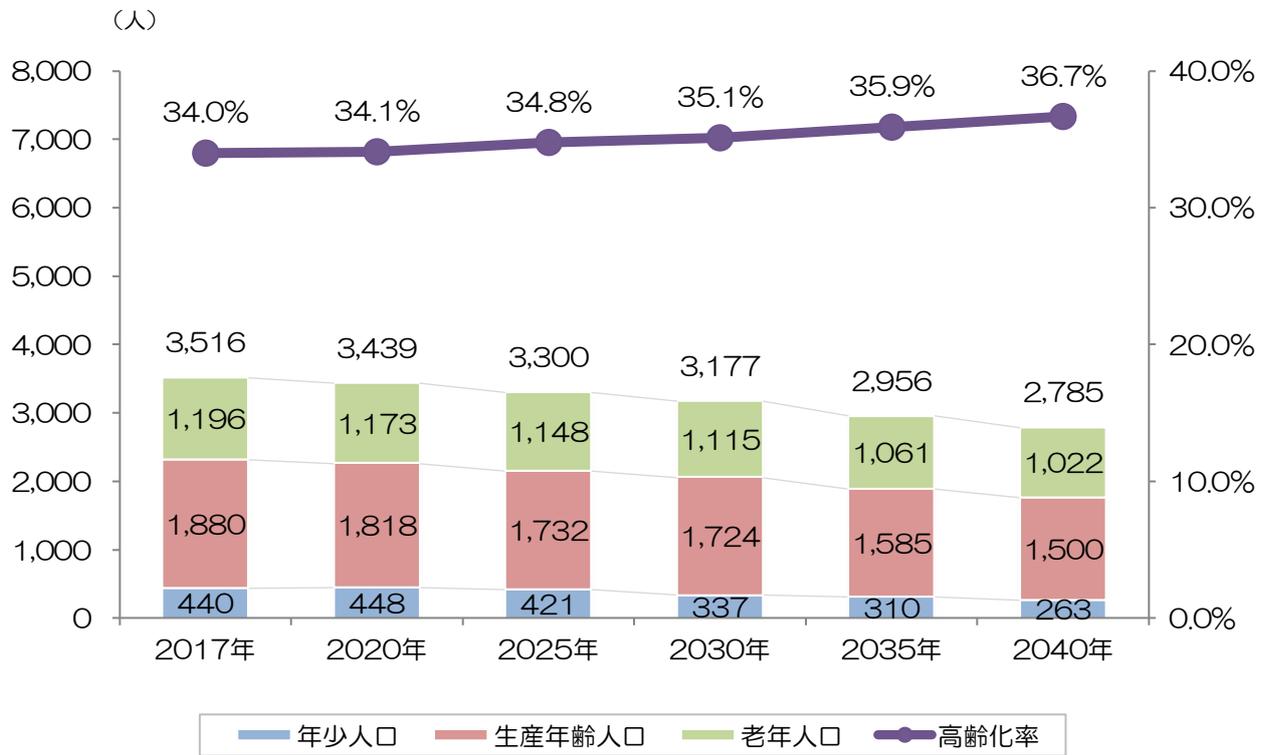
性別・年齢階級別社会増減



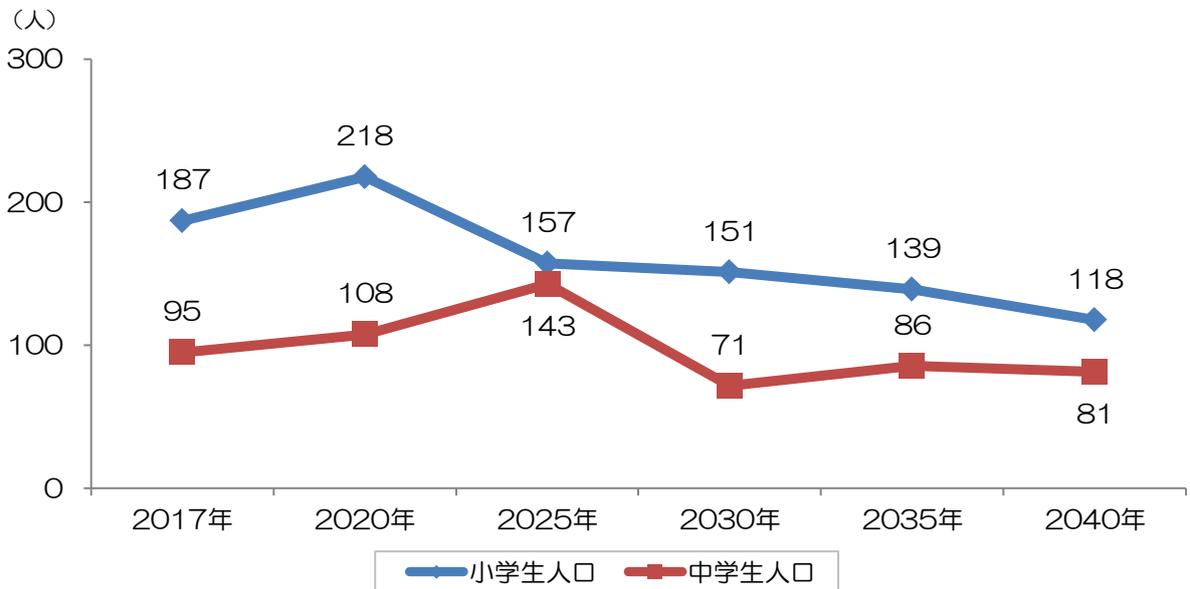
※住民基本台帳データより作成

・将来推計人口

年齢3区分と高齢化率



小・中学生



※2017年は住民基本台帳人口、2020年以降は柳川市独自推計より作成。小学生人口は7～12歳人口、中学生人口は13～15歳人口を示す

③ 東宮永小校区

人口動態をみると、自然減である一方、社会増の状態にあります。しかし、社会増は市内間移動（全校区中2番目の多さ）で得たものであり、市外間移動では社会減となっています。

社会増減の内訳をみると、10代後半から20代前半を中心に社会減となっている一方、多くの年代で社会増となっています。

2040年の推計人口は、2017年の3,850人と比べて915人（23.8%）減の2,935人になると予測されます。

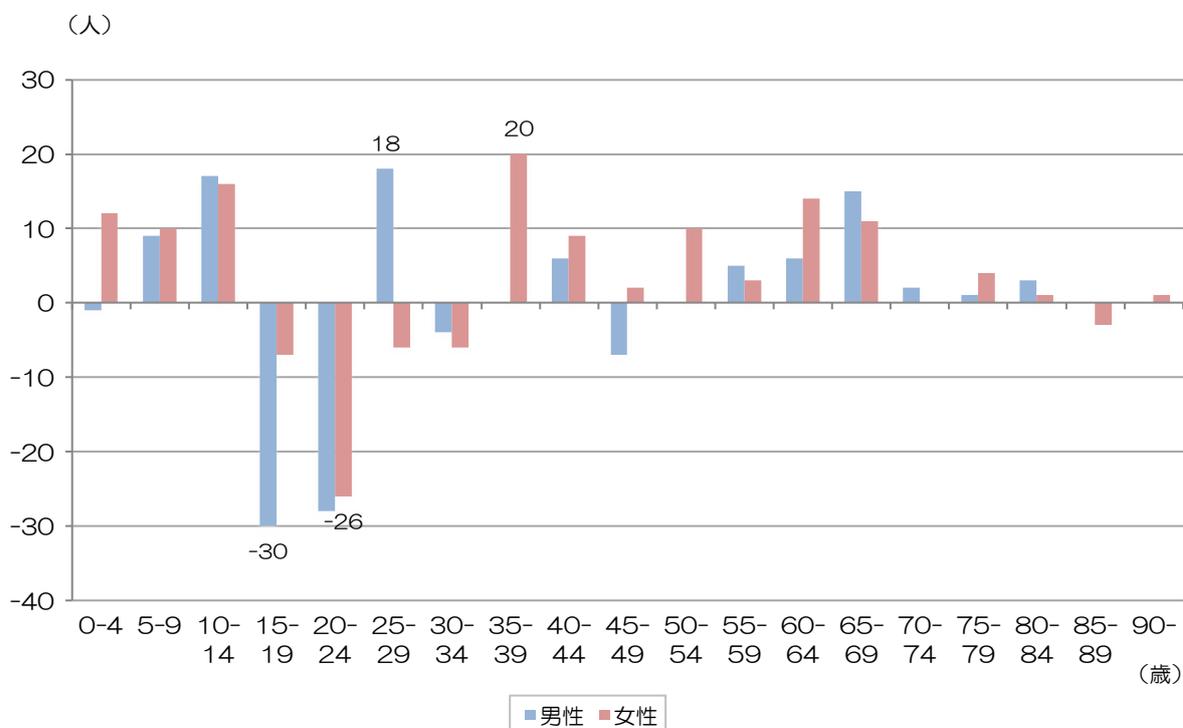
・人口動態（2012～2017年度）

自然増減数	出生数	死亡数
-119	158	277

	社会増減数	転入数	転出数
市内間移動	197	653	456
市外間移動	-120	545	665

・社会増減（2012～2017年度）

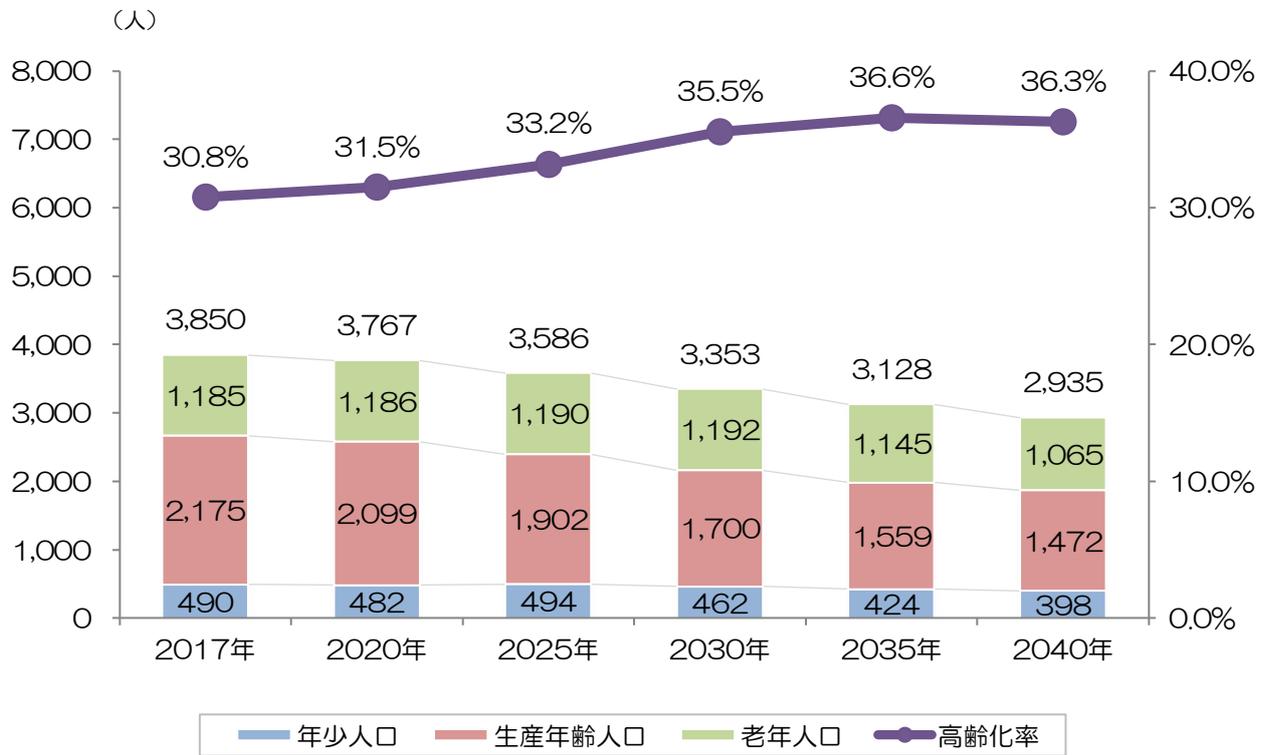
性別・年齢階級別社会増減



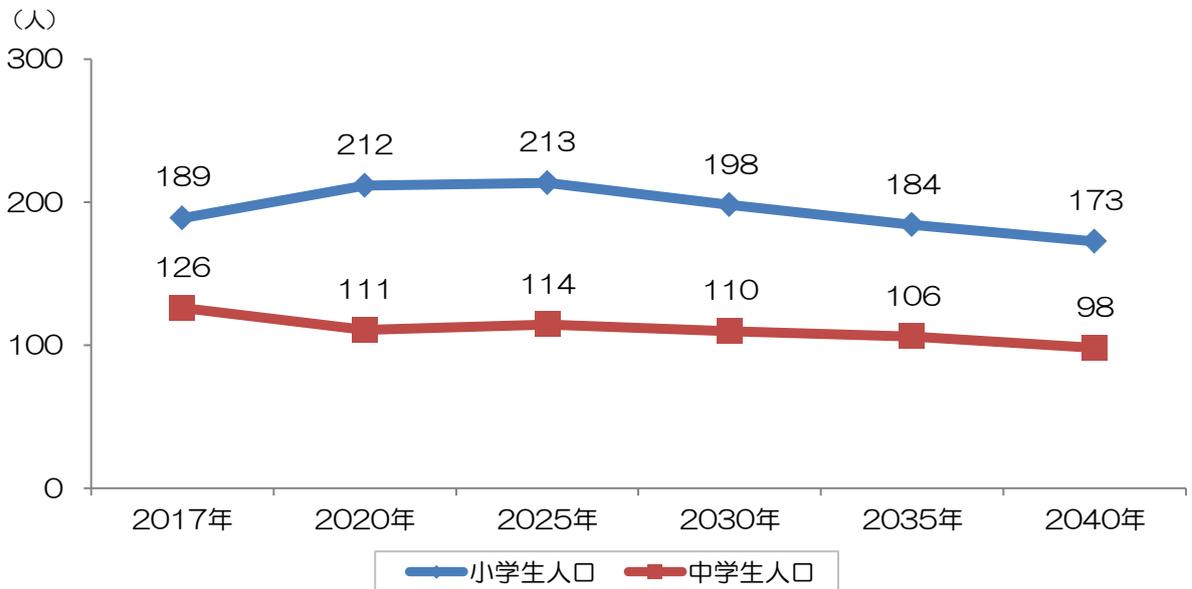
※住民基本台帳データより作成

・将来推計人口

年齢3区分と高齢化率



小・中学生



※2017年は住民基本台帳人口、2020年以降は柳川市独自推計より作成。小学生人口は7～12歳人口、中学生人口は13～15歳人口を示す

④ 矢留小校区

人口動態をみると、自然減（全校区中2番目の多さ）かつ社会減（市内間移動、市外間移動ともに全校区中1番目の多さ）の状態にあります。

社会増減の内訳をみると、10代から30代を中心にほとんどの年代で社会減となっています。

2040年の推計人口は、2017年の4,720人と比べて1,832人（38.8%）減の2,888人になると予測されます。

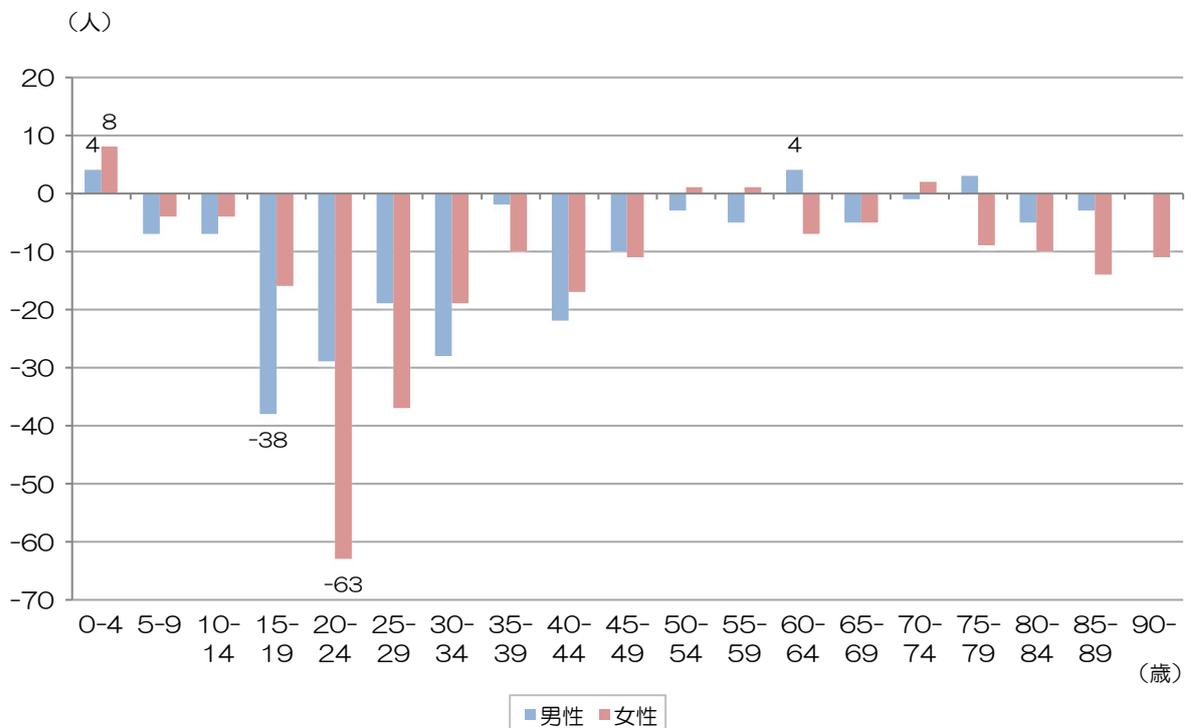
・人口動態（2012～2017年度）

自然増減数	出生数	死亡数
-266	157	423

	社会増減数	転入数	転出数
市内間移動	-160	376	536
市外間移動	-238	523	761

・社会増減（2012～2017年度）

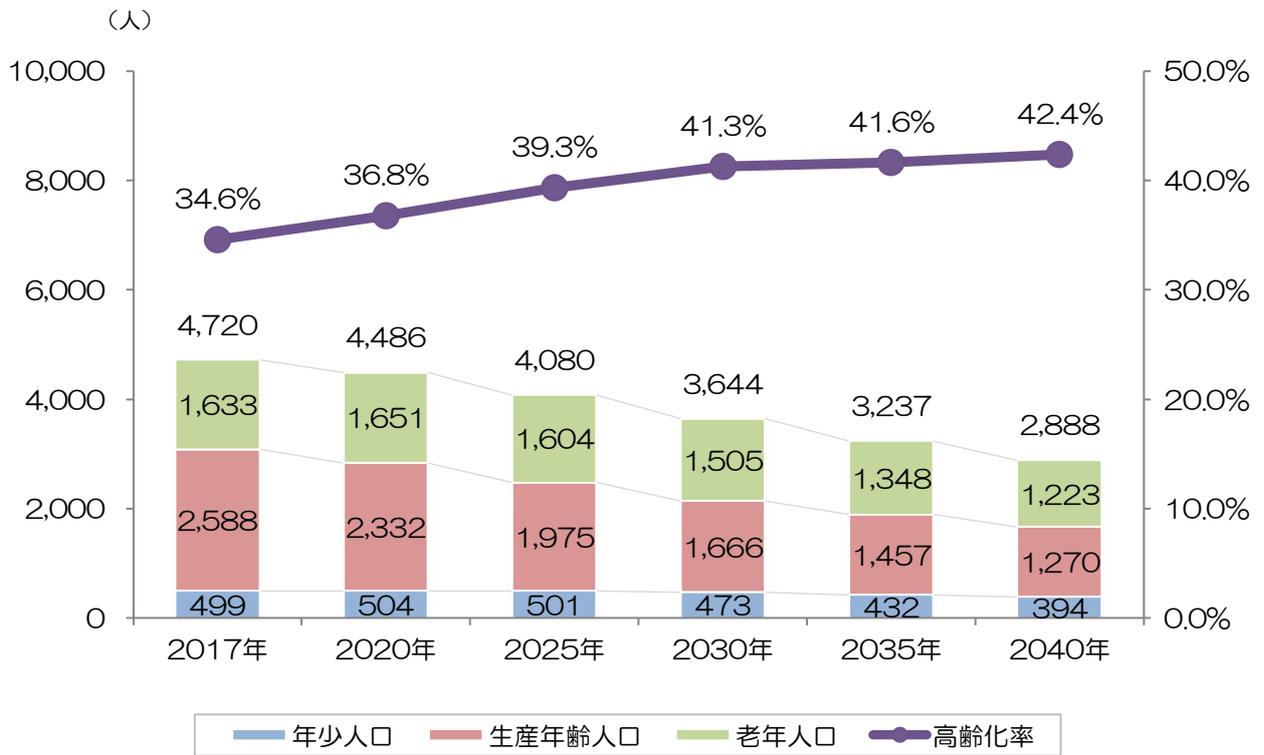
性別・年齢階級別社会増減



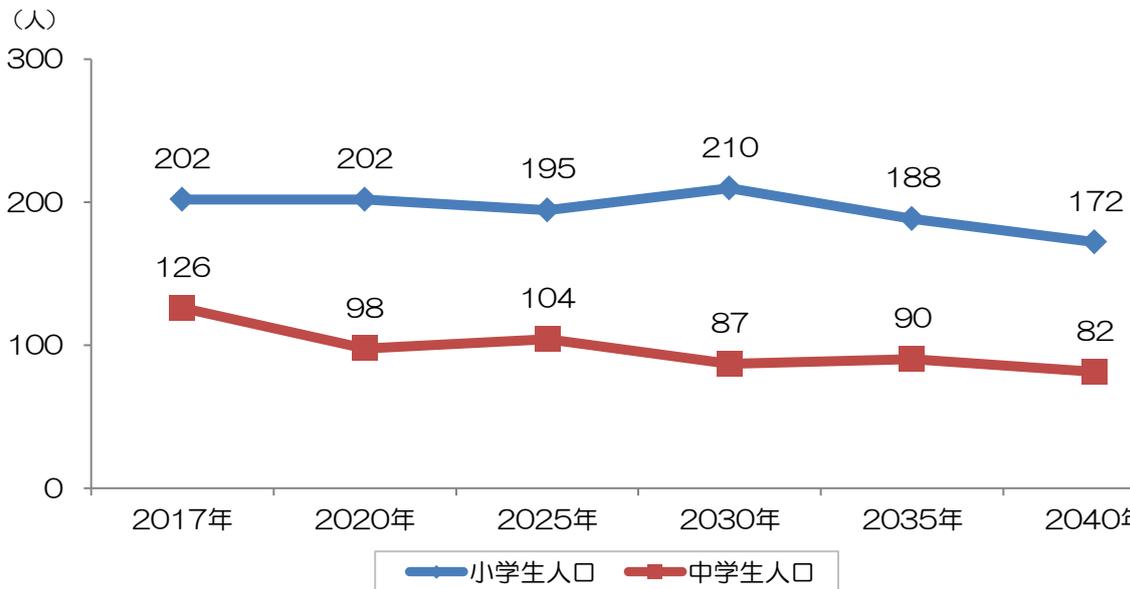
※住民基本台帳データより作成

・将来推計人口

年齢3区分と高齢化率



小・中学生



※2017年は住民基本台帳人口、2020年以降は柳川市独自推計より作成。小学生人口は7～12歳人口、中学生人口は13～15歳人口を示す

⑤ 両開小校区

人口動態をみると、自然減かつ社会減の状態にあります。
 社会増減の内訳をみると、10代から30代を中心にほとんどの年代で社会減となっています。
 2017年の高齢化率をみると、全校区中2番目の高さとなっています。
 2040年の推計人口は、2017年の3,246人と比べて1,012人（31.2%）減の2,234人になると予測されます。

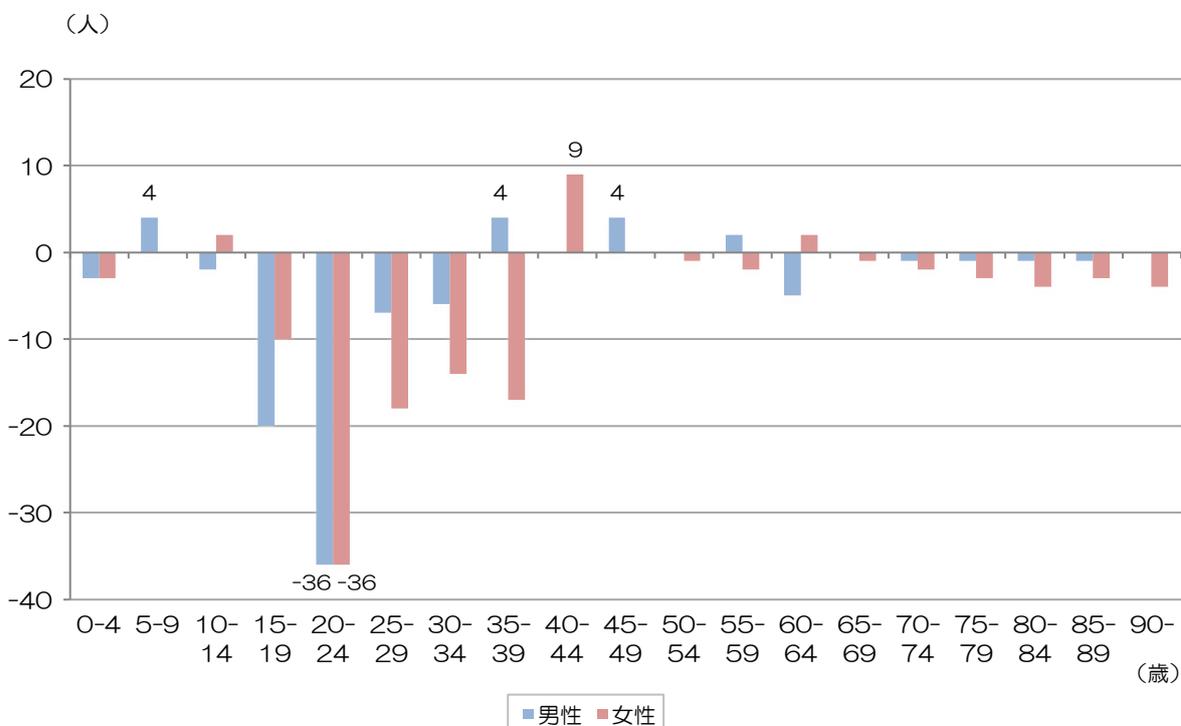
・人口動態（2012～2017年度）

自然増減数	出生数	死亡数
-169	122	291

	社会増減数	転入数	転出数
市内間移動	-89	196	285
市外間移動	-85	297	382

・社会増減（2012～2017年度）

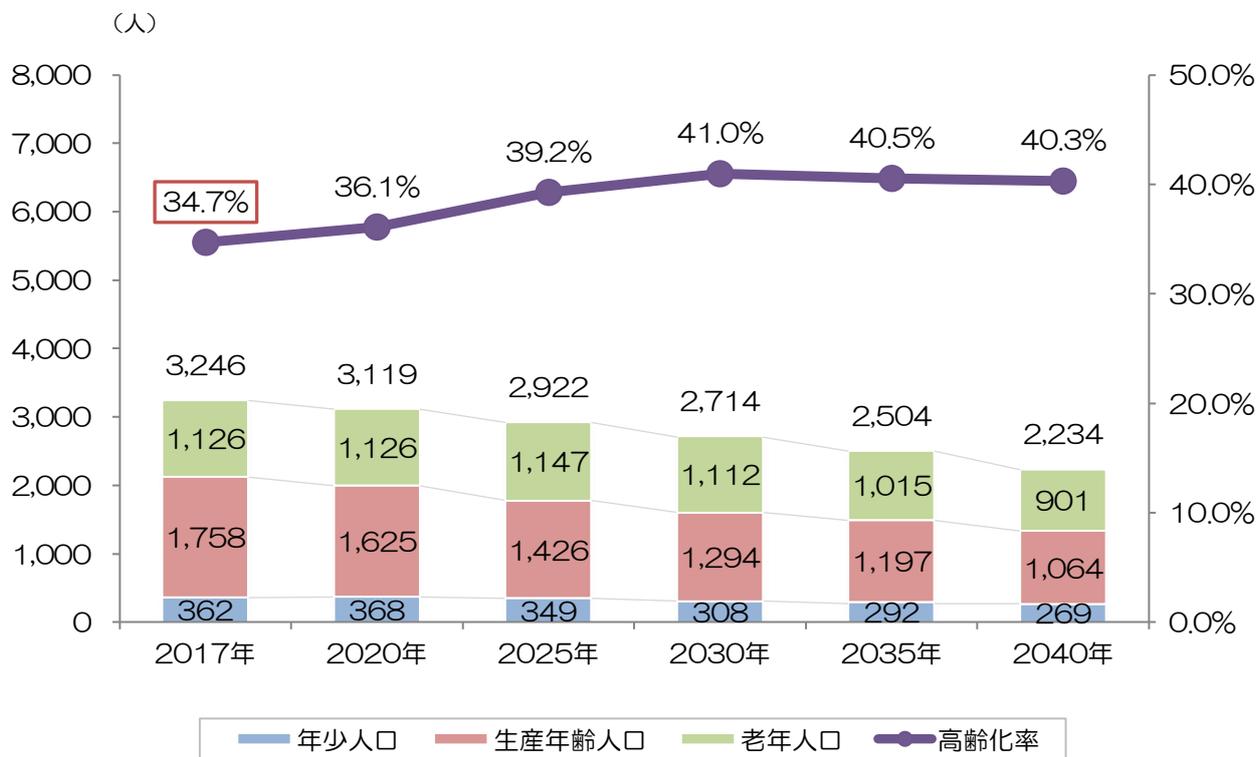
性別・年齢階級別社会増減



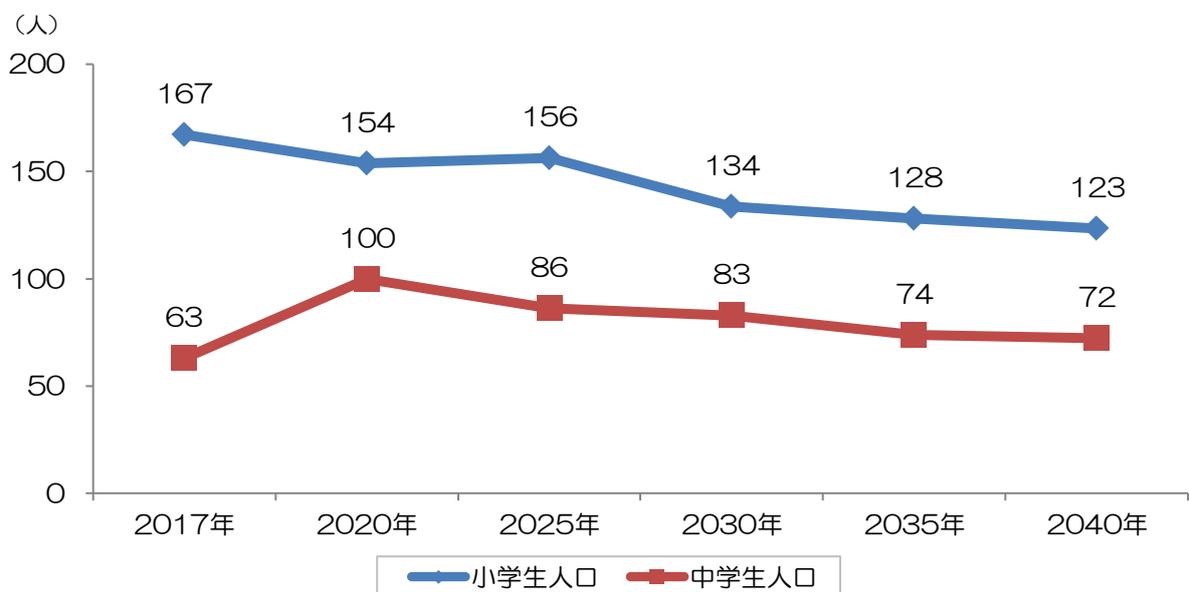
※住民基本台帳データより作成

・将来推計人口

年齢3区分と高齢化率



小・中学生



※2017年は住民基本台帳人口、2020年以降は柳川市独自推計より作成。小学生人口は7～12歳人口、中学生人口は13～15歳人口を示す

⑥ 昭代第一小校区

人口動態をみると、自然減かつ社会減（市外間移動で全校区中2番目の多さ）の状態にあります。

社会増減の内訳をみると、10代から40代を中心にほとんどの年代で社会減となっています。

2040年の推計人口は、2017年の5,175人と比べて1,819人（35.1%）減の3,356人になると予測されます。

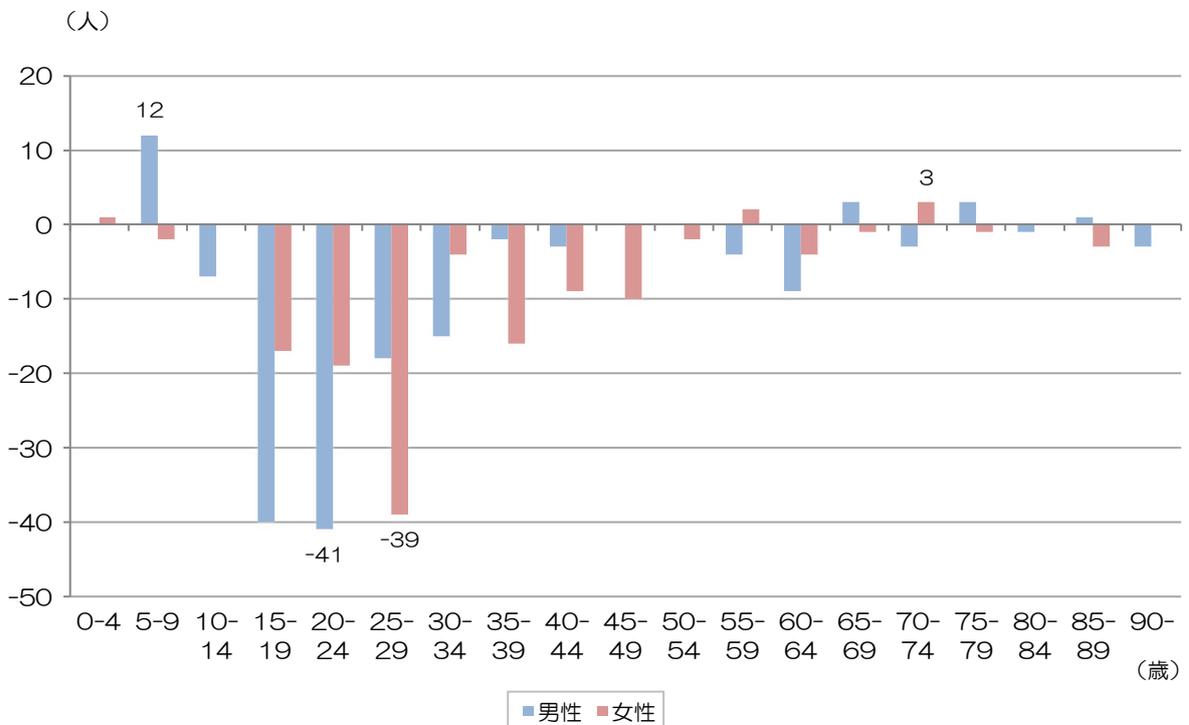
・人口動態（2012～2017年度）

自然増減数	出生数	死亡数
-169	223	392

	社会増減数	転入数	転出数
市内間移動	-50	366	416
市外間移動	-198	713	911

・社会増減（2012～2017年度）

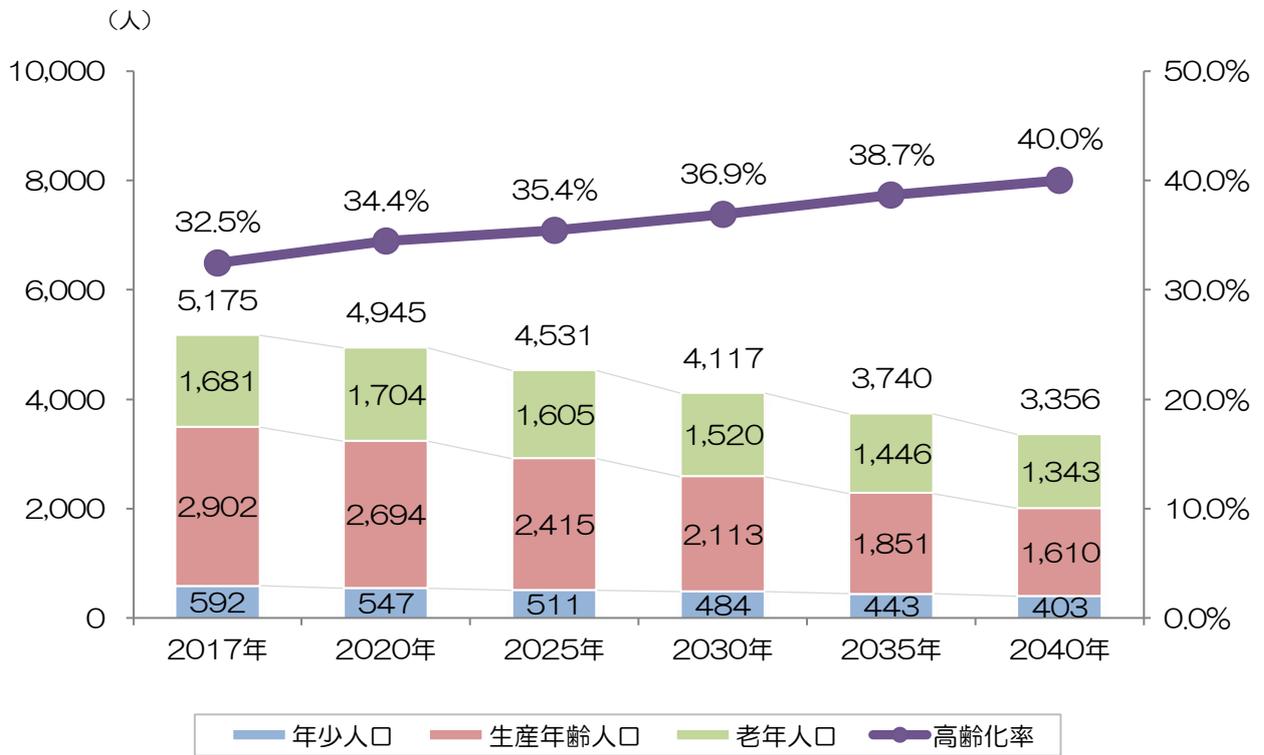
性別・年齢階級別社会増減



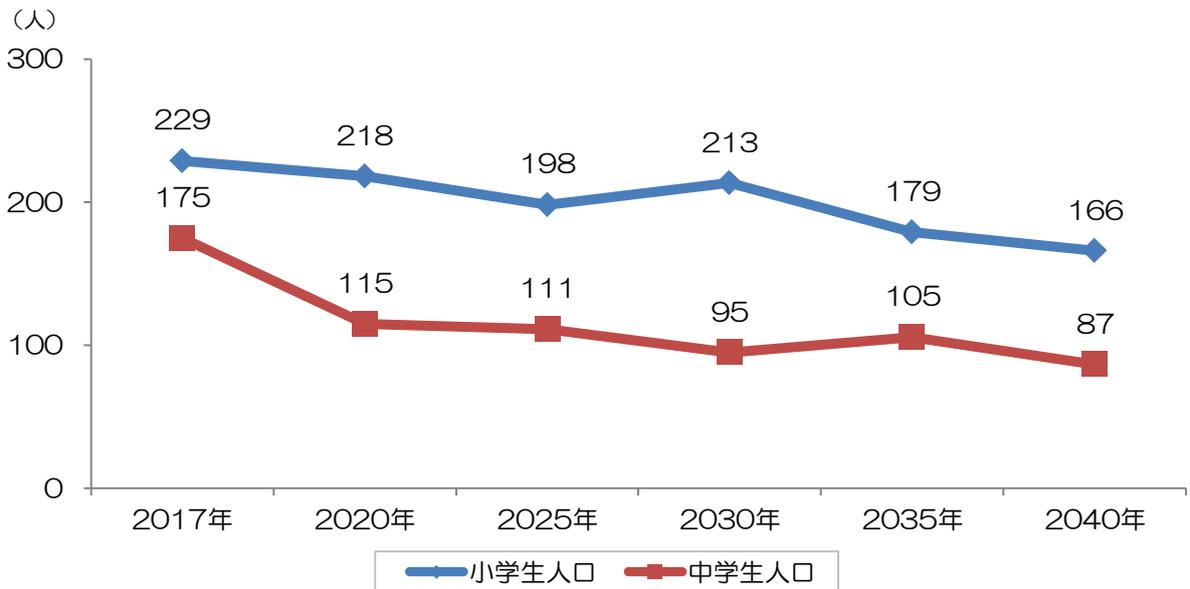
※住民基本台帳データより作成

・将来推計人口

年齢3区分と高齢化率



小・中学生



※2017年は住民基本台帳人口、2020年以降は柳川市独自推計より作成。小学生人口は7～12歳人口、中学生人口は13～15歳人口を示す

⑦ 昭代第二小校区

人口動態をみると、自然減かつ社会減の状態にあります。

社会増減の内訳をみると、10代から30代を中心にほとんどの年代で社会減となっています。

2040年の推計人口は、2017年の3,911人と比べて1,477人（37.8%）減の2,434人になると予測されます。

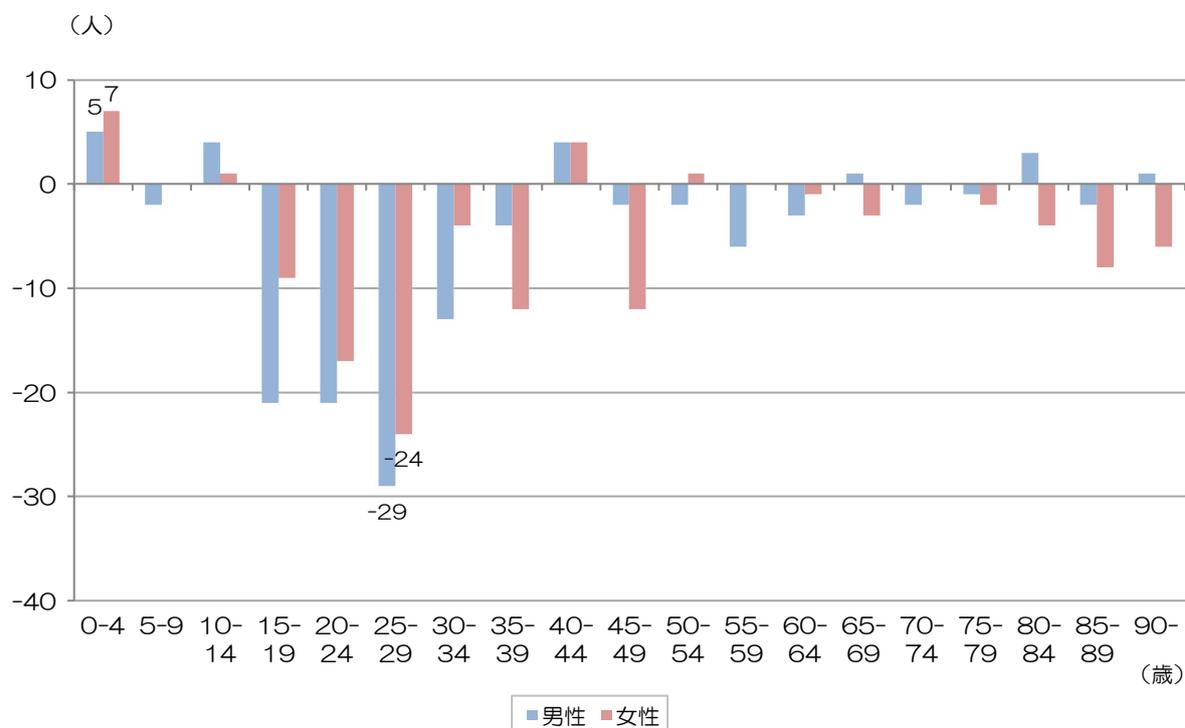
・人口動態（2012～2017年度）

自然増減数	出生数	死亡数
-202	138	340

	社会増減数	転入数	転出数
市内間移動	-51	257	308
市外間移動	-128	415	543

・社会増減（2012～2017年度）

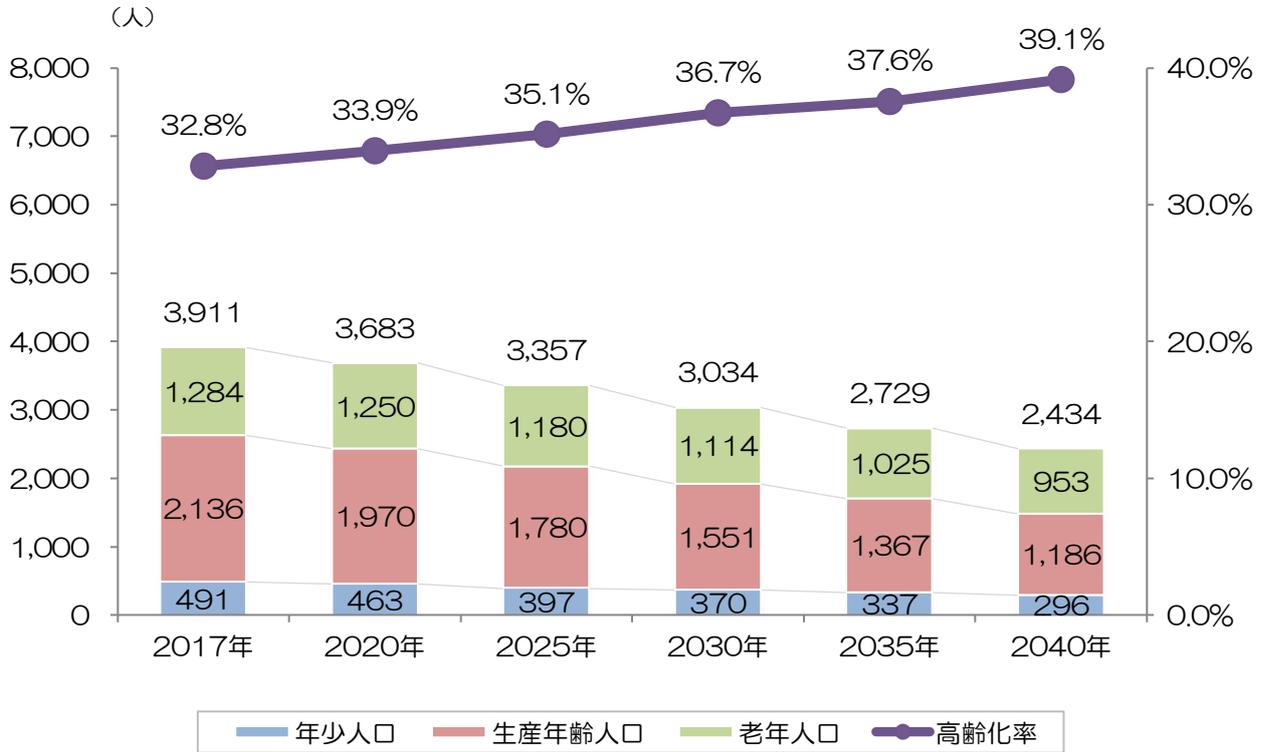
性別・年齢階級別社会増減



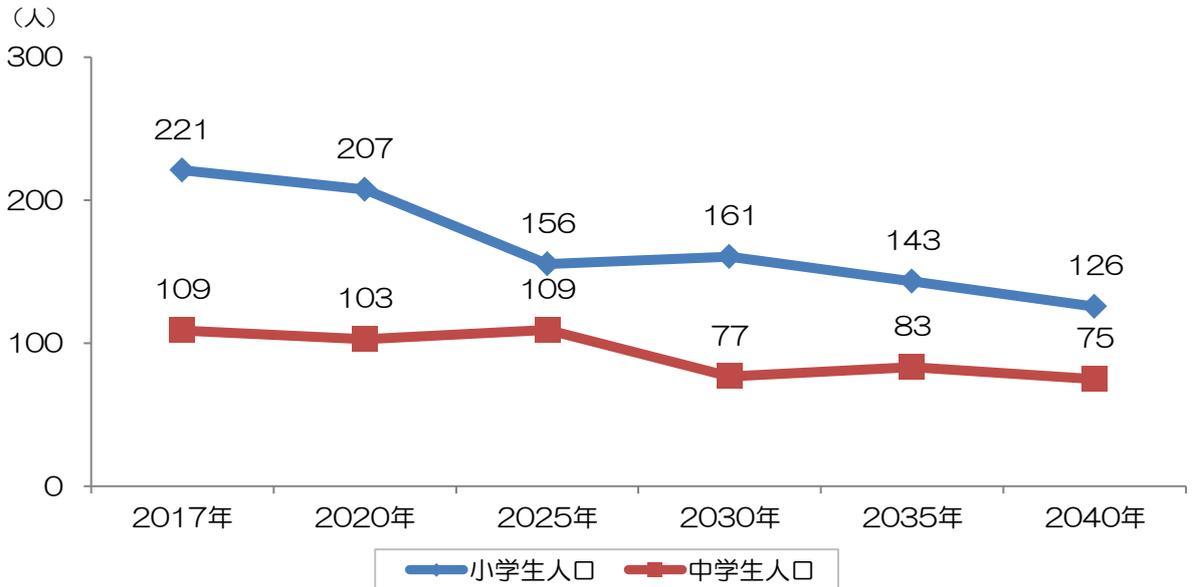
※住民基本台帳データより作成

・将来推計人口

年齢3区分と高齢化率



小・中学生



※2017年は住民基本台帳人口、2020年以降は柳川市独自推計より作成。小学生人口は7～12歳人口、中学生人口は13～15歳人口を示す

⑧ 蒲池小校区

人口動態をみると、自然減（全校区中1番目の多さ）である一方、社会増の状態にあります。しかし、社会増は市内間移動で得たものであり、市外間移動では社会減となっています。

社会増減の内訳をみると、10代後半から40代前半を中心に社会減となっている一方、10代前半以下及び70代後半以上の年代を中心に社会増となっています。

2040年の推計人口は、2017年の6,640人と比べて1,539人（23.2%）減の5,101人になると予測されます。

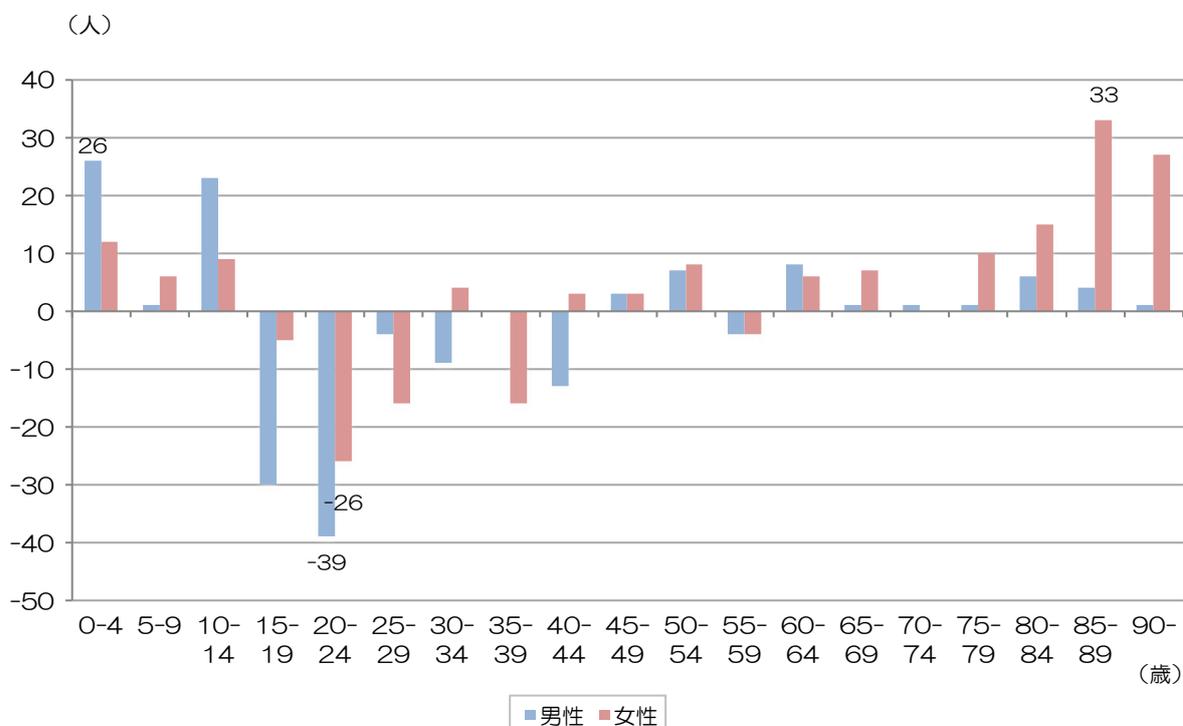
・人口動態（2012～2017年度）

自然増減数	出生数	死亡数
-321	252	573

	社会増減数	転入数	転出数
市内間移動	187	677	490
市外間移動	-128	1,172	1,300

・社会増減（2012～2017年度）

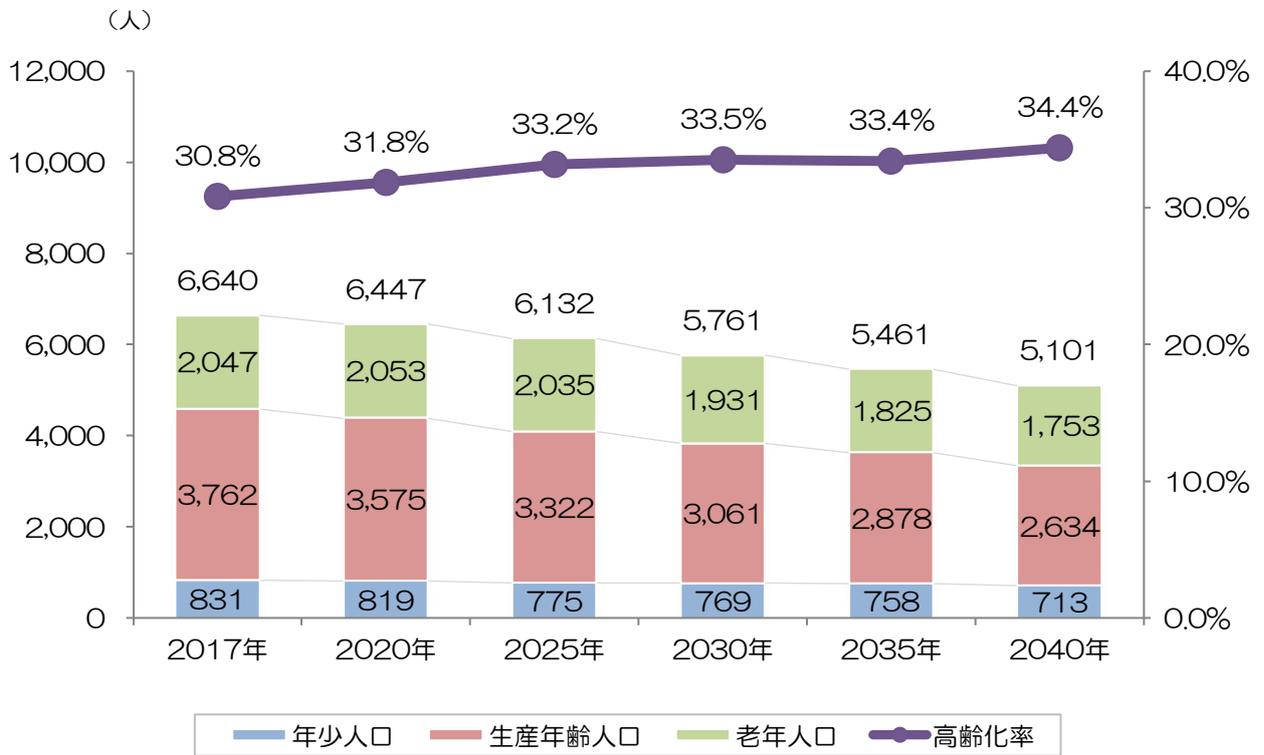
性別・年齢階級別社会増減



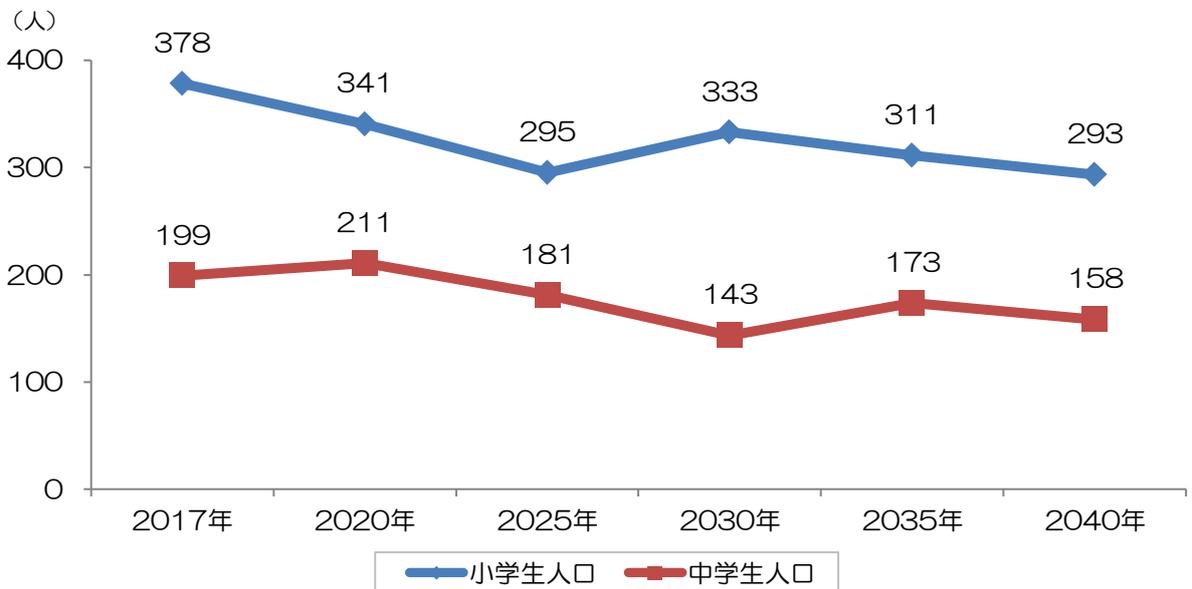
※住民基本台帳データより作成

・将来推計人口

年齢3区分と高齢化率



小・中学生



※2017年は住民基本台帳人口、2020年以降は柳川市独自推計より作成。小学生人口は7～12歳人口、中学生人口は13～15歳人口を示す

⑨ 豊原小校区

人口動態をみると、自然減かつ社会減（市内間移動で全校区中2番目の多さ）の状況にあります。市外間移動では社会増（全校区中2番目の多さ）を得ています。

社会増減の内訳をみると、20代以下を中心に社会減となっています。

2040年の推計人口は、2017年の3,271人と比べて920人（28.1%）減の2,351人になると予測されます。

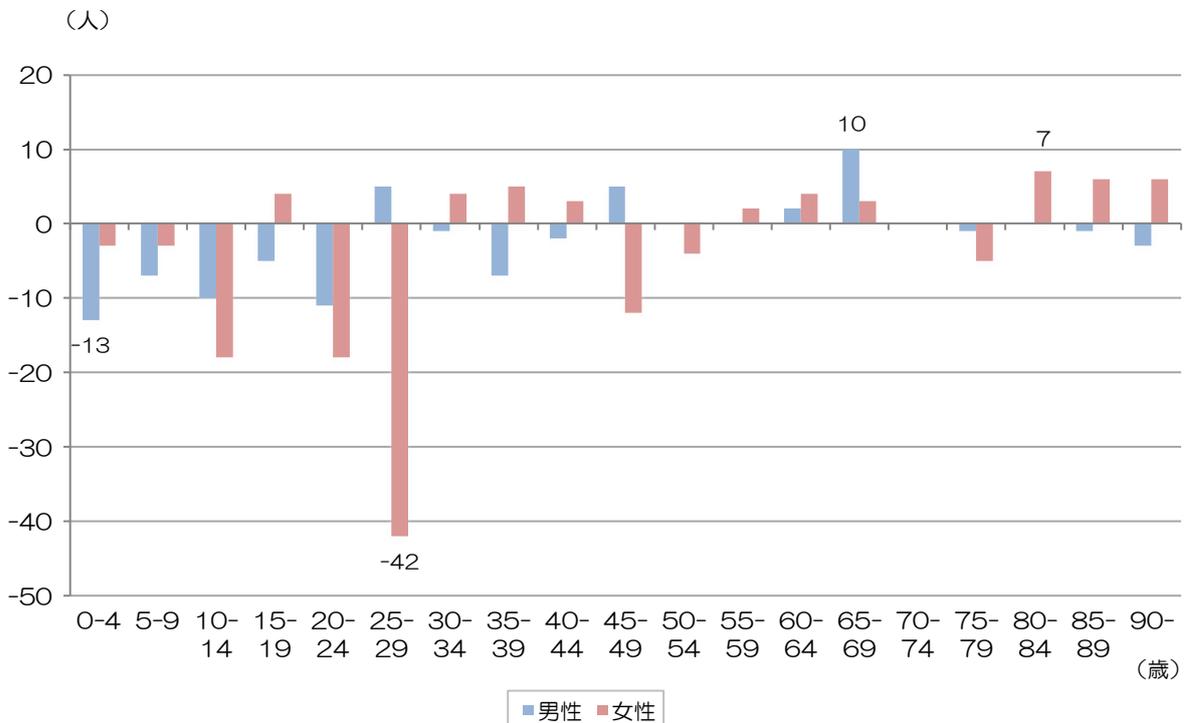
・人口動態（2012～2017年度）

自然増減数	出生数	死亡数
-132	172	304

	社会増減数	転入数	転出数
市内間移動	-121	318	439
市外間移動	21	585	564

・社会増減（2012～2017年度）

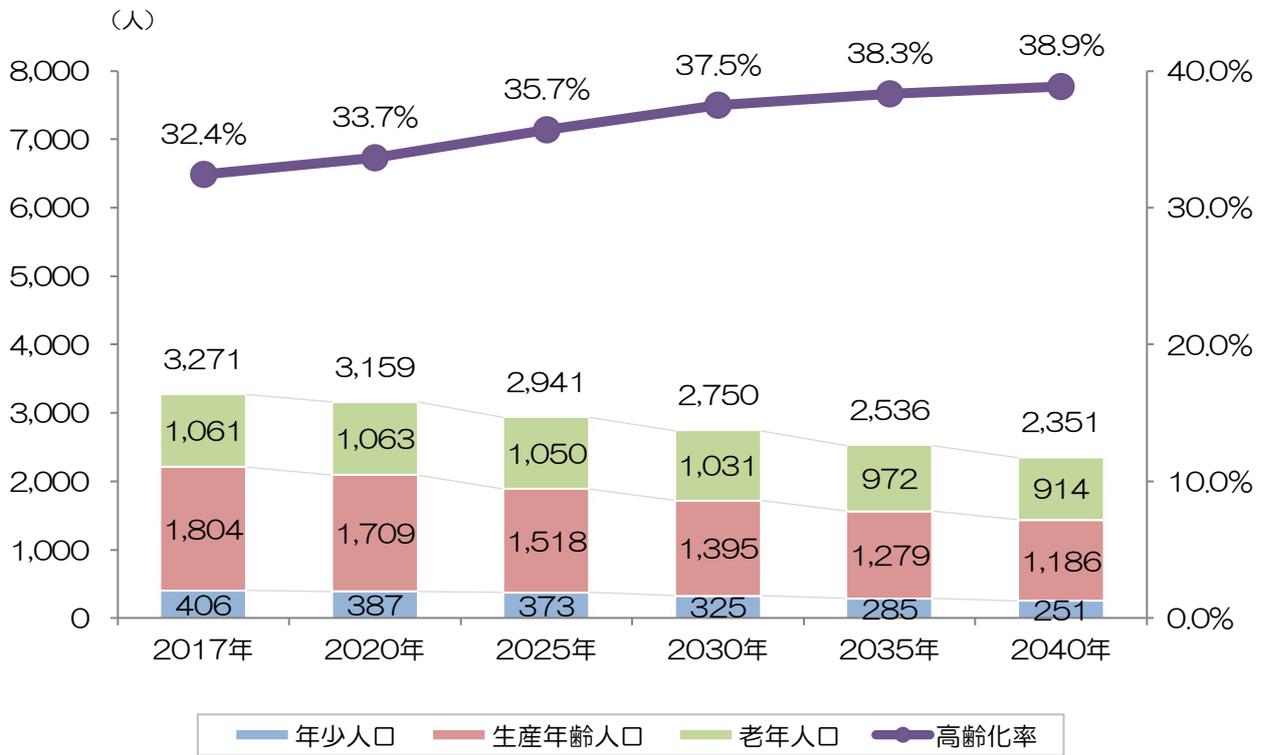
性別・年齢階級別社会増減



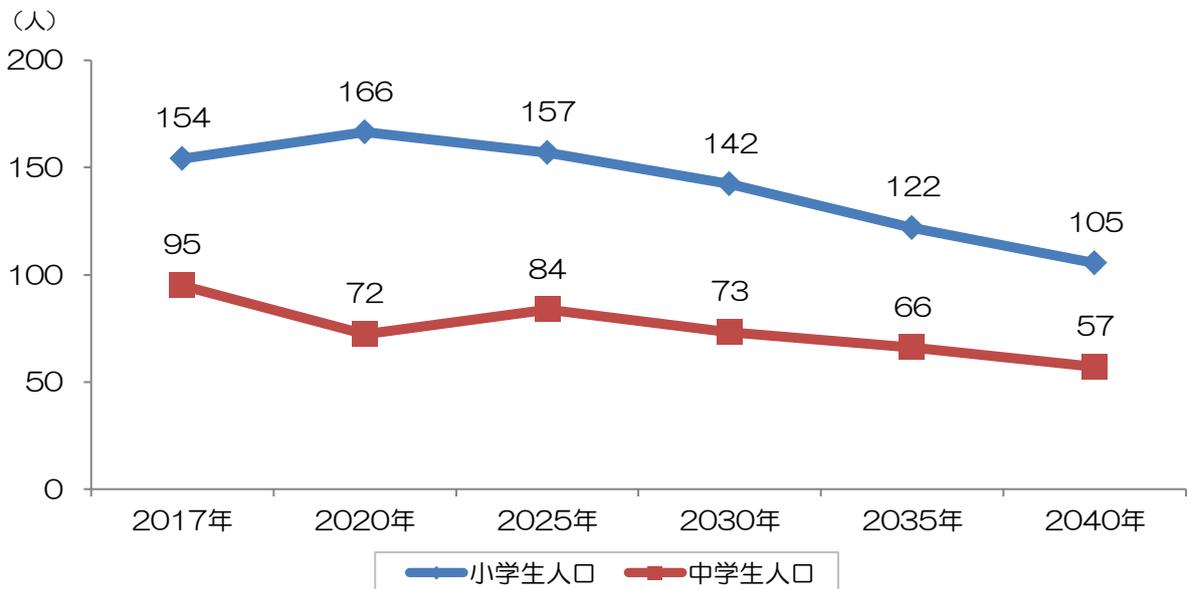
※住民基本台帳データより作成

・将来推計人口

年齢3区分と高齢化率



小・中学生



※2017年は住民基本台帳人口、2020年以降は柳川市独自推計より作成。小学生人口は7～12歳人口、中学生人口は13～15歳人口を示す

⑩ 大和小校区

人口動態をみると、自然減かつ社会減の状態にあります。市内間移動では社会増を得ている一方、市外間移動では社会減となっています。

社会増減の内訳をみると、子育て世帯や高齢層において社会増となっている一方、10代後半から20代を中心に社会減となっています。

2040年の推計人口は、2017年の2,142人と比べて618人(28.9%)減の1,524人になると予測されます。

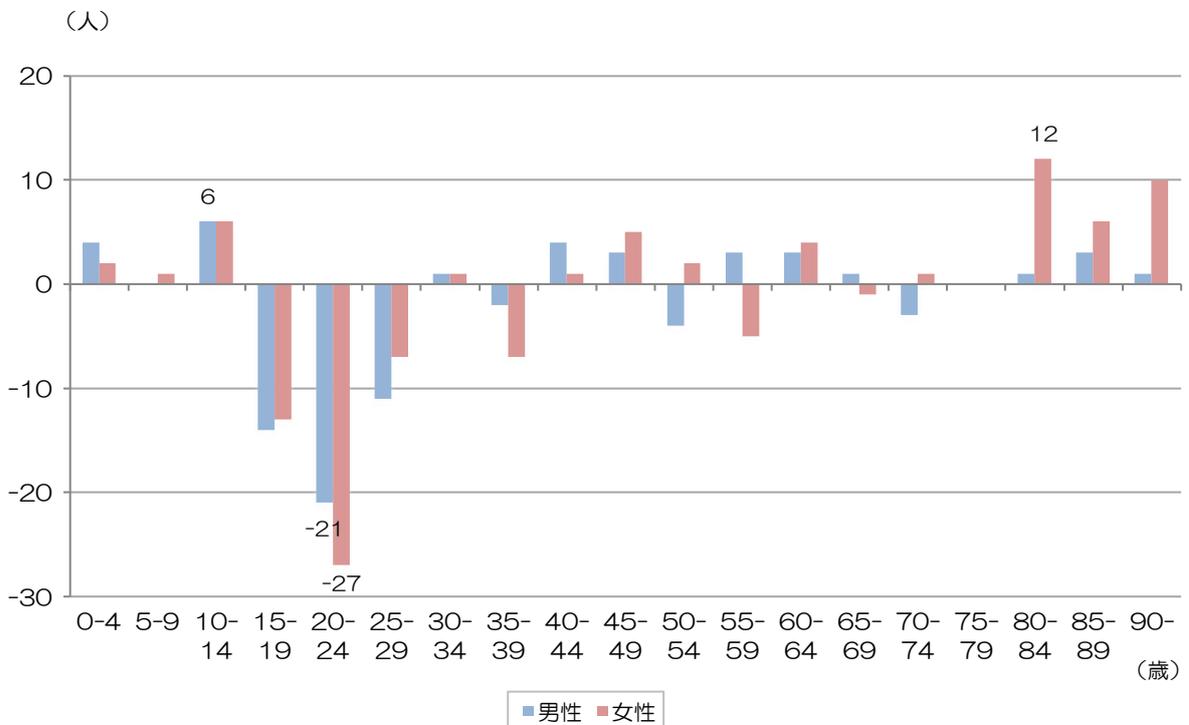
・人口動態（2012～2017年度）

自然増減数	出生数	死亡数
-149	84	233

	社会増減数	転入数	転出数
市内間移動	29	237	208
市外間移動	-63	257	320

・社会増減（2012～2017年度）

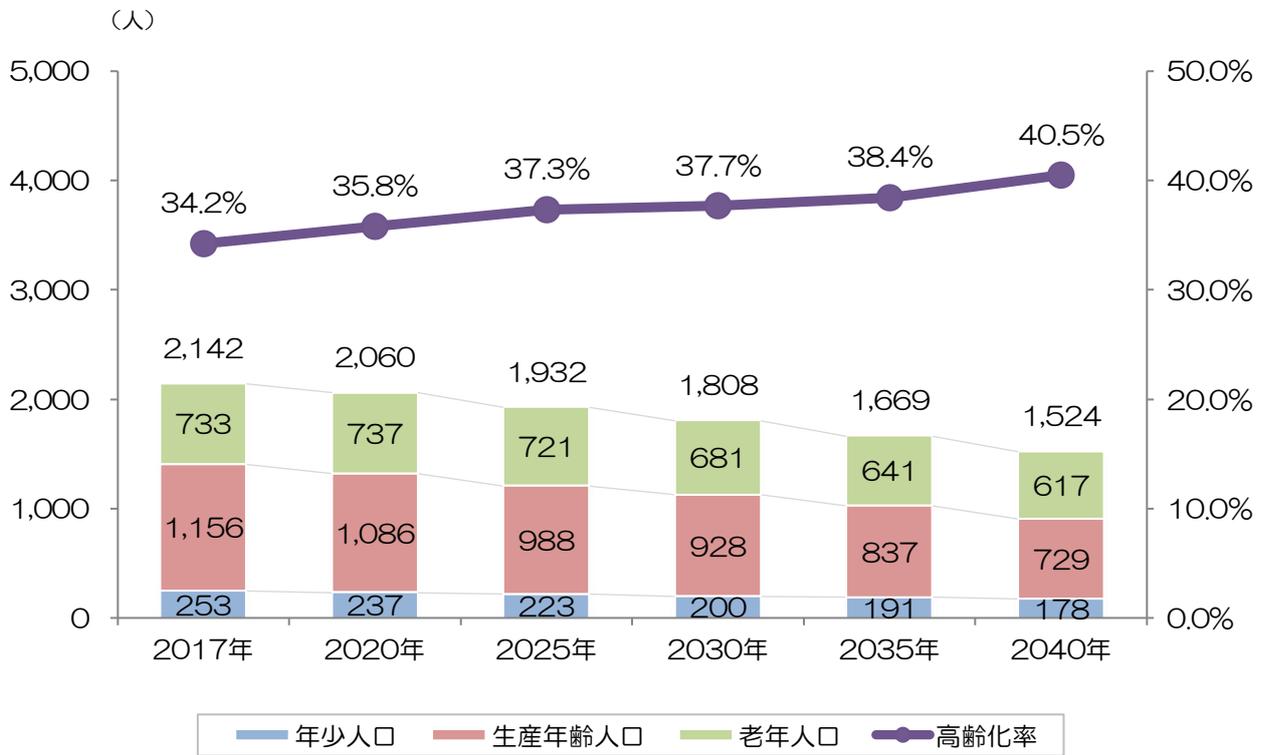
性別・年齢階級別社会増減



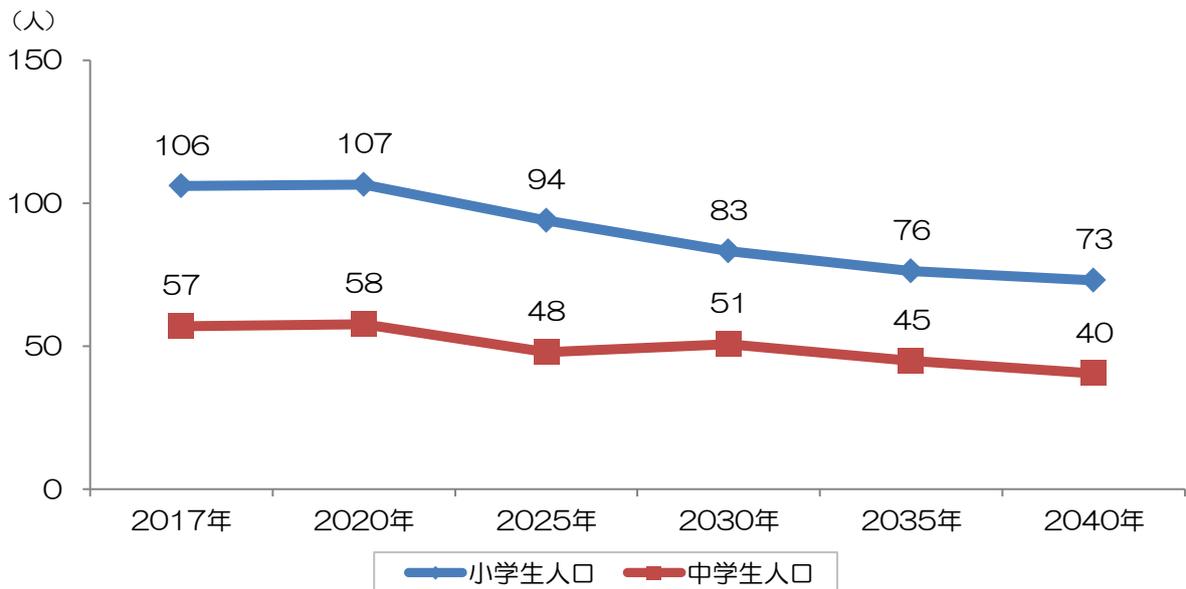
※住民基本台帳データより作成

・将来推計人口

年齢3区分と高齢化率



小・中学生



※2017年は住民基本台帳人口、2020年以降は柳川市独自推計より作成。小学生人口は7～12歳人口、中学生人口は13～15歳人口を示す

⑪ 皿垣小校区

人口動態をみると、自然減かつ社会減の状態にあります。市内間移動では社会増を得ている一方、市外間移動では社会減となっています。

社会増減の内訳をみると、10代後半から40代を中心にほとんどの年代で社会減となっています。

2017年の高齢化率をみると、全校区中最も高くなっています。

2040年の推計人口は、2017年の1,485人と比べて551人(37.1%)減の934になると予測されます。

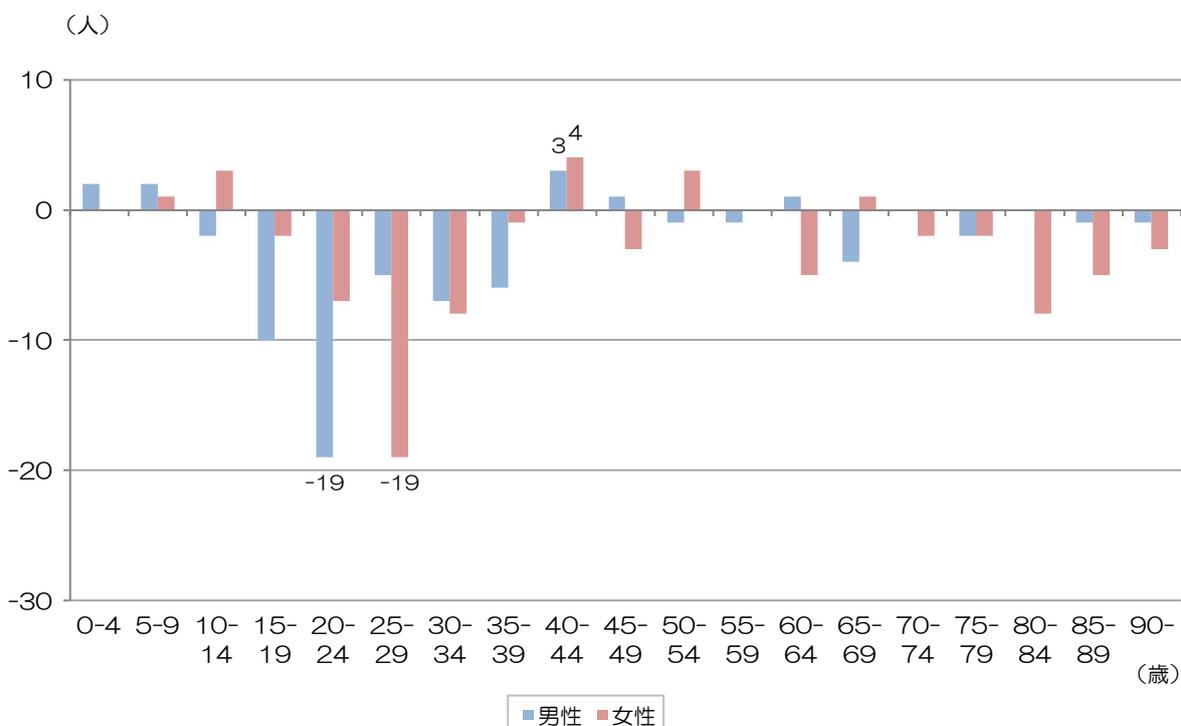
・人口動態（2012～2017年度）

自然増減数	出生数	死亡数
-82	51	133

	社会増減数	転入数	転出数
市内間移動	16	122	106
市外間移動	-119	108	227

・社会増減（2012～2017年度）

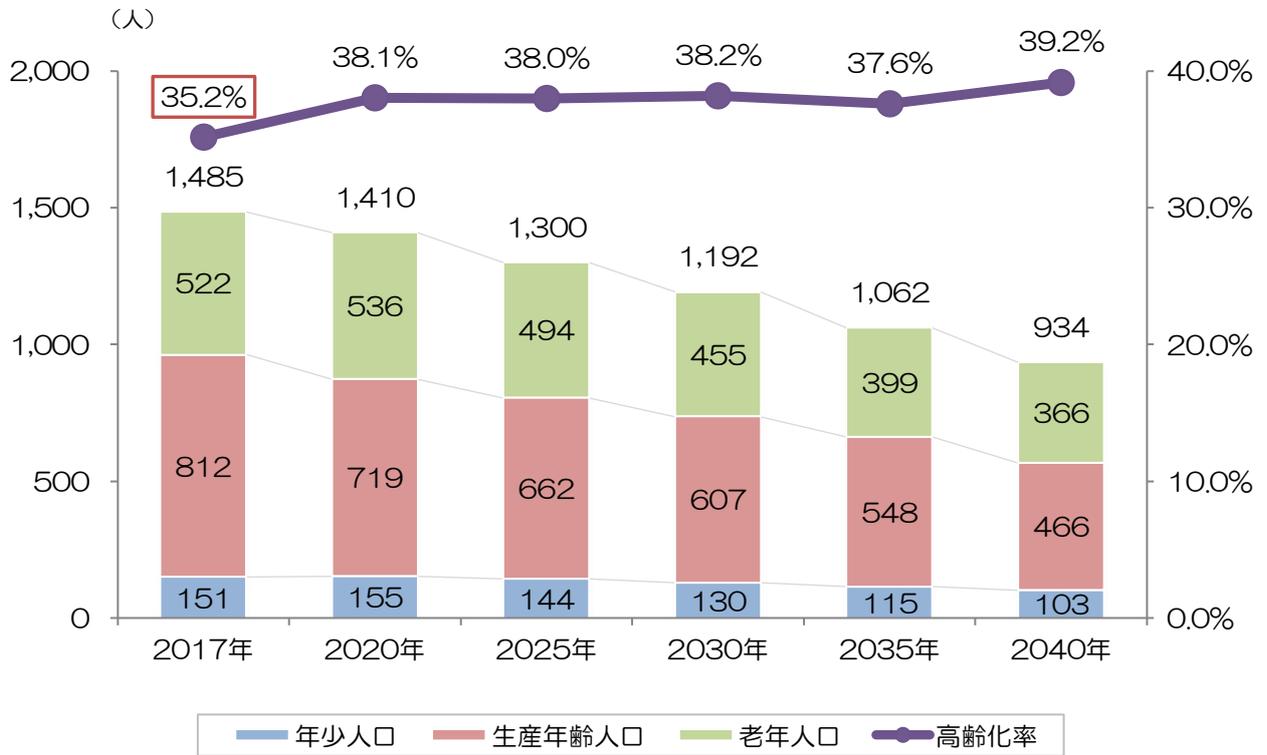
性別・年齢階級別社会増減



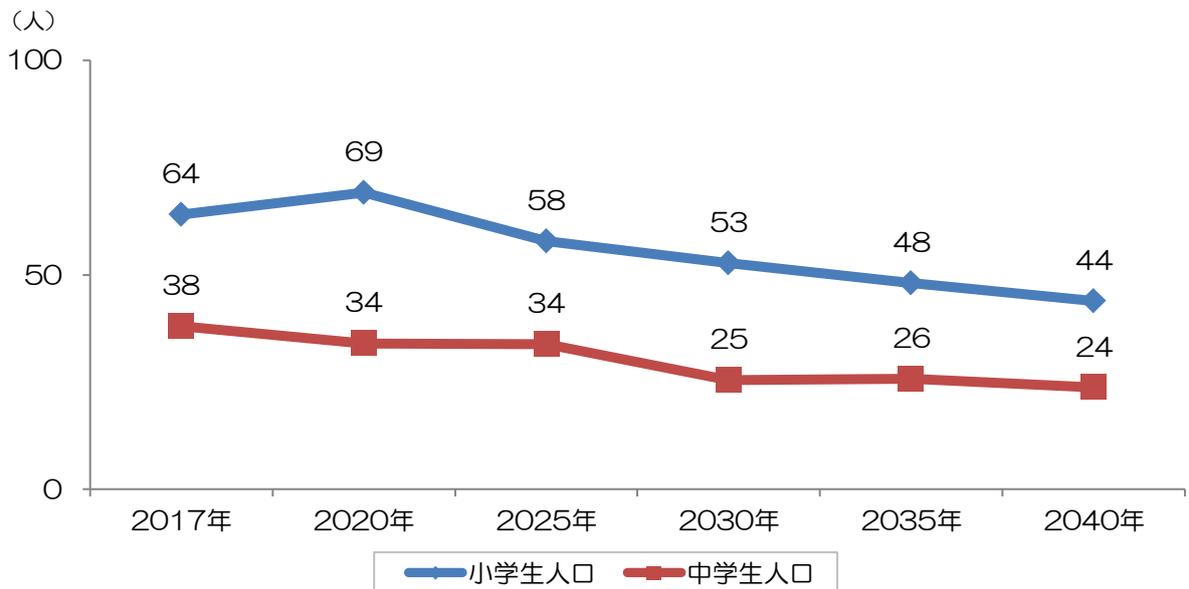
※住民基本台帳データより作成

・将来推計人口

年齢3区分と高齢化率



小・中学生



※2017年は住民基本台帳人口、2020年以降は柳川市独自推計より作成。小学生人口は7～12歳人口、中学生人口は13～15歳人口を示す

⑫ 有明小校区

人口動態をみると、自然減かつ社会減の状態にあります。

社会増減の内訳をみると、子育て世帯において社会増となっている一方、20代を中心に多くの年代で社会減となっています。

2040年の推計人口は、2017年の1,415人と比べて624人(44.1%)減の791人になると予測され、減少率は全校区中2番目の高さとなっています。

2040年の高齢化率をみると、全校区中2番目の高さとなっています。

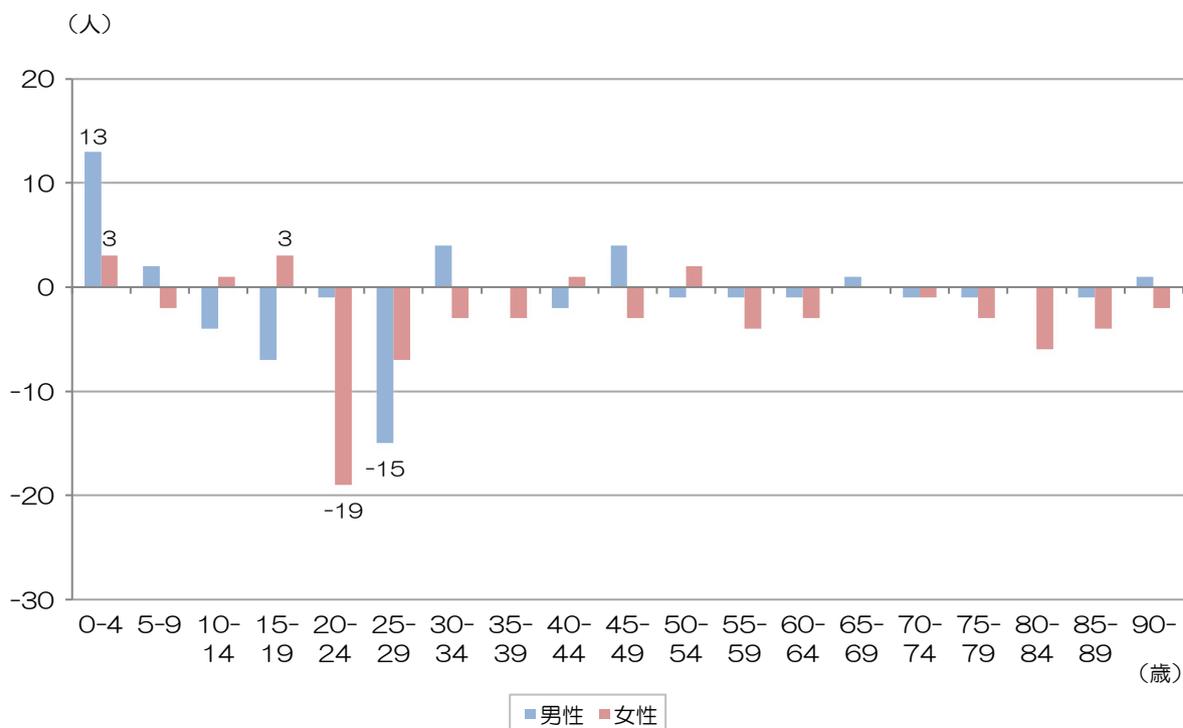
・人口動態（2012～2017年度）

自然増減数	出生数	死亡数
-61	48	109

	社会増減数	転入数	転出数
市内間移動	-7	102	109
市外間移動	-53	130	183

・社会増減（2012～2017年度）

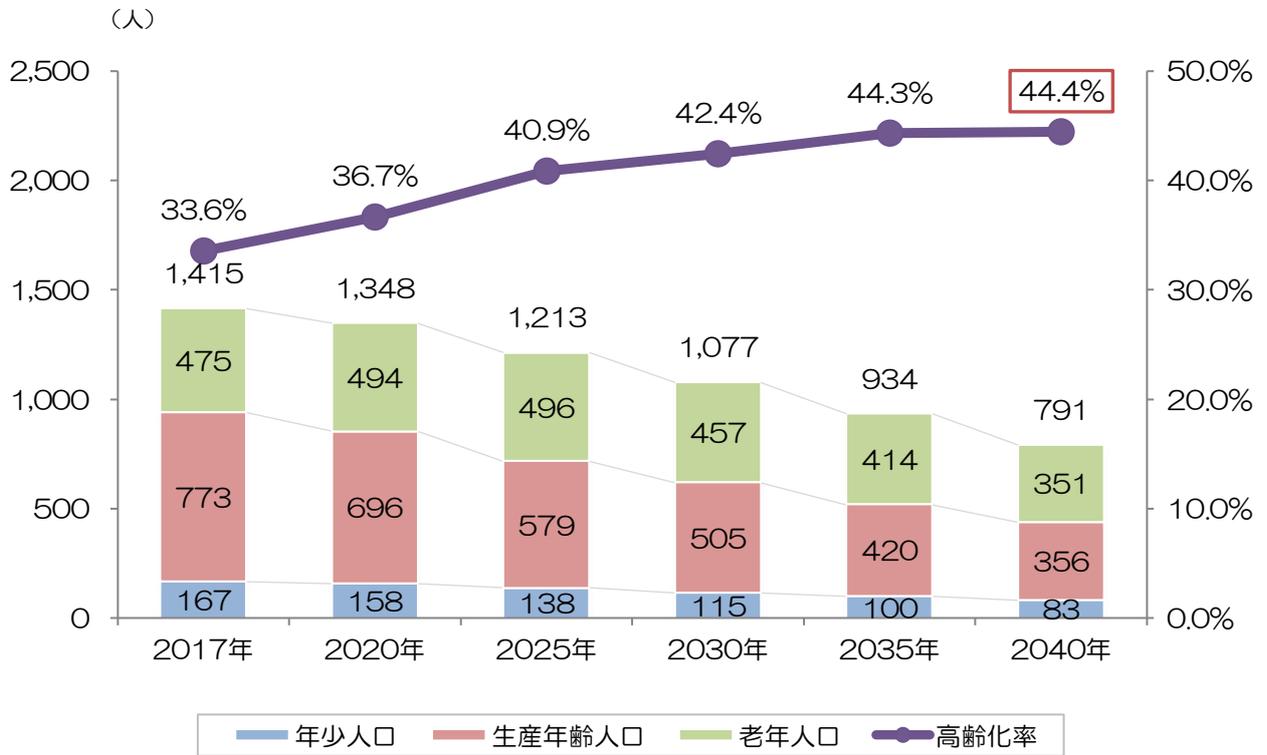
性別・年齢階級別社会増減



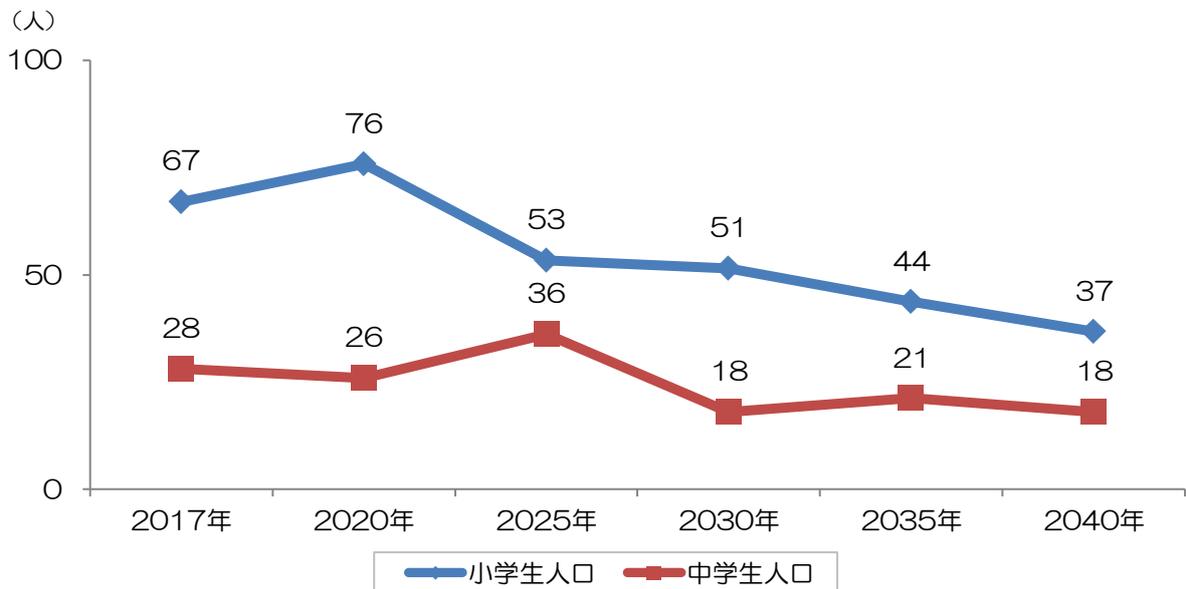
※住民基本台帳データより作成

・将来推計人口

年齢3区分と高齢化率



小・中学生



※2017年は住民基本台帳人口、2020年以降は柳川市独自推計より作成。小学生人口は7～12歳人口、中学生人口は13～15歳人口を示す

⑬ 中島小校区

人口動態をみると、自然減かつ社会減の状態にあります。

社会増減の内訳をみると、10代後半から30代を中心にほとんどの年代で社会減となっています。

2040年の推計人口は、2017年の3,788人と比べて1,368人(36.1%)減の2,420人になると予測されます。

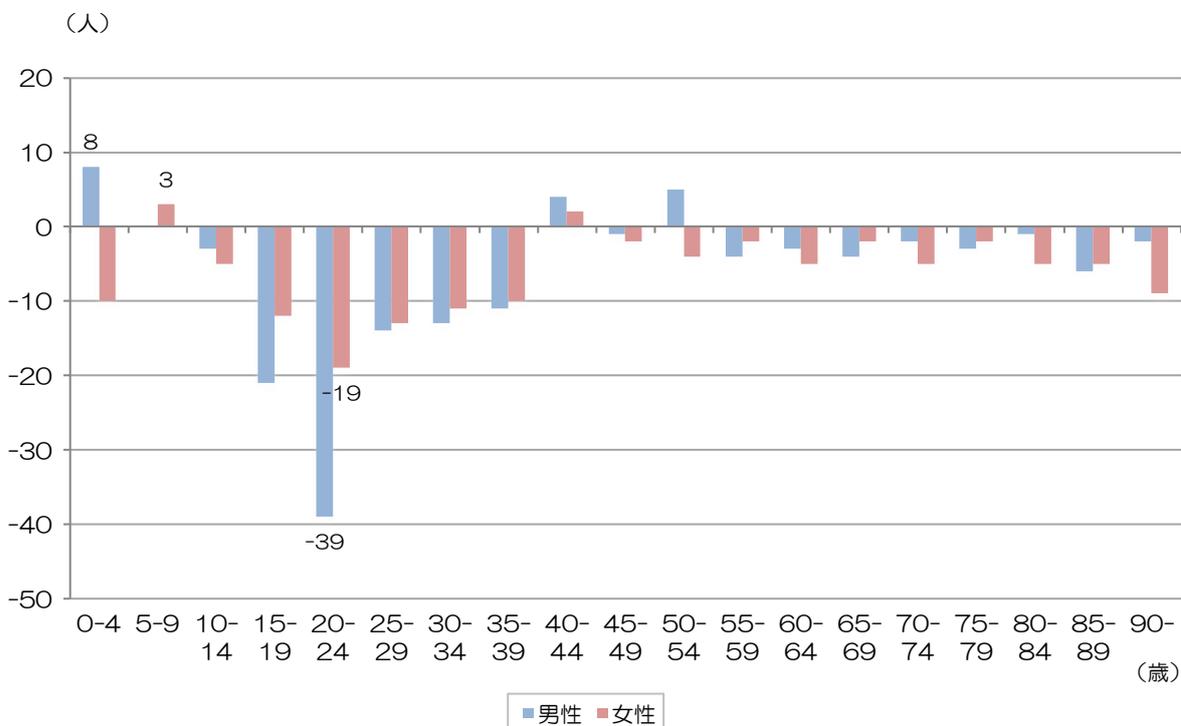
・人口動態（2012～2017年度）

自然増減数	出生数	死亡数
-195	147	342

	社会増減数	転入数	転出数
市内間移動	-72	153	225
市外間移動	-154	410	564

・社会増減（2012～2017年度）

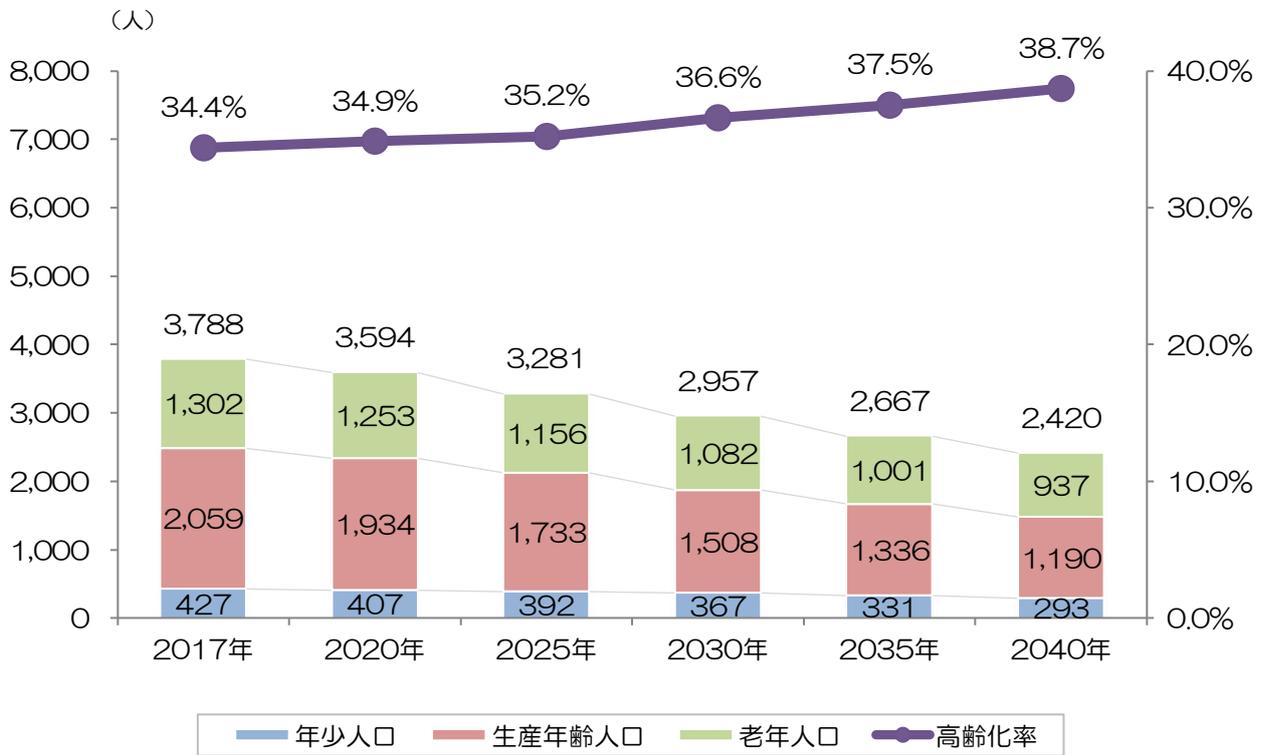
性別・年齢階級別社会増減



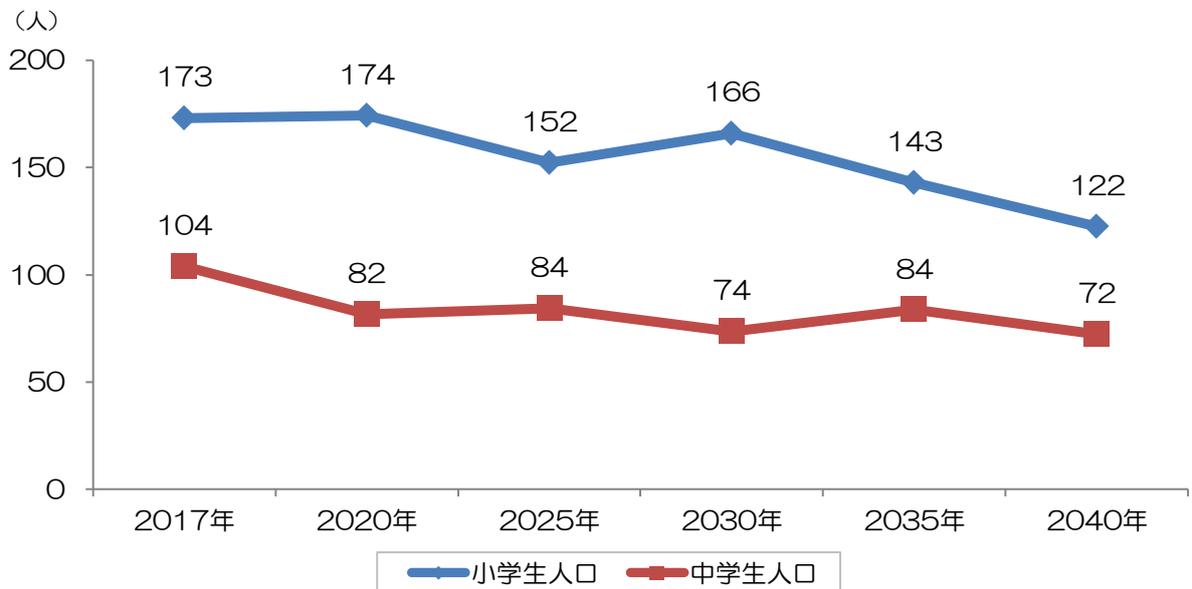
※住民基本台帳データより作成

・将来推計人口

年齢3区分と高齢化率



小・中学生



※2017年は住民基本台帳人口、2020年以降は柳川市独自推計より作成。小学生人口は7～12歳人口、中学生人口は13～15歳人口を示す

⑭ 六合小校区

人口動態をみると、自然減かつ社会減の状態にあります。
 社会増減の内訳をみると、20代を中心にほとんどの年代で社会減となっています。
 2040年の推計人口は、2017年の2,478人と比べて937人（37.8%）減の1,541人になると予測されます。

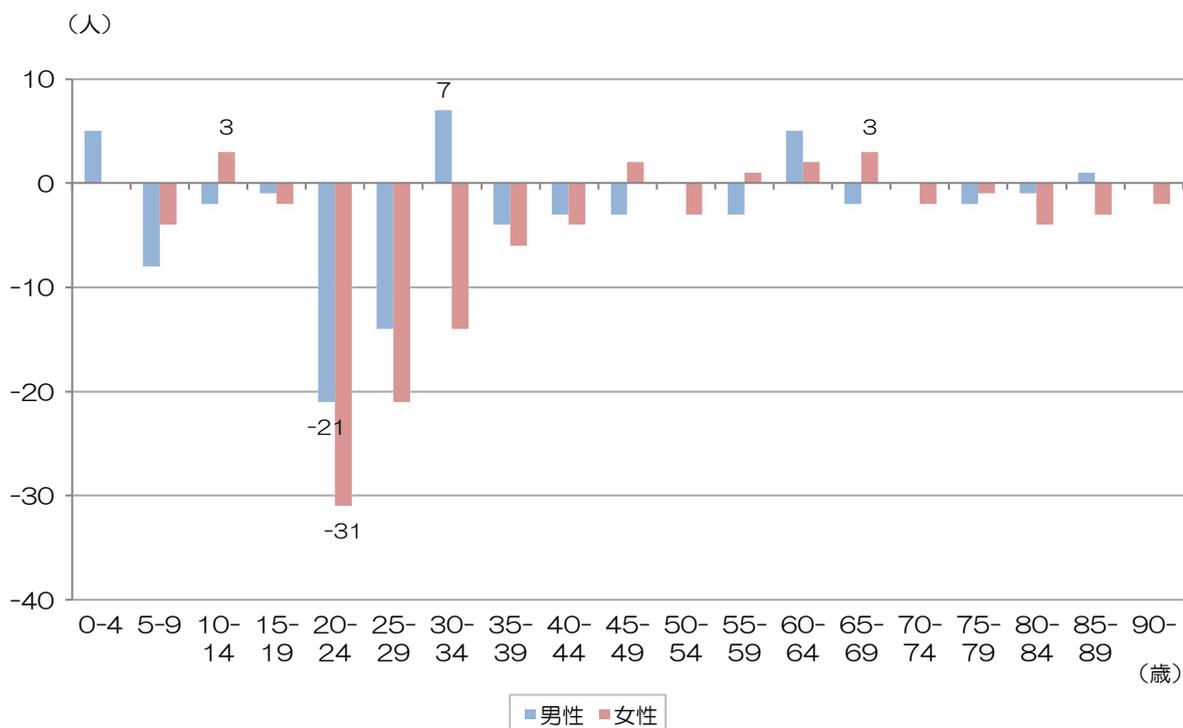
・人口動態（2012～2017年度）

自然増減数	出生数	死亡数
-91	106	197

	社会増減数	転入数	転出数
市内間移動	-53	211	264
市外間移動	-79	321	400

・社会増減（2012～2017年度）

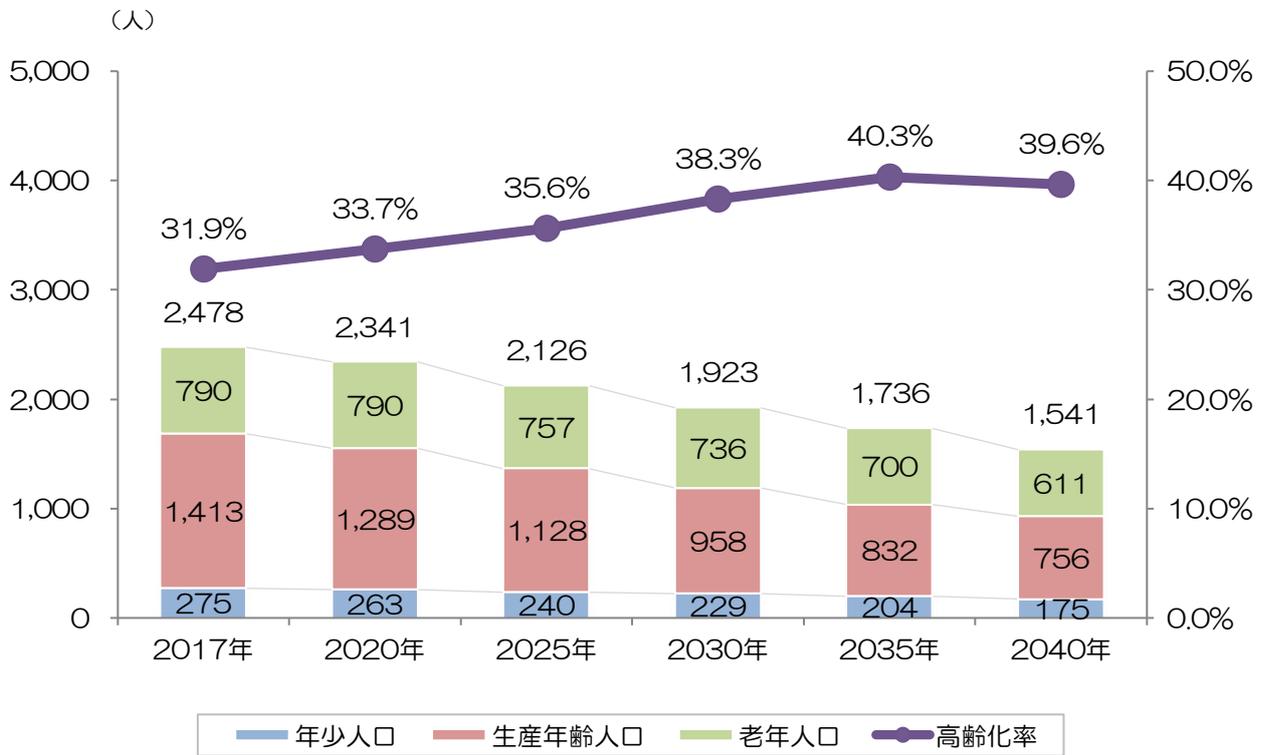
性別・年齢階級別社会増減



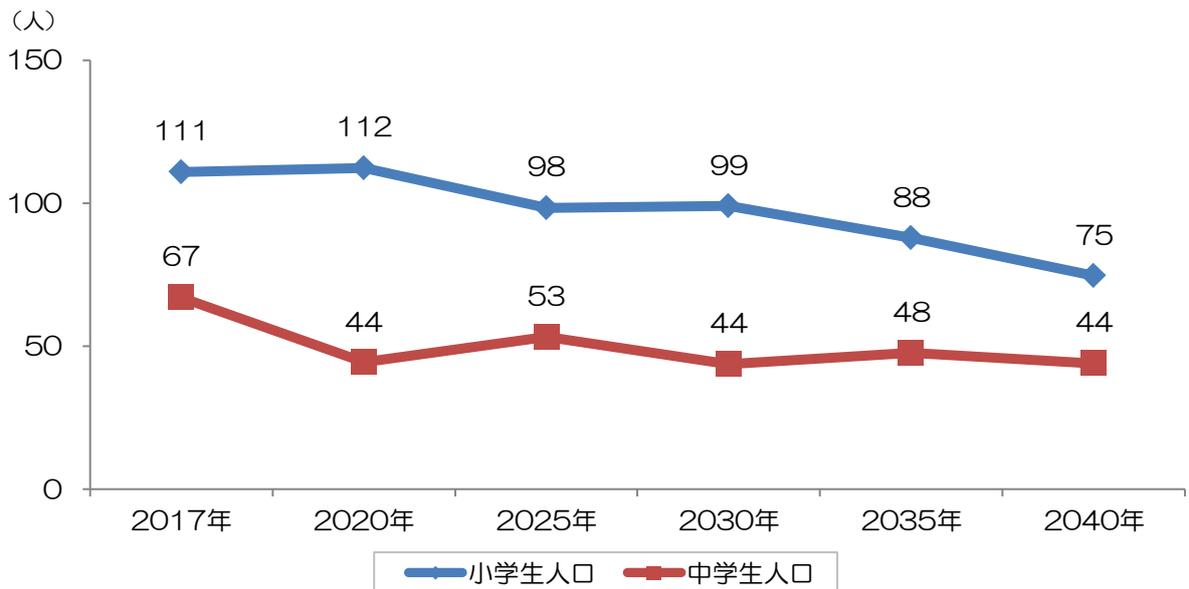
※住民基本台帳データより作成

・将来推計人口

年齢3区分と高齢化率



小・中学生



※2017年は住民基本台帳人口、2020年以降は柳川市独自推計より作成。小学生人口は7～12歳人口、中学生人口は13～15歳人口を示す

⑮ 藤吉小校区

人口動態をみると、自然増（全校区中2番目の多さ）かつ社会増の状態にあります。しかし、社会増は市内間移動（全校区中1番目の多さ）で得たものであり、市外間移動では社会減となっています。

社会増減の内訳をみると、多くの年代で社会増となっています。

2017年の高齢化率をみると、全校区中2番目の低さとなっています。

2040年の推計人口は、2017年の6,927人と比べて1,393人（20.1%）減の5,534人になると予測されます。

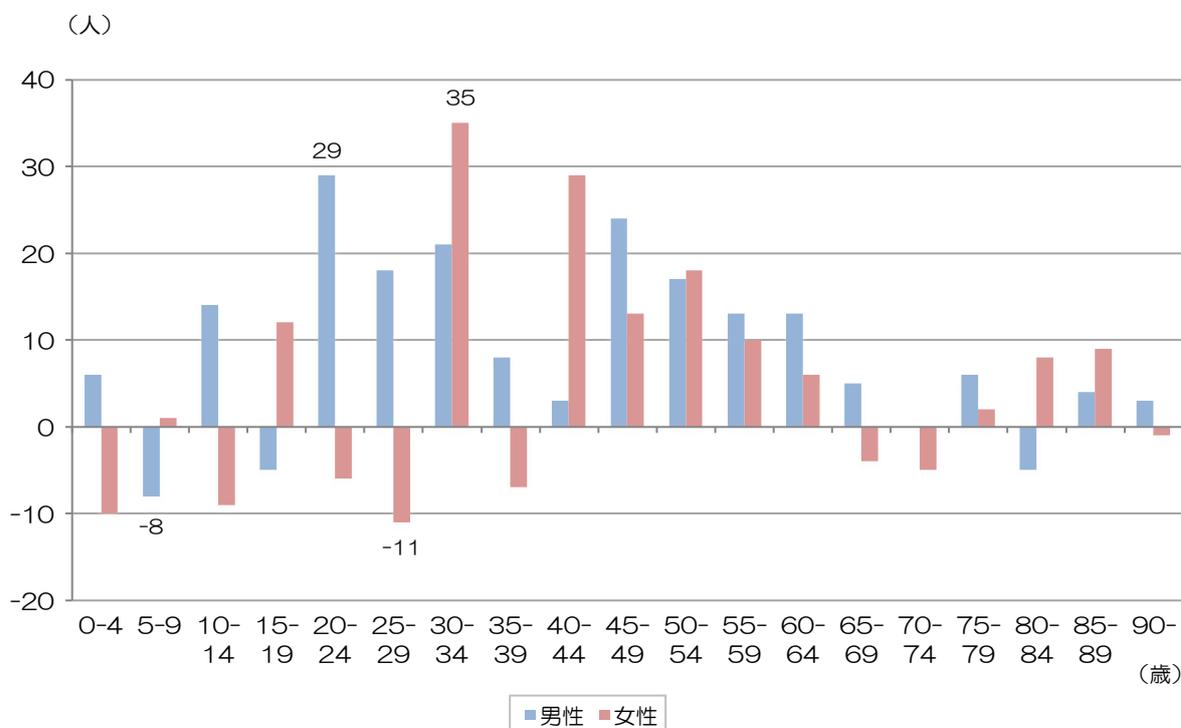
・人口動態（2012～2017年度）

自然増減数	出生数	死亡数
3	402	399

	社会増減数	転入数	転出数
市内間移動	265	1,237	972
市外間移動	-9	1,858	1,867

・社会増減（2012～2017年度）

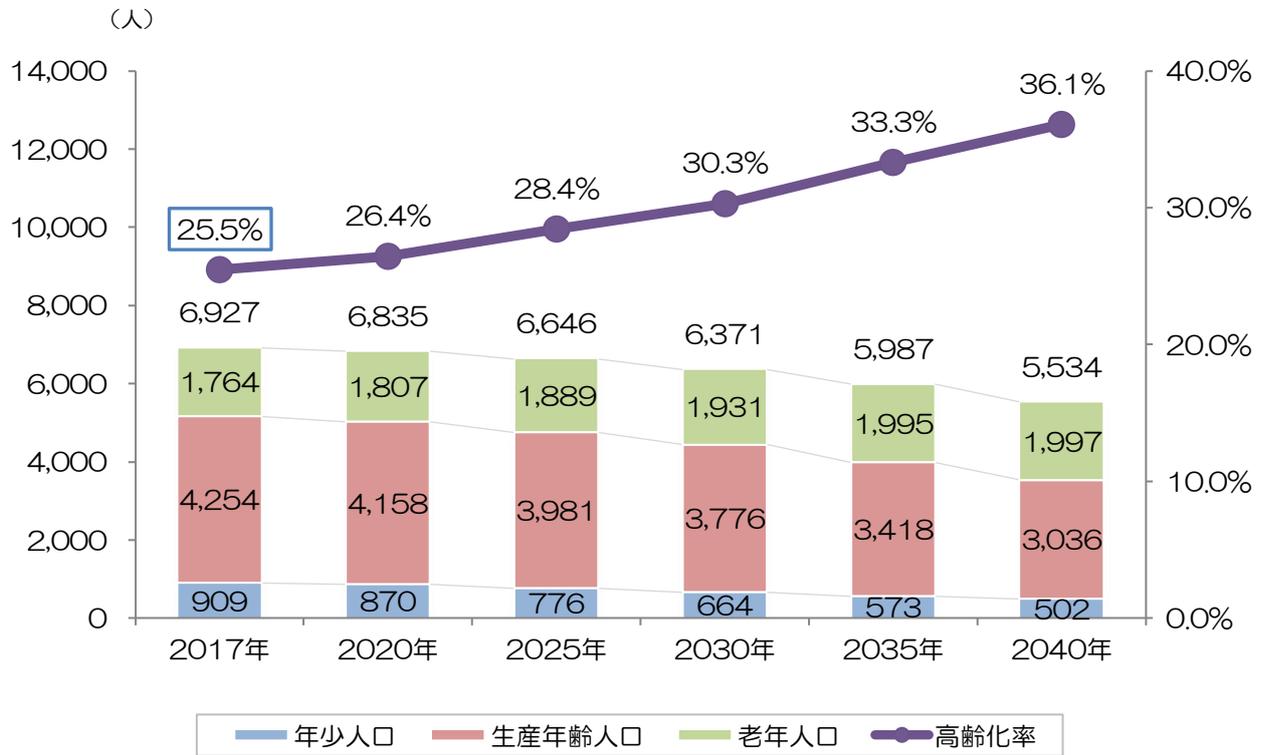
性別・年齢階級別社会増減



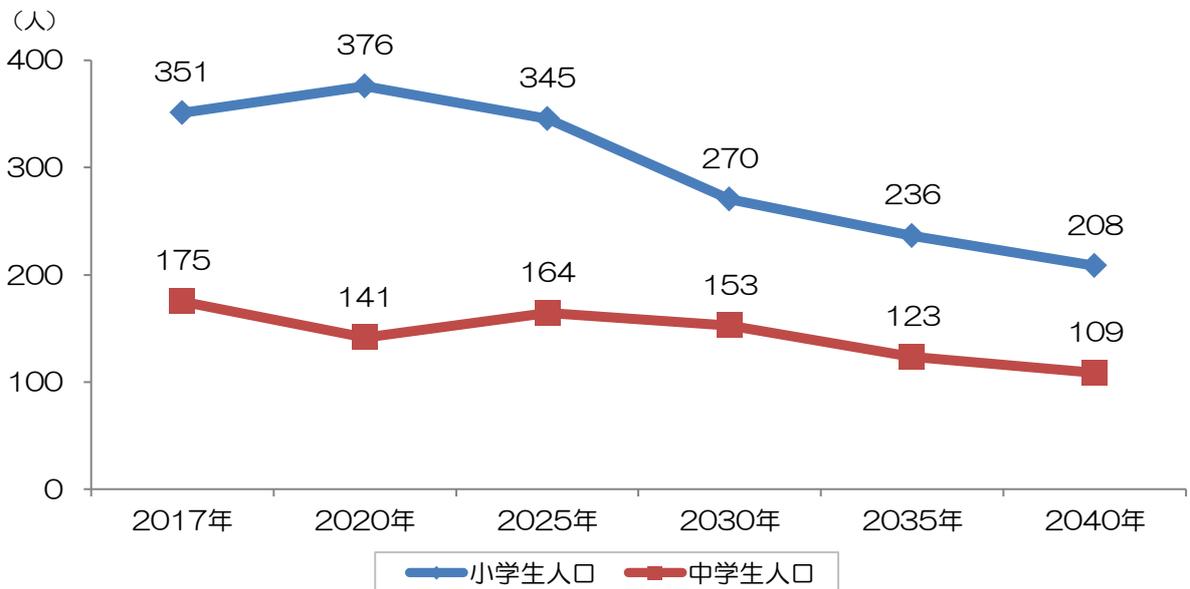
※住民基本台帳データより作成

・将来推計人口

年齢3区分と高齢化率



小・中学生



※2017年は住民基本台帳人口、2020年以降は柳川市独自推計より作成。小学生人口は7～12歳人口、中学生人口は13～15歳人口を示す

⑩ 矢ヶ部小校区

人口動態をみると、自然増（全校区中1番目の多さ）かつ社会増の状態にあります。市内間移動では社会減となっているものの、市外間移動では社会増（全校区中1番目の多さ）を得ています。

社会増減の内訳をみると、10代後半に大きな社会増、20代前半に大きな社会減がみられ、専門学校が立地していることが影響していると考えられます。

2017年及び2040年の高齢化率をみると、全校区中最も低くなっています。

2040年の推計人口は、2017年の2,355人と比べて35人（1.5%）減の2,320になると予測されます。

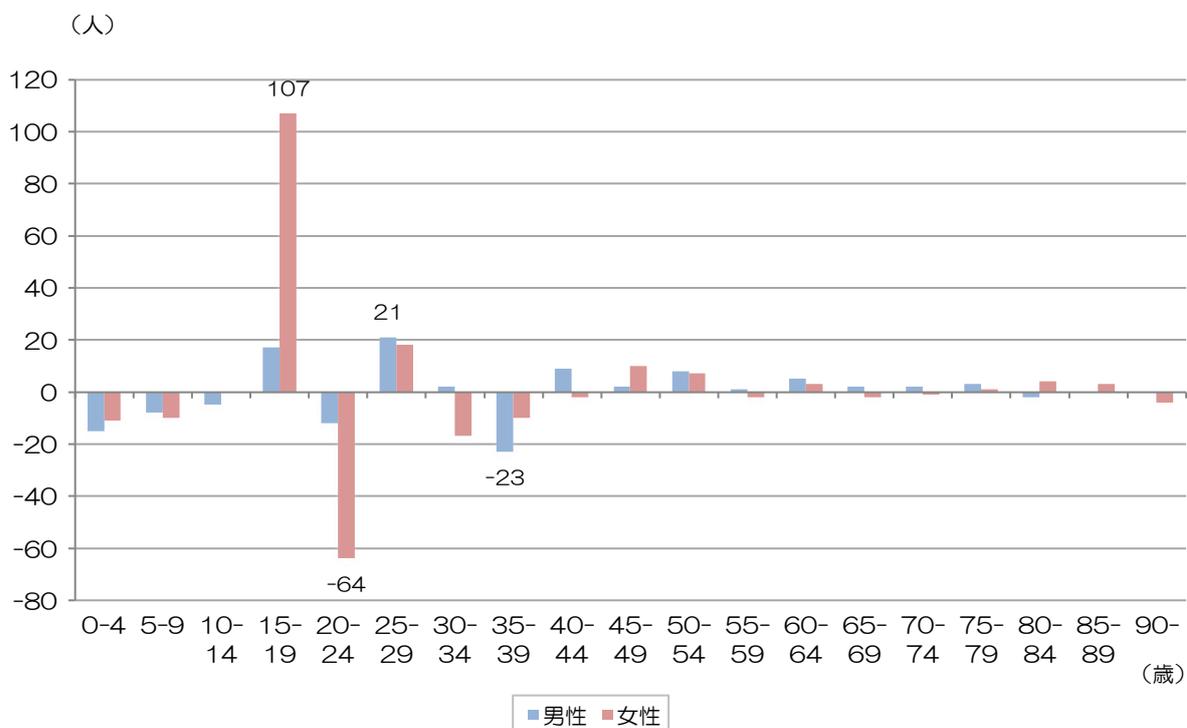
・人口動態（2012～2017年度）

自然増減数	出生数	死亡数
25	151	126

	社会増減数	転入数	転出数
市内間移動	-35	381	416
市外間移動	72	692	620

・社会増減（2012～2017年度）

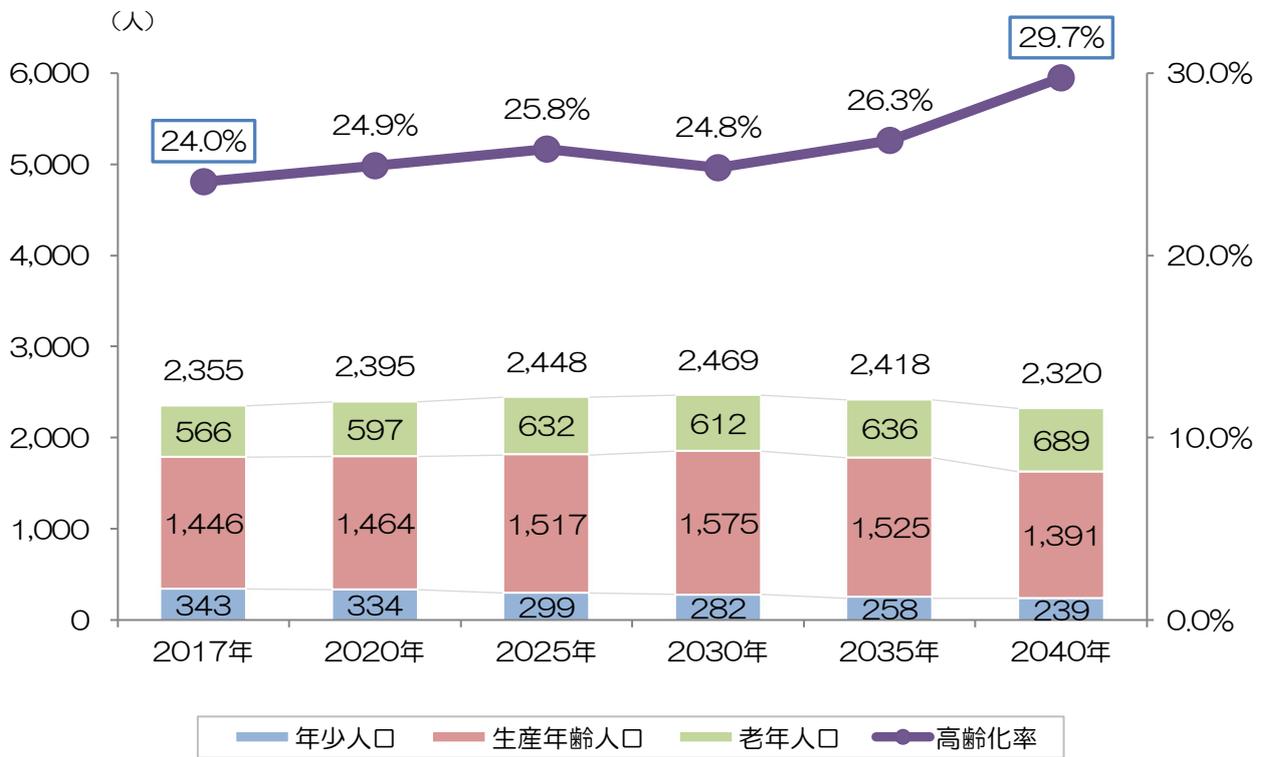
性別・年齢階級別社会増減



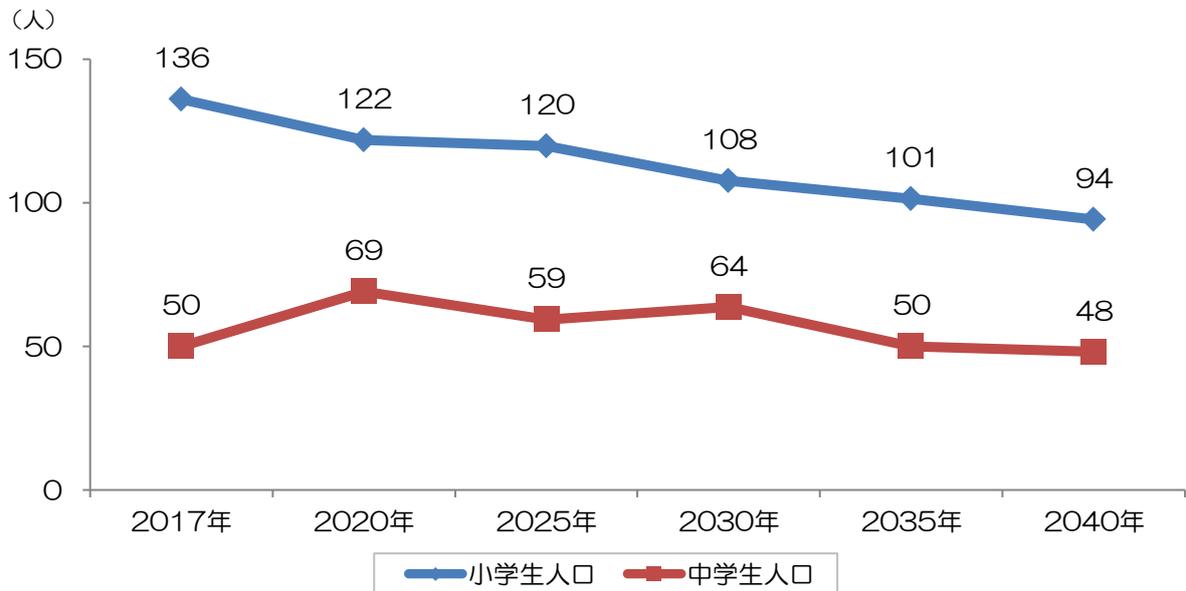
※住民基本台帳データより作成

・将来推計人口

年齢3区分と高齢化率



小・中学生



※2017年は住民基本台帳人口、2020年以降は柳川市独自推計より作成。小学生人口は7～12歳人口、中学生人口は13～15歳人口を示す

⑰ ニツ河小校区

人口動態をみると、自然減かつ社会減の状態にあります。
 社会増減の内訳をみると、10代後半から30代を中心に社会減となっています。
 2040年の推計人口は、2017年の3,974人と比べて1,313人（33.0%）減の2,661人になると予測されます。
 2040年の高齢化率をみると、全校区中最も高くなっています。

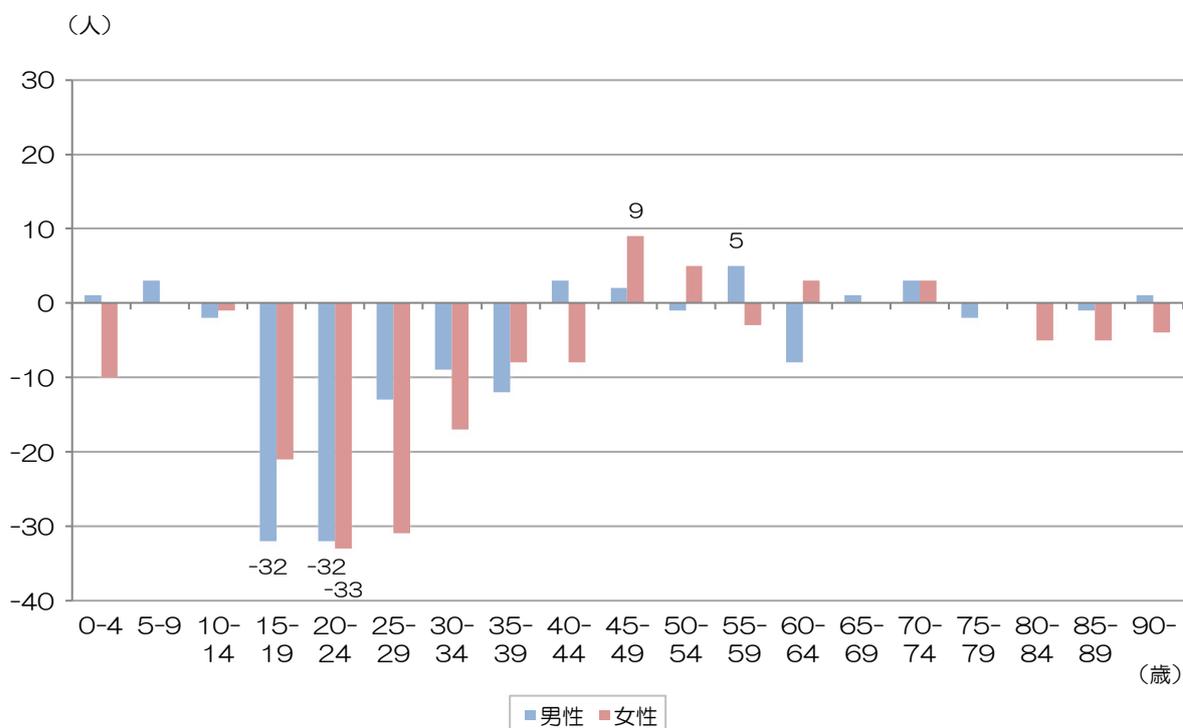
・人口動態（2012～2017年度）

自然増減数	出生数	死亡数
-128	147	275

	社会増減数	転入数	転出数
市内間移動	-44	278	322
市外間移動	-175	452	627

・社会増減（2012～2017年度）

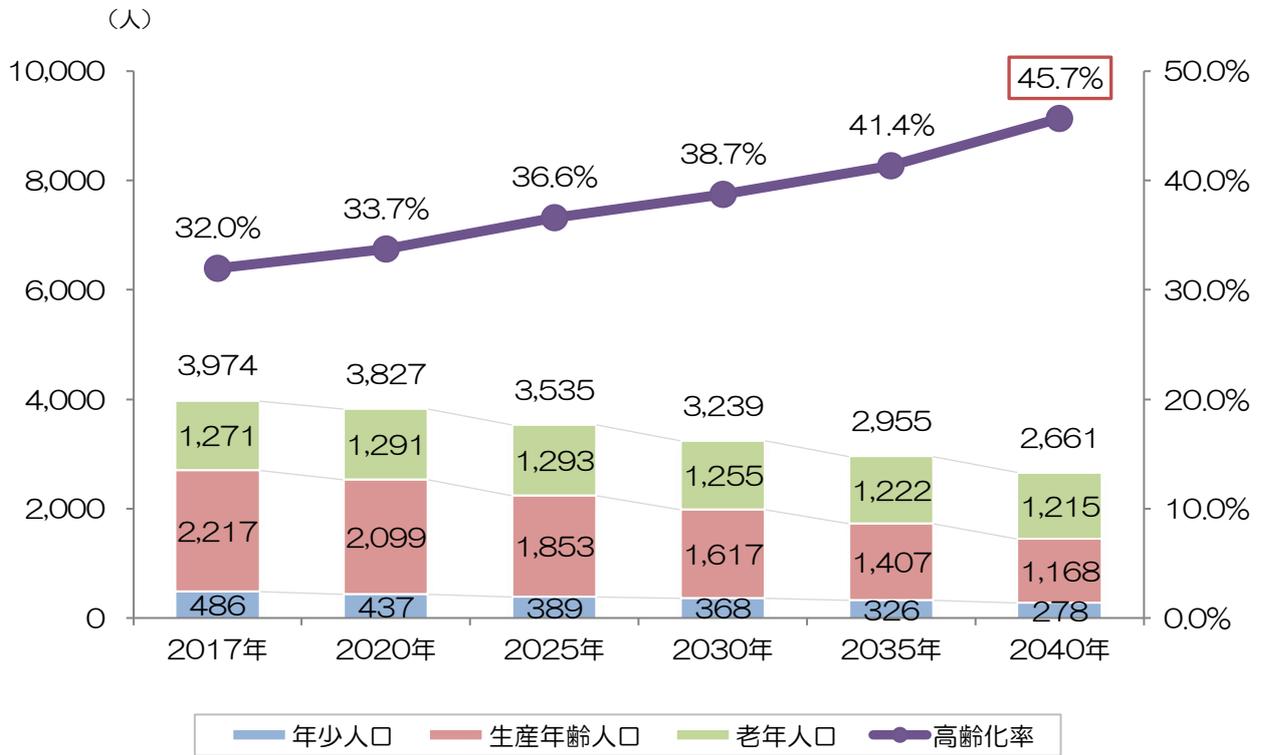
性別・年齢階級別社会増減



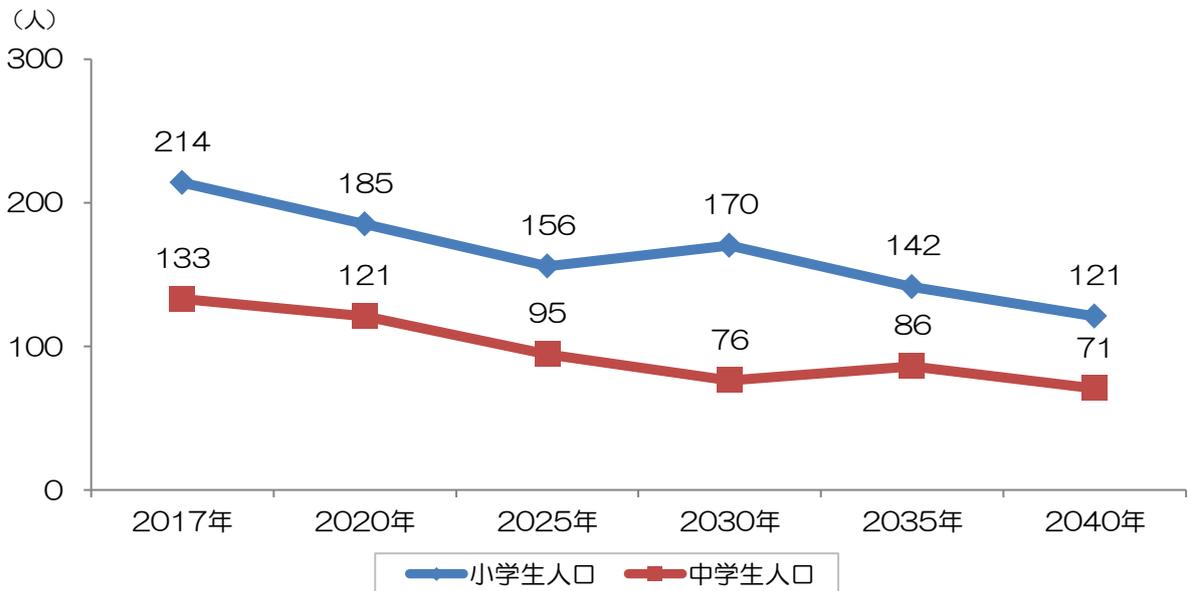
※住民基本台帳データより作成

・将来推計人口

年齢3区分と高齢化率



小・中学生



※2017年は住民基本台帳人口、2020年以降は柳川市独自推計より作成。小学生人口は7～12歳人口、中学生人口は13～15歳人口を示す

⑱ 垂見小校区

人口動態をみると、自然減かつ社会減の状態にあります。市内間移動では社会増を得ている一方、市外間移動では社会減となっています。

社会増減の内訳をみると、子育て世帯において社会増となっている一方、10代後半から20代を中心に社会減となっています。

2040年の推計人口は、2017年の3,070人と比べて810人(26.4%)減の2,260人になると予測されます。

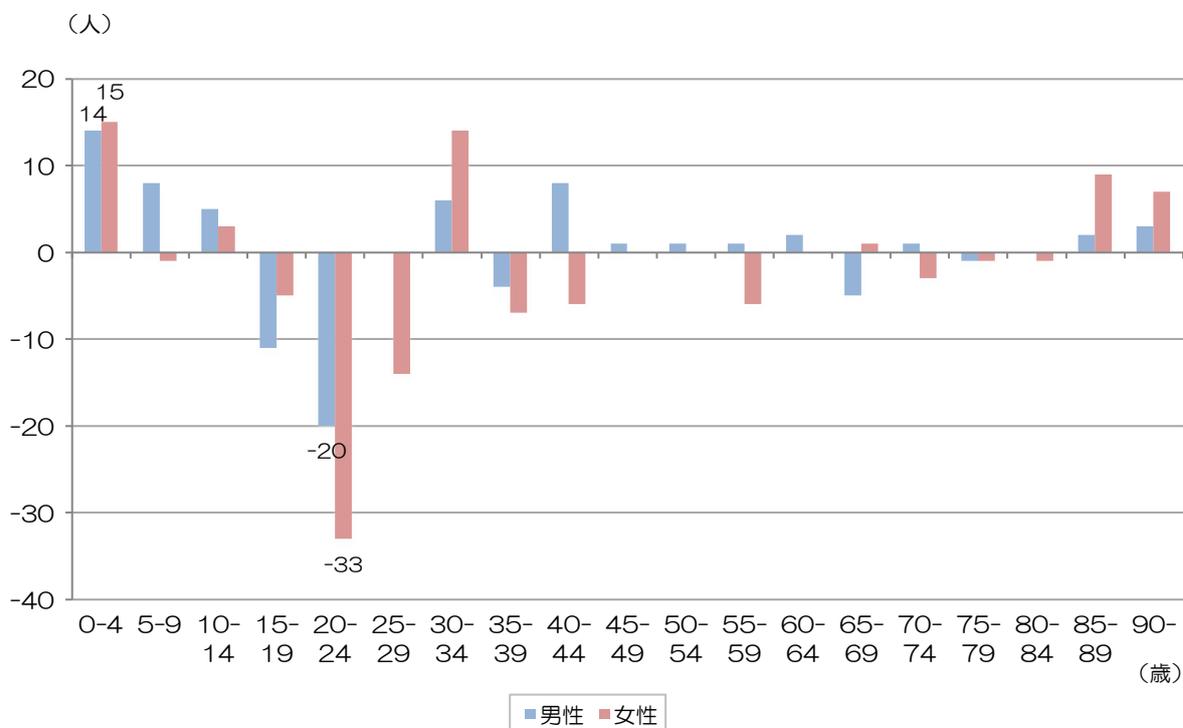
・人口動態（2012～2017年度）

自然増減数	出生数	死亡数
-176	120	296

	社会増減数	転入数	転出数
市内間移動	58	297	239
市外間移動	-75	369	444

・社会増減（2012～2017年度）

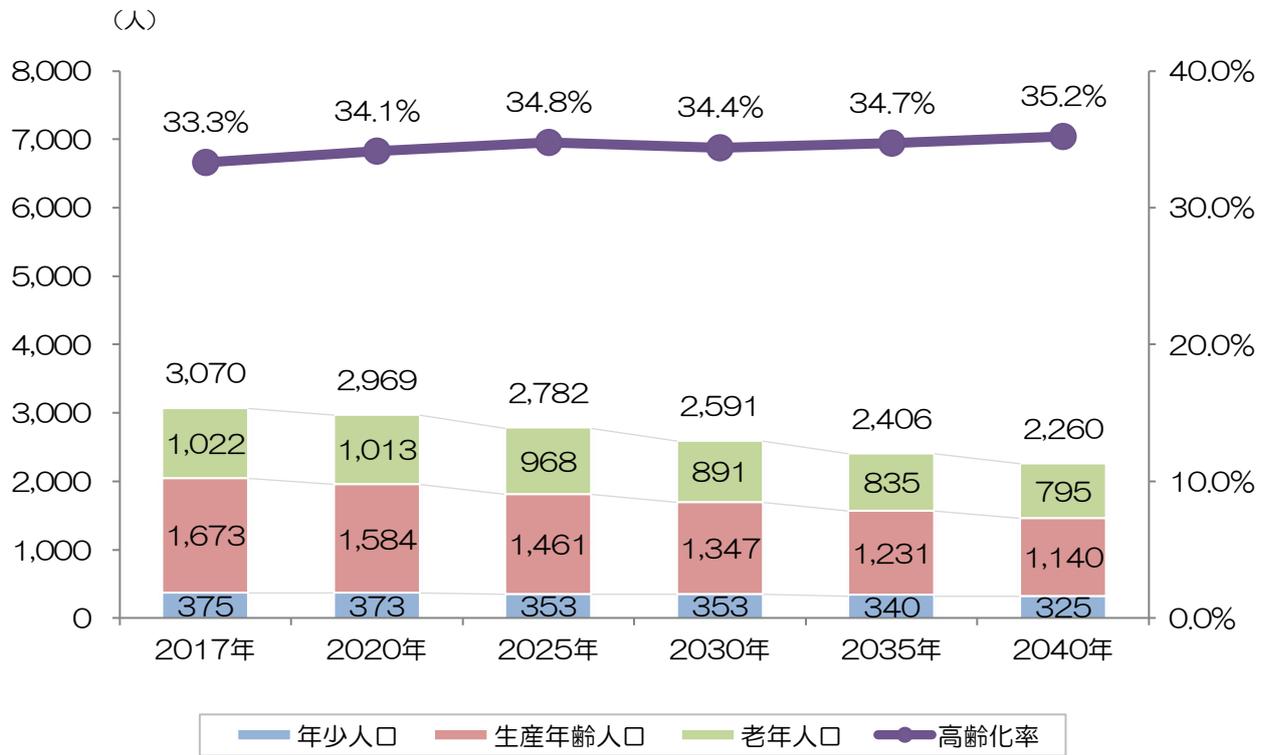
性別・年齢階級別社会増減



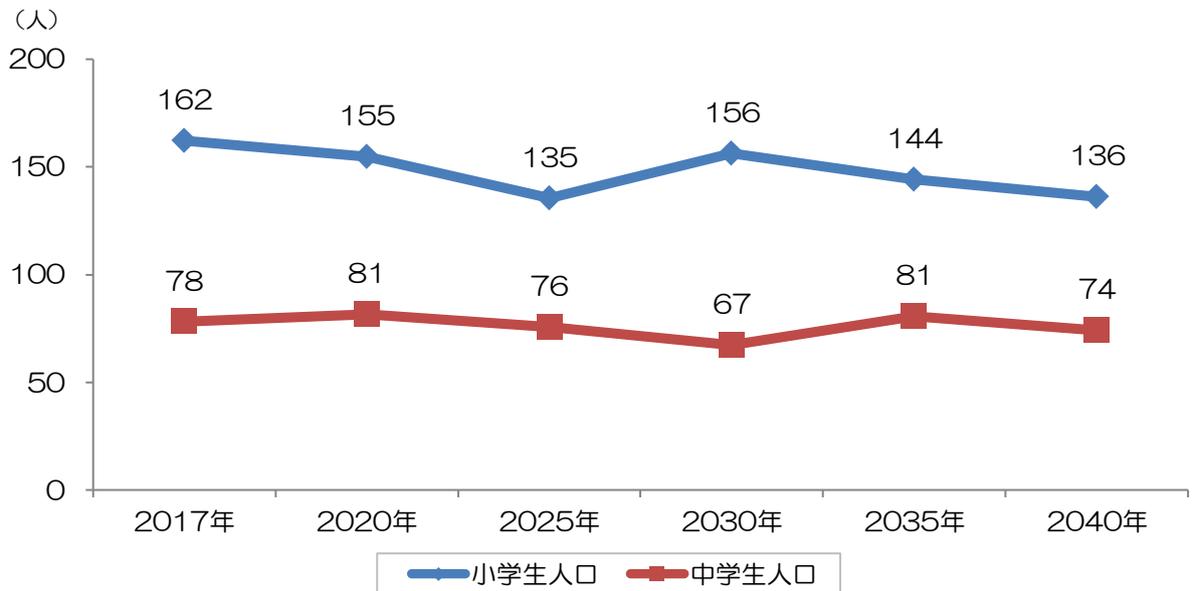
※住民基本台帳データより作成

・将来推計人口

年齢3区分と高齢化率



小・中学生



※2017年は住民基本台帳人口、2020年以降は柳川市独自推計より作成。小学生人口は7～12歳人口、中学生人口は13～15歳人口を示す

⑨ 中山小校区

人口動態をみると、自然減かつ社会減の状態にあります。市内間移動では社会増を得ている一方、市外間移動では社会減となっています。

社会増減の内訳をみると、4歳以下の年代で社会増を得ている一方、それ以外のほとんどの年代で社会減となっています。

2040年の推計人口は、2017年の814人と比べて444人（54.5%）減の370人になると予測され、減少率は全校区中最も高くなっています。

2040年の高齢化率をみると、全校区中最も低くなっています。

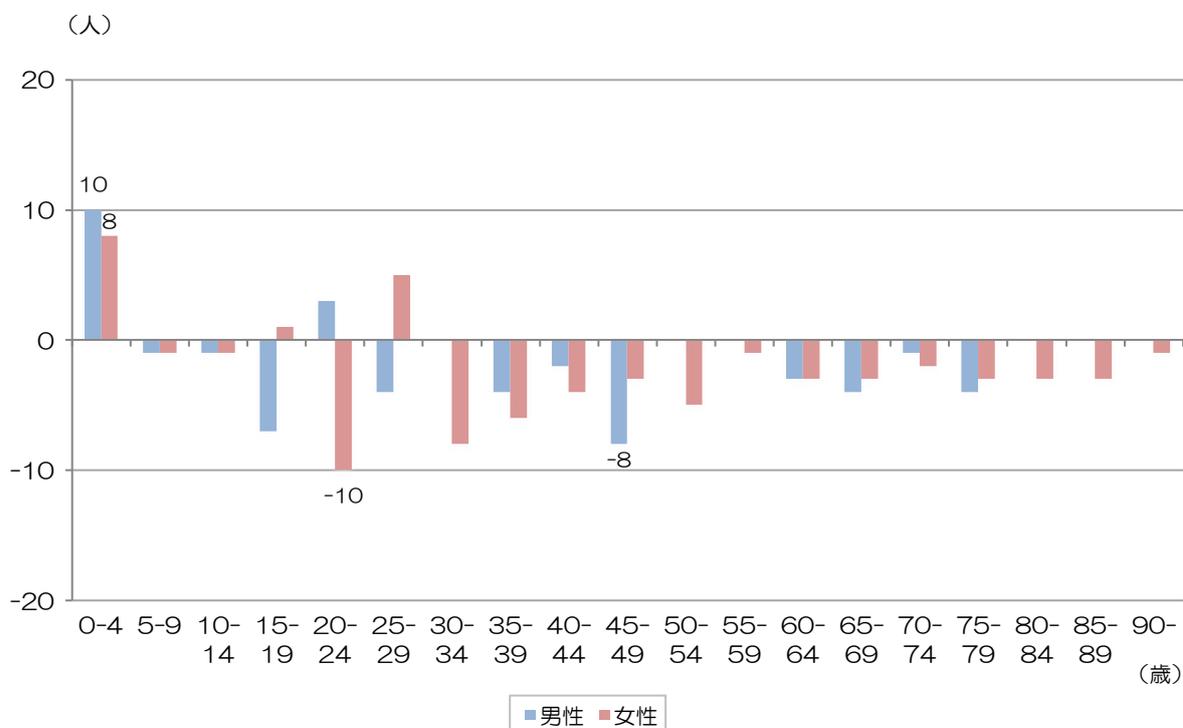
・人口動態（2012～2017年度）

自然増減数	出生数	死亡数
-16	54	70

	社会増減数	転入数	転出数
市内間移動	18	99	81
市外間移動	-87	94	181

・社会増減（2012～2017年度）

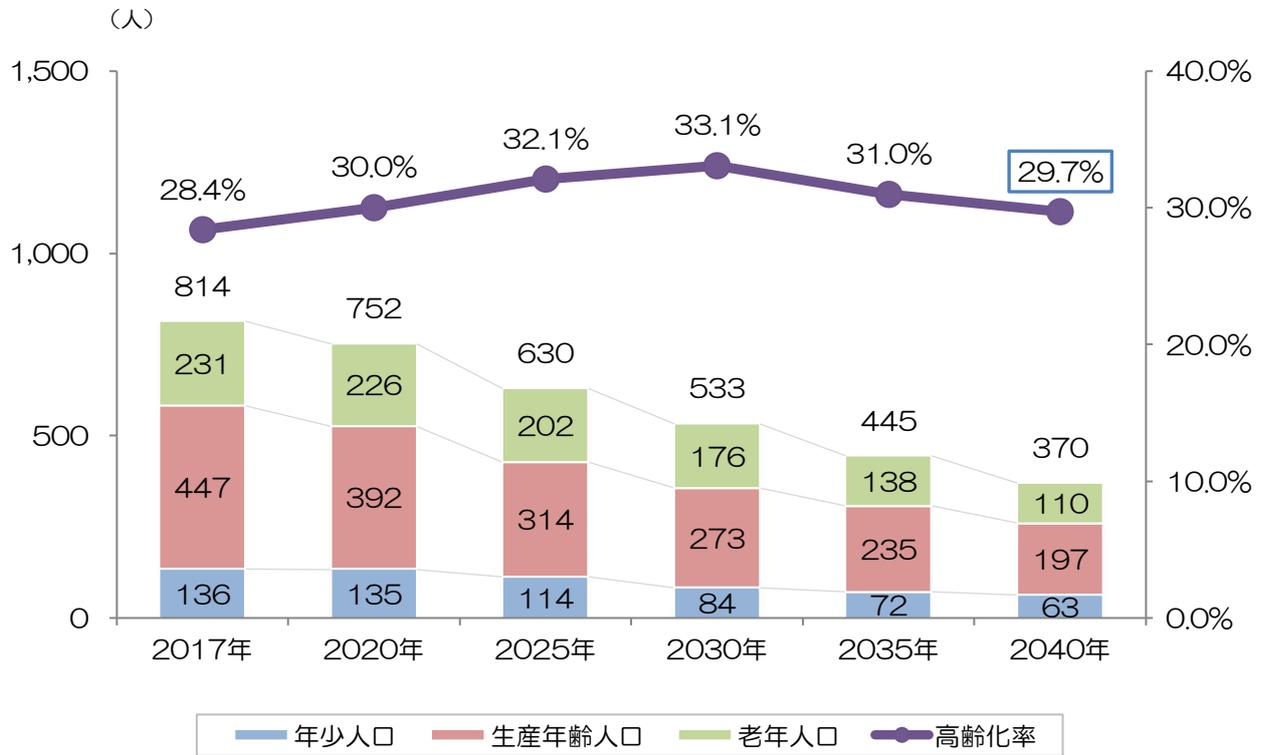
性別・年齢階級別社会増減



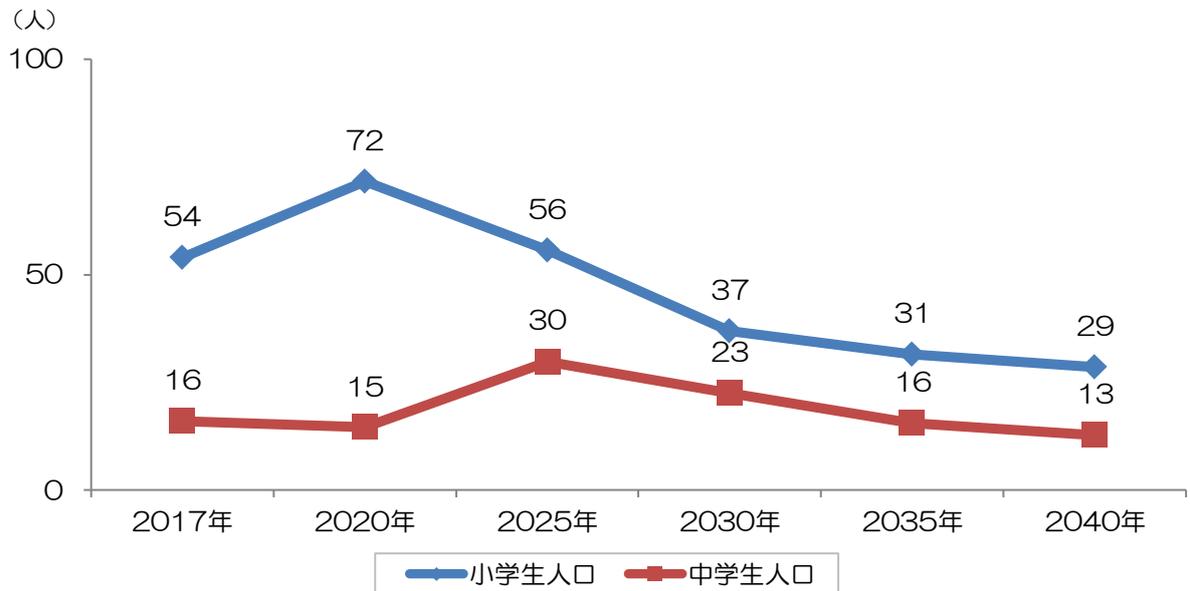
※住民基本台帳データより作成

・将来推計人口

年齢3区分と高齢化率



小・中学生



※2017年は住民基本台帳人口、2020年以降は柳川市独自推計より作成。小学生人口は7～12歳人口、中学生人口は13～15歳人口を示す

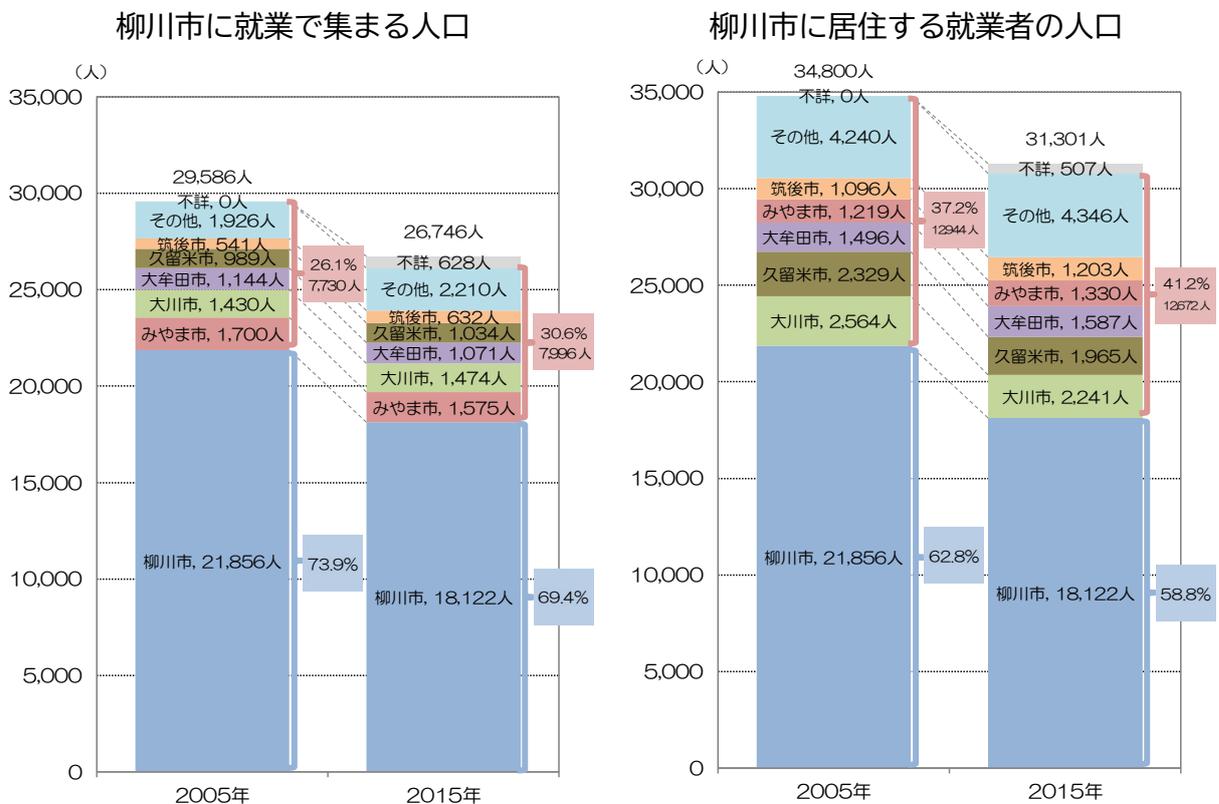
3 通勤・通学者の状況

(1) 通勤者の推移

2005年と2015年の柳川市に就業で集まる人口を比較すると、2,840人(9.6%)減少しています。柳川市に就業で集まる人口のうち、市外在住者が増加している一方、市内在住者は減少しています。

2005年と2015年の柳川市に居住する就業者の人口を比較すると、3,499人(10.1%)減少しています。内訳をみると、市外への通勤者は微減に留まっていますが、市内通勤者の減少が大きくなっています。

性別でみると、女性は男性と比較して近隣で就業している傾向がみられます。また、女性の市外からの通勤者、市外への通勤者はともに増加しています。



※「総務省：国勢調査」より作成

通勤者に関する指標（他市との比較）

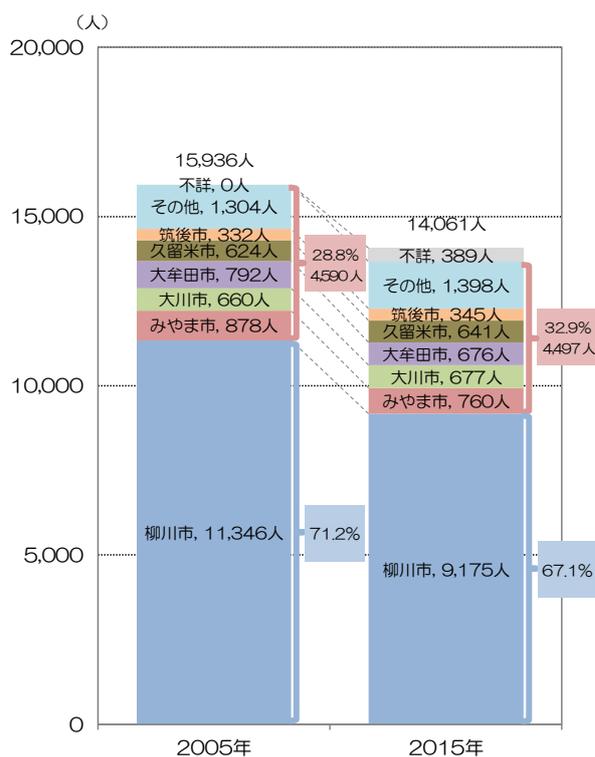
		柳川市		八女市	筑後市	大川市	みやま市	大牟田市	久留米市
		偏差値	数値						
他市町村からの通勤者比率(%)	全体	43.9	30.6	30.2	49.9	45.3	33.8	29.7	28.4
	男性	43.7	32.9	32.2	53.9	46.5	34.5	32.9	32.6
	女性	44.3	28.1	28.0	45.0	43.8	33.2	26.2	23.8
他市町村への通勤者比率(%)	全体	46.7	41.2	27.7	53.0	41.7	47.7	24.3	30.0
	男性	46.6	44.3	31.5	55.6	41.8	50.4	29.6	35.5
	女性	47.1	37.5	23.3	50.0	41.7	44.6	18.3	23.7

※「総務省：平成27年国勢調査」より作成

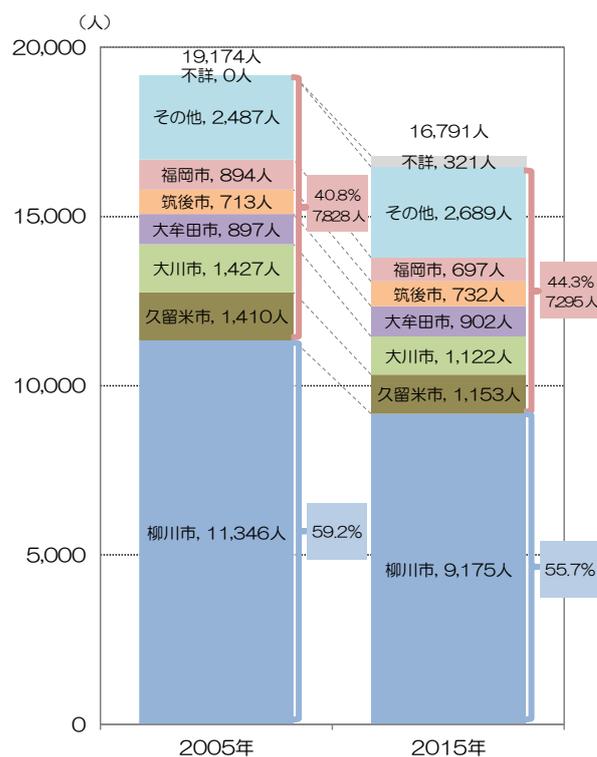
他市町村からの通勤者比率：当該市町村で就業している15歳以上の者のうち、他の市町村に住む者の割合

他市町村への通勤者比率：当該市町村に住む15歳以上の就業者のうち、他の市町村で就業している者の割合

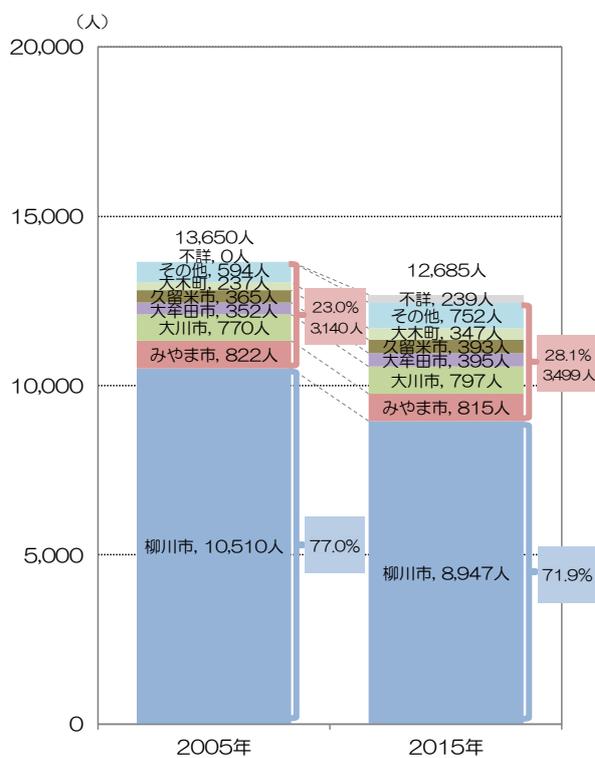
柳川市に就業で集まる人口・男性



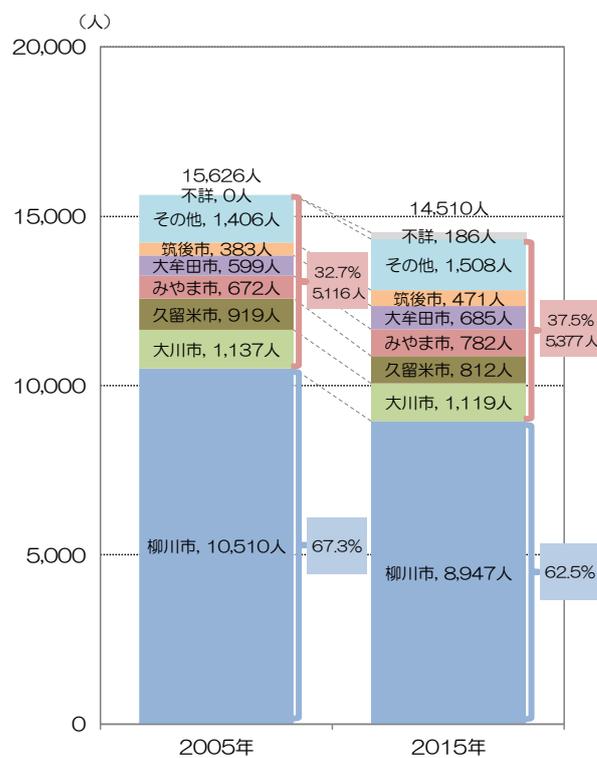
柳川市に居住する就業者の人口・男性



柳川市に就業で集まる人口・女性



柳川市に居住する就業者の人口・女性

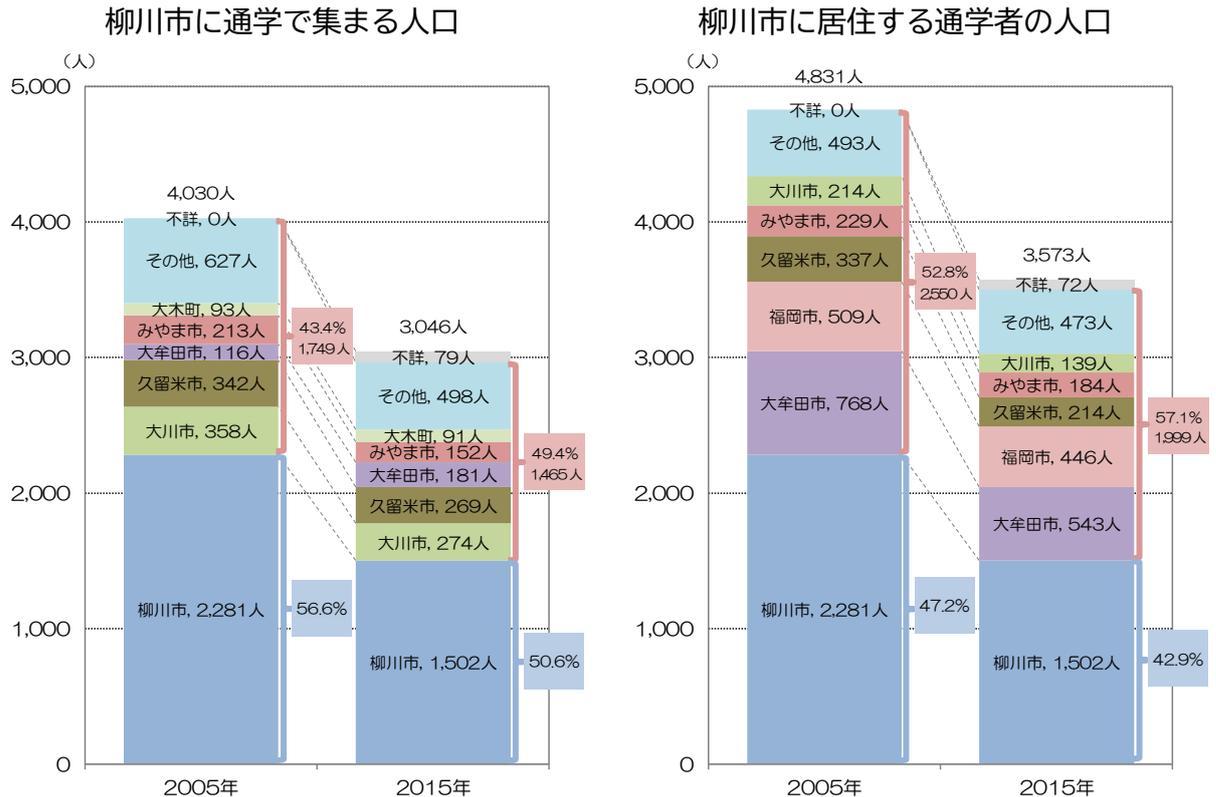


※「総務省：国勢調査」より作成

(2) 通学者の推移

2005年と2015年の柳川市に通学で集まる人口を比較すると、984人(24.4%)減少しています。内訳をみると、通学者全体に占める市外からの通学者の割合が上昇しています。

2005年と2015年の柳川市に居住する通学者の人口を比較すると、1,258人(26.0%)減少しています。内訳をみると、通学者全体に占める市外への通学者の割合が上昇しています。



※「総務省：国勢調査」より作成

通学者に関する指標（他市との比較）

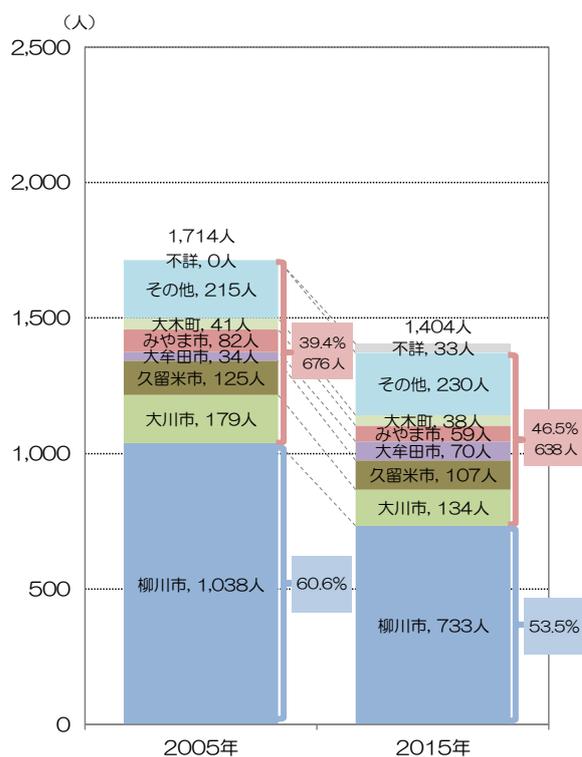
		柳川市		八女市	筑後市	大川市	みやま市	大牟田市	久留米市
		偏差値	数値						
他市町村からの通学者比率(%)	全体	48.6	49.4	48.2	59.3	48.0	57.9	49.4	39.5
	男性	45.5	46.5	46.7	62.4	43.5	57.6	50.4	40.8
	女性	52.5	51.8	49.5	55.2	51.5	58.1	48.3	37.9
他市町村への通学者比率(%)	全体	48.2	57.1	45.1	66.7	60.1	79.7	34.9	37.3
	男性	47.9	57.3	47.3	65.0	61.4	80.0	32.4	34.7
	女性	48.6	56.9	42.9	68.3	58.8	79.4	37.5	40.1

※「総務省：平成27年国勢調査」より作成

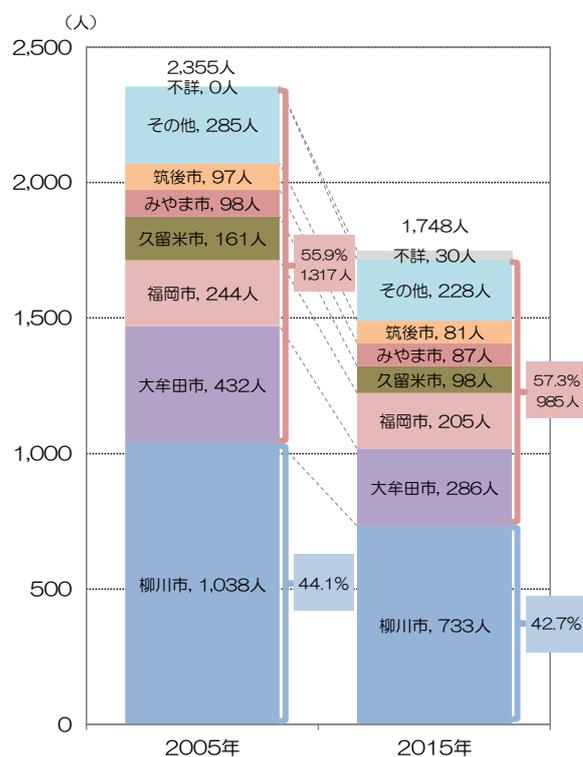
他市町村からの通学者比率：当該市町村へ通学している15歳以上の者のうち、他の市町村に住む者の割合

他市町村への通学者比率：当該市町村に住む15歳以上の通学者のうち、他の市町村へ通学している者の割合

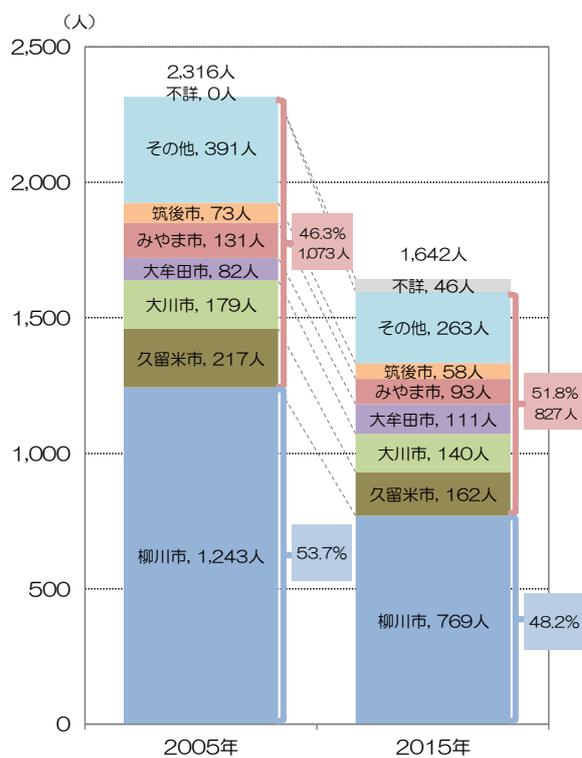
柳川市に通学で集まる人口・男性



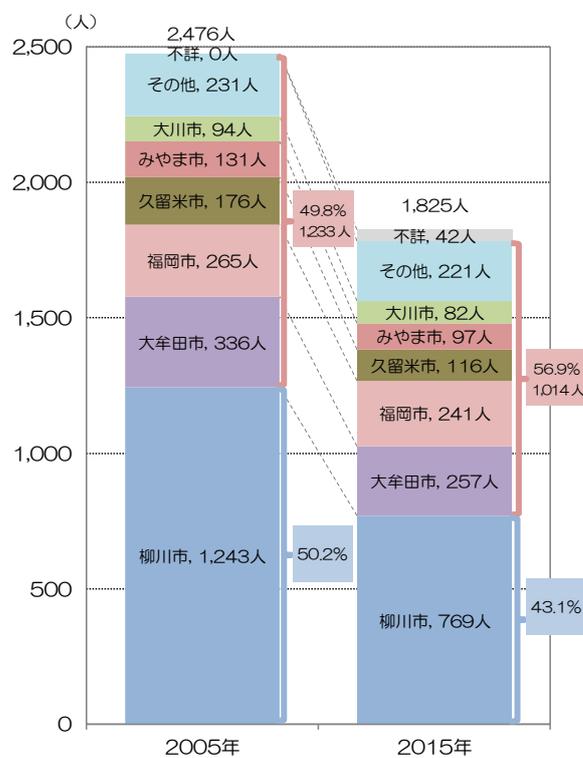
柳川市に居住する通学者の人口・男性



柳川市に通学で集まる人口・女性



柳川市に居住する通学者の人口・女性



※「総務省：国勢調査」より作成

Ⅱ 柳川市の住まいの状況

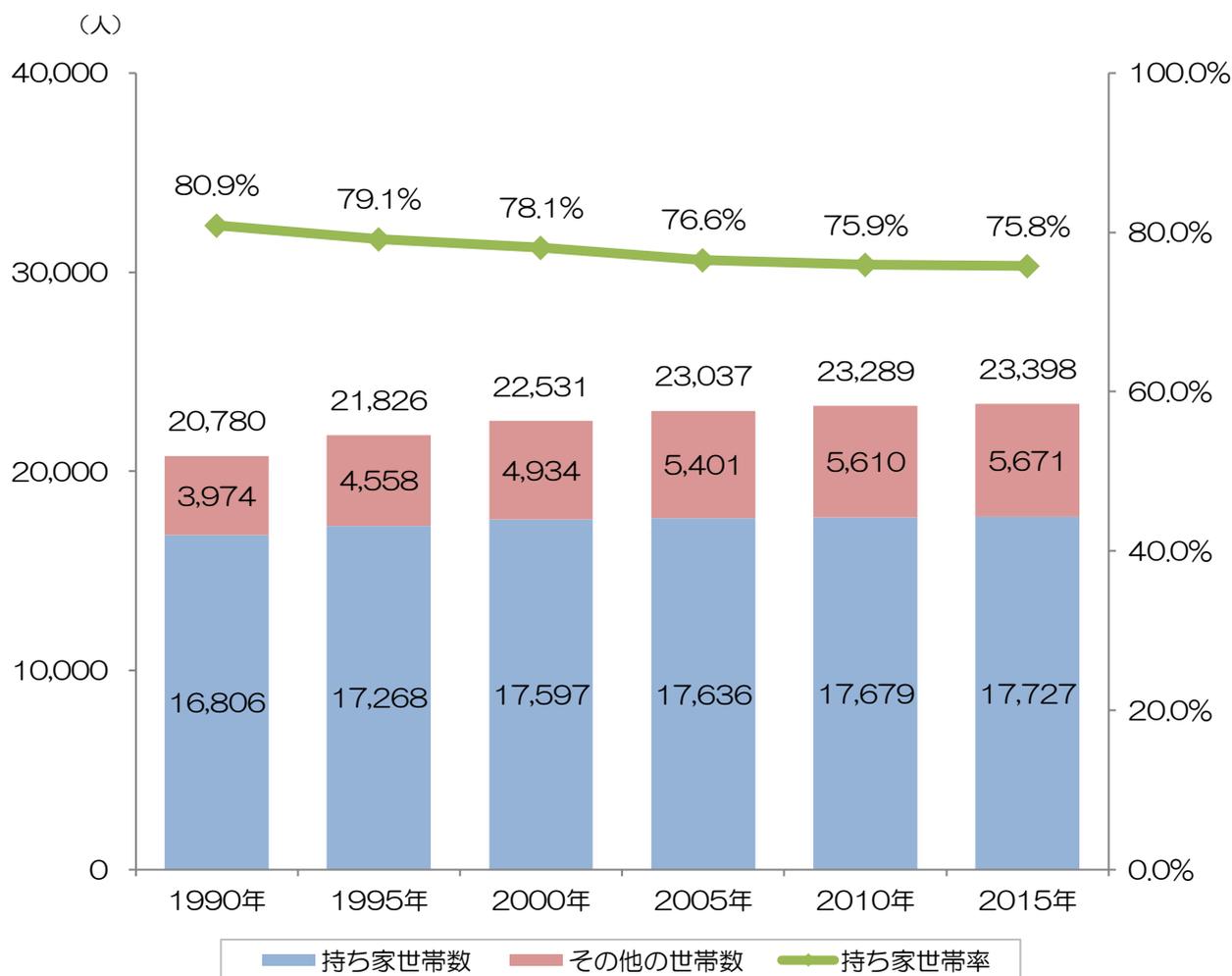
1 住まいの状況

(1) 持ち家の状況

柳川市の持ち家世帯率 75.8%は、国・県・筑後地域の他市と比較して高い水準にあります。

持ち家世帯数は増加していますが、その他（賃貸住宅、給与住宅等）の世帯数がそれ以上に増加していることにより、持ち家世帯率は低下傾向にあります。

持ち家世帯数（率）の推移



※「総務省：国勢調査」より作成

持ち家に関する指標（他市等との比較）

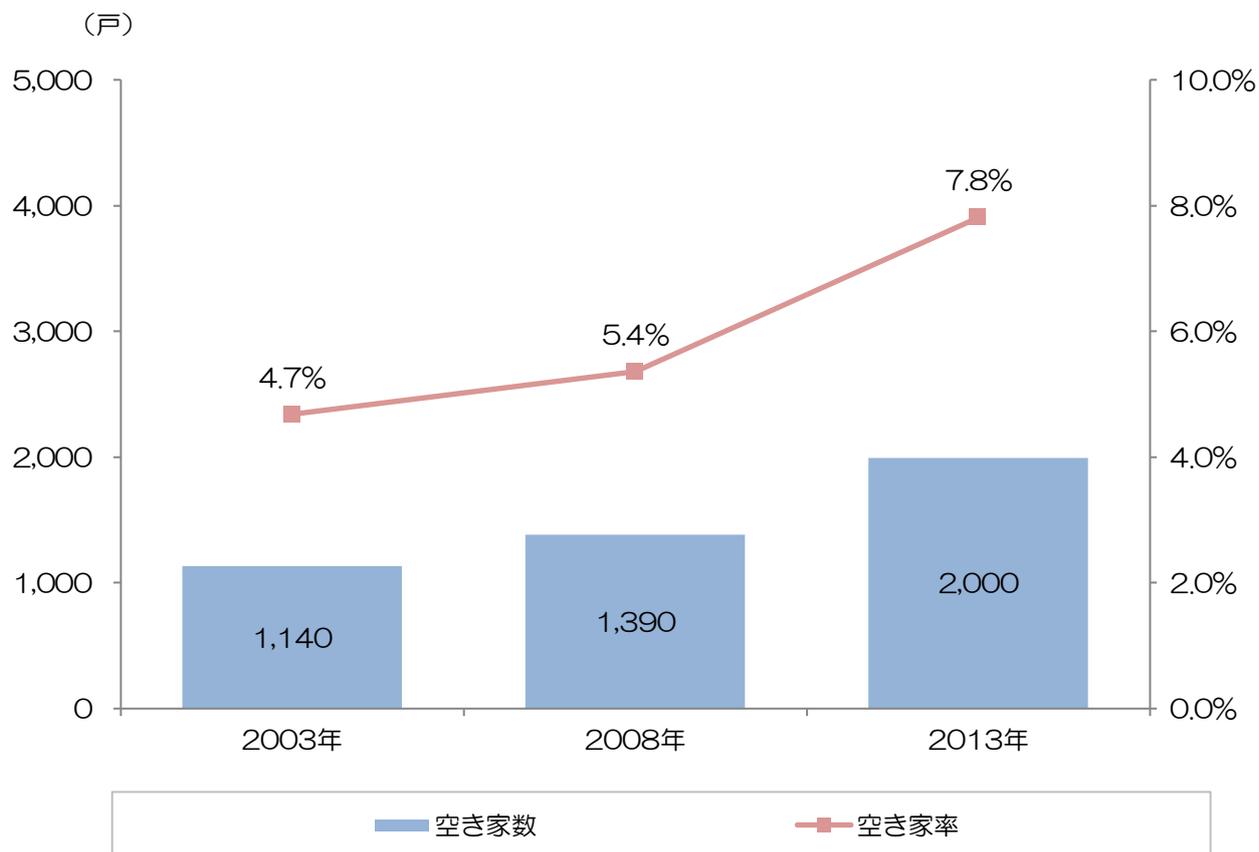
	柳川市		八女市	筑後市	大川市	みやま市	大牟田市	久留米市	福岡県	国
	偏差値	数値								
持ち家世帯率 (%)	55.6	75.8	78.6	67.5	69.3	84.4	64.7	55.3	53.0	61.3

※「総務省：平成 27 年国勢調査」より作成

(2) 空き家の状況

柳川市の空き家率 7.8%は、県の 4.7%を大きく上回っています。
筑後地域の他市においても、県の空き家率を上回っている状況にあります。

空き家数（率）の推移



※「総務省：土地・住宅統計調査」より作成

空き家に関する指標（他市等との比較）

	柳川市		八女市	筑後市	大川市	みやま市	大牟田市	久留米市	福岡県	国
	偏差値	数値								
空き家率 (%)	51.2	7.8	8.7	5.2	5.8	9.4	9.2	9.9	4.7	5.3

※「総務省：平成 25 年土地・住宅統計調査」より作成

Ⅲ 柳川市の産業構造

1 就業人口の状況

※国勢調査で用いられている産業分類について

国勢調査では、産業大分類として、産業が以下のとおり分類されています。

- ① 農業、林業 - 農業、林業
- ② 漁業 - 漁業、水産養殖業
- ③ 鉱業、採石業、砂利採取業 - 鉱業、採石業、砂利採取業
- ④ 建設業 - 建設業
- ⑤ 製造業 - 食料品製造業、飲料・たばこ・飼料製造業、繊維工業 他
- ⑥ 電気・ガス・熱供給・水道業 - 電気・ガス・熱供給・水道業
- ⑦ 情報通信業 - 通信業、放送業、情報サービス業 他
- ⑧ 運輸業、郵便業 - 鉄道業、道路旅客運送業、道路貨物運送業、水運業 他
- ⑨ 卸売業、小売業 - 卸売業、各種商品小売業 他
- ⑩ 金融業、保険業 - 金融業、保険業
- ⑪ 不動産業、物品賃貸業 - 不動産業、物品賃貸業
- ⑫ 学術研究、専門・技術サービス業 - 学術・開発研究機関、法的サービス業 他
- ⑬ 宿泊業、飲食サービス業 - 宿泊業、飲食店、持ち帰り・配達飲食サービス業
- ⑭ 生活関連サービス業、娯楽業 - 洗濯業、理容業、スポーツ施設提供業 他
- ⑮ 教育、学習支援業 - 学校教育、その他の教育・学習支援業
- ⑯ 医療、福祉 - 医療業、保健衛生、社会保険・社会福祉・介護事業
- ⑰ 複合サービス事業 - 郵便局、協同組合（他に分類されないもの）
- ⑱ サービス業（他に分類されないもの） - 廃棄物処理業、自動車整備業 他
- ⑲ 公務（他に分類されるものを除く） - 国家公務、地方公務

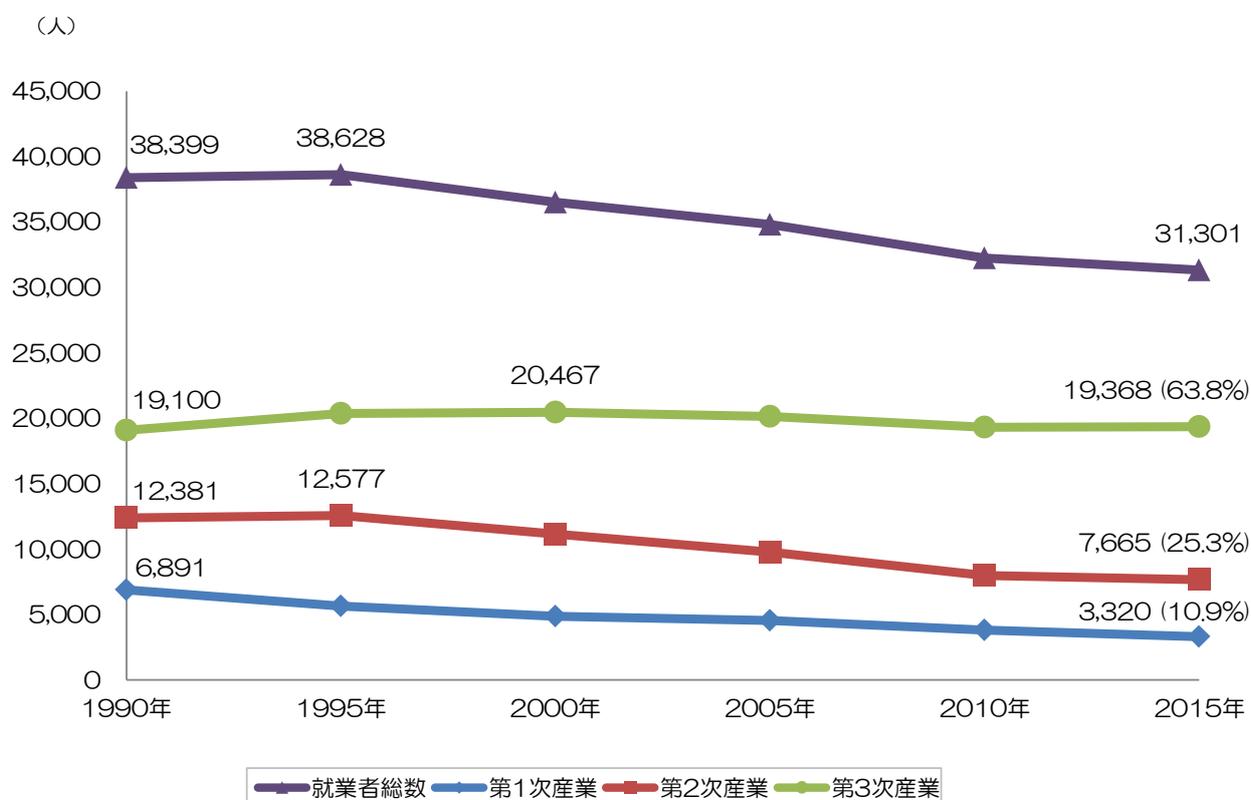
(1) 産業別就業人口の推移

柳川市の就業人口は、1995年をピークに、第1次産業人口及び第2次産業人口の減少に伴い、減少に転じました。特に第1次産業人口の減少率は高く、1990年から2015年の25年間の減少率は51.8%に達しています。

1990年から2015年における全産業の就業人口の減少率18.5%は、総人口の減少率15.8%と比較して高くなっています。

性別で見ると、男女ともに全産業の就業人口は減少傾向にあります。女性の第3次産業人口は実数、割合ともに増加傾向で推移しています。

産業別就業人口の推移

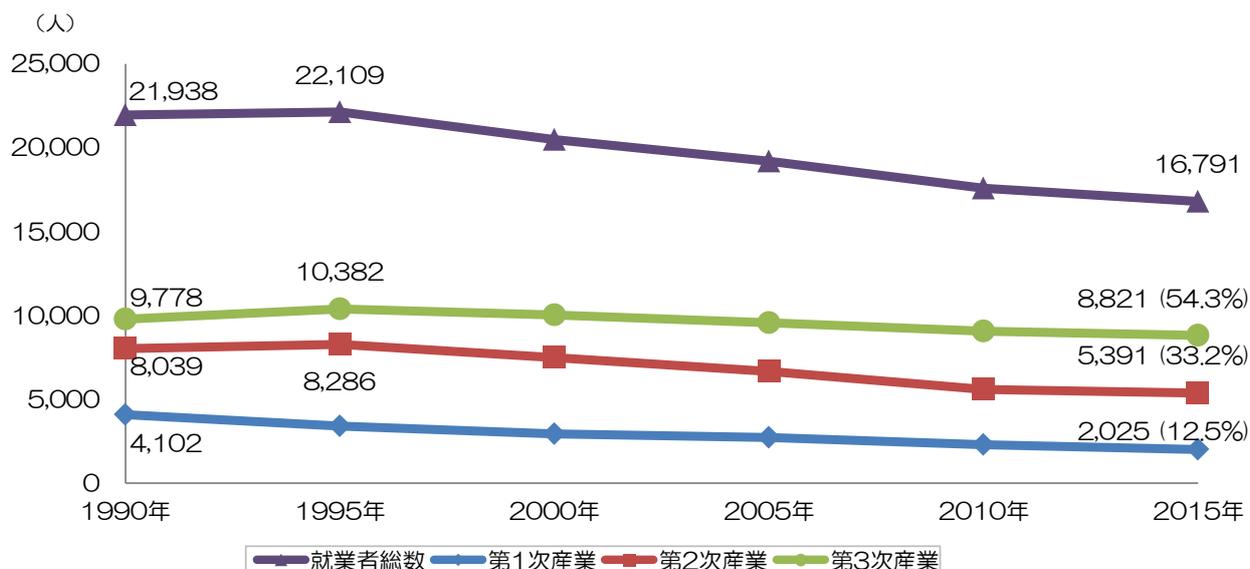


※「総務省：国勢調査」より作成。就業者総数には産業不詳分を含んでいるため、第1次産業～第3次産業の合計値とは一致しない

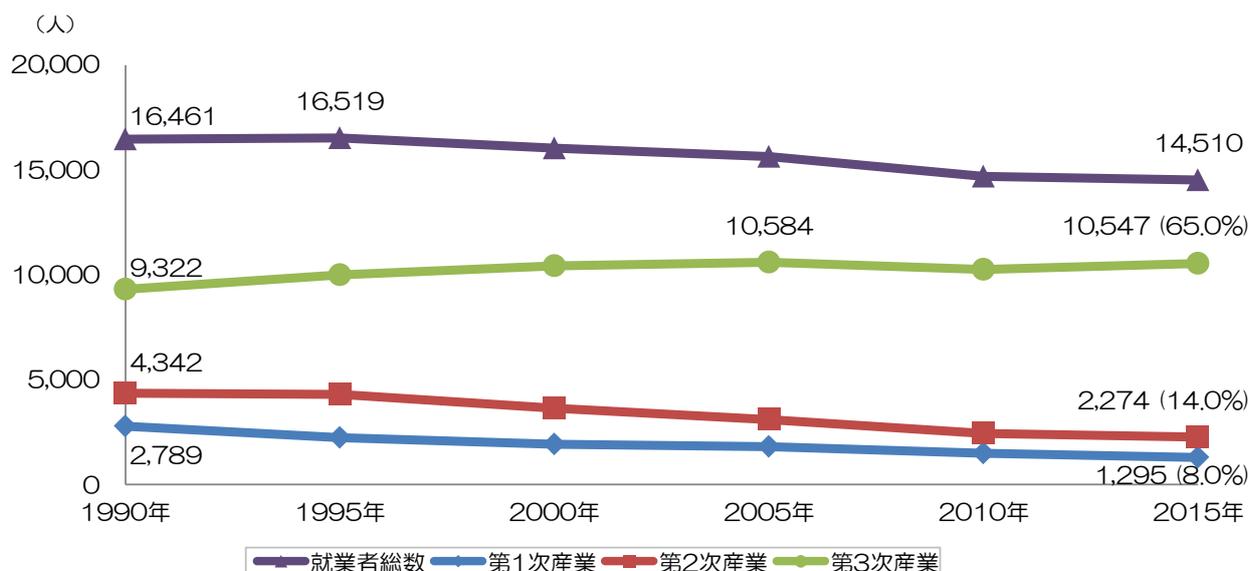
<用語解説>

第1次産業は農業・林業・漁業、第2次産業は製造業・建設業等、第3次産業は第1次産業や第2次産業に分類されない小売業やサービス業等を示す。

産業別就業人口（男性）の推移



産業別就業人口（女性）の推移



※「総務省：国勢調査」より作成。就業者総数には産業不詳分を含んでいるため、第1次産業～第3次産業の合計値とは一致しない

産業別就業人口構成比に関するデータ（他市等との比較）

	柳川市		八女市	筑後市	大川市	みやま市	大牟田市	久留米市	福岡県	国
	偏差値	数値								
第1次産業 (%)	51.3	10.9	20.5	7.6	7.2	16.9	2.1	5.8	2.9	4.0
第2次産業 (%)	50.8	25.3	22.5	25.8	30.8	24.9	25.8	20.4	21.2	25.0
第3次産業 (%)	48.4	63.8	57.0	66.6	62.0	58.2	72.0	73.8	75.9	71.0

※「総務省：2015年国勢調査」より作成

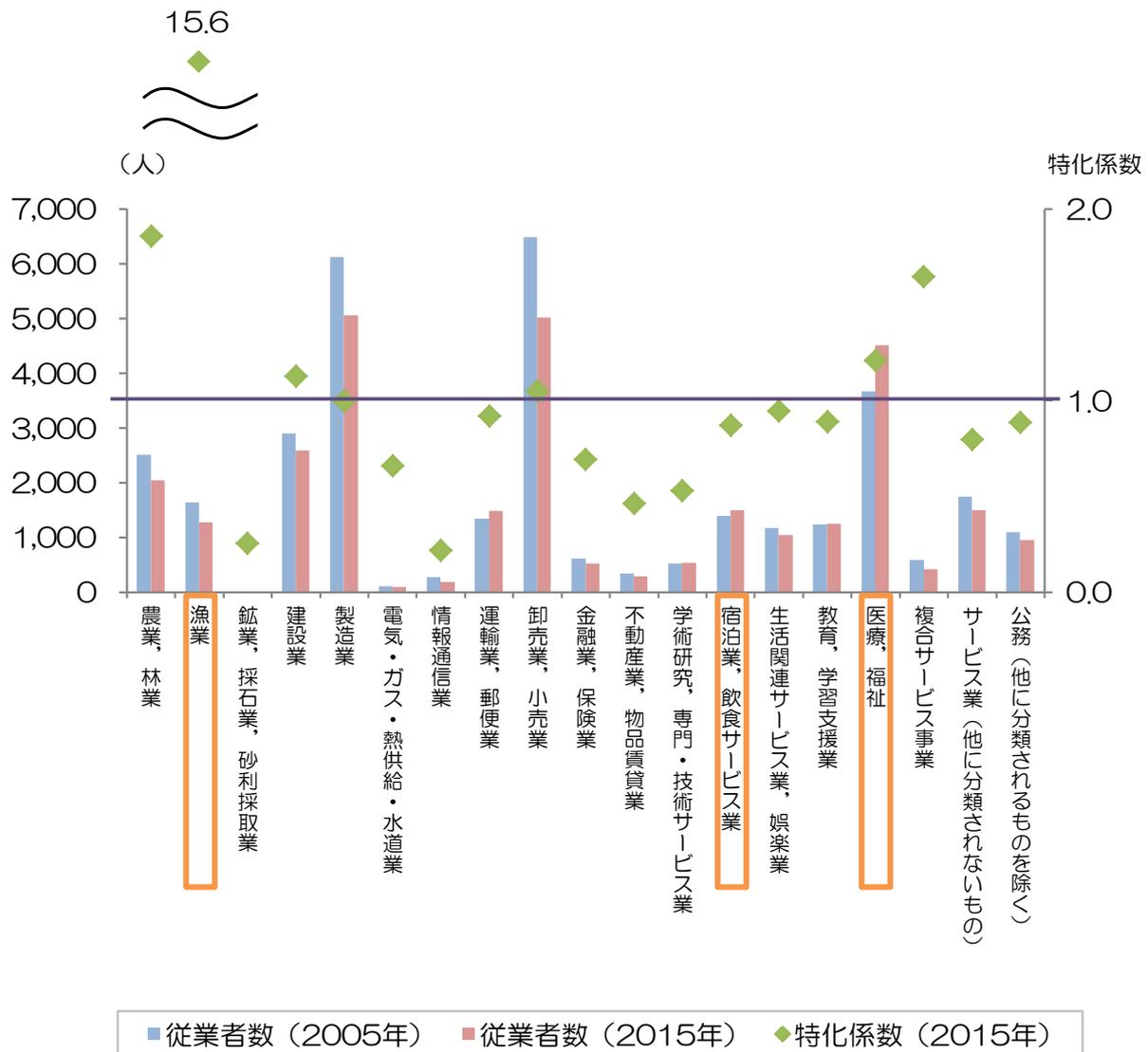
(2) 産業大分類別就業人口の推移

産業大分類別就業人口をみると、ほとんどの産業で就業人口が減少していますが、「医療、福祉」「宿泊業、飲食サービス業」においては、就業人口が増加しています。

「漁業」は、特化係数が15.6と、全国と比較して就業人口割合が高く、柳川市の特徴的な産業といえますが、就業人口は減少しています。

性別でみると、就業人口が多いのは、男性では「製造業」「卸売業、小売業」「建設業」、女性では「医療、福祉」「卸売業、小売業」「製造業」となっています。

産業大分類別就業人口

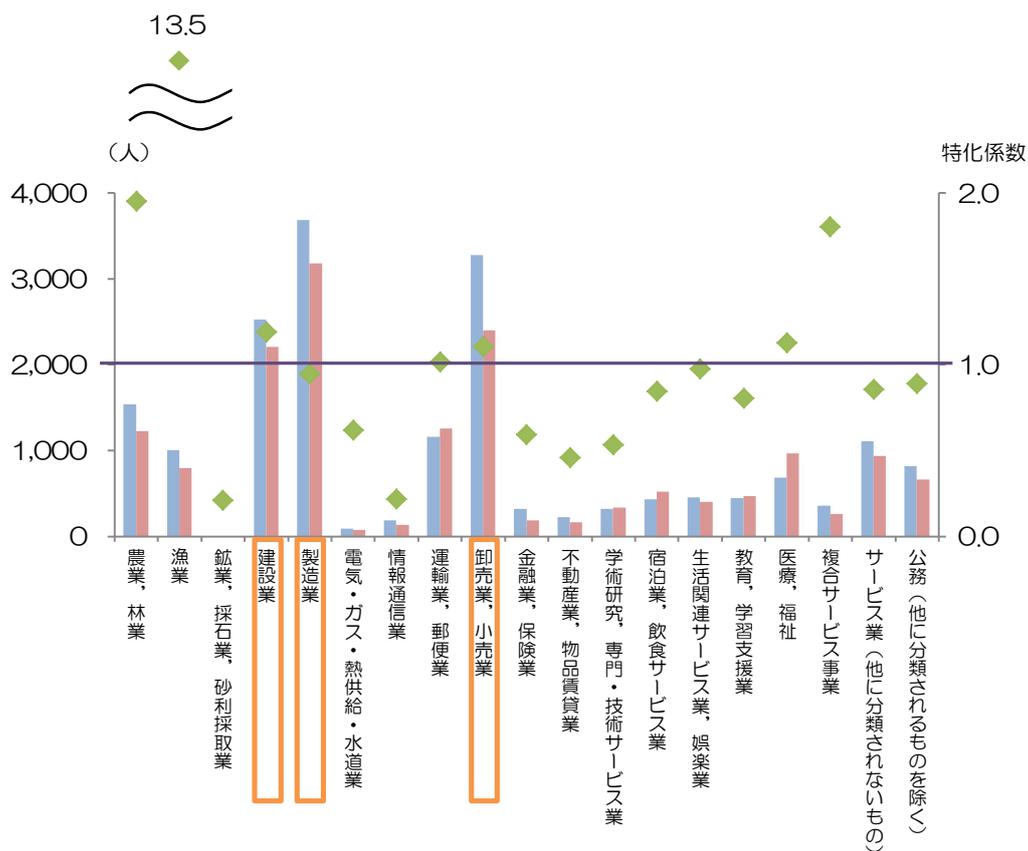


※「総務省：国勢調査」より作成

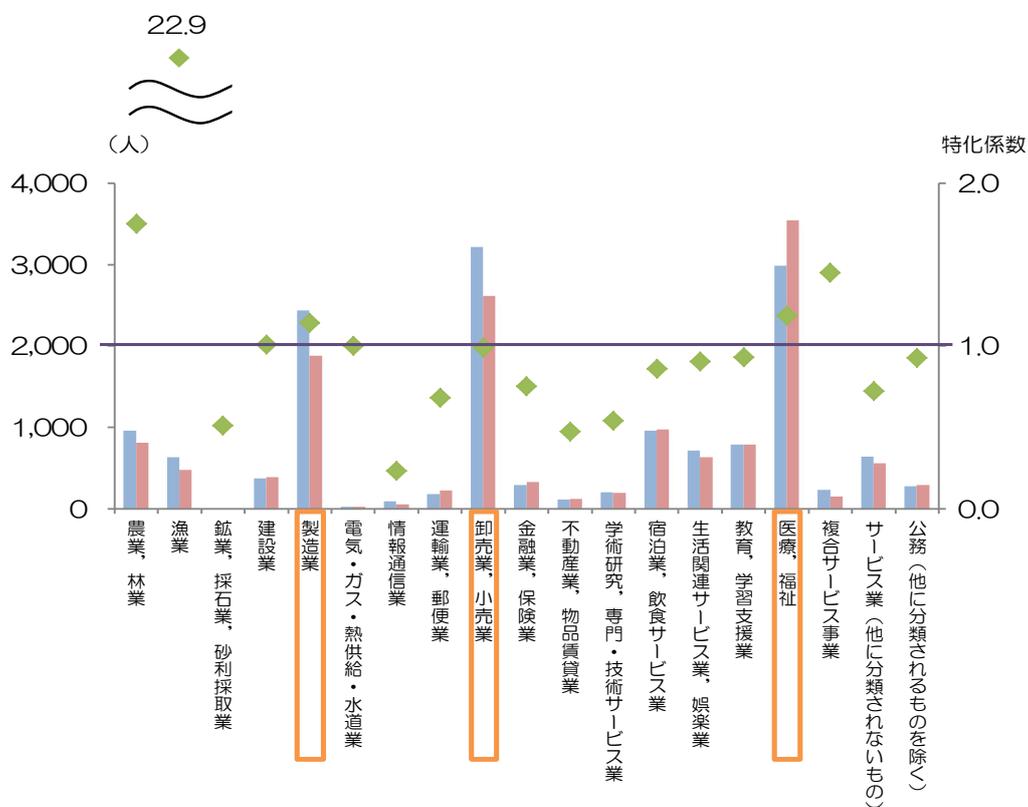
<用語解説>

特化係数は、国の割合（本項目の場合、各産業人口が就業人口全体に占める割合）を1としたときの値を示す。

産業大分類別就業人口（男性）



産業大分類別就業人口（女性）



■従業者数（2005年） ■従業者数（2015年） ◆特化係数（2015年）

※「総務省：国勢調査」より作成

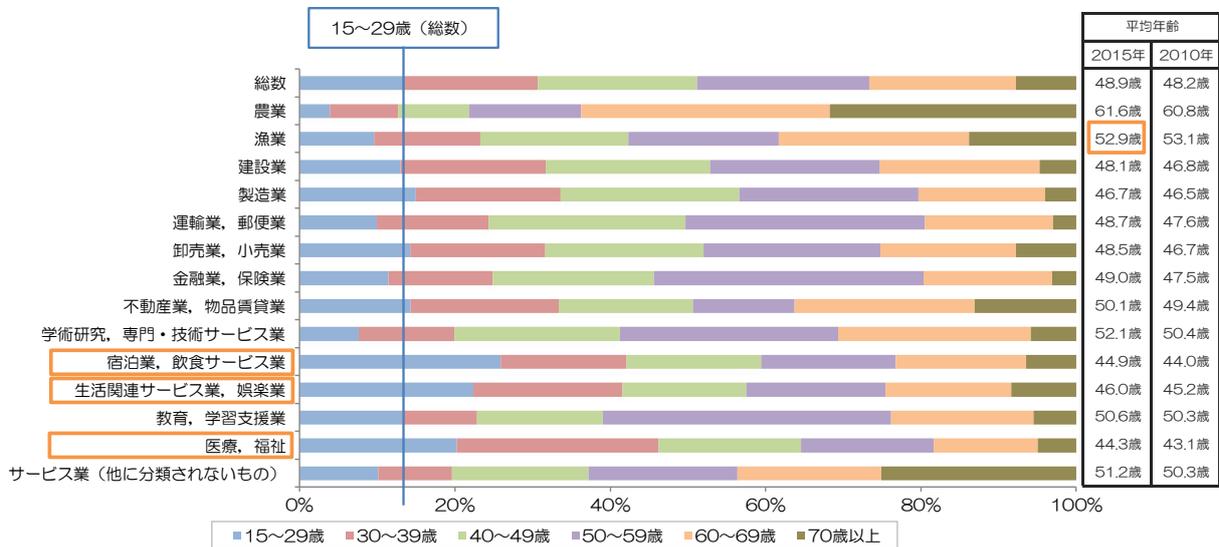
(3) 年齢階級別産業人口構造

年齢階級別の産業人口割合をみると、「農業」においては、産業人口の6割を60歳以上が占めており、全産業で唯一、平均年齢が60歳を上回っています。

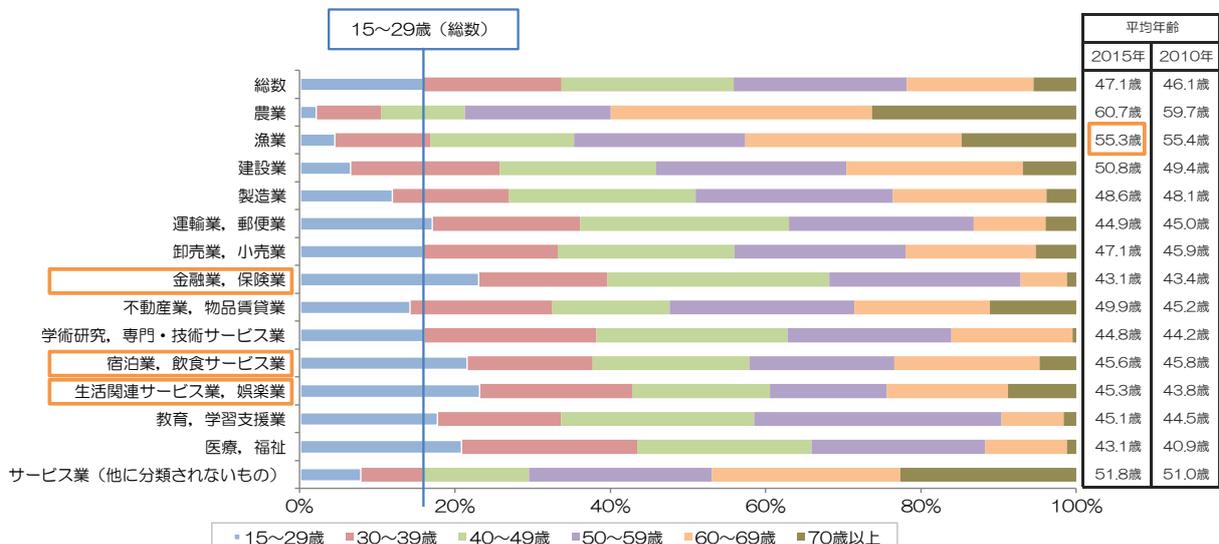
2010年と2015年の産業人口の平均年齢を比較すると、ほとんどの産業で平均年齢が上昇していますが、柳川市の特徴的な産業である「漁業」においては、平均年齢が低下しており、就業者が若返っています。

産業人口に占める15～29歳の割合が特に高い産業は、男性では「宿泊業、飲食サービス業」「生活関連サービス業、娯楽業」「医療、福祉」、女性では「生活関連サービス業、娯楽業」「金融業、保険業」「宿泊業、飲食サービス業」となっています。

年齢階級別産業人口割合（2015年・男性）



年齢階級別産業人口割合（2015年・女性）



※「総務省：国勢調査」より作成

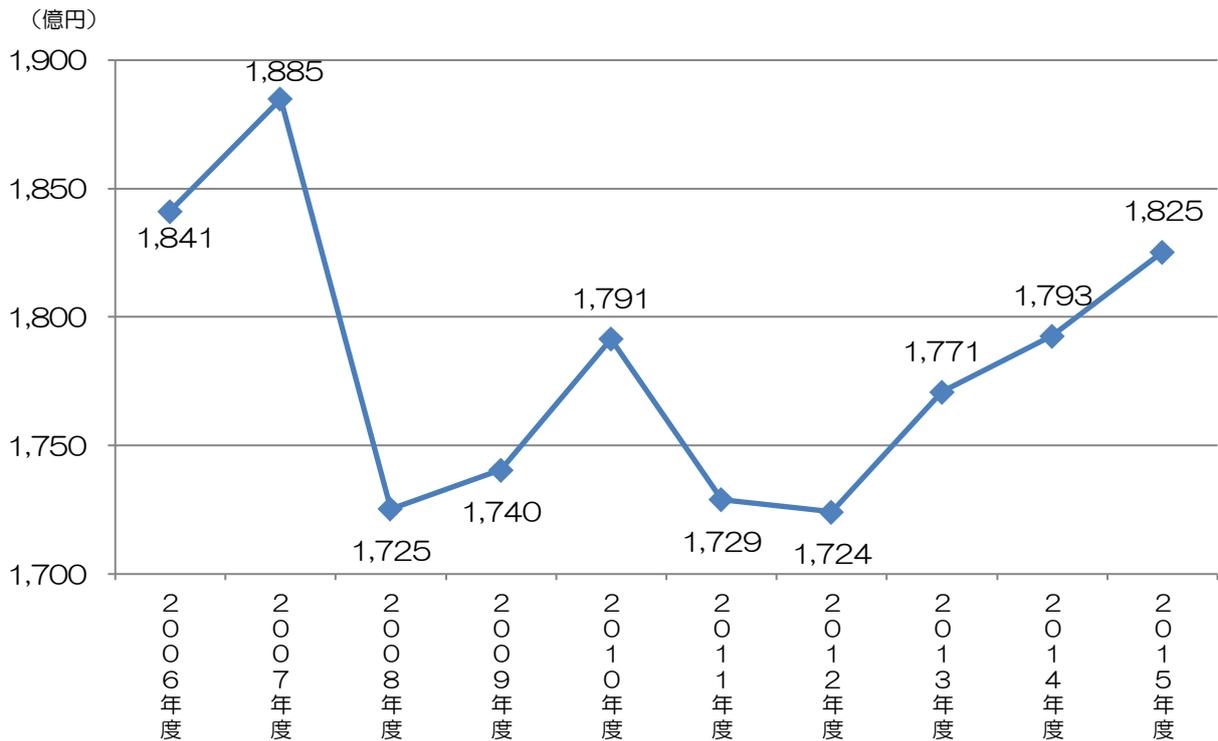
2 市内総生産の状況

(1) 市内総生産の推移

市内総生産は、2008年度の世界的な景気悪化等に伴い、大きく減少しましたが、2012年度以降増加傾向にあり、2015年度は1,825億円となっています。

就業者1人あたり市内総生産は、筑後地域の他市等と比較してやや低くなっています。

市内総生産の推移



市内総生産に関する指標（他市等との比較）

	柳川市		八女市	筑後市	大川市	みやま市	大牟田市	久留米市	福岡県
	偏差値	数値							
就業者1人あたり市町村内総生産(千円)	46.7	6,434	6,038	8,003	5,797	6,257	7,671	6,618	7,826

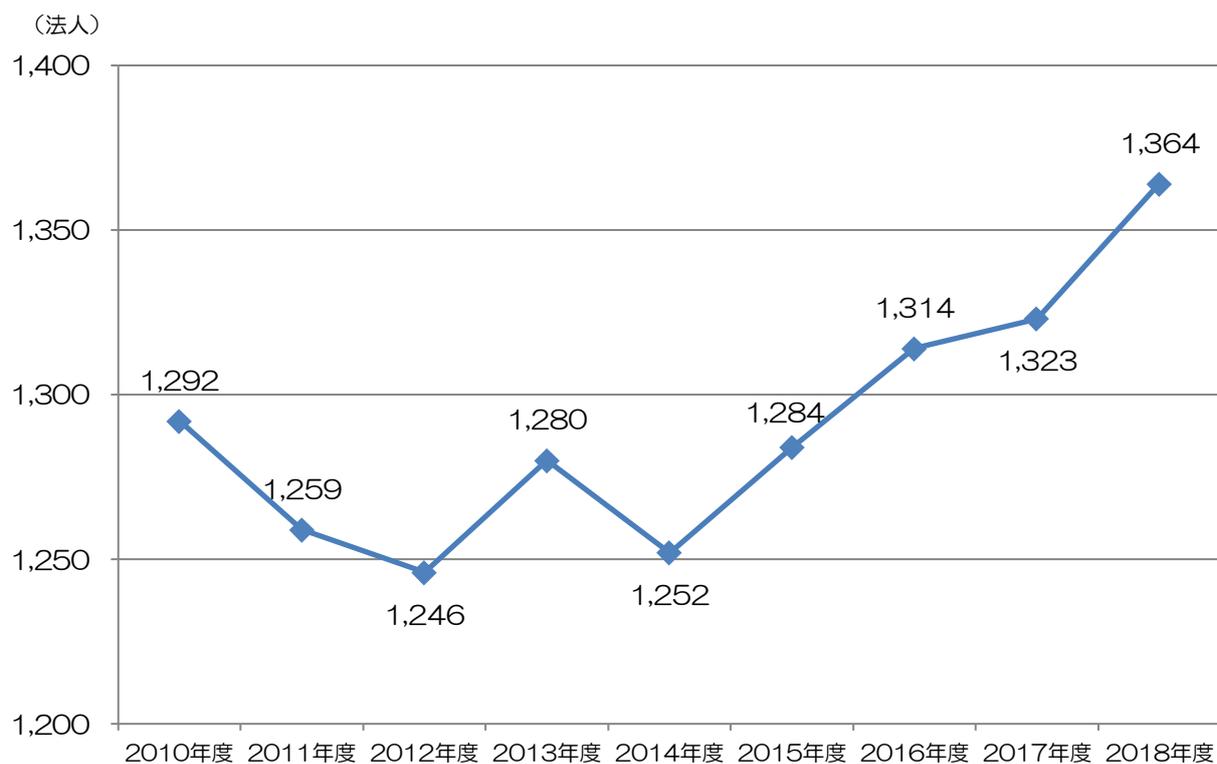
※「福岡県：市町村民経済計算（平成27年度）」より作成

3 民営事業所の状況

(1) 法人登録数の推移

法人登録数（法人納税義務者数）は、以前は1,200台で推移していましたが、2014年度以降増加傾向にあり、2018年度は1,364となっています。

法人登録数（法人納税義務者数）の推移



※「柳川市：課税状況調」より作成

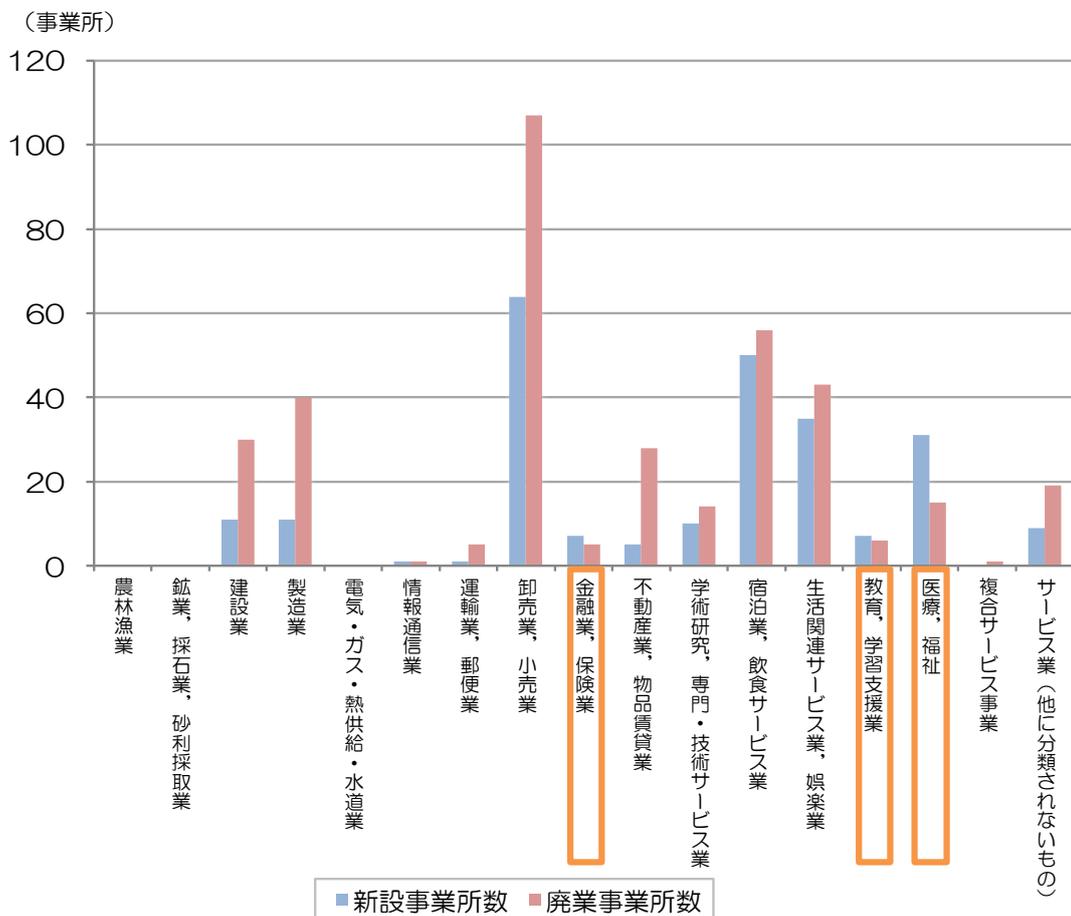
(2) 新設・廃業事業所の比較

2014年から2016年における新設事業所数は242であり、廃業事業所数370を下回っています。

ほとんどの産業において新設事業所数が廃業事業所数を下回っていますが、「金融業、保険業」「教育、学習支援業」「医療、福祉」においては、新設事業所数が上回っています。

起業・廃業率を筑後地域の他市と比較すると、廃業率は平均程度であるのに対し、起業率は低くなっています。

新設事業所数と廃業事業所数の比較



新設・廃業事業所に関する指標 (他市等との比較)

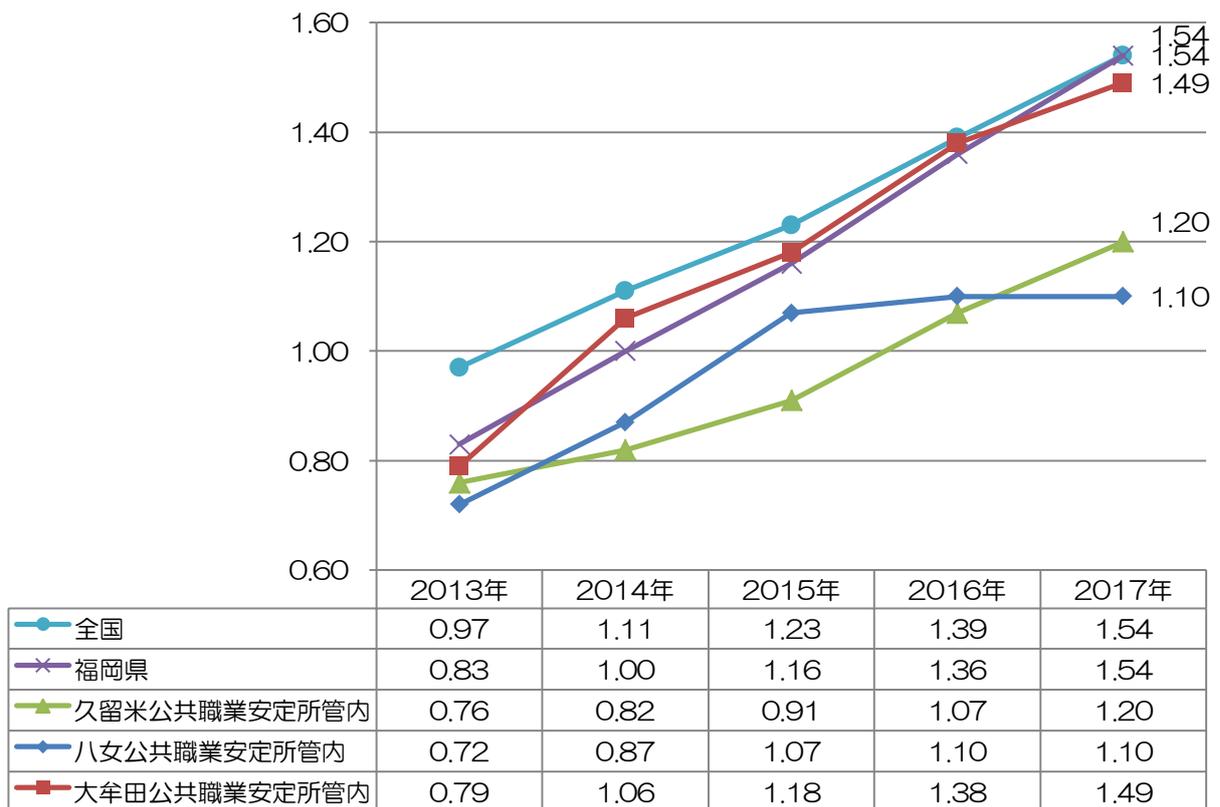
	柳川市		八女市	筑後市	大川市	みやま市	大牟田市	久留米市	福岡県	国
	偏差値	数値								
起業率 (%)	43.1	8.2	8.9	11.9	7.1	8.9	9.2	9.9	11.6	10.0
廃業率 (%)	50.1	12.6	12.5	11.9	11.0	11.2	15.6	13.5	15.9	15.1

※「総務省：平成28年経済センサス-活動調査」より作成

4 求人の状況

大牟田公共職業安定所管内の2013年の有効求人倍率は、0.79と1.00を下回るとともに、国・県の有効求人倍率を下回っていました。しかし、その後上昇し、2017年の有効求人倍率は1.49と、国・県の1.54に近い水準となっています。

有効求人倍率の推移



※「厚生労働省福岡労働局：職業安定業務年報」より作成。大牟田公共職業安定所は、柳川市、大牟田市、みやま市を管轄している

IV 柳川市の産業別状況

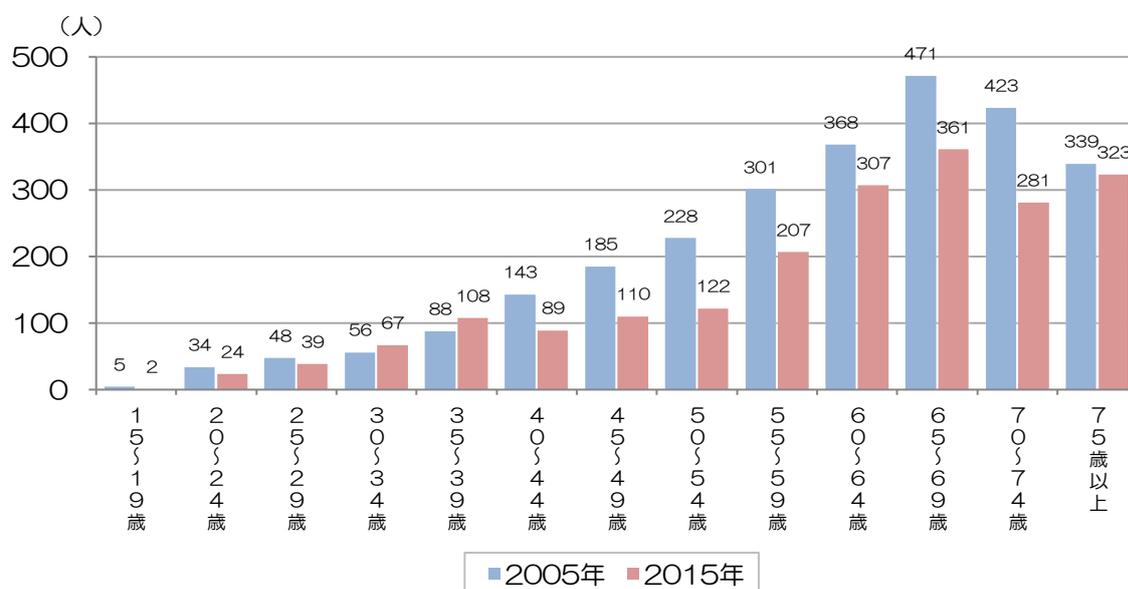
1 農業

(1) 農業就業者の状況

2005年2,689人と2015年2,040人の農業就業者数を比較すると、649人減少しており、減少率24.1%は県全体の22.8%を上回っています。

農業就業者の定着率をみると、高齢者層を除くと、ほとんどの世代で1を上回っており、農業を辞めていく高齢者がいる一方、それ以外の世代が新たに農業を始めています。

年齢階級別農業就業者数の推移



※「総務省：国勢調査」より作成

農業就業者に関する指標（他市等との比較）

	柳川市		八女市	筑後市	大川市	みやま市	大牟田市	久留米市	福岡県	国
	偏差値	数値								
農業就業者数減少率 (%)	43.7	24.1	23.5	13.7	22.6	24.5	22.9	22.3	22.8	25.9

※「総務省：国勢調査」より作成。減少率は2005年と比較した2015年の減少割合を示す

<用語解説>

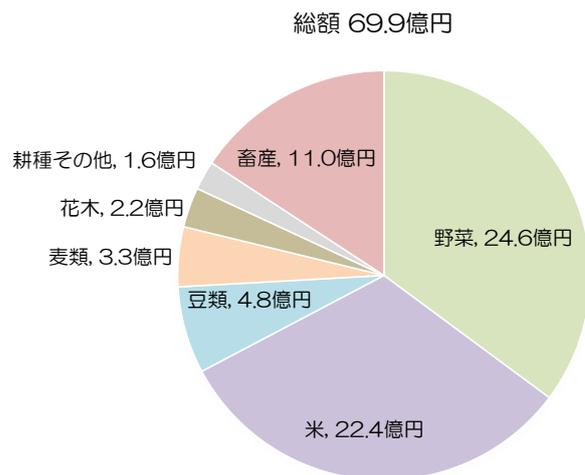
定着率は、ある世代の2005年の就業者数が2015年にどのように変化したかを示す（例：2015年の25～29歳就業者数／2005年の15～19歳就業者数）。

(2) 農業産出額の状況

2016年の柳川市の農業産出額は69.9億円です。「野菜」が24.6億円と最も大きく、次いで、「米」の22.4億円、「畜産」の11.0億円の順となっています。

農業生産額の推移をみると、2011年度以降、49億円前後で推移してきましたが、2017年度は54.0億円と上昇がみられました。

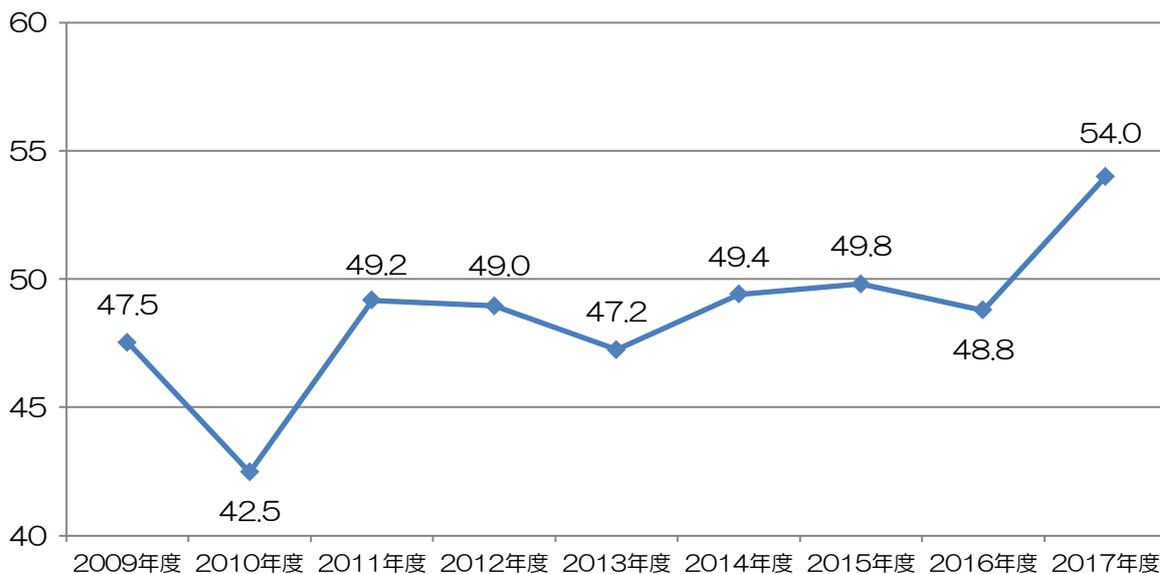
農業産出額の内訳（2016年）



※「農林水産省：平成28年市町村別農業産出額（推計）」より作成

農業生産額（JA柳川の受託販売品取扱実績）の推移

(億円)

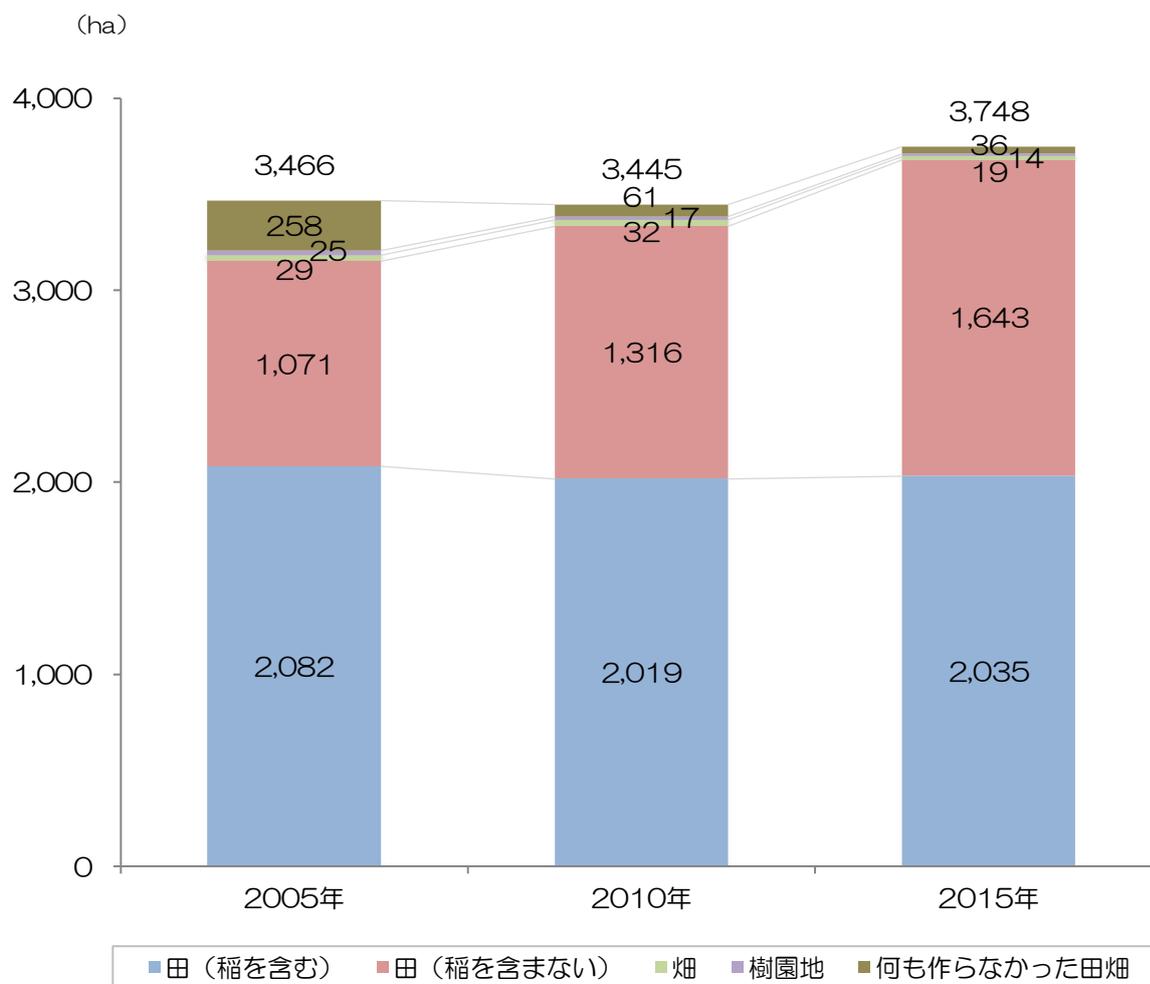


※「JA柳川：公表資料」より作成

(3) 耕地面積の状況

2005年と2015年の経営耕地面積を比較すると、「田（稲を含まない）」が増加した影響により、282ha（8.1%）増加しています。また、「何も作らなかった田畑」が減少しており、以前と比較して経営耕地が活用されている状況にあります。

経営耕地面積の推移



※「農林水産省：農林業センサス」より作成

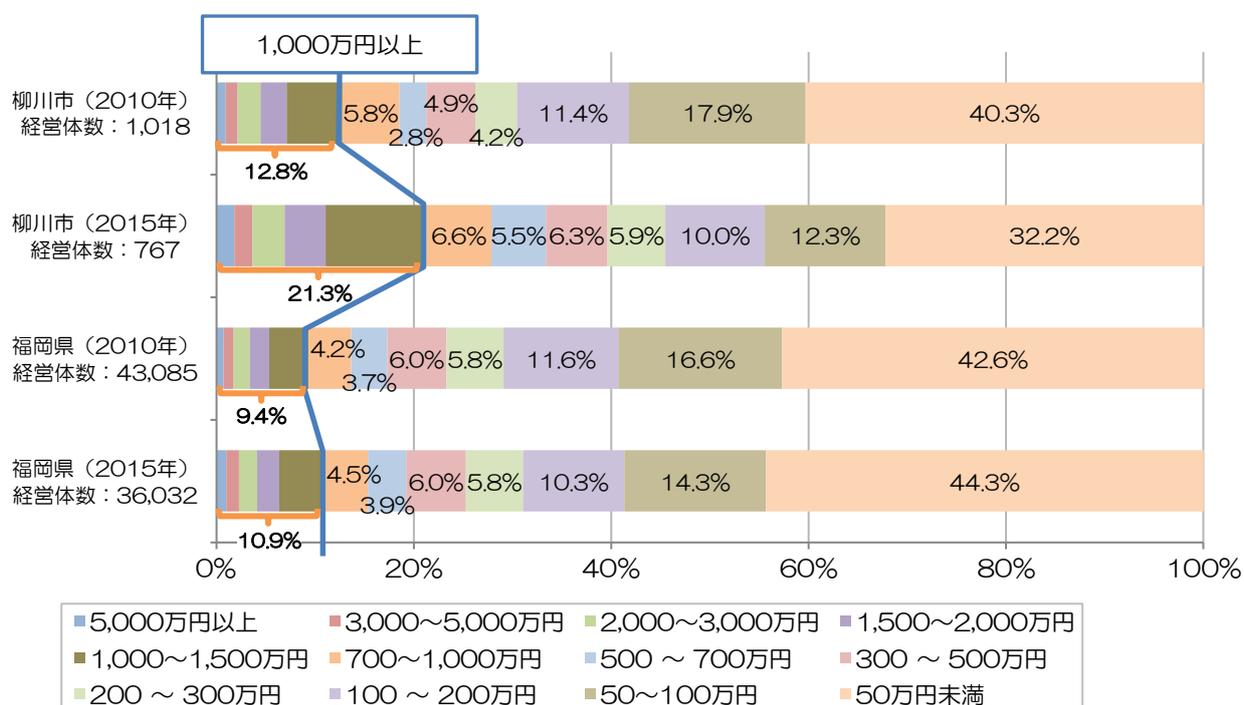
(4) 農業経営体の状況

2010年1,018経営体と2015年767経営体の農業経営体数を比較すると、251経営体(24.7%)減少しています。

農産物販売金額規模別の経営体数をみると、農産物販売金額100万円未満の経営体数が減少している一方、農産物販売金額1,000万円以上の経営体数の実数、割合ともに増加しています。

経営体に占める農産物販売金額1,000万円以上の経営体の割合を筑後地域の他市と比較すると、筑後市に次いで、高くなっています。

農産物販売金額規模別経営体数の推移



※「農林水産省：農林業センサス」より作成

農業経営体に関する指標 (他市等との比較)

	柳川市		八女市	筑後市	大川市	みやま市	大牟田市	久留米市	福岡県
	偏差値	数値							
経営体に占める農産物販売金額1,000万円以上の経営体の割合 (%)	53.4	21.3	17.0	35.5	15.6	17.2	4.0	18.2	10.9

※「農林水産省：2015年農林業センサス」より作成

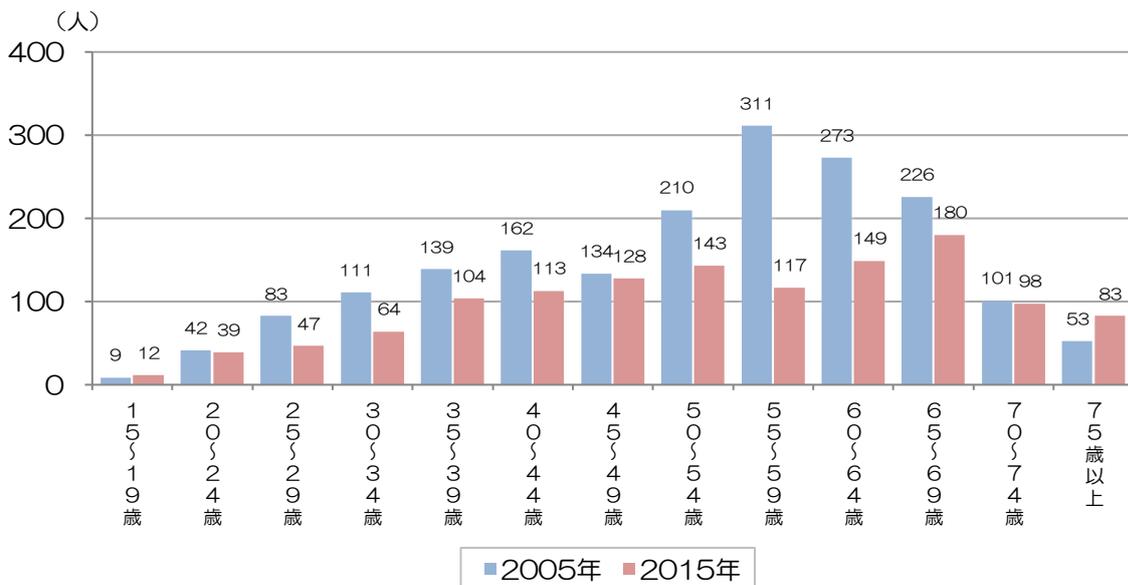
2 水産業

(1) 漁業就業者の状況

2005年1,854人と2015年1,277人の漁業就業者数を比較すると、577人減少していますが、減少率31.1%は県全体の32.4%を下回っています。

漁業就業者の定着率をみると、2005年に34歳以下だった世代において1を上回っている一方、それより上の世代では1を下回っています。

年齢階級別漁業就業者数の推移



※「総務省：国勢調査」より作成

漁業就業者に関する指標（他市等との比較）

	柳川市		八女市	筑後市	大川市	みやま市	大牟田市	久留米市	福岡県	国
	偏差値	数値								
漁業就業者数										
減少率 (%)	44.1	31.1	-100.0	0.0	29.5	51.5	31.8	-22.2	32.4	28.8

※「総務省：国勢調査」より作成。減少率は2005年と比較した2015年の減少割合を示す

<用語解説>

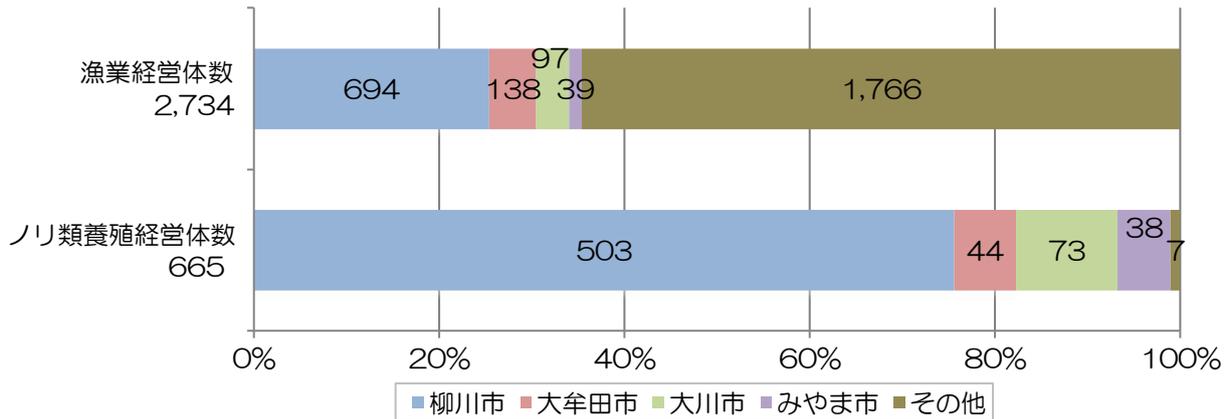
定着率は、ある世代の2005年の就業者数が2015年にどのように変化したかを示す（例：2015年の25～29歳就業者数／2005年の15～19歳就業者数）。

(2) ノリ生産の状況

2013年の柳川市の漁業経営体は、県全体の25.4%を占めていますが、ノリ類養殖に限定すると75.6%と大半を占めています。

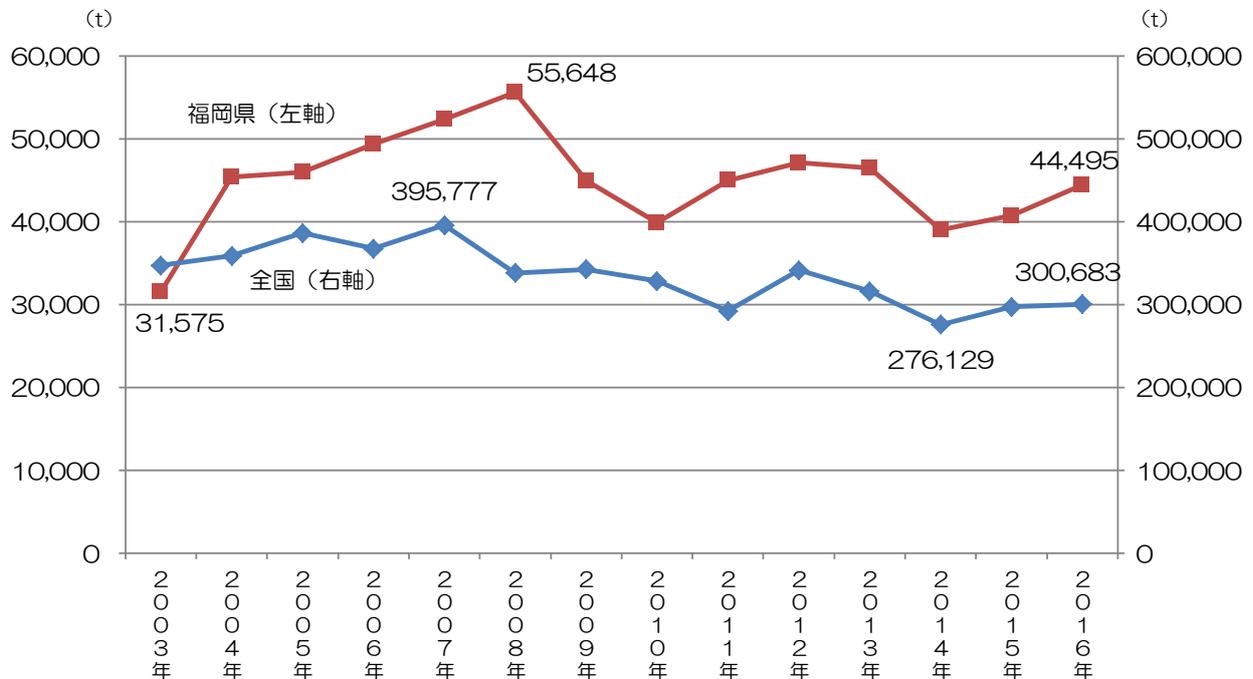
ノリの収穫量、単価、漁労収入をみると、近年は増加・上昇傾向にありますが、特に1経営体あたりの漁労収入の上昇幅が大きくなっています。

市町村別漁業経営体の内訳（2013年・福岡県）



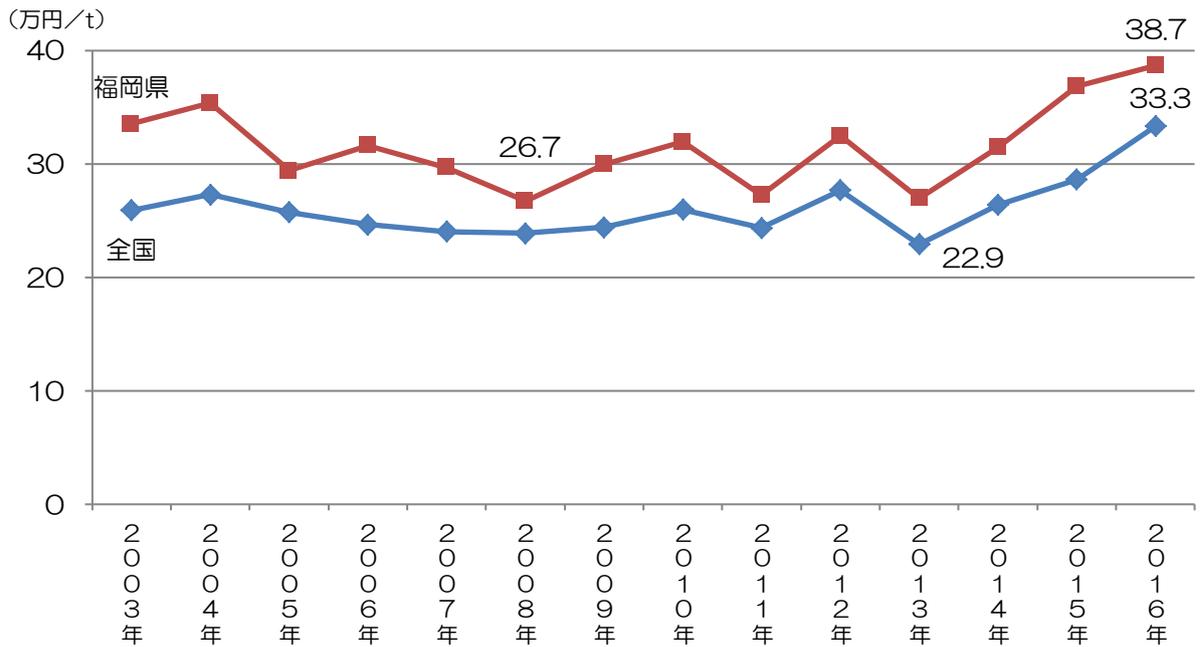
※「農林水産省：2013年漁業センサス」より作成

ノリ収穫量の推移（国・福岡県）



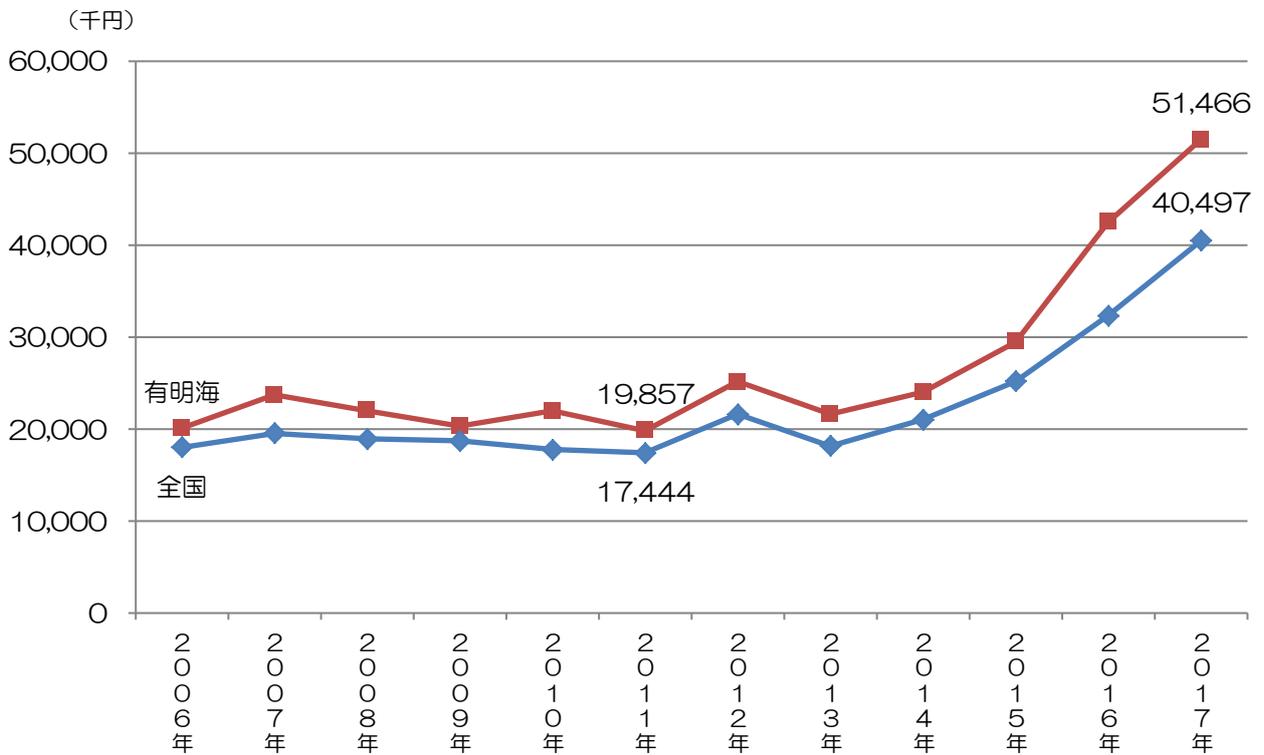
※「農林水産省：漁業・養殖業生産統計」より作成

1 tあたりの海苔単価の推移（国・福岡県）



※「農林水産省：漁業・養殖業生産統計」「農林水産省：漁業産出額」より作成

ノリ類養殖業1経営体あたりの漁労収入の推移（国・有明海）



※「農林水産省：漁業経営調査報告」より作成

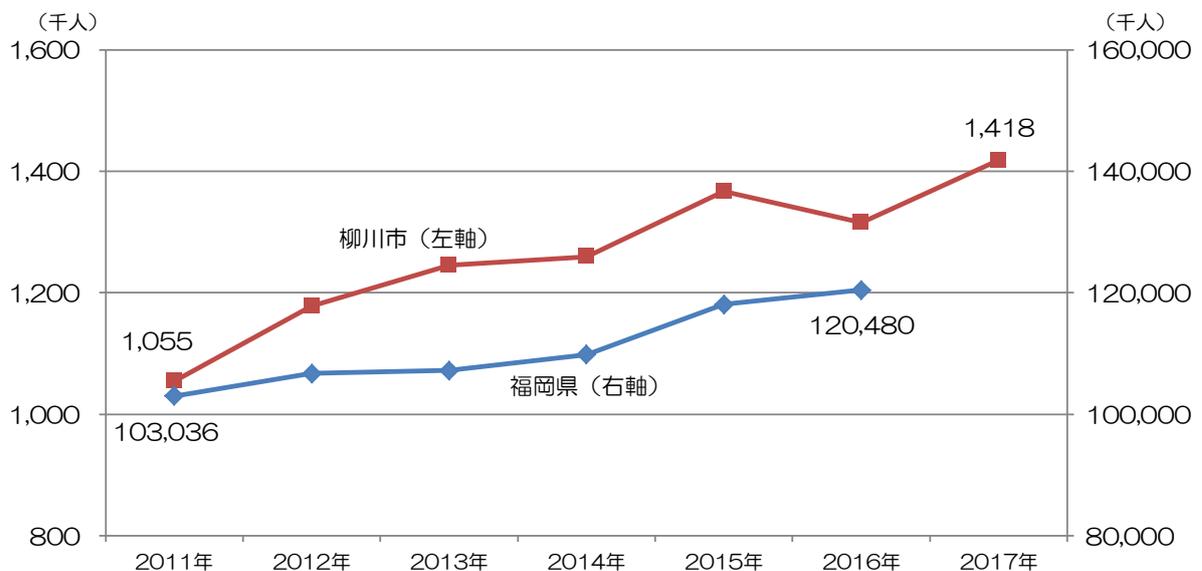
3 観光業

(1) 観光入込客数の状況

柳川市の観光入込客数は、2011年に東日本大震災の影響や有明花火フェスタ開催自粛に伴い大きく減少しました。その後、上昇傾向が続き、2017年の観光入込客数は過去最多の約142万人に達しています。

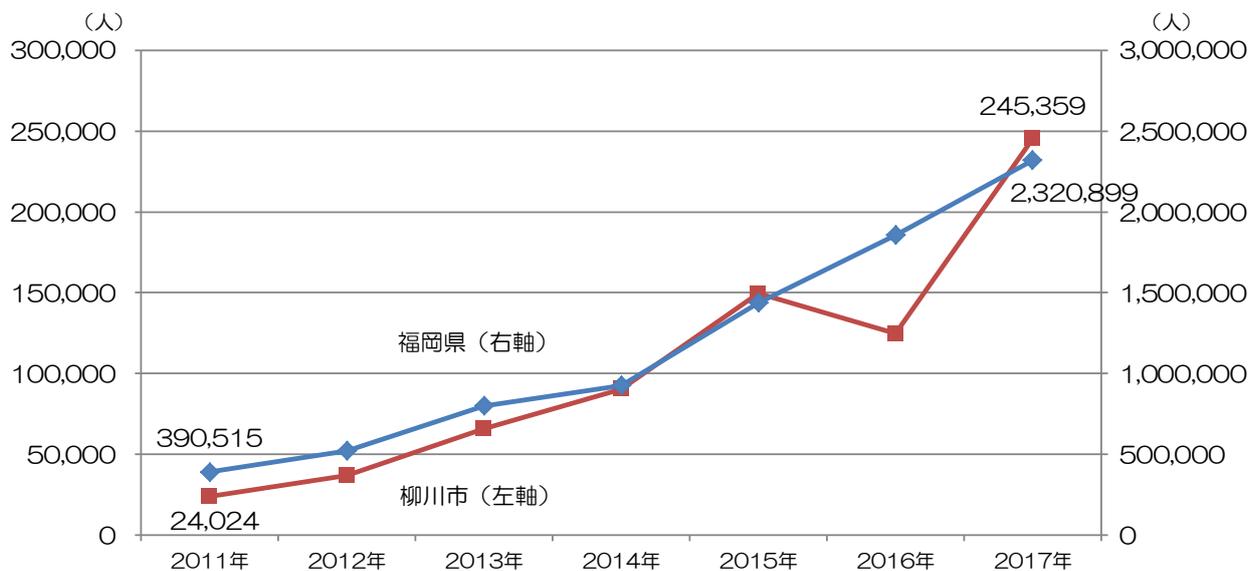
外国人観光入込客数は2011年以降増加が続き、2017年は、2011年の10倍以上の約25万人に達しています。

観光入込客数の推移



※「柳川市：観光動態調査」「福岡県：観光入込客推計調査」より作成

外国人観光入込客数の推移



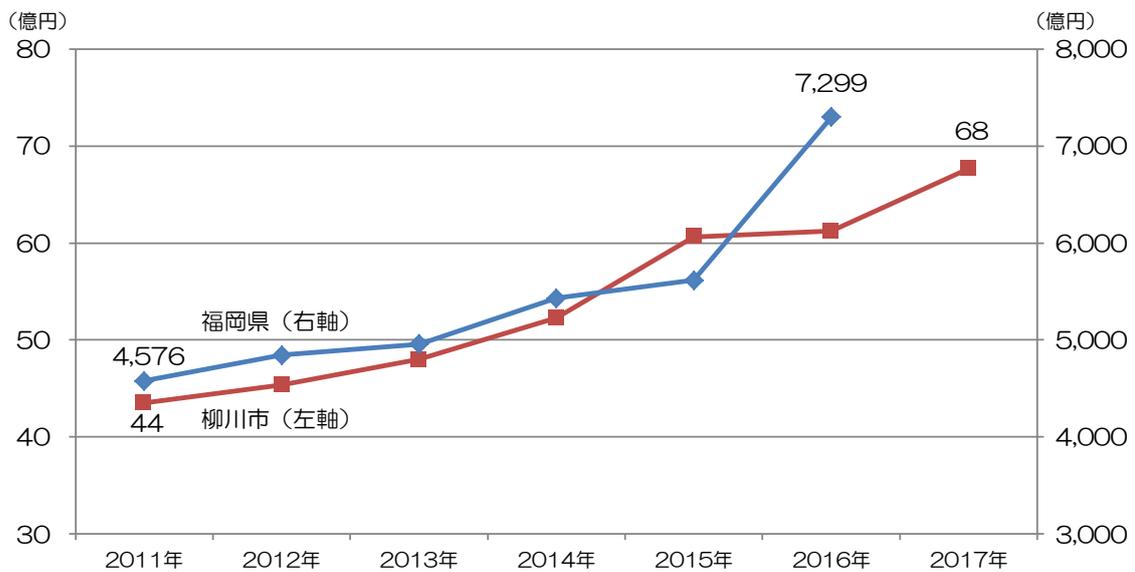
※「柳川市：観光動態調査」「内閣府：RESAS」より作成。福岡県の外国人観光入込客数は、観光・レジャー目的で訪問した外国人数を示す

(2) 観光消費額の状況

観光消費額は、2011年以降、観光入込客数の増加や1人あたりの観光消費額の上昇により増加し、2017年は過去最高の68億円に達しています。

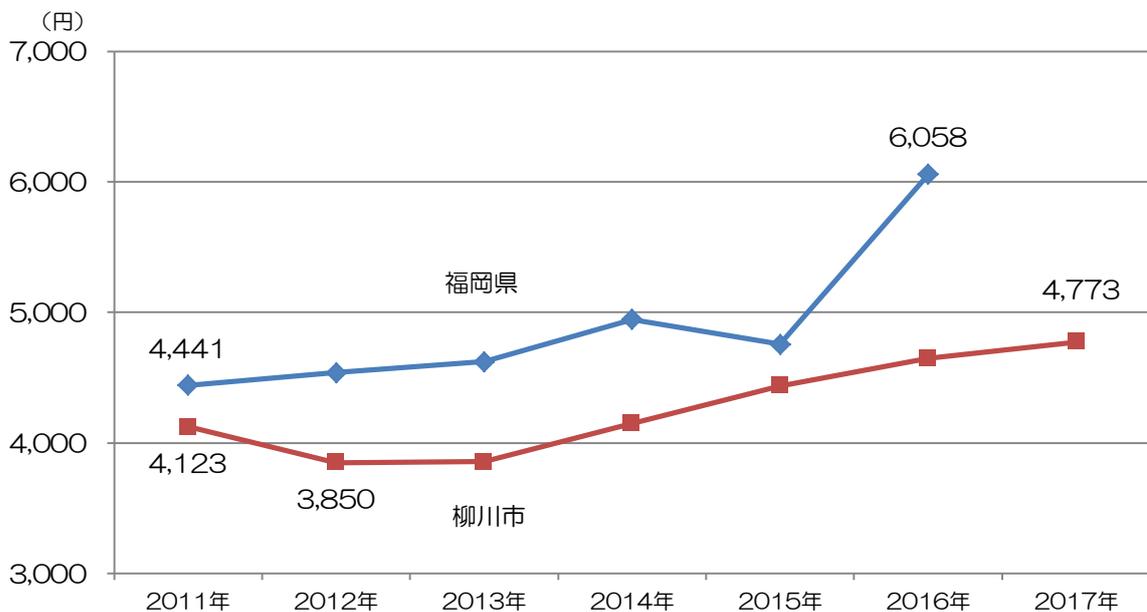
1人あたりの観光消費額は4,000円前後で推移してきましたが、2013年以降上昇し、2017年は過去最高の4,773円に達しています。しかし、県全体を下回る水準で推移していることから、今後は、観光入込客の増加とともに、滞在時間の延伸等による観光消費額の増加策を促進していく必要があると考えられます。

観光消費額の推移



※「柳川市：観光動態調査」「福岡県：観光入込客推計調査」より作成

1人あたり観光消費額の推移



※「柳川市：観光動態調査」「福岡県：観光入込客推計調査」より作成

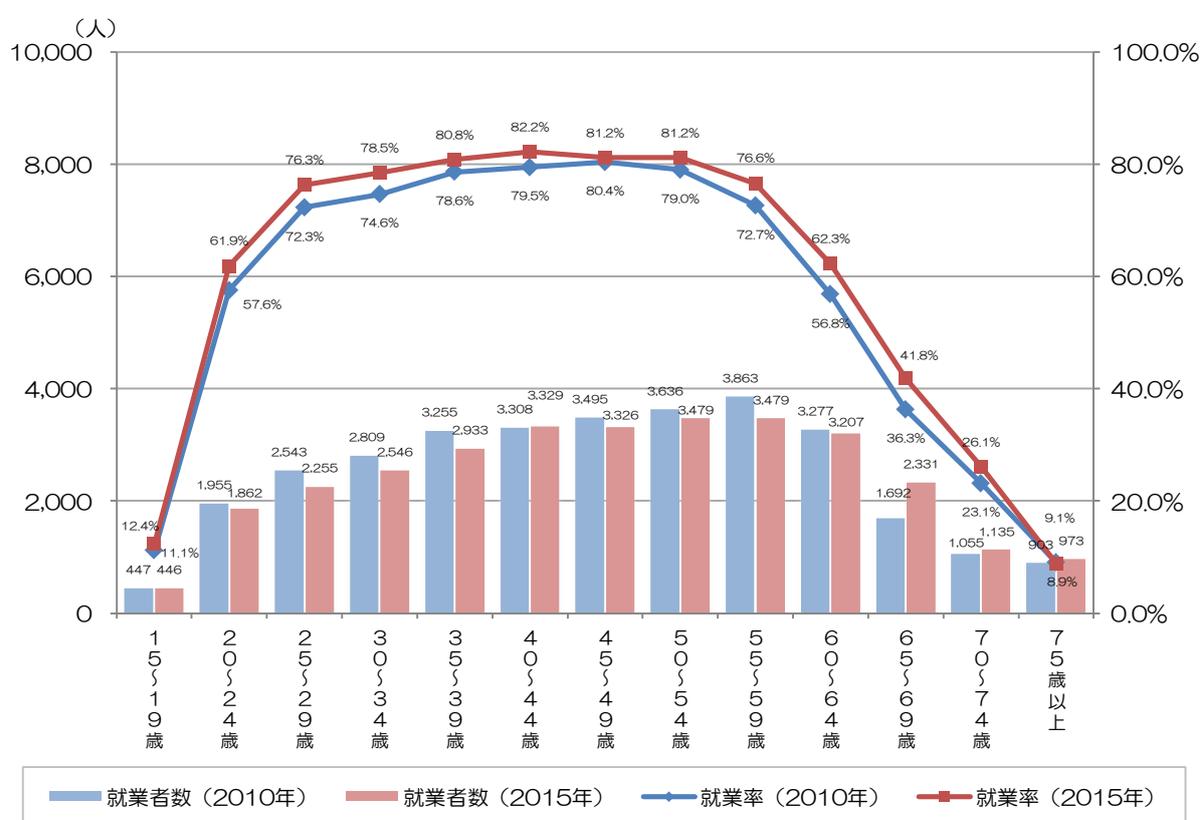
〈参考〉産業大分類別就業人口の状況

国勢調査の産業大分類が2010年に変更されたため、本編（69、73ページ）のように2005年と2015年の10年比較はできません。そのため参考として、各産業の2010年と2015年の5年比較を掲載します。

（1）全体の就業者の状況

2010年32,238人と2015年31,301人の就業者数を比較すると、937人減少しており、増減率-2.9%は県全体の-0.4%を下回っています。

年齢階級別就業者数の推移



※「総務省：国勢調査」より作成。就業率は人口（就業状態不詳を含む）に占める就業者数の割合を示す

就業者に関する指標（他市等との比較）

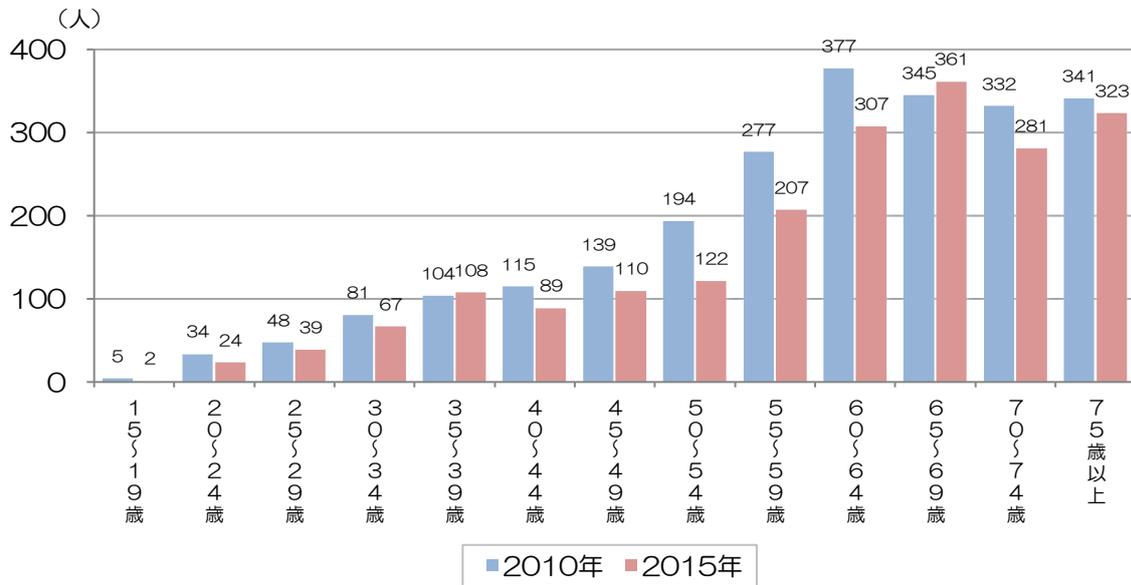
	柳川市		八女市	筑後市	大川市	みやま市	大牟田市	久留米市	福岡県	国
	偏差値	数値								
就業者数増減率 (%)	49.9	-2.9	-4.3	-0.9	-6.9	-3.7	-2.3	0.9	-0.4	-1.2

※「総務省：国勢調査」より作成。増減率は2010年と比較した2015年の増減割合を示す

(2) 農業就業者の状況

2010年2,392人と2015年2,040人の農業就業者数を比較すると、352人減少しており、増減率-14.7%は県全体の-4.1%を下回っています。

年齢階級別農業就業者数の推移



※「総務省：国勢調査」より作成

農業就業者に関する指標（他市等との比較）

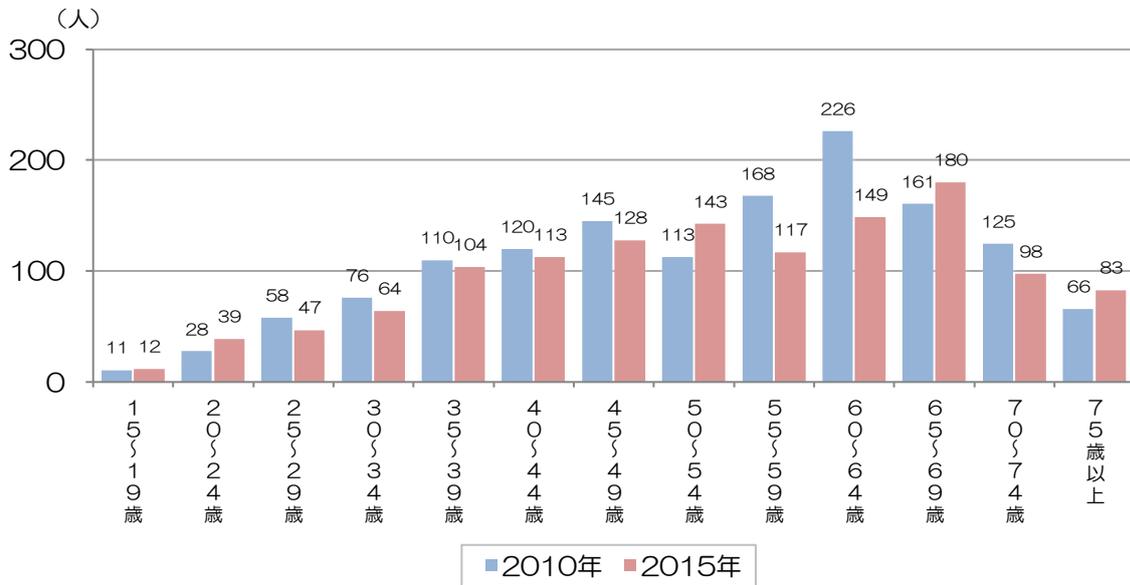
	柳川市		八女市	筑後市	大川市	みやま市	大牟田市	久留米市	福岡県	国
	偏差値	数値								
農業就業者数増減率 (%)	36.4	-14.7	-10.4	15.2	-4.6	-0.5	-1.8	-3.0	-4.1	-6.2

※「総務省：国勢調査」より作成。増減率は2010年と比較した2015年の増減割合を示す

(3) 漁業就業者の状況

2010年1,407人と2015年1,277人の漁業就業者数を比較すると、130人減少していますが、増減率-9.2%は県全体の-14.5%を上回っています。

年齢階級別漁業就業者数の推移



※「総務省：国勢調査」より作成

漁業就業者に関する指標（他市等との比較）

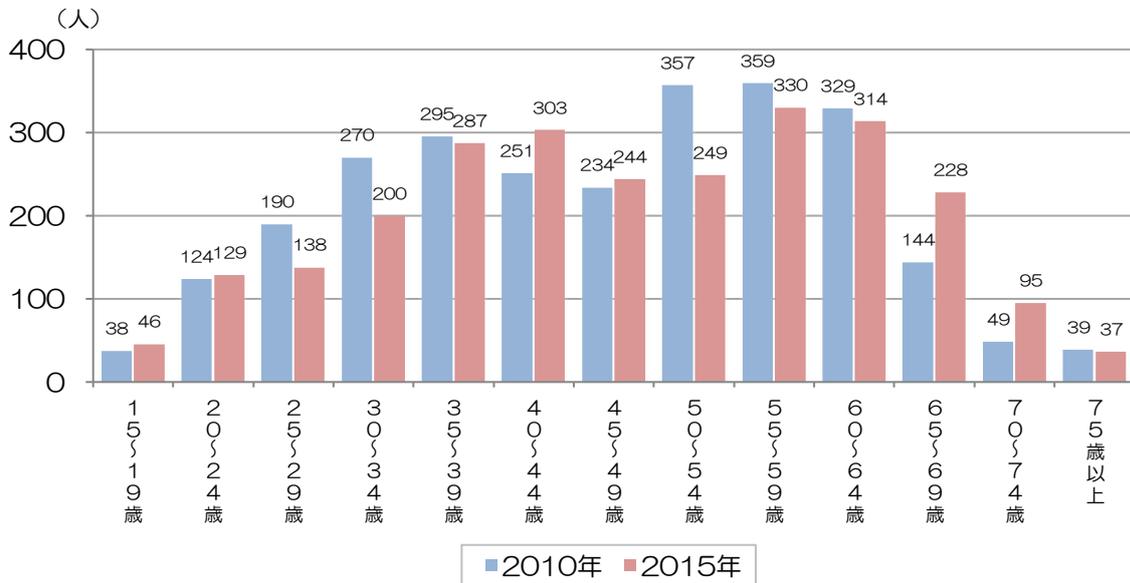
	柳川市		八女市	筑後市	大川市	みやま市	大牟田市	久留米市	福岡県	国
	偏差値	数値								
漁業就業者数増減率 (%)	42.5	-9.2	33.3	100.0	-11.9	-7.0	-10.9	46.7	-14.5	-13.1

※「総務省：国勢調査」より作成。増減率は2010年と比較した2015年の増減割合を示す

(4) 建設業就業者の状況

2010年2,679人と2015年2,600人の建設業就業者数を比較すると、79人減少していますが、増減率-2.9%は県全体の-3.3%を上回っています。

年齢階級別建設業就業者数の推移



※「総務省：国勢調査」より作成

建設業就業者に関する指標（他市等との比較）

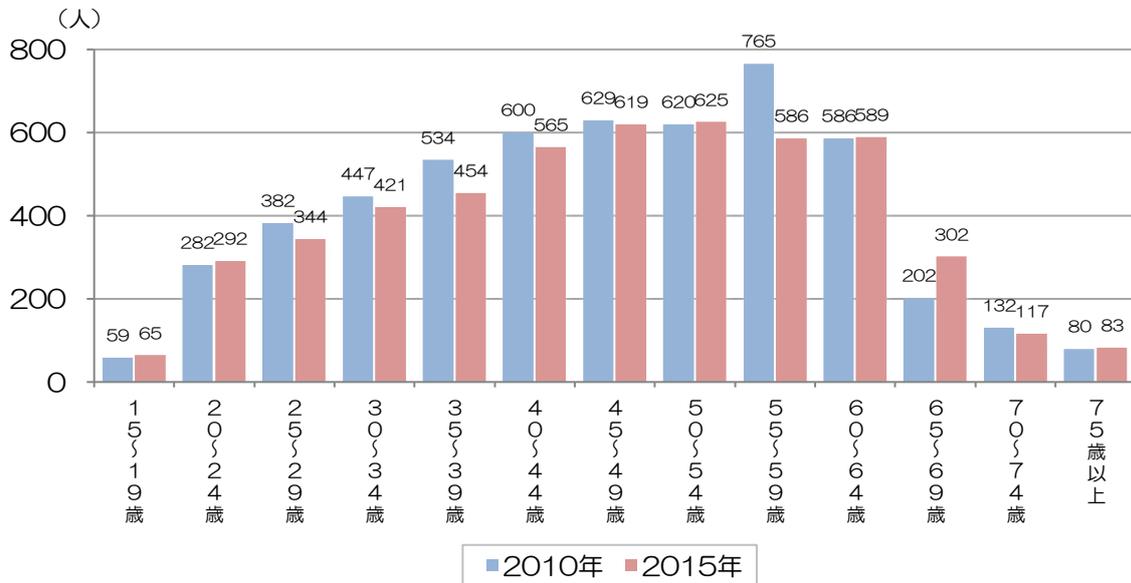
	柳川市		八女市	筑後市	大川市	みやま市	大牟田市	久留米市	福岡県	国
	偏差値	数値								
建設業就業者数増減率 (%)	53.3	-2.9	-5.0	-1.2	-2.6	-9.2	-5.1	-0.6	-3.3	-3.0

※「総務省：国勢調査」より作成。増減率は2010年と比較した2015年の増減割合を示す

(5) 製造業就業者の状況

2010年5,318人と2015年5,062人の製造業就業者数を比較すると、256人減少しており、増減率-4.8%は県全体の4.9%を下回っています。

年齢階級別製造業就業者数の推移



※「総務省：国勢調査」より作成

製造業就業者に関する指標（他市等との比較）

	柳川市		八女市	筑後市	大川市	みやま市	大牟田市	久留米市	福岡県	国
	偏差値	数値								
製造業就業者数増減率 (%)	46.5	-4.8	-5.0	1.7	-13.6	-1.7	-2.5	6.2	4.9	-0.7

※「総務省：国勢調査」より作成。増減率は2010年と比較した2015年の増減割合を示す

(6) 電気・ガス・熱供給・水道業就業者の状況

2010年93人と2015年99人の電気・ガス・熱供給・水道業就業者数を比較すると、6人増加しており、増減率6.5%は県全体の3.0%を上回っています。

年齢階級別電気・ガス・熱供給・水道業就業者数の推移



※「総務省：国勢調査」より作成

電気・ガス・熱供給・水道業就業者に関する指標（他市等との比較）

	柳川市		八女市	筑後市	大川市	みやま市	大牟田市	久留米市	福岡県	国
	偏差値	数値								
電気・ガス・熱供給・水道業就業者数増減率 (%)	59.8	6.5	-15.4	15.4	-21.2	-13.2	-13.0	1.0	3.0	-0.4

※「総務省：国勢調査」より作成。増減率は2010年と比較した2015年の増減割合を示す

(7) 情報通信業就業者の状況

2010年228人と2015年194人の情報通信業就業者数を比較すると、34人減少しており、増減率-14.9%は県全体の6.3%を下回っています。

年齢階級別情報通信業就業者数の推移



※「総務省：国勢調査」より作成

情報通信業就業者に関する指標（他市等との比較）

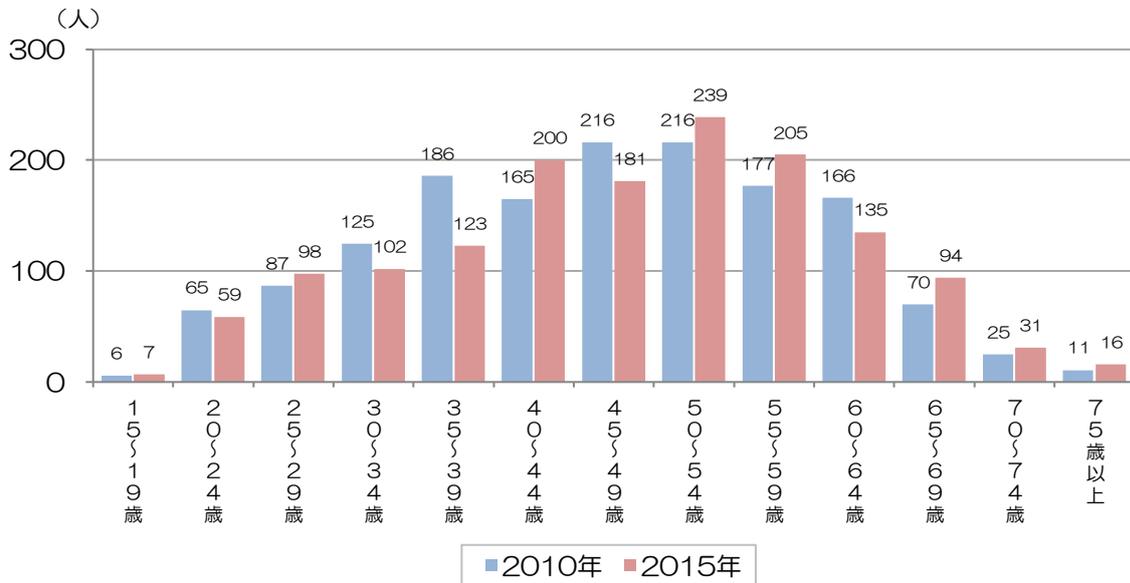
	柳川市		八女市	筑後市	大川市	みやま市	大牟田市	久留米市	福岡県	国
	偏差値	数値								
情報通信業就業者数増減率 (%)	45.1	-14.9	-24.4	-4.0	-21.8	21.5	-11.8	1.5	6.3	3.3

※「総務省：国勢調査」より作成。増減率は2010年と比較した2015年の増減割合を示す

(8) 運輸業、郵便業就業者の状況

2010年1,515人と2015年1,490人の運輸業、郵便業就業者数を比較すると、25人減少していますが、増減率-1.7%は県全体の-4.9%を上回っています。

年齢階級別運輸業、郵便業就業者数の推移



※「総務省：国勢調査」より作成

運輸業、郵便業就業者に関する指標（他市等との比較）

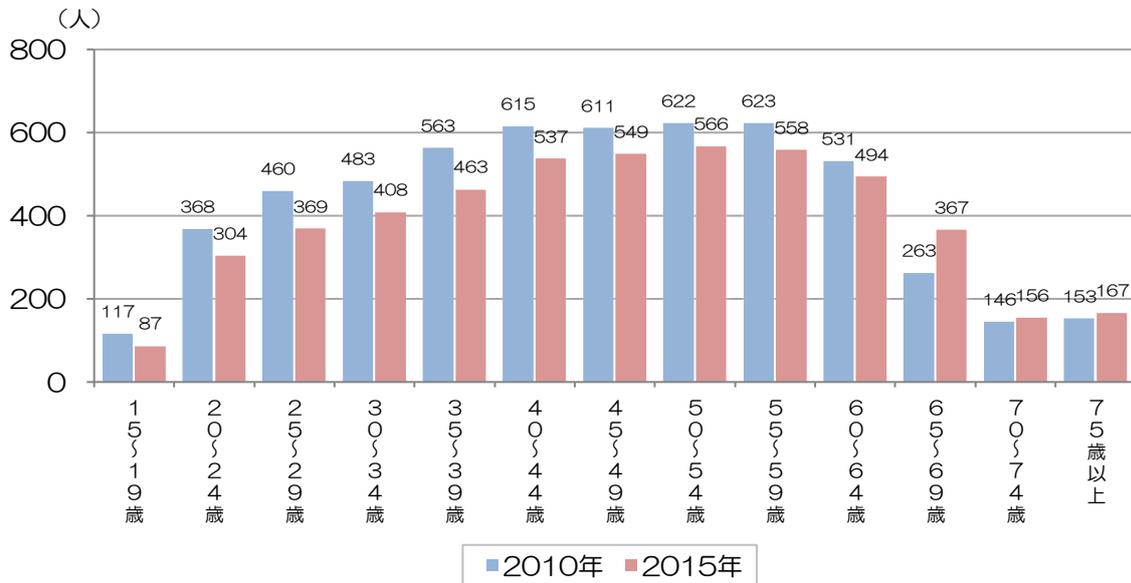
	柳川市		八女市	筑後市	大川市	みやま市	大牟田市	久留米市	福岡県	国
	偏差値	数値								
運輸業、郵便業就業者数増減率 (%)	58.9	-1.7	-8.2	1.9	-13.7	-6.4	-9.8	-4.0	-4.9	-5.4

※「総務省：国勢調査」より作成。増減率は2010年と比較した2015年の増減割合を示す

(9) 卸売業、小売業就業者の状況

2010年 5,555人と2015年 5,025人の卸売業、小売業就業者数を比較すると、530人減少していますが、増減率-9.5%は県全体の-10.3%を上回っています。

年齢階級別卸売業、小売業就業者数の推移



※「総務省：国勢調査」より作成

卸売業、小売業就業者に関する指標（他市等との比較）

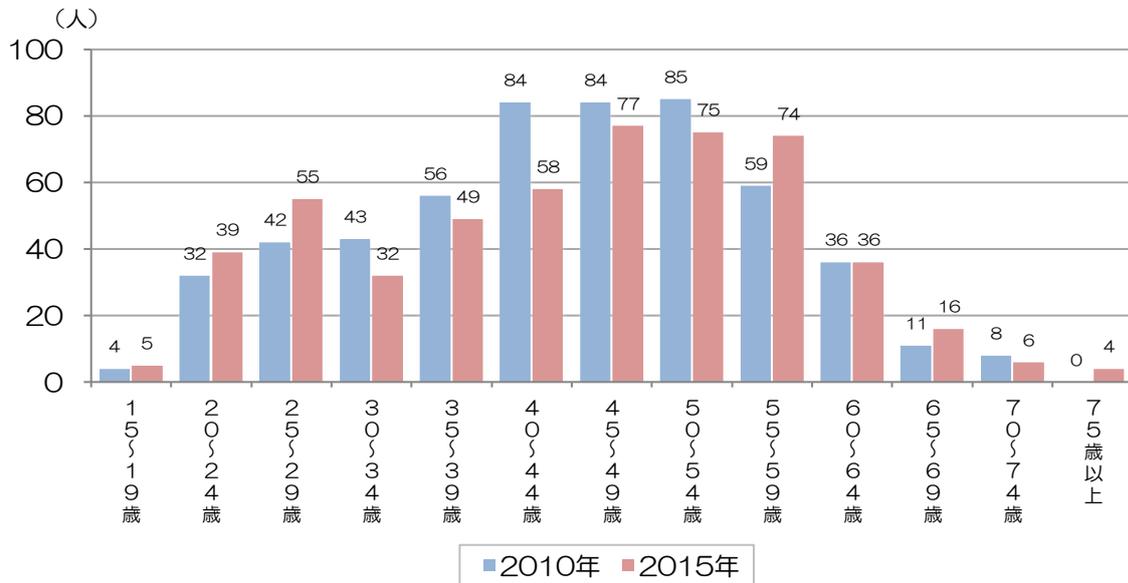
	柳川市		八女市	筑後市	大川市	みやま市	大牟田市	久留米市	福岡県	国
	偏差値	数値								
卸売業、小売業就業者数増減率 (%)	57.1	-9.5	-11.1	-8.9	-11.6	-9.3	-10.1	-10.6	-10.3	-8.2

※「総務省：国勢調査」より作成。増減率は2010年と比較した2015年の増減割合を示す

(10) 金融業、保険業就業者の状況

2010年544人と2015年526人の金融業、保険業就業者数を比較すると、18人減少していますが、増減率-3.3%は県全体の-5.2%を上回っています。

年齢階級別金融業、保険業就業者数の推移



※「総務省：国勢調査」より作成

金融業、保険業就業者に関する指標（他市等との比較）

	柳川市		八女市	筑後市	大川市	みやま市	大牟田市	久留米市	福岡県	国
	偏差値	数値								
金融業、保険業就業者数増減率 (%)	65.3	-3.3	-10.9	-7.2	-12.7	-13.8	-9.2	-4.9	-5.2	-5.6

※「総務省：国勢調査」より作成。増減率は2010年と比較した2015年の増減割合を示す

(11) 不動産業、物品賃貸業就業者の状況

2010年243人と2015年294人の不動産業、物品賃貸業就業者数を比較すると、51人増加しており、増減率21.0%は県全体の9.7%を上回っています。

年齢階級別不動産業、物品賃貸業就業者数の推移



※「総務省：国勢調査」より作成

不動産業、物品賃貸業就業者に関する指標（他市等との比較）

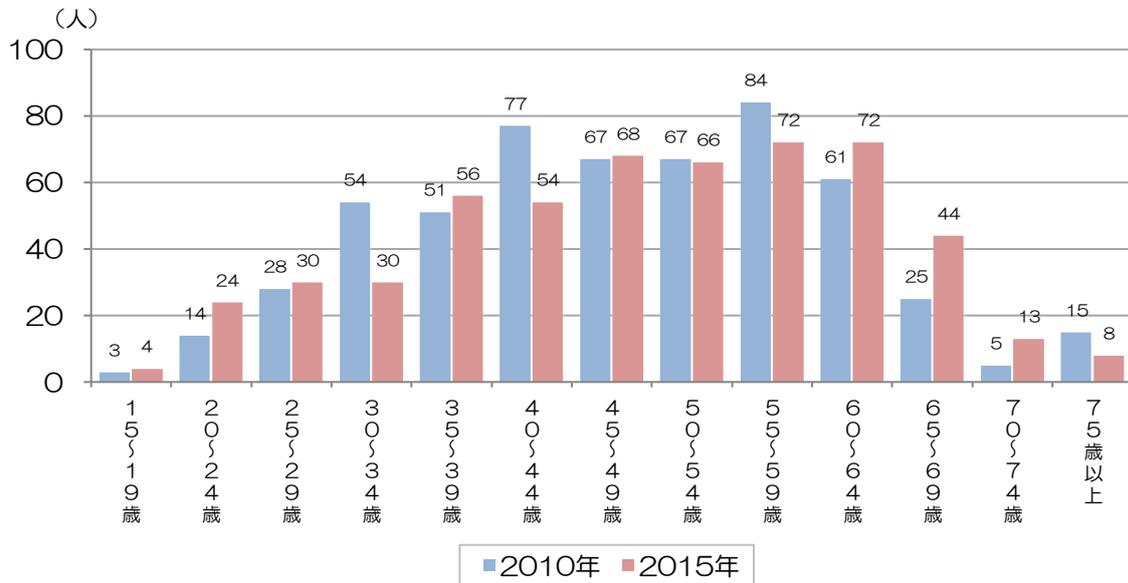
	柳川市		八女市	筑後市	大川市	みやま市	大牟田市	久留米市	福岡県	国
	偏差値	数値								
不動産業、物品賃貸業就業者数増減率(%)	65.3	21.0	-8.8	4.1	-9.6	-1.6	17.8	5.4	9.7	7.5

※「総務省：国勢調査」より作成。増減率は2010年と比較した2015年の増減割合を示す

(12) 学術研究、専門・技術サービス業就業者の状況

2010年551人と2015年541人の学術研究、専門・技術サービス業就業者数を比較すると、10人減少しており、増減率-1.8%は県全体の5.7%を下回っています。

年齢階級別学術研究、専門・技術サービス業就業者数の推移



※「総務省：国勢調査」より作成

学術研究、専門・技術サービス業就業者に関する指標（他市等との比較）

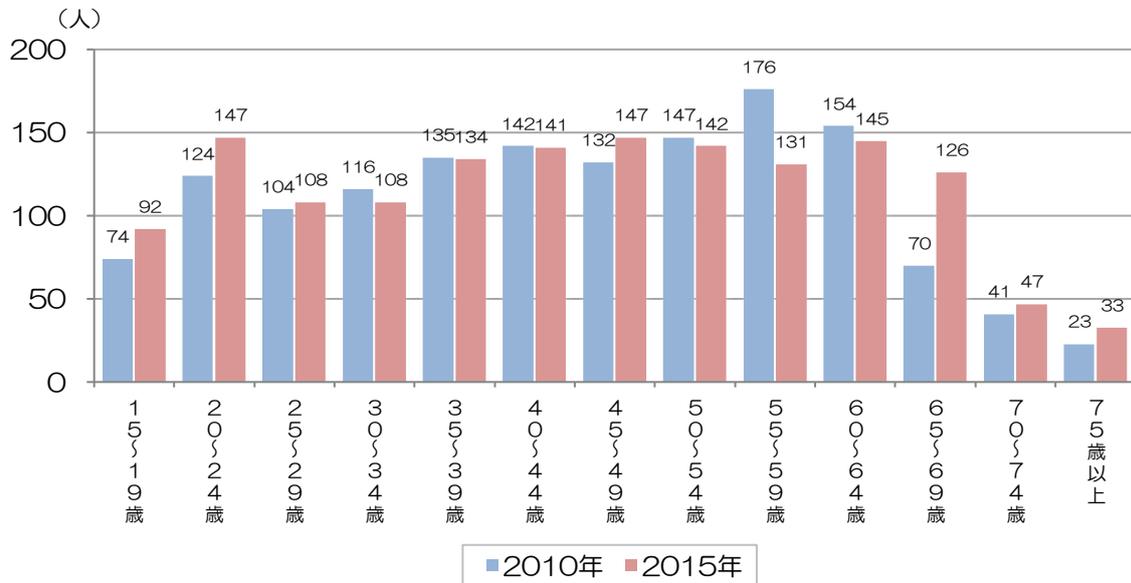
	柳川市		八女市	筑後市	大川市	みやま市	大牟田市	久留米市	福岡県	国
	偏差値	数値								
学術研究、専門・技術サービス業就業者数増減率 (%)	43.7	-1.8	8.5	0.6	-4.1	-3.3	0.9	5.7	5.7	0.9

※「総務省：国勢調査」より作成。増減率は2010年と比較した2015年の増減割合を示す

(13) 宿泊業、飲食サービス業就業者の状況

2010年1,438人と2015年1,501人の宿泊業、飲食サービス業就業者数を比較すると、63人増加しており、増減率4.4%は県全体の-5.4%を上回っています。

年齢階級別宿泊業、飲食サービス業就業者数の推移



※「総務省：国勢調査」より作成

宿泊業、飲食サービス業就業者に関する指標（他市等との比較）

	柳川市		八女市	筑後市	大川市	みやま市	大牟田市	久留米市	福岡県	国
	偏差値	数値								
宿泊業、飲食サービス業就業者数増減率 (%)	67.8	4.4	-8.3	0.1	-5.0	-3.2	-11.1	-8.3	-5.4	-5.1

※「総務省：国勢調査」より作成。増減率は2010年と比較した2015年の増減割合を示す

(14) 生活関連サービス業、娯楽業就業者の状況

2010年1,050人と2015年1,043人の生活関連サービス業、娯楽業就業者数を比較すると、7人減少していますが、増減率-0.7%は県全体の-5.8%を上回っています。

年齢階級別生活関連サービス業、娯楽業就業者数の推移



※「総務省：国勢調査」より作成

生活関連サービス業、娯楽業就業者に関する指標（他市等との比較）

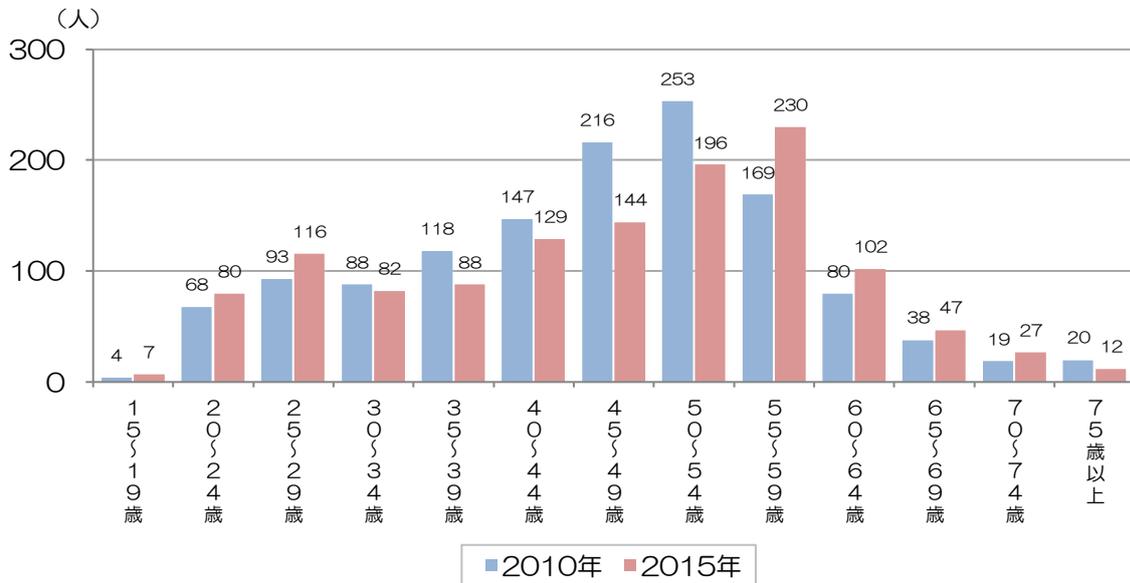
	柳川市		八女市	筑後市	大川市	みやま市	大牟田市	久留米市	福岡県	国
	偏差値	数値								
生活関連サービス業、娯楽業就業者数増減率 (%)	65.5	-0.7	-12.9	-5.1	-14.0	-8.1	-4.8	-6.4	-5.8	-5.7

※「総務省：国勢調査」より作成。増減率は2010年と比較した2015年の増減割合を示す

(15) 教育、学習支援業就業者の状況

2010年1,313人と2015年1,260人の教育、学習支援業就業者数を比較すると、53人減少しており、増減率-4.0%は県全体の1.6%を下回っています。

年齢階級別教育、学習支援業就業者数の推移



※「総務省：国勢調査」より作成

教育、学習支援業就業者に関する指標（他市等との比較）

	柳川市		八女市	筑後市	大川市	みやま市	大牟田市	久留米市	福岡県	国
	偏差値	数値								
教育、学習支援業就業者数増減率 (%)	47.4	-4.0	-6.5	2.0	-5.4	-5.9	-3.1	0.3	1.6	1.0

※「総務省：国勢調査」より作成。増減率は2010年と比較した2015年の増減割合を示す

(16) 医療、福祉就業者の状況

2010年4,014人と2015年4,519人の医療、福祉就業者数を比較すると、505人増加していますが、増減率12.6%は県全体の14.3%を下回っています。

年齢階級別医療、福祉就業者数の推移



※「総務省：国勢調査」より作成

医療、福祉就業者に関する指標（他市等との比較）

	柳川市		八女市	筑後市	大川市	みやま市	大牟田市	久留米市	福岡県	国
	偏差値	数値								
医療、福祉就業者数増減率 (%)	54.0	12.6	7.8	13.2	12.9	11.2	7.4	15.5	14.3	14.6

※「総務省：国勢調査」より作成。増減率は2010年と比較した2015年の増減割合を示す

(17) 複合サービス事業就業者の状況

2010年373人と2015年423人の複合サービス事業就業者数を比較すると、50人増加していますが、増減率13.4%は県全体の31.7%を下回っています。

年齢階級別複合サービス事業就業者数の推移



※「総務省：国勢調査」より作成

複合サービス事業就業者に関する指標（他市等との比較）

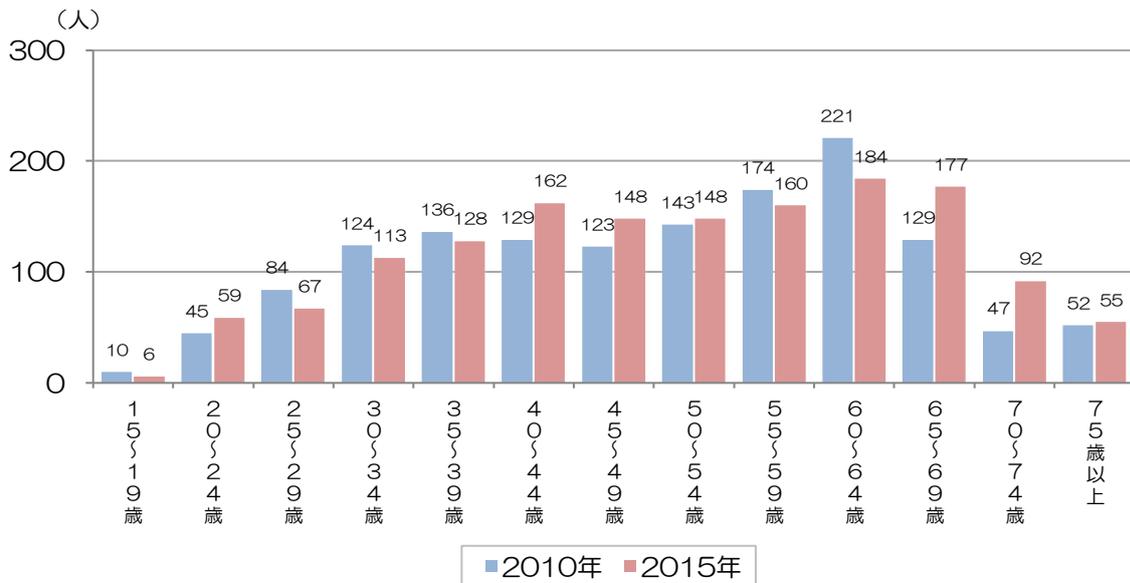
	柳川市		八女市	筑後市	大川市	みやま市	大牟田市	久留米市	福岡県	国
	偏差値	数値								
複合サービス事業 就業者数 増減率 (%)	46.0	13.4	3.6	18.4	24.6	1.3	35.3	30.5	31.7	28.1

※「総務省：国勢調査」より作成。増減率は2010年と比較した2015年の増減割合を示す

(18) サービス業（他に分類されないもの）就業者の状況

2010年1,417人と2015年1,499人のサービス業（他に分類されないもの）就業者数を比較すると、82人増加していますが、増減率5.8%は県全体の6.4%を下回っています。

年齢階級別サービス業（他に分類されないもの）就業者数の推移



※「総務省：国勢調査」より作成

サービス業（他に分類されないもの）就業者に関する指標（他市等との比較）

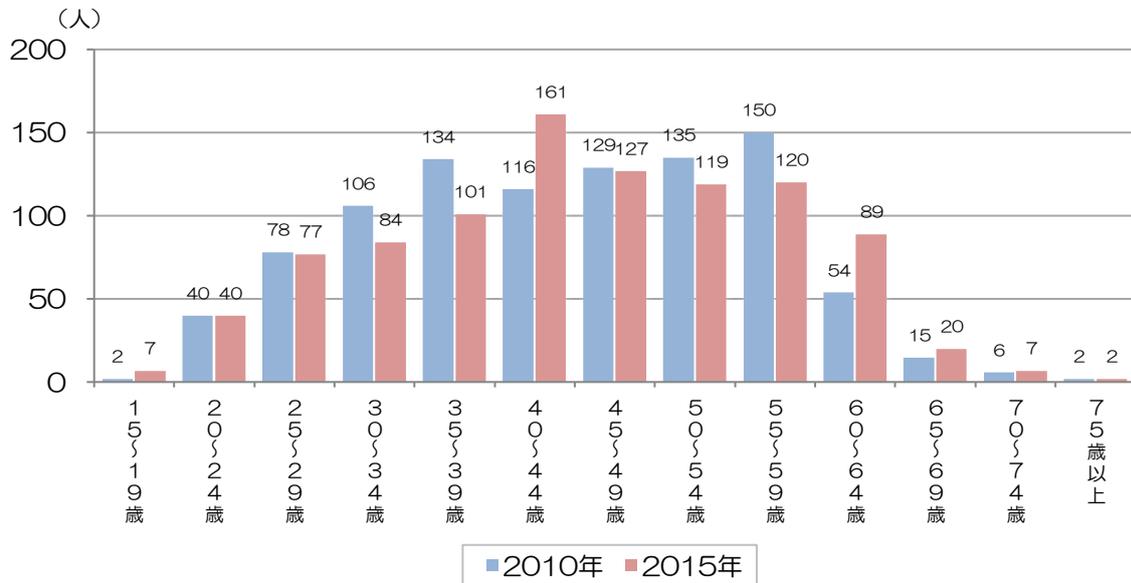
	柳川市		八女市	筑後市	大川市	みやま市	大牟田市	久留米市	福岡県	国
	偏差値	数値								
サービス業（他に分類されないもの）就業者数増減率（%）	52.9	5.8	8.9	5.9	0.6	4.9	-1.5	8.6	6.4	4.1

※「総務省：国勢調査」より作成。増減率は2010年と比較した2015年の増減割合を示す

(19) 公務（他に分類されるものを除く）就業者の状況

2010年 967人と2015年 954人の公務（他に分類されるものを除く）就業者数を比較すると、13人減少しており、増減率-1.3%は県全体の-0.7%を下回っています。

年齢階級別公務（他に分類されるものを除く）就業者数の推移



※「総務省：国勢調査」より作成

公務（他に分類されるものを除く）就業者に関する指標（他市等との比較）

	柳川市		八女市	筑後市	大川市	みやま市	大牟田市	久留米市	福岡県	国
	偏差値	数値								
公務（他に分類されるものを除く）就業者数増減率（%）	54.2	-1.3	-2.0	7.6	-11.9	-4.1	-9.2	-5.2	-0.7	0.5

※「総務省：国勢調査」より作成。増減率は2010年と比較した2015年の増減割合を示す

V 柳川市の経済構造分析

1 地域の経済循環構造

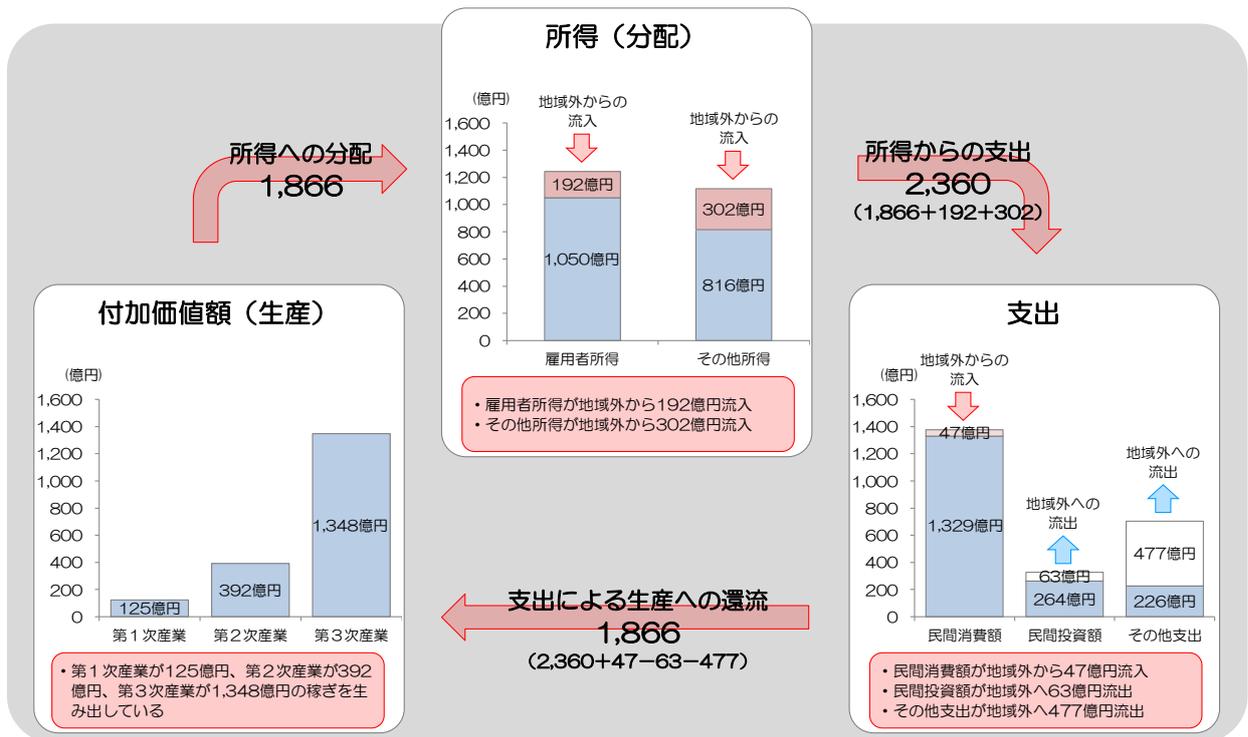
経済循環は、生産、分配、支出の経済活動全体の流れを指します。

柳川市は、付加価値額（生産）を市外からの所得（分配）で補う一方、地域外への支出（市内産業の市外からの購入等）により、所得（分配）を流出させている状況にあります。

筑後地域の他市においても、概ね同様の傾向がみられますが、地域経済の自立度を示す地域経済循環率 79.1%は、筑後地域の他市と比較して低くなっています。

地域経済循環率
79.1 %

地域経済循環図
2013 年



※「内閣府：RESAS」より作成。各値は端数を含んでいるため、合計値が一致しない場合がある

経済循環構造に関する指標（他市との比較）

	柳川市		八女市	筑後市	大川市	みやま市	大牟田市	久留米市
	偏差値	数値						
地域経済循環率 (%)	38.9	79.1	83.8	96.1	88.6	76.5	98.8	91.3

※「内閣府：RESAS」より作成。数値は2013年値

<用語解説>

付加価値額は企業利益や給与総額等の合計で、企業等の生産活動によって新たに生み出された価値、地域経済循環率は付加価値額（生産）を所得（分配）で割った値をそれぞれ示す。

2 産業構造

※地域経済循環分析で用いられている産業分類について

地域経済循環分析では、産業が以下のとおり分類されています。

- ① 農業 - 米麦生産業、その他の耕種農業、畜産業、獣医、農業サービス業
- ② 林業 - 林業
- ③ 水産業 - 漁業・水産養殖業
- ④ 鉱業 - 石炭・原油・天然ガス鉱業、金属鉱業、採石・砂利採取業 他

- ・ 製造業 (⑤～⑳)
- ⑤ 食料品 - 畜産食料品製造業、水産食料品製造業、精穀・製粉業 他
- ⑥ 繊維 - 製糸業、紡績業、織物・その他の繊維製品製造業
- ⑦ パルプ・紙 - パルプ・紙・紙加工品製造業
- ⑧ 化学 - 基礎化学製品製造業、化学繊維製造業、その他の化学工業
- ⑨ 石油・石炭製品 - 石油製品製造業、石炭製品製造業
- ⑩ 窯業・土石製品 - 窯業・土石製品製造業
- ⑪ 鉄鋼 - 製鉄業、その他の鉄鋼業
- ⑫ 非鉄金属 - 非鉄金属製造業
- ⑬ 金属製品 - 金属製品製造業
- ⑭ 一般機械 - 一般機械器具製造業
- ⑮ 電気機械 - 産業用電気機械器具製造業、民生用電気機械器具製造業 他
- ⑯ 輸送用機械 - 自動車製造業、船舶製造業、その他の輸送用機械製造業
- ⑰ 精密機械 - 精密機械器具製造業
- ⑱ 衣服・身回品 - 衣服・身回品製造業
- ⑲ 製材・木製品 - 製材・木製品製造業
- ⑳ 家具 - 家具製造業
- ㉑ 印刷 - 印刷・製版・製本業
- ㉒ 皮革・皮革製品 - 皮革・皮革製品・毛皮製造業
- ㉓ ゴム製品 - ゴム製品製造業
- ㉔ その他の製造業 - その他の製造業

- ㉕ 建設業 - 建築業、土木業
- ㉖ 電気業 - 電気業
- ㉗ ガス・熱供給業 - ガス・熱供給業
- ㉘ 水道・廃棄物処理業 - 上水道業、工業用水道業、廃棄物処理業 他
- ㉙ 卸売業 - 卸売業
- ㉚ 小売業 - 小売業
- ㉛ 金融・保険業 - 金融業、保険業
- ㉜ 住宅賃貸業 - 住宅賃貸業
- ㉝ その他の不動産業 - 不動産仲介業、不動産賃貸業
- ㉞ 運輸業 - 鉄道業、道路輸送業、水運業、航空運輸業、その他の運輸業
- ㉟ 情報通信業 - 電信・電話業、郵便業、放送業、情報サービス業 他
- ㊱ 公務 - 公務
- ㊲ 公共サービス - 教育、研究、医療・保健衛生、その他の公共サービス業
- ㊳ 対事業所サービス - 広告業、業務用物品賃貸業、自動車・機械修理 他
- ㊴ 対個人サービス - 娯楽業、飲食店、旅館、洗濯・理容・美容・浴場業 他

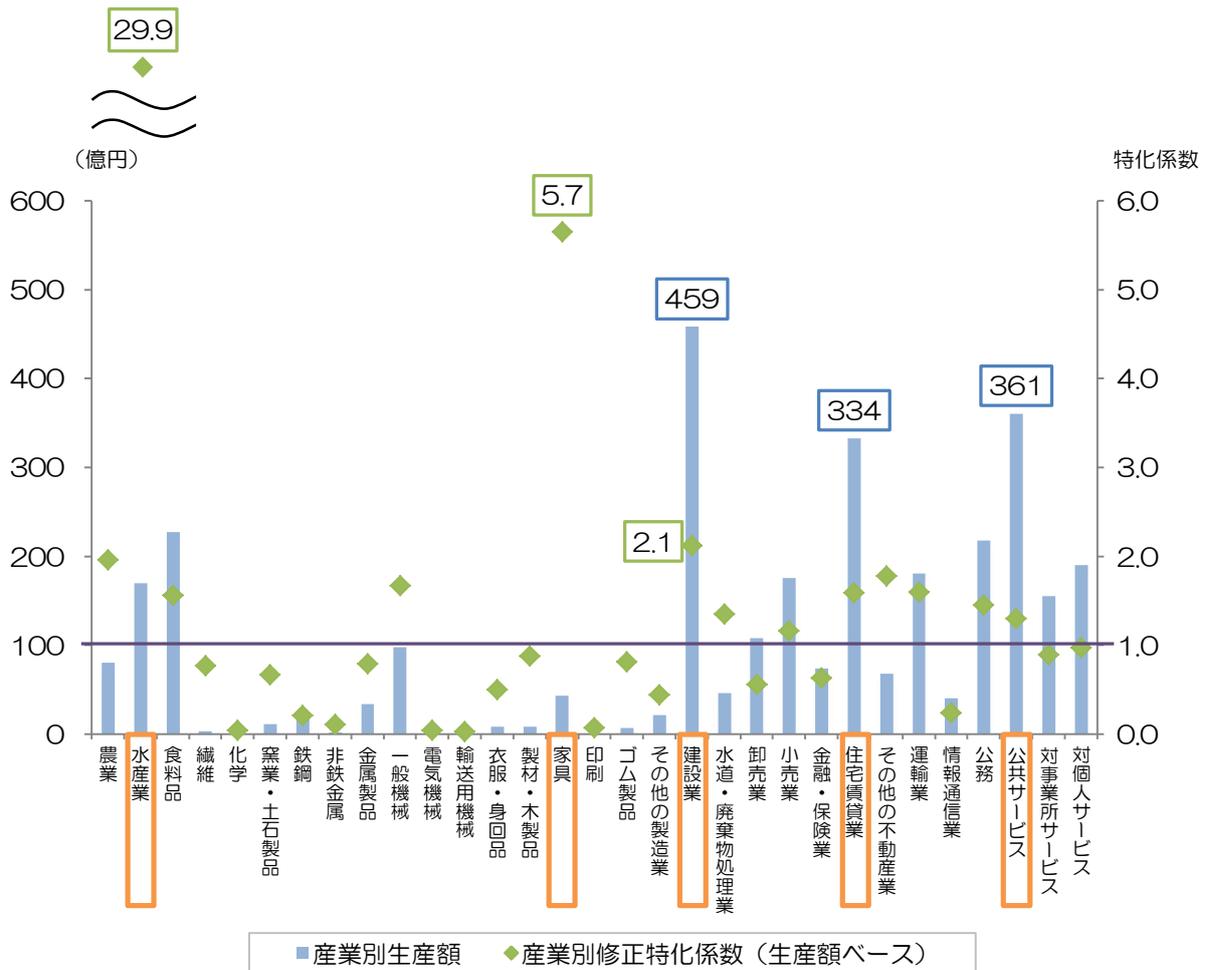
(1) 地域の中で規模の大きい産業、得意な産業

柳川市において、生産額が最も大きい産業は「建設業」であり、次いで、「公共サービス」「住宅賃貸業」の順となっています。

上位3産業に該当する産業は、県全体と同一となっています。

全産業に占める割合が全国平均と比較して高い産業は、地域にとって比較的優位かつ得意な産業であり、柳川市では、「水産業」「家具」「建設業」といえます。

産業別生産額（2013年）



※「内閣府：RESAS」より作成

産業別生産額・上位3産業（2013年）

単位（億円）

	1位		2位		3位	
	産業	生産額	産業	生産額	産業	生産額
柳川市	建設業	459	公共サービス	361	住宅賃貸業	334
八女市	食料品	637	建設業	513	公共サービス	441
筑後市	食料品	447	公共サービス	372	住宅賃貸業	220
大川市	家具	301	公共サービス	244	建設業	216
みやま市	建設業	306	食料品	213	住宅賃貸業	206
大牟田市	化学	1,618	公共サービス	1,150	住宅賃貸業	489
久留米市	公共サービス	2,475	建設業	1,609	住宅賃貸業	1,310
福岡県	公共サービス	34,238	住宅賃貸業	23,336	建設業	22,136

※「内閣府：RESAS」より作成

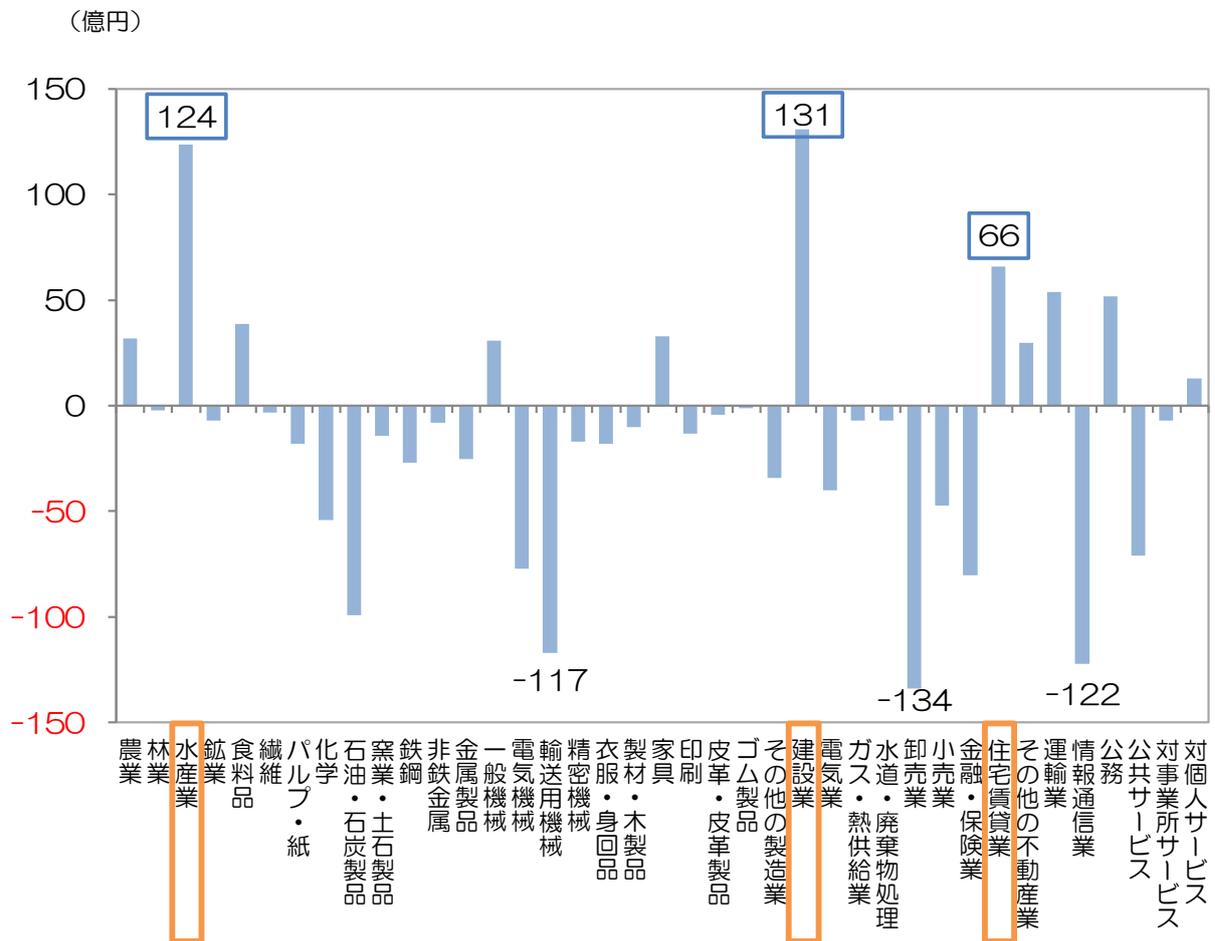
(2) 域外から所得を獲得している産業

地域内の経済循環の流れを太くするためには、地域が個性や強みを生かして生産・販売を行い、地域外からの所得を獲得することが重要です。

純移輸出額がプラス（輸出が輸入を上回っている）の産業は、モノやサービスの購入に関して、地域外への支払い額よりも地域外からの受取り額の方が多く、地域外から所得を獲得できる強みのある産業です。

柳川市において、市外から所得を獲得している産業は、「建設業」「水産業」「住宅賃貸業」であり、これらは、生産額が大きい産業であり、強みのある産業といえます。

産業別純移輸出額（2013年）



※「環境省：地域経済循環分析用データ」より作成

<用語解説>

純移輸出額は、移輸出額から移輸入額を引いた値を示す。

純移輸出額・上位3産業（2013年）

単位（億円）

	1位		2位		3位	
	産業	純移輸出額	産業	純移輸出額	産業	純移輸出額
柳川市	建設業	131	水産業	124	住宅賃貸業	66
八女市	食料品	397	建設業	155	公務	70
筑後市	食料品	233	一般機械	130	公共サービス	101
大川市	家具	289	建設業	102	公務	31
みやま市	建設業	116	食料品	113	農業	87
大牟田市	化学	724	公共サービス	255	窯業・土石製品	239
久留米市	公共サービス	497	建設業	434	対個人サービス	375

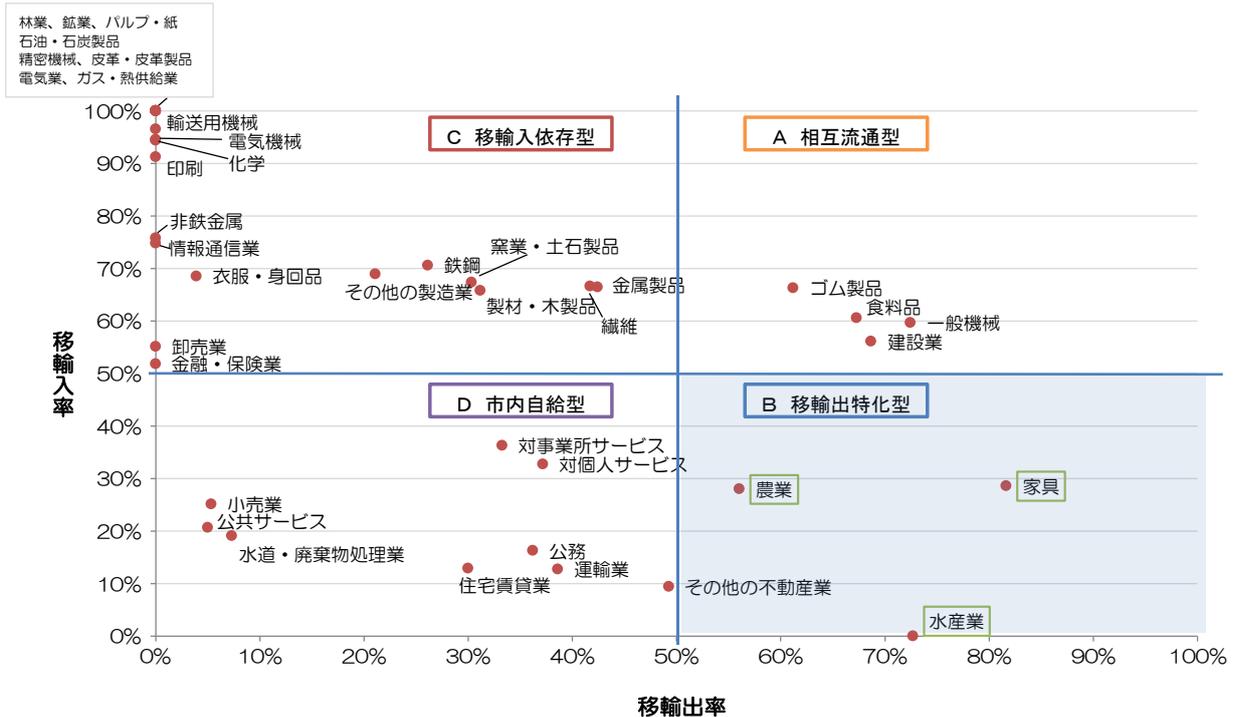
※「内閣府：RESAS」より作成

(3) 地域間取引の収支からみた産業類型

移輸出率、移輸入率の組み合わせによる分類においては、市内の需要をある程度満たしながら移輸出率が高い産業であり、市外から稼ぐ力が強い産業といえる「移輸出特化型産業」に該当する産業が、地域にとって重要な産業といえます。

柳川市では「家具」「水産業」「農業」が該当します。

産業別移輸入率・移輸出率（2013年）



※「環境省：地域経済循環分析用データ」より作成

<用語解説>

- A. 相互流通型（移輸出率・移輸入率がともに50%以上）
市内で生産したものの多くを移輸出し、市内で需要するものの多くを移輸入している産業
- B. 移輸出特化型（移輸出率50%以上かつ移輸入率50%未満）
市内の需要に比べ、比較的生産額が大きく、市内の需要をある程度満たしながら移輸出率が高い産業で、市外から稼ぐ力が強い産業
- C. 移輸入依存型（移輸出率50%未満かつ移輸入率50%以上）
市内の需要に比べ、比較的生産額が小さく、移輸入に依存している産業
- D. 市内自給型（移輸出率・移輸入率がともに50%未満）
財・サービスの特性から移輸出入がともに起こりにくい産業や属地性の強い産業

(4) 地域で所得を稼いでいる産業

付加価値額は、地域住民の所得や地方税収の源泉となることから、付加価値額の大きい産業は地域において中心的な産業といえます。

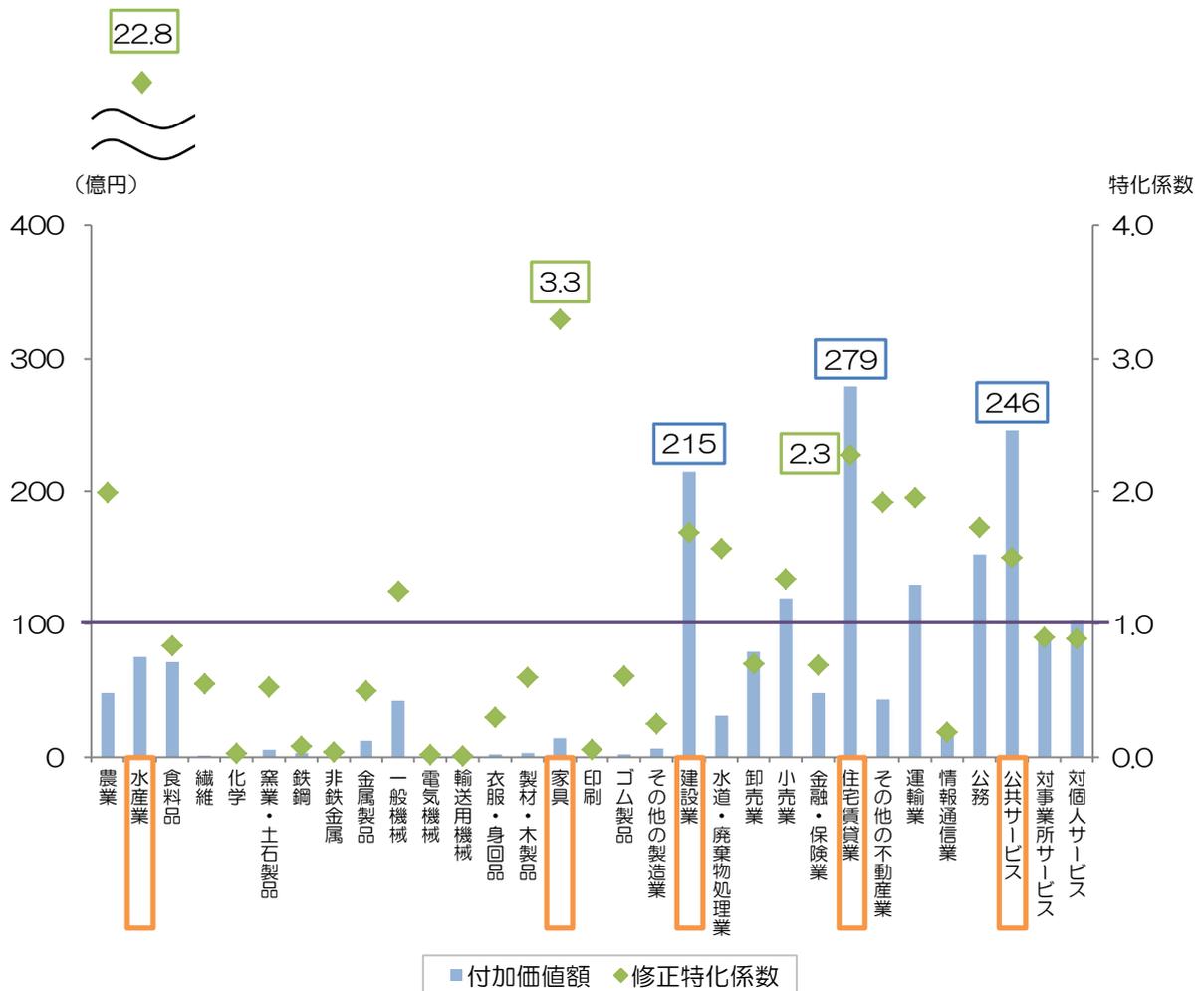
柳川市において、付加価値額を最も生み出しているのは「住宅賃貸業」であり、次いで、「公共サービス」「建設業」の順となっています。

「住宅賃貸業」「公共サービス」の付加価値額の高さについては、筑後地域の他市や県全体と同様の傾向です。

また、全産業に占める割合が全国平均と比較して高い産業は、地域にとって比較的優位な産業であり、得意な産業です。

柳川市が全国と比較して得意としている産業は、「水産業」「家具」「住宅賃貸業」といえます。

産業別付加価値額（2013年）



※「内閣府：RESAS」より作成

付加価値額・上位3産業（2013年）

単位（億円）

	1位		2位		3位	
	産業	付加価値額	産業	付加価値額	産業	付加価値額
柳川市	住宅賃貸業	279	公共サービス	246	建設業	215
八女市	公共サービス	296	住宅賃貸業	250	建設業	238
筑後市	公共サービス	257	住宅賃貸業	184	食料品	157
大川市	公共サービス	159	住宅賃貸業	124	家具	104
みやま市	住宅賃貸業	172	建設業	144	公共サービス	127
大牟田市	公共サービス	742	住宅賃貸業	409	化学	315
久留米市	公共サービス	1,634	住宅賃貸業	1,096	対事業所サービス	785
福岡県	公共サービス	22,919	住宅賃貸業	19,536	卸売業	15,184

※「内閣府：RESAS」より作成

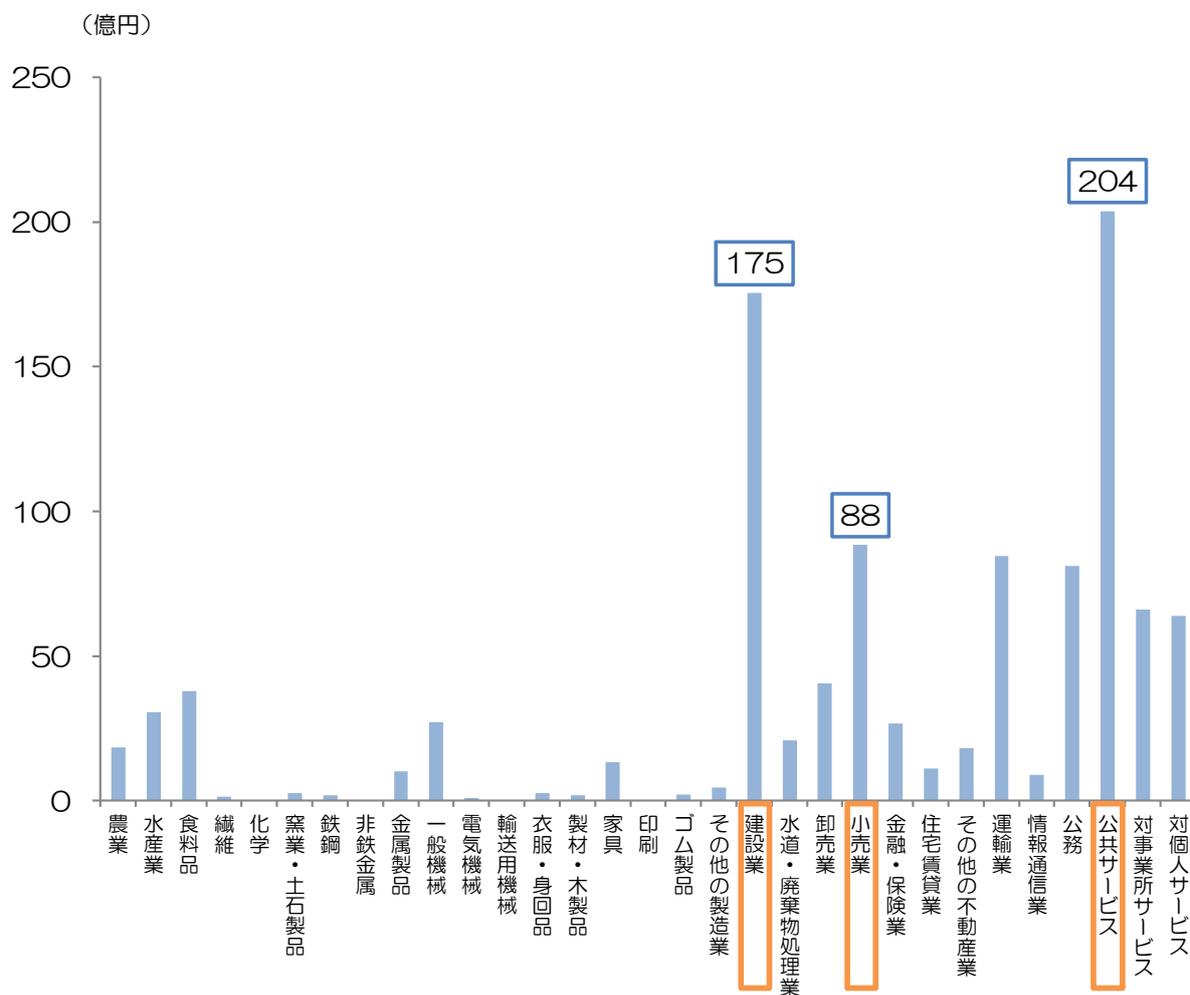
(5) 住民の生活を支えている産業

地域で生み出された付加価値は、雇用者所得とその他所得（営業利益、利子、賃料他）に分配され、雇用者所得は地域住民の生活を直接支えています。

柳川市において、住民の生活を支える雇用者所得が最も高い産業は、「公共サービス」であり、次いで、「建設業」「小売業」の順となっています。

「公共サービス」「建設業」の雇用者所得の高さについては、筑後地域の他市や県全体においても同様の傾向がみられます。

産業別雇用者所得（2013年）



※「内閣府：RESAS」より作成

産業別雇用者所得・上位3産業（2013年）

単位（億円）

	1位		2位		3位	
	産業	雇用者所得	産業	雇用者所得	産業	雇用者所得
柳川市	公共サービス	204	建設業	175	小売業	88
八女市	公共サービス	244	建設業	194	食料品	99
筑後市	公共サービス	213	食料品	90	建設業	78
大川市	公共サービス	130	家具	92	建設業	82
みやま市	建設業	117	公共サービス	106	公務	48
大牟田市	公共サービス	607	対個人サービス	158	対事業所サービス	156
久留米市	公共サービス	1,349	建設業	604	対事業所サービス	535
福岡県	公共サービス	18,915	対事業所サービス	8,767	建設業	8,332

※「内閣府：RESAS」より作成

(6) 地域の産業構造

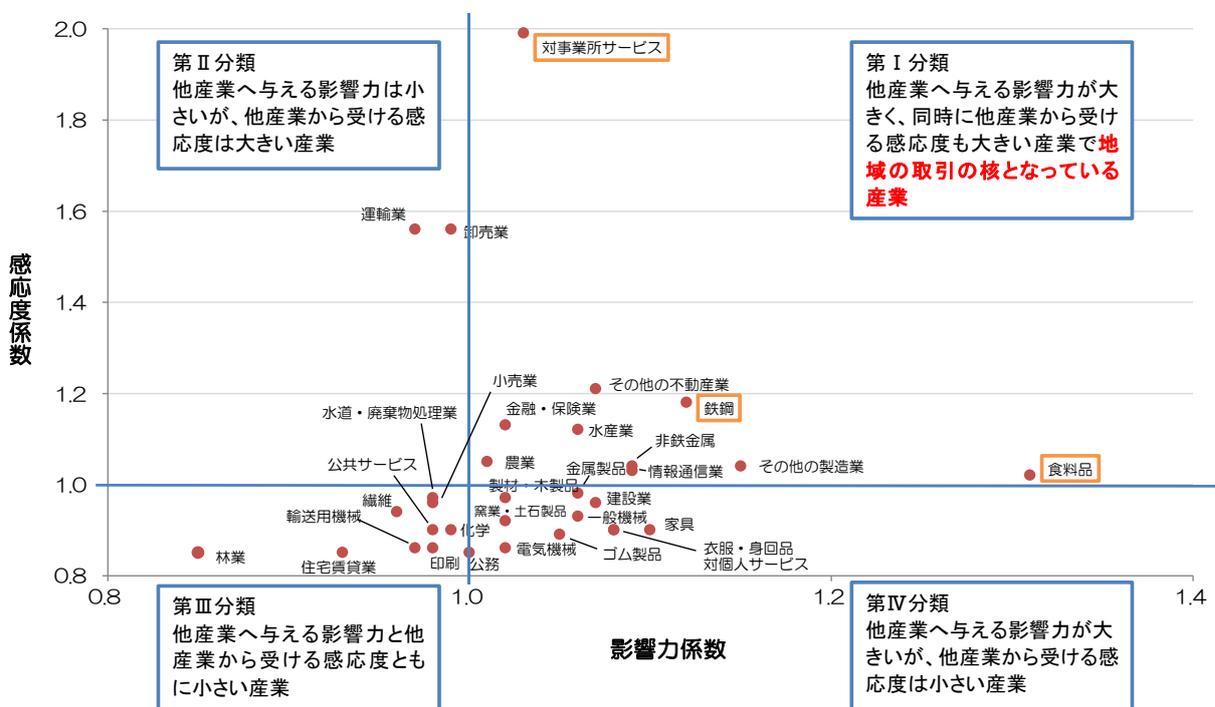
① 影響力係数と感応度係数

消費や投資の増加によって他産業に大きな影響を与える産業は何か、また、逆に影響を受ける産業は何かを、影響力係数と感応度係数から把握することが可能です。

柳川市において、地域の取引の核となっている産業は、「対事業所サービス」「食料品」「鉄鋼」です。

特に「食料品」は、影響力係数が最も高い産業であり、消費や投資の増加が、全産業（調達先）に与える影響が強い産業です。

産業別影響力係数・感応度係数（2013年）



※「環境省：地域経済循環分析用データ」より作成

<用語解説>

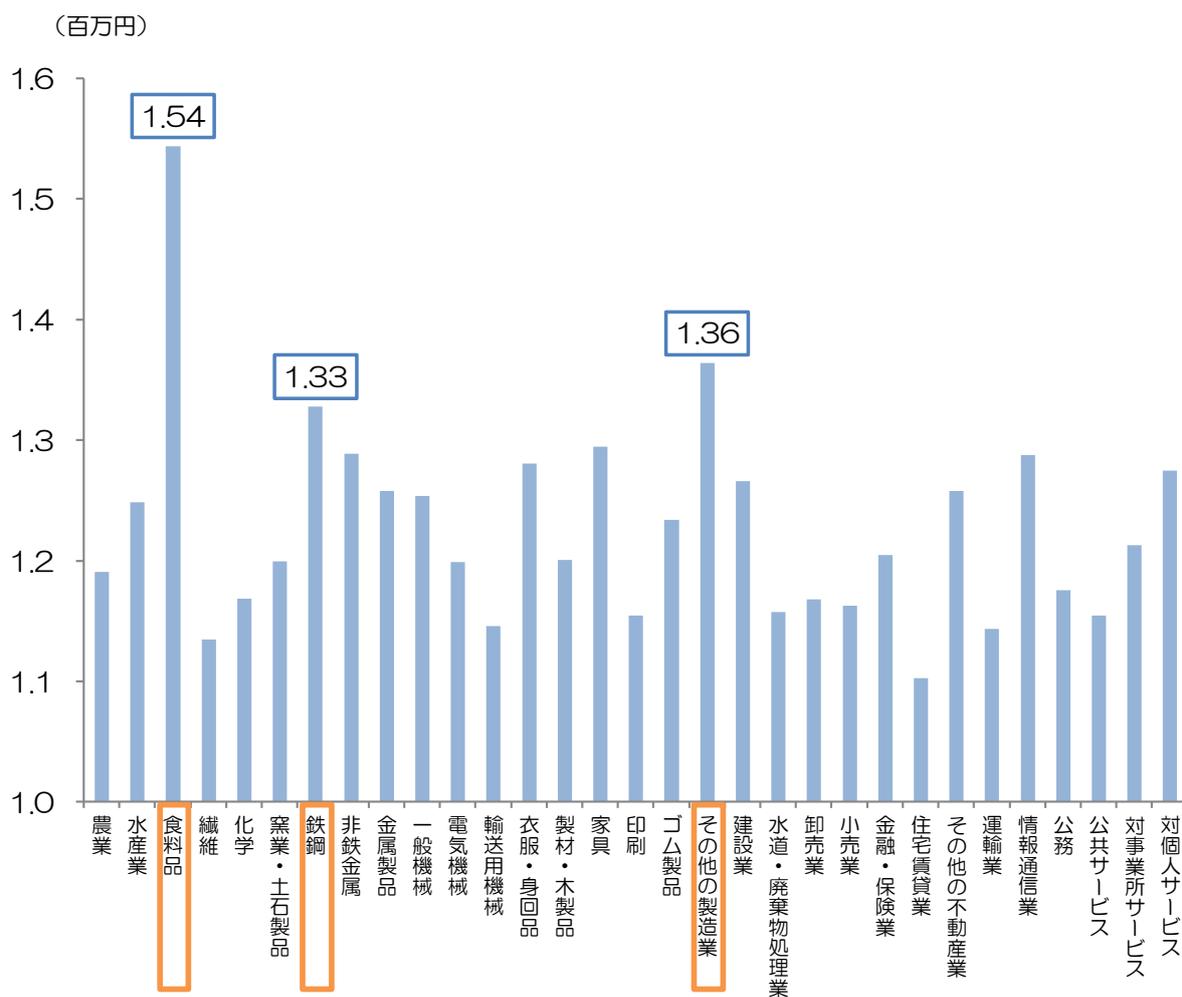
影響力係数は消費や投資の増加が、全産業（調達先）に与える影響の強さ、感応度係数は全産業（販売先）の消費や投資の増加により受ける影響の強さをそれぞれ示す。

② 生産誘発額

地域の産業間や地域内外の取引構造を分析することで、地元への波及効果を把握することが可能です。

各産業の消費や投資が100万円増加したときの生産誘発効果は、「食料品」「その他の製造業」「鉄鋼」の順に高くなっており、これらの産業は優先的に産業振興に取り組むべき産業であるといえます。

産業別生産誘発額（2013年）



※「環境省：地域経済循環分析用データ」より作成

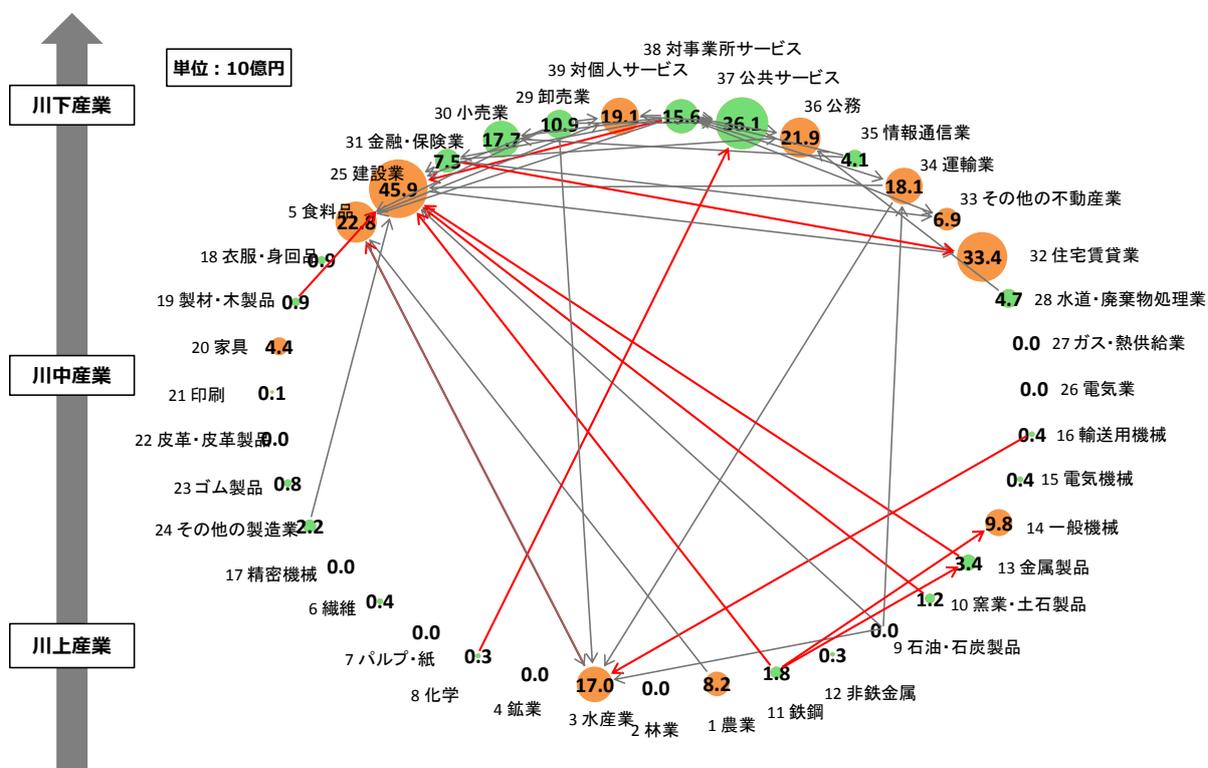
※その他の製造業は、「がん具・運動用具製造業」「畳等生活雑貨製品製造業」「貴金属・宝石製品製造業」「装身具・装飾品・ボタン・同関連品製造業」「時計・同部分品製造業」「楽器製造業」「ペン・鉛筆・絵画用品・その他の事務用品製造業」「漆器製造業」等を示す

③ 地域の取引構造

「食料品」は、「水産業」「農業」等の川上産業から調達を行い、製品を市外に販売していますが、「水産業」「農業」ともに純移輸出額がプラスであり、食品材料の生産から食料品製造までの工程を地域内取引で完結する流れがある程度できているといえます。

一方、「建設業」は、「対事業所サービス」「金属製品」「卸売業」等から広く調達を行い、製品を市外に販売していますが、調達元の多くの産業の純移輸出額がマイナスであり、建築材料の生産から建設までの工程を地域内取引で完結する流れができていないといえます。

産業間取引構造 (2013年)



- 純移輸出額がプラスの産業(数値及び円の大きさは当該産業の地域内生産額)
- 純移輸出額がマイナスの産業(数値及び円の大きさは当該産業の地域内生産額)
- 当該産業(矢印始点)が他の産業(矢印終点)に販売した財・サービスの総額が地域内総生産額の0.2%以上を占める取引
- 当該産業(矢印始点)が他の産業(矢印終点)に販売した財・サービスの総額が地域内総生産額の0.2%以上を占める、かつ当該産業の地域内生産額の30%以上を占める取引

※「環境省：地域経済循環分析用データ」より作成

<用語解説>
川上産業は商品の素となる素材を生産する産業、川中産業は素材を商品へ加工する産業、川下産業は消費者へ商品やサービスを提供する産業をそれぞれ示す。

VI 将来展望

1 目指すべき本市の将来展望

これまで見てきたとおり、本市の人口は、今後急激に減少することが予測されており、地域社会や経済に大きな影響が出ることが予想されます。そのため、少しでも人口減少問題を和らげ、将来にわたって持続可能な人口規模や構成を維持していくことが必要です。

本市の人口減少の要因は大きく二つにまとめられます。

- ① 自然動態：死亡者数が増加する一方で、出生数が減少する
- ② 社会動態：市外への転出者数が、市外からの転入者数を上回っている

人口減少を少しでも抑制するためには、この2つの傾向を改善させていかなければなりません。本市においては、総合計画（総合戦略）に記載した各施策に取り組むことで、

- ◆ 自然動態においては**出生者数の増加、健康寿命の延伸による死亡者数の減少**
- ◆ 社会動態においては**若年層を中心とした転出抑制・転入促進**

を図ることとします。

これらが実現した場合、人口推計結果がどのように変化するかを以下で示します。

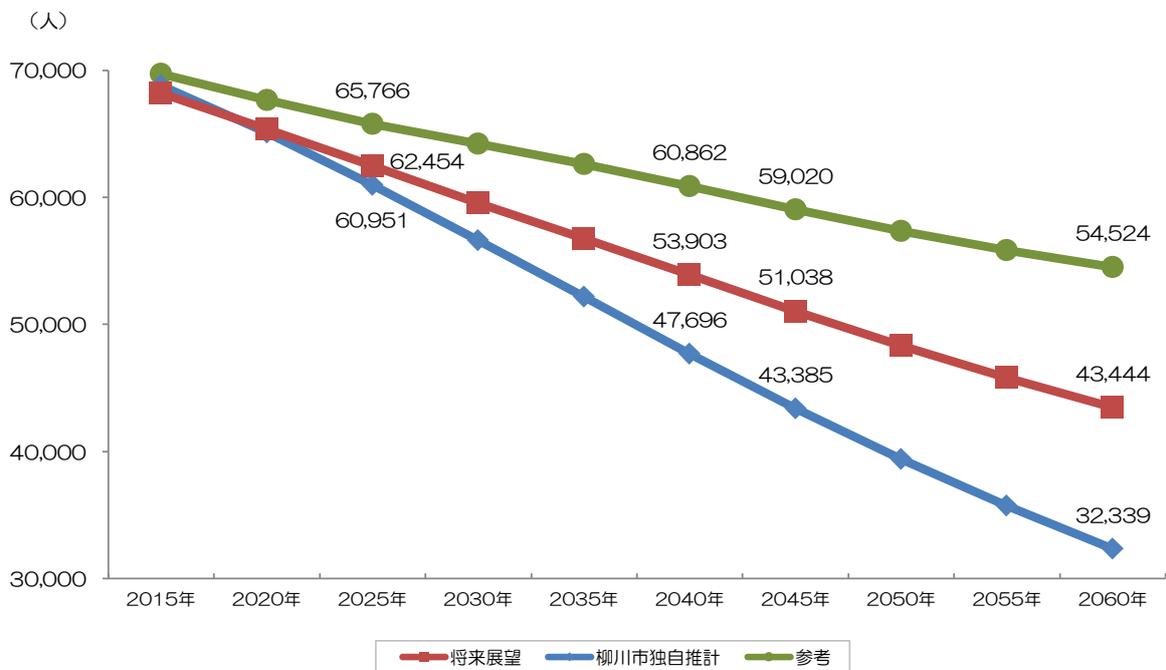
- A 出生数が増加する：**合計特殊出生率**が2040年には全国レベルで国民が希望する**1.80**まで上昇する（以降1.80を維持）。
- B 健康寿命が延び、より長生きする：**死亡率**を現状より**毎年2%改善**させる（5年間で死亡者数を現状よりも10%抑制し、以降10%抑制を維持）。
- C 若年層を中心に転出超過が抑制され、転入者が増える：**転出が転入を上回る（転出超過）**数を**毎年5%ずつ改善**していく（5年毎に25%ずつ抑制）。

この結果、本市の将来展望は次頁以降のとおりとなります。

本市の人口の将来展望については、2040年には53,903人、2060年には43,444人となります。

全く施策を行わない場合の推計（柳川市独自推計）と比較すると、2040年で6,207人、2060年で11,105人の増加となり、施策に一定の効果があることがわかります。

人口の将来展望



<参考について>

参考の前提条件は社人研推計から以下の点を変更しています。

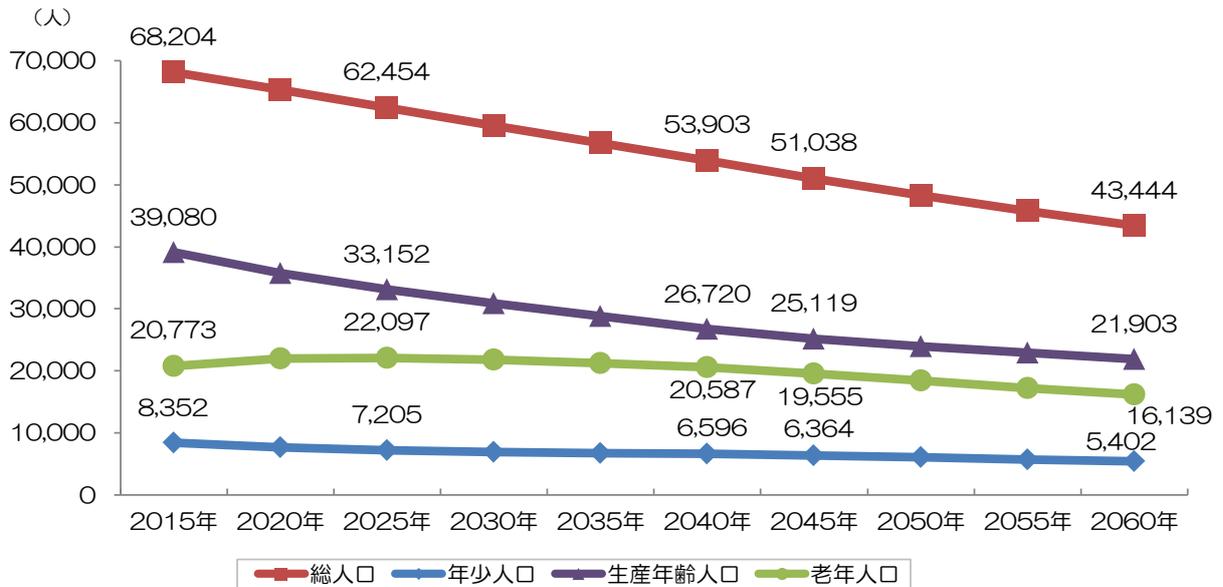
- ・ 合計特殊出生率については2030年までに人口置換水準（2.1）まで上昇（以降2.1を維持）
- ・ 転出超過についてはゼロで推移

⇒いずれも相当に高い目標であり、実現可能性には乏しいと考えられます。

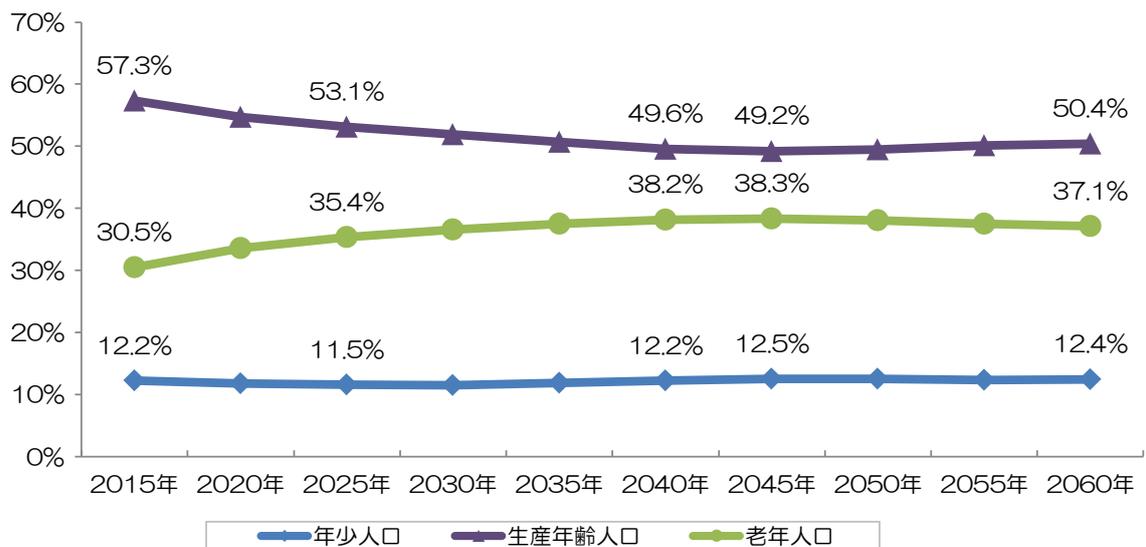
将来展望の人口を「年少人口（0～14歳）」、「生産年齢人口（15～64歳）」、「老年人口（65歳以上）」の3区分に分けて、その推移を柳川市独自推計と比較すると、2040年時点で年少人口が930人、生産年齢人口が2,773人、老年人口が2,504人の増加となります。

人口の割合を柳川市独自推計と比較すると、2040年時点で年少人口が+0.3%、生産年齢人口が▲0.6%、老年人口が+0.3%となります。

年齢3区分別人口の推移（将来展望）



年齢3区分別人口比率の推移（将来展望）



Ⅶ 市民アンケート結果

1 アンケート概要

(1) 調査概要

① 趣旨

2020年度から始まる「第2次柳川市総合計画～後期基本計画～」の策定に向け、市民の生活の実態やまちづくりに対する考えを把握し、計画策定の基礎資料とする。

② 対象者

2018年11月1日現在の住民基本台帳から柳川市在住の19歳以上の市民1,000人を無作為抽出

③ 回収方法及びスケジュール

郵送配布・郵送回収

・調査時期 2018年11月15日～12月3日

④ 分析方法

・単純集計

・クロス集計（性別、年代別、就業地別、住居所有別、転入種別、小学校区別、中学校区別）

⑤ 回収数及び回収率

・全回答数 536 件、回収率 53.6%

(2) 調査結果概要

① 回答者の属性

- ・ 世帯構成は、2世代世帯が52.8%、夫婦のみが20.5%、3世代世帯が15.1%。
- ・ 出身地は、柳川市が68.1%、柳川市外が31.7%。
- ・ 居住年数は、20年以上が81.0%。
- ・ 住まいは、持ち家・分譲マンションが82.8%、賃貸住宅・アパートが14.4%。

② 就業状況

- ・ 就業率は75.2%で、男性の就業率が高い。
- ・ 雇用形態は、正規雇用が48.6%、非正規雇用が29.8%、自営業が18.1%で、女性及び60歳代以上の非正規雇用割合が高い。
- ・ 職業職種は、販売・サービス系職種が15.9%で最も多い。
- ・ 就業地は市内が過半数を占めるが、自分の働きたい仕事（職種）だったために市内で就業している割合は2割強に留まる。通勤手段は自動車が7割以上を占め、公共交通機関を利用している割合は市外就業者でも1割強に留まる。

③ 転入出

- ・ 転出経験は、ありは31.3%。
- ・ 転出先は、県内が47.1%、県外が52.4%で、男性の県外の割合が高い。
- ・ 転出理由は、就職が40.5%で最も多い。
- ・ 転入経験は、ありは53.9%。
- ・ 転入元は、県内が56.8%、県外が32.5%。
- ・ 転入理由は、結婚が24.2%で最も多い。

④ 住みやすさの満足度・重要度

- ・ 居住する小学校区の住環境は、満足している層が50.0%で、満足していない層の17.7%を上回っている。
- ・ 満足度が低く、重要度が高い（重点改善）項目は、「地震などの災害への安全対策」「公共交通の利便性」「水辺の景観や掘割の保全状況」。
- ・ まちづくりに対する自由意見については、「生活環境」や「行政全般」に関する要望が多く寄せられた。

⑤ 定住意向・郷土愛

- ・ 住み続けたい人は 64.0%。
- ・ 愛着や誇りを持っている割合は 72.8%で、20 歳代以下では 82.0%と高い。
- ・ 柳川市に住むことを友人や知人に勧める割合は 28.0%で、勧めない割合 16.2%を上回る。20 歳代以下の勧める割合は 34.0%と高い。
- ・ 柳川市の自慢できるところは、「観光」に関するものが最も多い。
- ・ 柳川市への定住意向がある市民の割合が 6 割以上、愛着や誇りを持つ市民の割合が 7 割以上に達しているが、住むことを勧める割合は 3 割弱。20 歳代以下は、定住意向は低いが、愛着や定住を勧める割合は高い。

⑥ その他

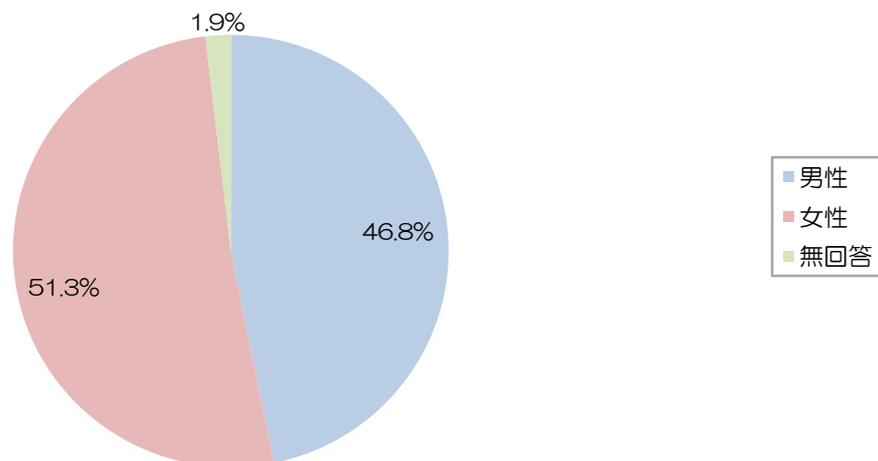
- ・ 直近 1 年間に川下りを経験した割合は 12.5%。
- ・ 地域活動やボランティアに参加している割合は 31.0%で、参加している活動内容は環境美化に関する活動が最も多い。
- ・ コミュニティバスを認知している人の割合は 47.6%。
- ・ 公共交通機関の利用意向がある人の割合は、60.1%。

2 各設問調査結果

(1) 回答者の属性

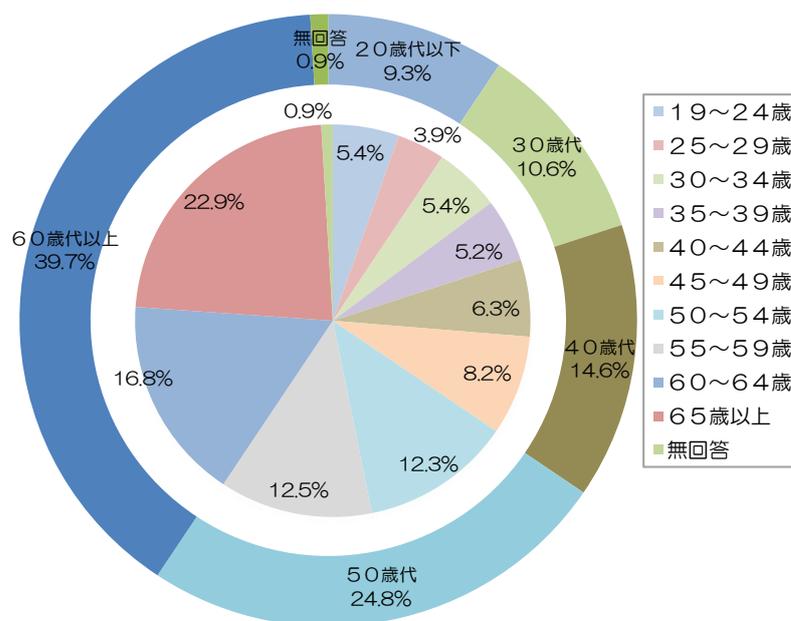
① 性別

問1 あなたの性別についてお選びください。【〇は1つ】



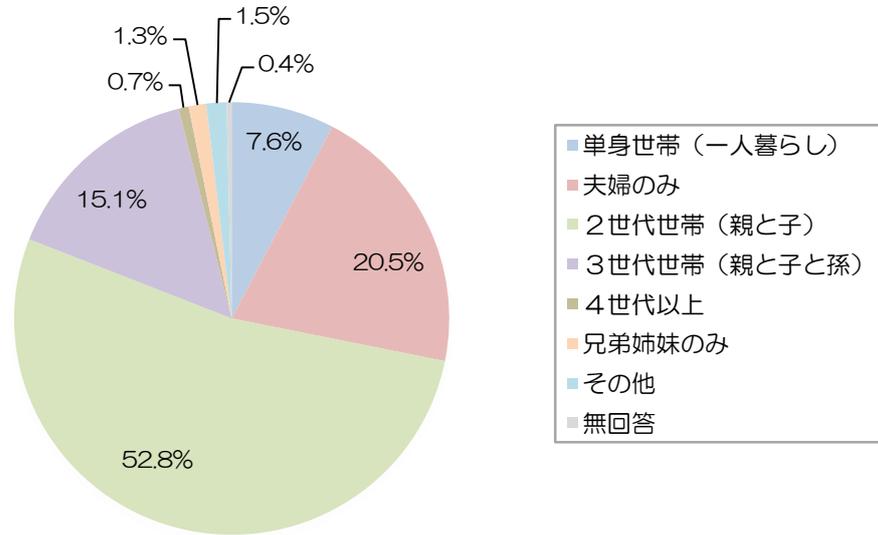
② 年齢

問2 あなたの年齢を次の中からお選びください。【〇は1つ】



③ 世帯構成

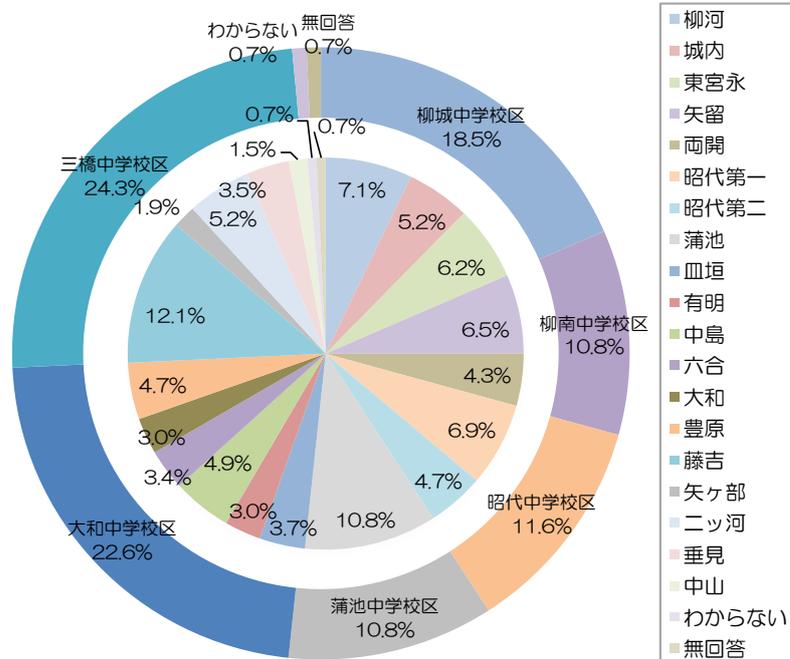
問3 あなたの世帯構成について次の中からお選びください。【〇は1つ】



※その他の回答内容：「姪と同居」「知人と同居」他

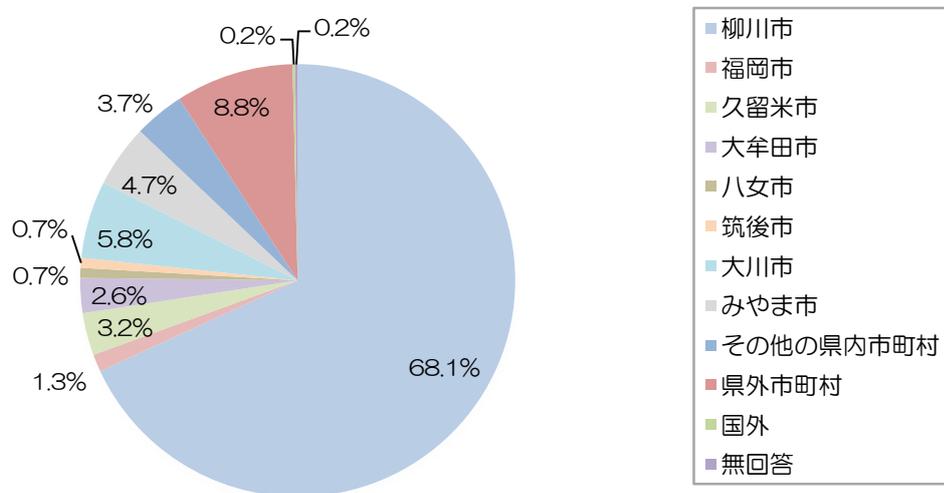
④ 居住校区

問4 あなたの住んでいる小学校区を次の中からお選びください。【〇は1つ】



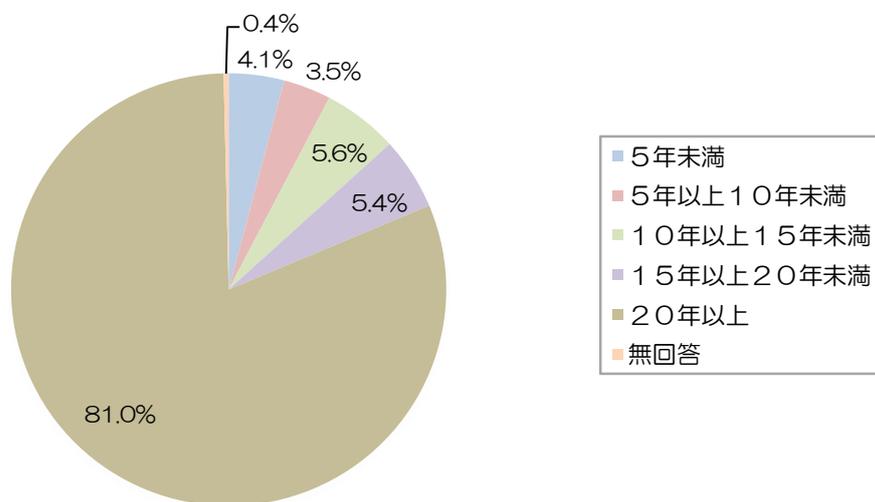
⑤ 出身地

問5 あなたの出身地を次の中から選びください。【○は1つ】



⑥ 居住年数

問6 あなたはトータルで柳川市に住んで何年になりますか。【○は1つ】

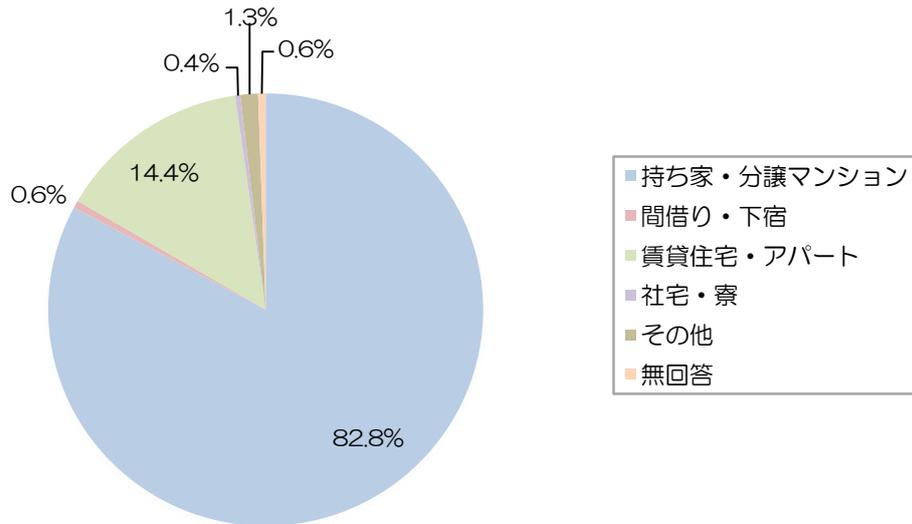


⑦ 住まい

住まいについては、全体では「持ち家・分譲マンション」が 82.8%と最も高く、次いで、「賃貸住宅・アパート」の 14.4%となっています。

転入種別では、I Jターンの「賃貸住宅・アパート」の割合が 24.7%となっており、他の転入種別と比較して高くなっています。

問7 あなたのお住まいを次の中からお選びください。【○は1つ】



※その他の回答内容：「親族の所有」

	単純集計	転入種別		
	全体	なし	Uターン	IJターン
調査数	536 100.0%	219 100.0%	141 100.0%	170 100.0%
持ち家・分譲マンション	444 82.8%	192 87.7%	126 89.4%	122 71.8%
間借り・下宿	3 0.6%	1 0.5%	0 0.0%	2 1.2%
賃貸住宅・アパート	77 14.4%	20 9.1%	15 10.6%	42 24.7%
社宅・寮	2 0.4%	0 0.0%	0 0.0%	2 1.2%
その他	7 1.3%	5 2.3%	0 0.0%	2 1.2%
無回答	3 0.6%	1 0.5%	0 0.0%	0 0.0%

<用語解説>

Uターンは、どこか別の地域へ移り住み、その後また元の地方へ戻り住むこと、Iターンは、主に生まれ育った地域（主に大都市）からどこか別の地方へ移り住むこと、Jターンは、地方からどこか別の地域（主に大都市）に移り住み、その後生まれ育った地方近くの（大都市よりも規模の小さい）地方大都市圏や中規模な都市へ戻り住むことをそれぞれ示す。

本集計においては、柳川市出身者のうち、転入出経験がない方を「なし」、ある方を「Uターン者」、柳川市外の出身者を「I Jターン者」とした。

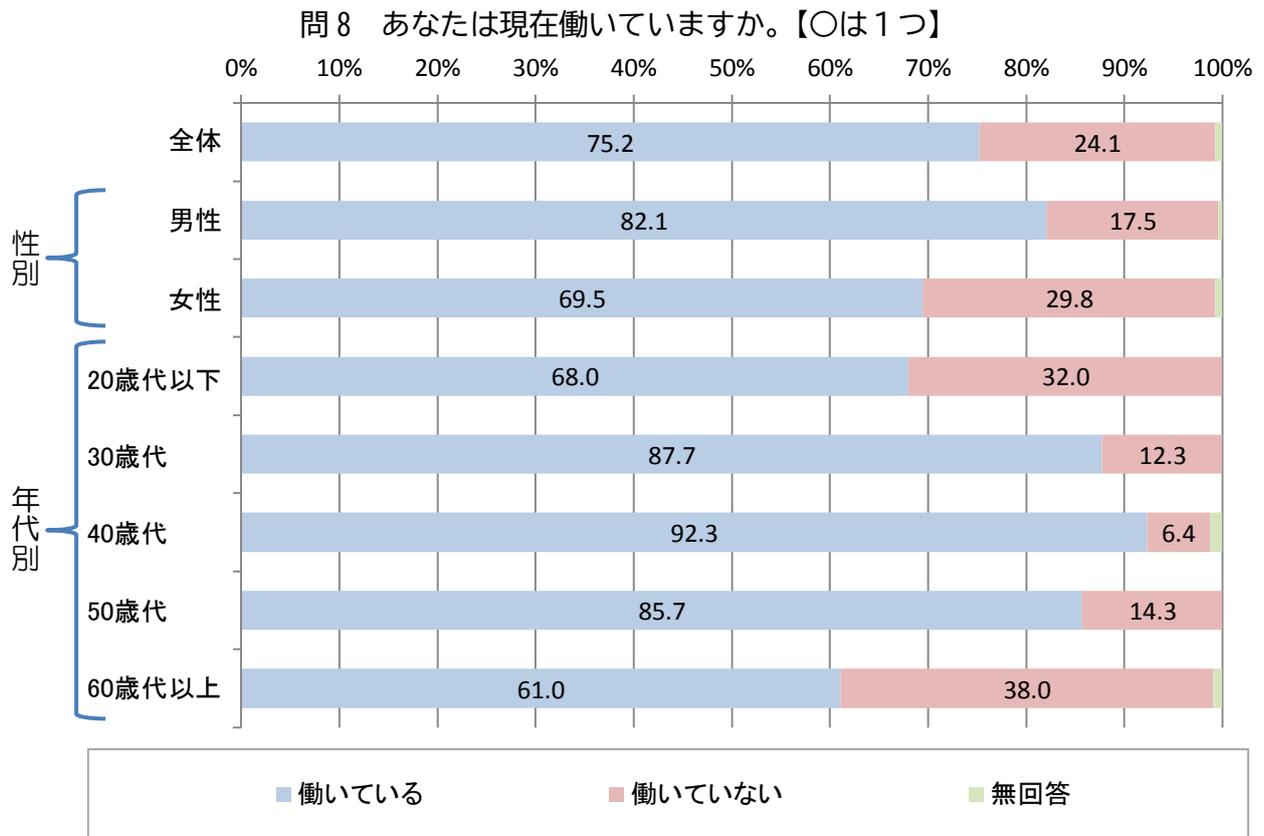
(2) 就業状況

① 就業の有無

就業の有無については、全体では「働いている」が75.2%、「働いていない」が24.1%となっています。

性別では、男性の「働いている」の割合が82.1%となっており、女性と比較して10ポイント以上高くなっています。

年代別では、いずれの年代も「働いている」の割合が「働いていない」を上回っていますが、40歳代をピークに年代が高くなるほど「働いている」の割合が低下しています。



	単純集計	性別		年代別				
	全体	男性	女性	20歳代以下	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代以上
調査数	536	251	275	50	57	78	133	213
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
働いている	403	206	191	34	50	72	114	130
	75.2%	82.1%	69.5%	68.0%	87.7%	92.3%	85.7%	61.0%
働いていない	129	44	82	16	7	5	19	81
	24.1%	17.5%	29.8%	32.0%	12.3%	6.4%	14.3%	38.0%
無回答	4	1	2	0	0	1	0	2
	0.7%	0.4%	0.7%	0.0%	0.0%	1.3%	0.0%	0.9%

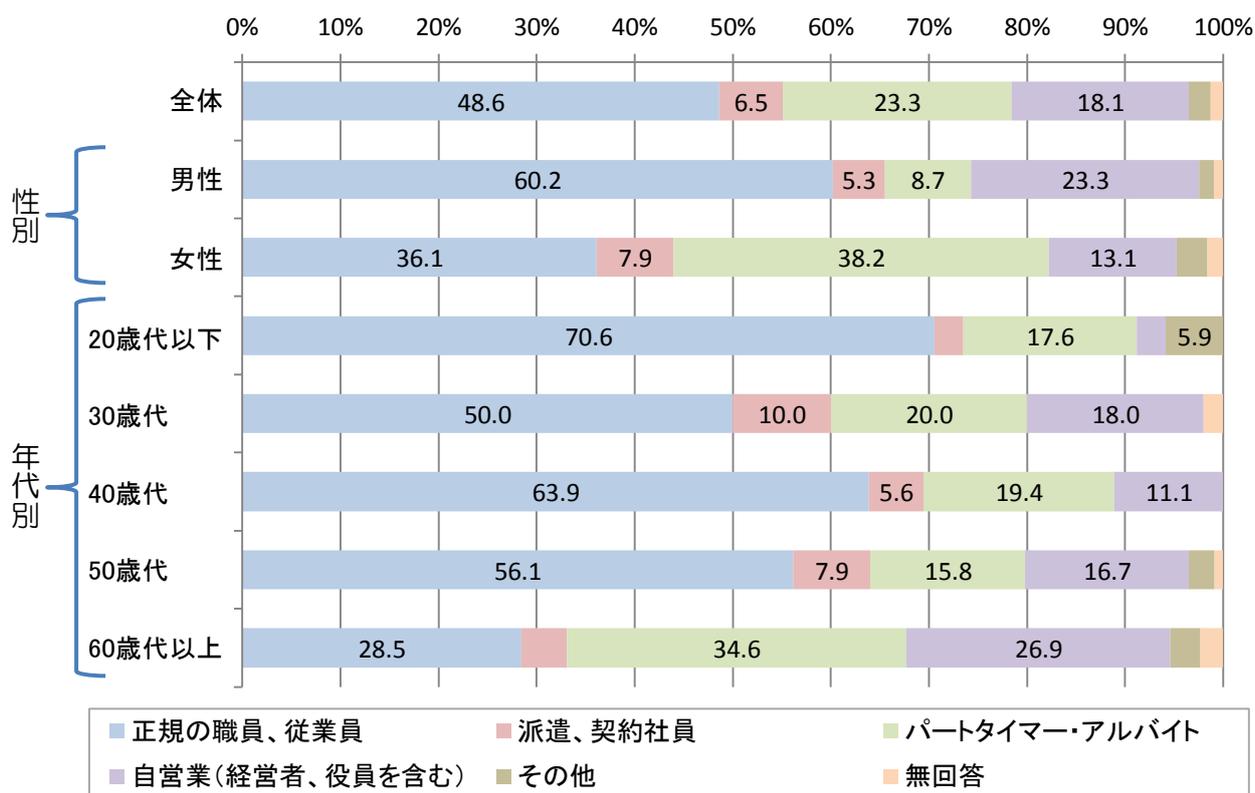
② 雇用形態

雇用形態については、全体では「正規の職員、従業員」が48.6%と最も高く、次いで、「パートタイマー・アルバイト」の23.3%、「自営業（経営者、役員を含む）」の18.1%の順となっています。

性別では、男性は「正規の職員、従業員」（60.2%）、女性は「パートタイマー・アルバイト」（38.2%）の割合がそれぞれ最も高くなっています。

自営業（経営者、役員を含む）が、市内で働き、持ち家に住んでいる傾向がみられます。

問 8-1 現在、どのような雇用形態で働いていますか。【○は1つ】



※その他の回答内容：「嘱託職員」「就労支援B型（障害者で雇用契約がないもの）」

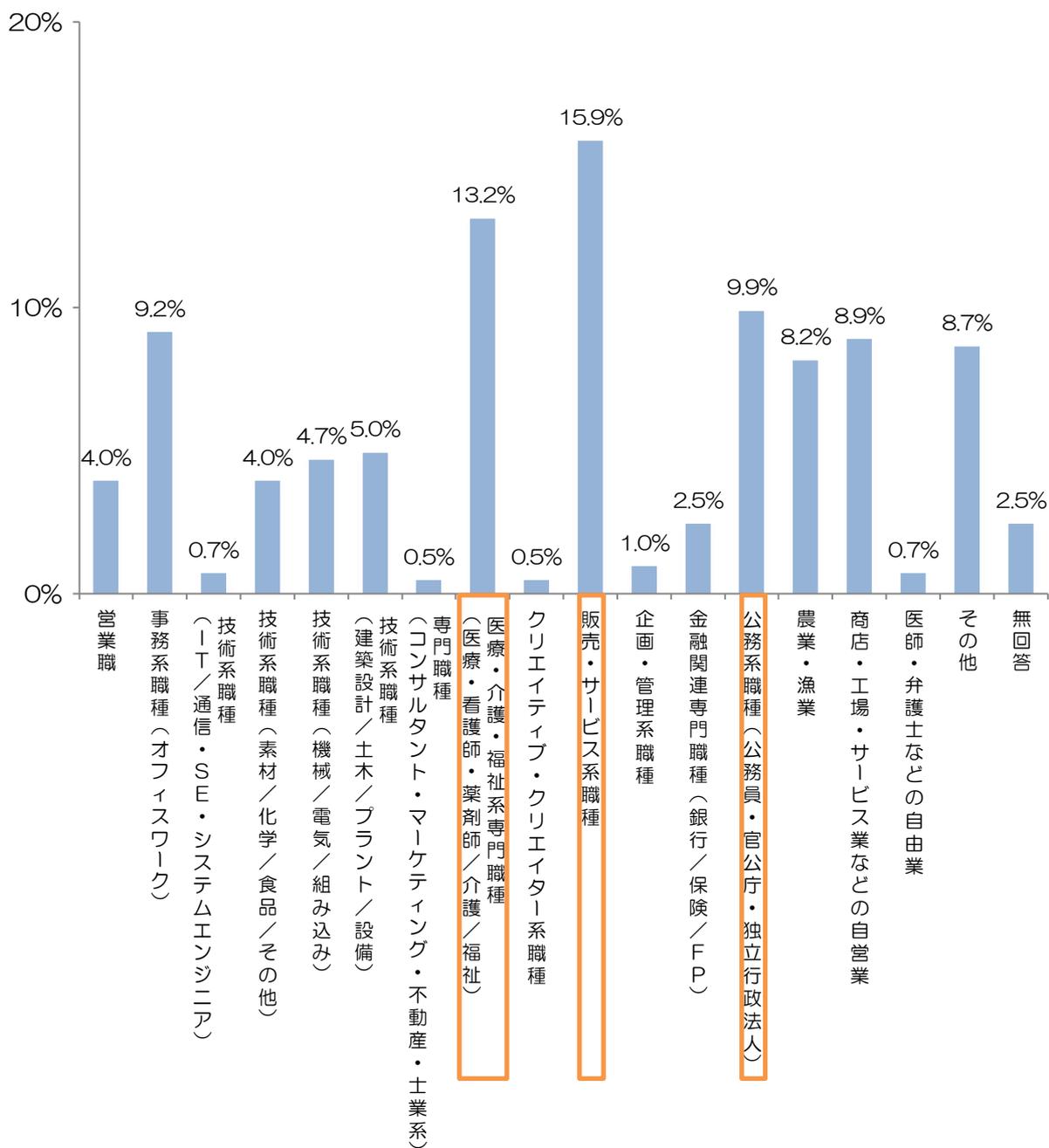
	単純集計	性別		年代別					就業地別		住居所有別	
	全体	男性	女性	20歳代以下	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代以上	市内	市外	持ち家	持ち家以外
調査数	403	206	191	34	50	72	114	130	218	182	325	78
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
正規の職員、従業員	196	124	69	24	25	46	64	37	88	108	148	48
	48.6%	60.2%	36.1%	70.6%	50.0%	63.9%	56.1%	28.5%	40.4%	59.3%	45.5%	61.5%
派遣、契約社員	26	11	15	1	5	4	9	6	7	19	20	6
	6.5%	5.3%	7.9%	2.9%	10.0%	5.6%	7.9%	4.6%	3.2%	10.4%	6.2%	7.7%
パートタイマー・アルバイト	94	18	73	6	10	14	18	45	50	44	75	19
	23.3%	8.7%	38.2%	17.6%	20.0%	19.4%	15.8%	34.6%	22.9%	24.2%	23.1%	24.4%
自営業（経営者、役員を含む）	73	48	25	1	9	8	19	35	63	9	69	4
	18.1%	23.3%	13.1%	2.9%	18.0%	11.1%	16.7%	26.9%	28.9%	4.9%	21.2%	5.1%
その他	9	3	6	2	0	0	3	4	6	2	9	0
	2.2%	1.5%	3.1%	5.9%	0.0%	0.0%	2.6%	3.1%	2.8%	1.1%	2.8%	0.0%
無回答	5	2	3	0	1	0	1	3	4	0	4	1
	1.2%	1.0%	1.6%	0.0%	2.0%	0.0%	0.9%	2.3%	1.8%	0.0%	1.2%	1.3%

③ 職業・職種

職業・職種については、全体では「販売・サービス系職種」が15.9%と最も高く、次いで、「医療・介護・福祉系専門職種（医療・看護師・薬剤師／介護／福祉）」の13.2%、「公務系職種（公務員・官公庁・独立行政法人）」の9.9%の順となっています。

柳川市の特徴的な産業である「農業・漁業」は8.2%となっています。

問 8-2 どのような職業・職種で働いていますか。【〇は1つ】



※その他の回答内容：「製造業」「運送業」他

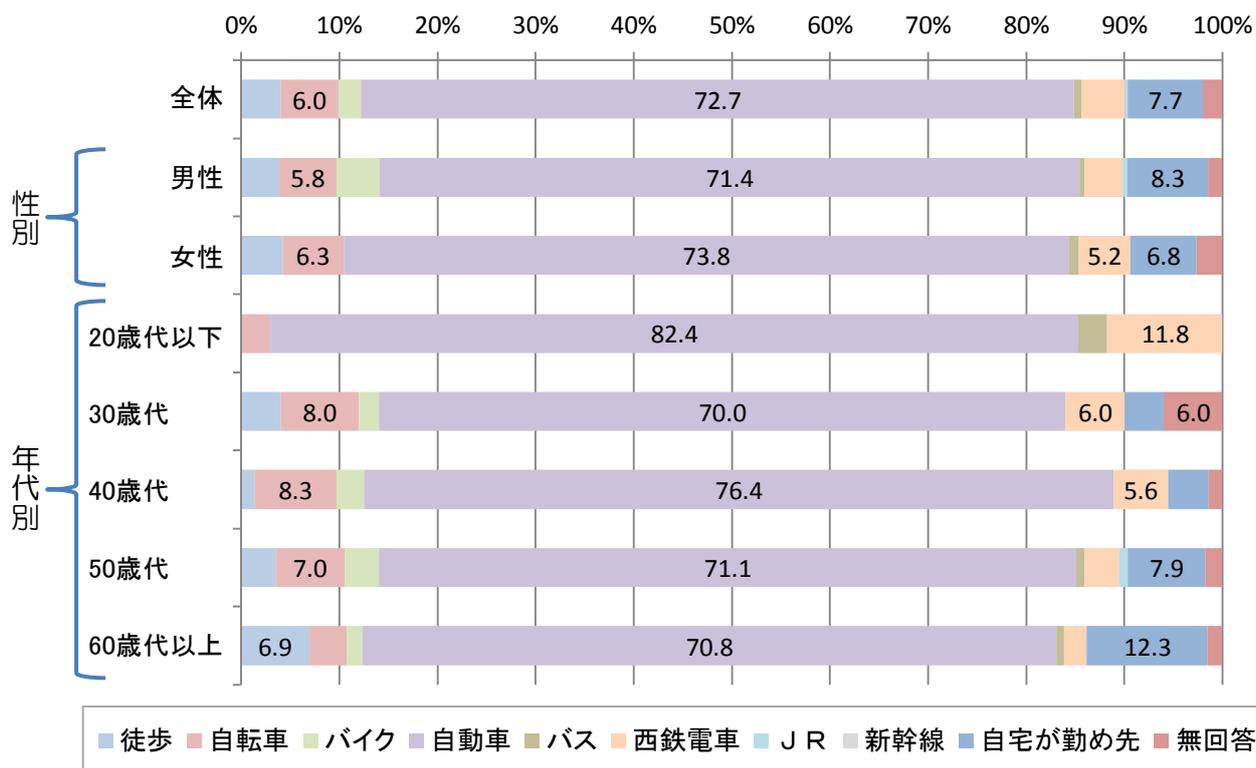
④ 通勤手段

通勤手段については、全体では「自動車」が72.7%と最も高く、次いで、「自宅が勤め先」の7.7%、「自転車」の6.0%の順となっています。

年代別では、いずれの年代も「自動車」の割合が最も高くなっていますが、年代が高くなるほど、「自宅が勤め先」の割合が高くなっています。

就業地別では、市外は「自動車」に次いで、「西鉄電車」の割合が高くなっています。

問 8-3 自宅から勤め先までの主な交通手段は何ですか。【○は1つ】

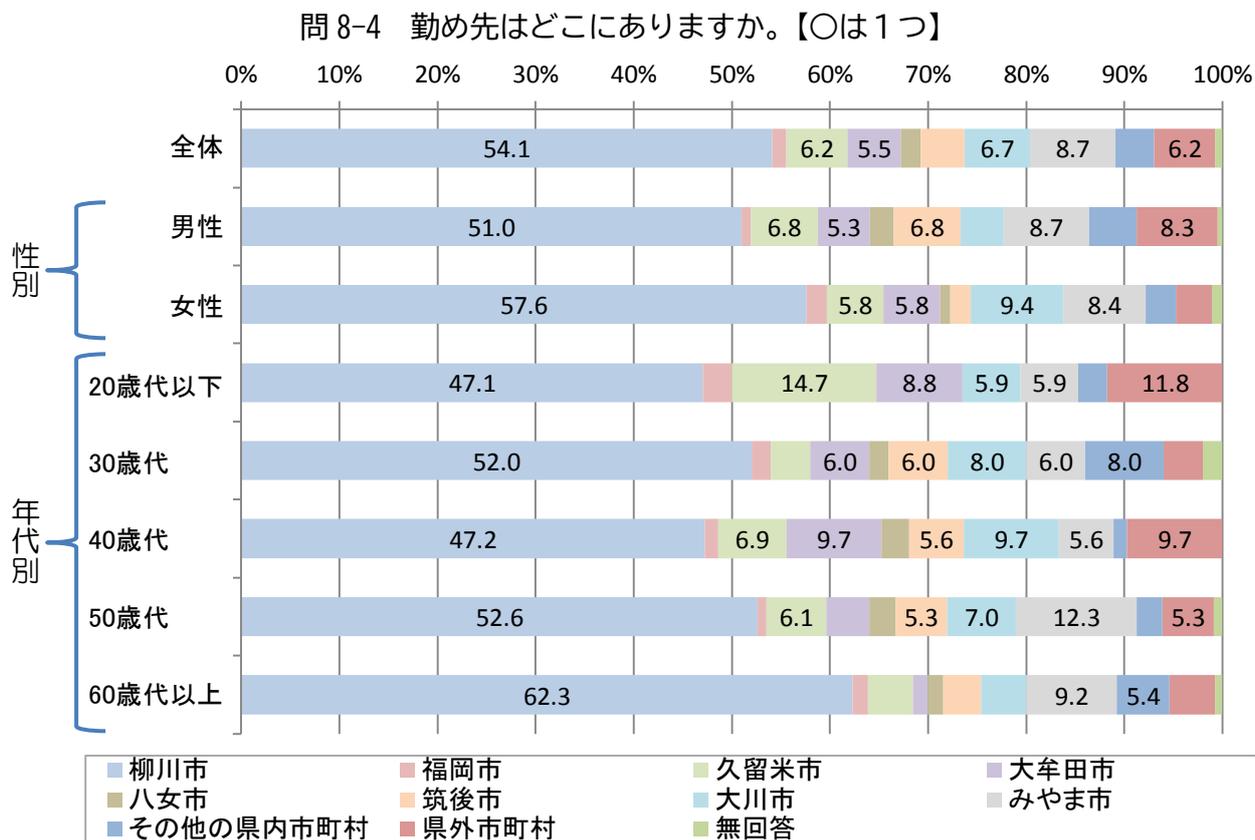


	単純集計	性別		年代別					就業地別	
	全体	男性	女性	20歳代以下	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代以上	市内	市外
調査数	403	206	191	34	50	72	114	130	218	182
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
徒歩	16	8	8	0	2	1	4	9	15	1
	4.0%	3.9%	4.2%	0.0%	4.0%	1.4%	3.5%	6.9%	6.9%	0.5%
自転車	24	12	12	1	4	6	8	5	18	6
	6.0%	5.8%	6.3%	2.9%	8.0%	8.3%	7.0%	3.8%	8.3%	3.3%
バイク	9	9	0	0	1	2	4	2	4	5
	2.2%	4.4%	0.0%	0.0%	2.0%	2.8%	3.5%	1.5%	1.8%	2.7%
自動車	293	147	141	28	35	55	81	92	147	146
	72.7%	71.4%	73.8%	82.4%	70.0%	76.4%	71.1%	70.8%	67.4%	80.2%
バス	3	1	2	1	0	0	1	1	1	2
	0.7%	0.5%	1.0%	2.9%	0.0%	0.0%	0.9%	0.8%	0.5%	1.1%
西鉄電車	18	8	10	4	3	4	4	3	1	17
	4.5%	3.9%	5.2%	11.8%	6.0%	5.6%	3.5%	2.3%	0.5%	9.3%
JR	1	1	0	0	0	0	1	0	0	1
	0.2%	0.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.9%	0.0%	0.0%	0.5%
新幹線	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
自宅が勤め先	31	17	13	0	2	3	9	16	31	0
	7.7%	8.3%	6.8%	0.0%	4.0%	4.2%	7.9%	12.3%	14.2%	0.0%
無回答	8	3	5	0	3	1	2	2	1	4
	2.0%	1.5%	2.6%	0.0%	6.0%	1.4%	1.8%	1.5%	0.5%	2.2%

⑤ 就業地

就業地については、全体では「柳川市」が54.1%と最も高く、次いで、「みやま市」の8.7%、「大川市」の6.7%の順となっています。

年代別では、いずれの年代も「柳川市」の割合が最も高くなっていますが、60歳代以上における割合は62.3%と他の年代と比較して高くなっています。



	単純集計	性別		年代別				
	全体	男性	女性	20歳代以下	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代以上
調査数	403	206	191	34	50	72	114	130
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
柳川市	218	105	110	16	26	34	60	81
	54.1%	51.0%	57.6%	47.1%	52.0%	47.2%	52.6%	62.3%
福岡市	6	2	4	1	1	1	1	2
	1.5%	1.0%	2.1%	2.9%	2.0%	1.4%	0.9%	1.5%
久留米市	25	14	11	5	2	5	7	6
	6.2%	6.8%	5.8%	14.7%	4.0%	6.9%	6.1%	4.6%
大牟田市	22	11	11	3	3	7	5	2
	5.5%	5.3%	5.8%	8.8%	6.0%	9.7%	4.4%	1.5%
八女市	8	5	2	0	1	2	3	2
	2.0%	2.4%	1.0%	0.0%	2.0%	2.8%	2.6%	1.5%
筑後市	18	14	4	0	3	4	6	5
	4.5%	6.8%	2.1%	0.0%	6.0%	5.6%	5.3%	3.8%
大川市	27	9	18	2	4	7	8	6
	6.7%	4.4%	9.4%	5.9%	8.0%	9.7%	7.0%	4.6%
みやま市	35	18	16	2	3	4	14	12
	8.7%	8.7%	8.4%	5.9%	6.0%	5.6%	12.3%	9.2%
その他の県内市町村	16	10	6	1	4	1	3	7
	4.0%	4.9%	3.1%	2.9%	8.0%	1.4%	2.6%	5.4%
県外市町村	25	17	7	4	2	7	6	6
	6.2%	8.3%	3.7%	11.8%	4.0%	9.7%	5.3%	4.6%
無回答	3	1	2	0	1	0	1	1
	0.7%	0.5%	1.0%	0.0%	2.0%	0.0%	0.9%	0.8%

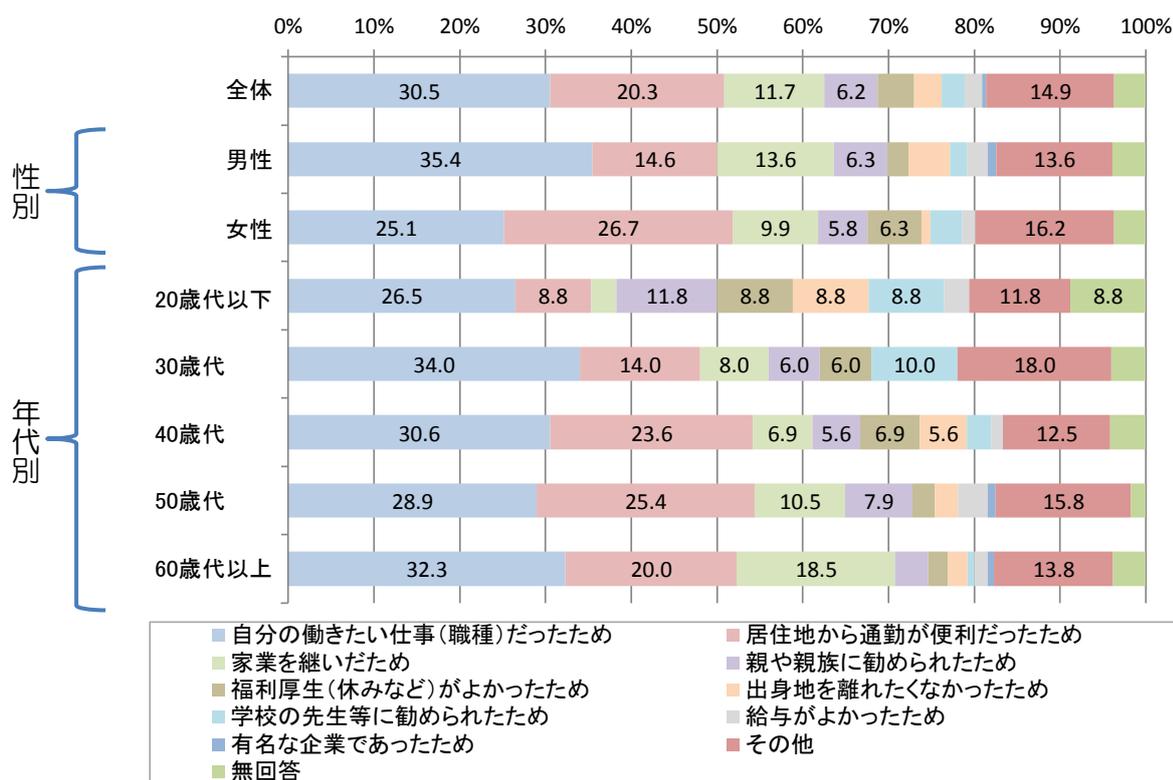
⑥ 勤め先を選んだ理由

勤め先を選んだ理由については、全体では「自分の働きたい仕事（職種）だったため」が30.5%と最も高く、次いで、「居住地から通勤が便利だったため」の20.3%となっています。

年代別では、20歳代以下の「家業を継いだため」の割合が2.9%と他の年代と比較して低くなっています。

就業地別では、市内の「自分の働きたい仕事（職種）だったため」の割合が22.0%と市外と比較して10ポイント以上低くなっています。

問 8-5 現在の勤め先を選んだ理由は何ですか。【○は1つ】



※その他の回答内容：「知人に勧められたため」「家族が経営していたため」他

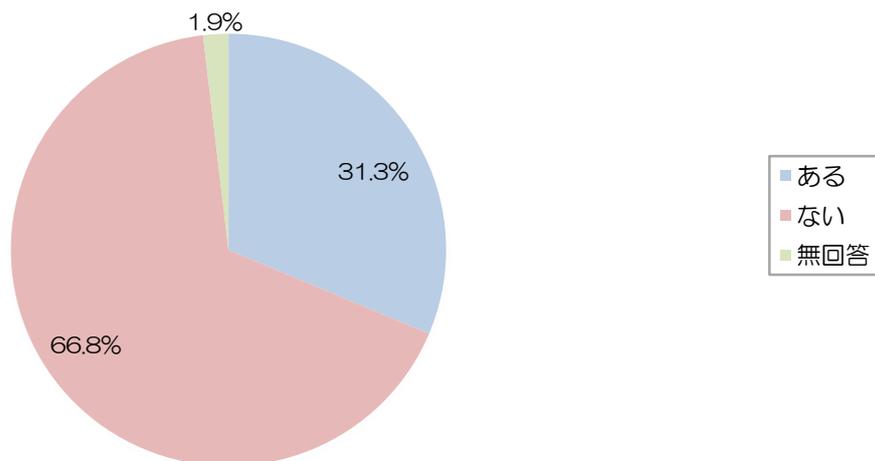
	単純集計	性別		年代別						就業地別	
	全体	男性	女性	20歳代以下	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代以上	市内	市外	
調査数	403	206	191	34	50	72	114	130	218	182	
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
自分の働きたい仕事（職種）だったため	123	73	48	9	17	22	33	42	48	75	
	30.5%	35.4%	25.1%	26.5%	34.0%	30.6%	28.9%	32.3%	22.0%	41.2%	
居住地から通勤が便利だったため	82	30	51	3	7	17	29	26	49	33	
	20.3%	14.6%	26.7%	8.8%	14.0%	23.6%	25.4%	20.0%	22.5%	18.1%	
家業を継いだため	47	28	19	1	4	5	12	24	44	2	
	11.7%	13.6%	9.9%	2.9%	8.0%	6.9%	10.5%	18.5%	20.2%	1.1%	
親や親族に勧められたため	25	13	11	4	3	4	9	5	19	6	
	6.2%	6.3%	5.8%	11.8%	6.0%	5.6%	7.9%	3.8%	8.7%	3.3%	
福利厚生（休みなど）がよかったため	17	5	12	3	3	5	3	3	2	15	
	4.2%	2.4%	6.3%	8.8%	6.0%	6.9%	2.6%	2.3%	0.9%	8.2%	
出身地を離れたくなかったため	13	10	2	3	0	4	3	3	8	5	
	3.2%	4.9%	1.0%	8.8%	0.0%	5.6%	2.6%	2.3%	3.7%	2.7%	
学校の先生等に勧められたため	11	4	7	3	5	2	0	1	7	4	
	2.7%	1.9%	3.7%	8.8%	10.0%	2.8%	0.0%	0.8%	3.2%	2.2%	
給与がよかったため	8	5	3	1	0	1	4	2	2	6	
	2.0%	2.4%	1.6%	2.9%	0.0%	1.4%	3.5%	1.5%	0.9%	3.3%	
有名な企業であったため	2	2	0	0	0	0	1	1	0	2	
	0.5%	1.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.9%	0.8%	0.0%	1.1%	
その他	60	28	31	4	9	9	18	18	30	30	
	14.9%	13.6%	16.2%	11.8%	18.0%	12.5%	15.8%	13.8%	13.8%	16.5%	
無回答	15	8	7	3	2	3	2	5	9	4	
	3.7%	3.9%	3.7%	8.8%	4.0%	4.2%	1.8%	3.8%	4.1%	2.2%	

(3) 転入出

① 転出経験の有無

転出経験の有無については、全体では「ある」が31.3%、「ない」が66.8%となっています。

問9 あなたはこれまで柳川市外へ転出したことがありますか。【○は1つ】



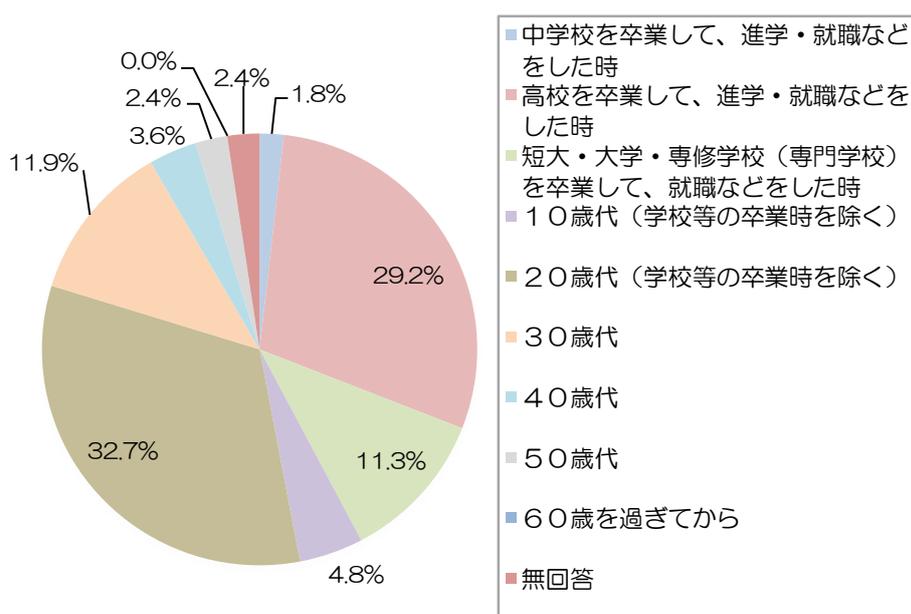
	単純集計	性別		年代別				
	全体	男性	女性	20歳代以下	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代以上
調査数	536	251	275	50	57	78	133	213
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
ある	168	99	66	12	12	24	40	78
	31.3%	39.4%	24.0%	24.0%	21.1%	30.8%	30.1%	36.6%
ない	358	149	202	37	45	52	92	129
	66.8%	59.4%	73.5%	74.0%	78.9%	66.7%	69.2%	60.6%
無回答	10	3	7	1	0	2	1	6
	1.9%	1.2%	2.5%	2.0%	0.0%	2.6%	0.8%	2.8%

② 転出時期

転出時期については、全体では「20歳代（学校等の卒業時を除く）」が32.7%と最も高く、次いで、「高校を卒業して、進学・就職などをした時」の29.2%、「30歳代」の11.9%の順となっています。

性別では、男性は「高校を卒業して、進学・就職などをした時」（36.4%）、女性は「20歳代（学校等の卒業時を除く）」（47.0%）の割合がそれぞれ最も高くなっています。

問9-1 （直近の転出について）転出したのはいつですか。【〇は1つ】



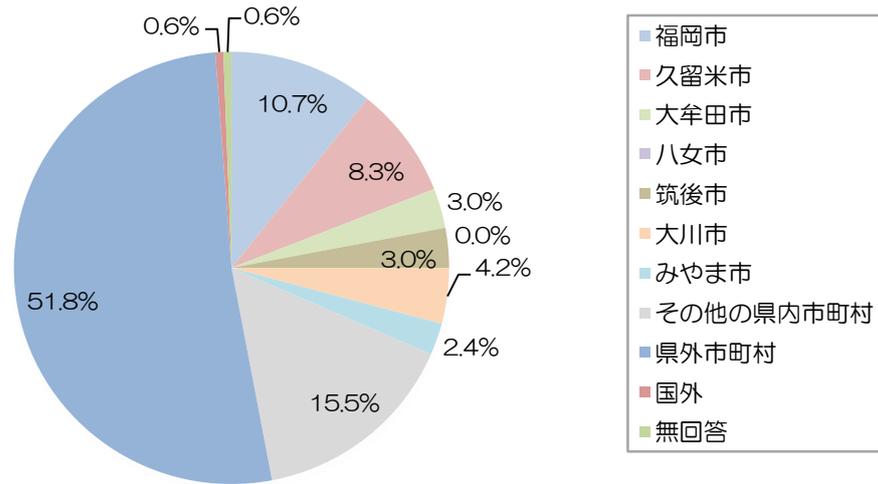
	単純集計 全体	性別		年代別				
		男性	女性	20歳代以下	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代以上
調査数	168	99	66	12	12	24	40	78
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
中学校を卒業して、進学・就職などをした時	3	1	2	0	0	0	0	3
	1.8%	1.0%	3.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.8%
高校を卒業して、進学・就職などをした時	49	36	12	3	6	6	11	23
	29.2%	36.4%	18.2%	25.0%	50.0%	25.0%	27.5%	29.5%
短大・大学・専修学校（専門学校）を卒業して、就職などをした時	19	15	3	2	0	3	5	9
	11.3%	15.2%	4.5%	16.7%	0.0%	12.5%	12.5%	11.5%
10歳代（学校等の卒業時を除く）	8	5	3	3	0	0	3	2
	4.8%	5.1%	4.5%	25.0%	0.0%	0.0%	7.5%	2.6%
20歳代（学校等の卒業時を除く）	55	24	31	3	5	7	16	23
	32.7%	24.2%	47.0%	25.0%	41.7%	29.2%	40.0%	29.5%
30歳代	20	11	9	0	0	8	1	11
	11.9%	11.1%	13.6%	0.0%	0.0%	33.3%	2.5%	14.1%
40歳代	6	3	3	0	0	0	3	3
	3.6%	3.0%	4.5%	0.0%	0.0%	0.0%	7.5%	3.8%
50歳代	4	3	1	0	0	0	1	3
	2.4%	3.0%	1.5%	0.0%	0.0%	0.0%	2.5%	3.8%
60歳を過ぎてから	0	0	0	0	0	0	0	0
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
無回答	4	1	2	1	1	0	0	1
	2.4%	1.0%	3.0%	8.3%	8.3%	0.0%	0.0%	1.3%

③ 転出先

転出先については、全体では「県内」が47.1%、「県外（国外を含む）」が52.4%となっています。

性別では、男性の「県外（国外を含む）」の割合が60.6%と女性と比較して20ポイント以上高くなっています。

問9-2 転出先はどこですか。【〇は1つ】



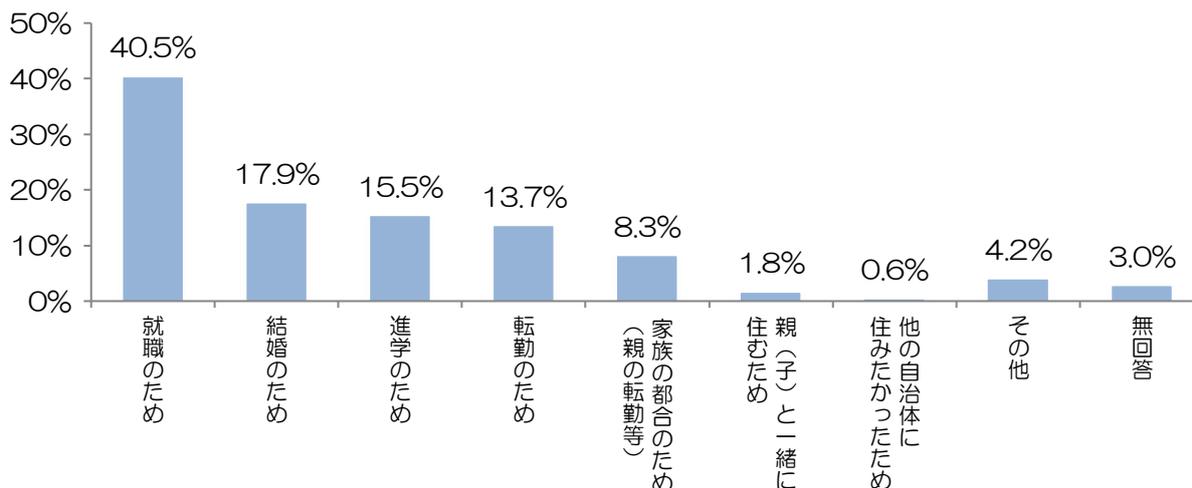
	単純集計		性別		年代別				
	全体	男性	女性	20歳代以下	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代以上	
調査数	168	99	66	12	12	24	40	78	
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
福岡市	18	8	9	1	0	1	5	11	
	10.7%	8.1%	13.6%	8.3%	0.0%	4.2%	12.5%	14.1%	
久留米市	14	9	5	3	1	1	6	3	
	8.3%	9.1%	7.6%	25.0%	8.3%	4.2%	15.0%	3.8%	
大牟田市	5	3	2	0	0	1	2	2	
	3.0%	3.0%	3.0%	0.0%	0.0%	4.2%	5.0%	2.6%	
八女市	0	0	0	0	0	0	0	0	
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
筑後市	5	1	4	0	0	1	1	2	
	3.0%	1.0%	6.1%	0.0%	0.0%	4.2%	2.5%	2.6%	
大川市	7	2	5	0	0	2	2	3	
	4.2%	2.0%	7.6%	0.0%	0.0%	8.3%	5.0%	3.8%	
みやま市	4	0	4	0	0	1	1	2	
	2.4%	0.0%	6.1%	0.0%	0.0%	4.2%	2.5%	2.6%	
その他の県内市町村	26	16	10	2	3	4	5	12	
	15.5%	16.2%	15.2%	16.7%	25.0%	16.7%	12.5%	15.4%	
県外市町村	87	60	25	6	8	13	18	41	
	51.8%	60.6%	37.9%	50.0%	66.7%	54.2%	45.0%	52.6%	
国外	1	0	1	0	0	0	0	1	
	0.6%	0.0%	1.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.3%	
無回答	1	0	1	0	0	0	0	1	
	0.6%	0.0%	1.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.3%	

④ 転出理由

転出理由については、全体では「就職のため」が40.5%と最も高く、次いで、「結婚のため」の17.9%、「進学のため」の15.5%の順となっています。

性別では、男性は「就職のため」(51.5%)、女性は「結婚のため」(33.3%)の割合がそれぞれ高くなっています。

問9-3 転出した理由はどのような理由からですか。【〇はいくつでも】



※その他の回答内容：「一人暮らしを経験するため」「病気の治療のため」他

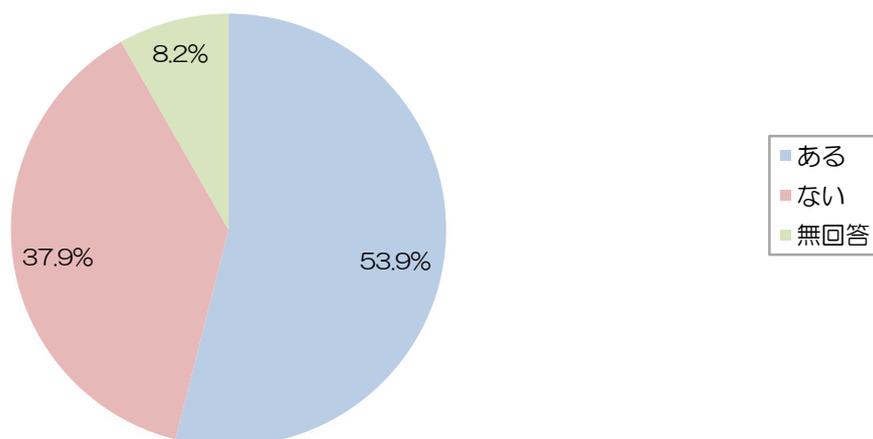
	単純集計	性別		年代別				
	全体	男性	女性	20歳代以下	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代以上
調査数	168	99	66	12	12	24	40	78
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
就職のため	68	51	15	3	3	6	16	40
	40.5%	51.5%	22.7%	25.0%	25.0%	25.0%	40.0%	51.3%
結婚のため	30	8	22	1	1	5	12	11
	17.9%	8.1%	33.3%	8.3%	8.3%	20.8%	30.0%	14.1%
進学のため	26	16	10	5	5	4	6	6
	15.5%	16.2%	15.2%	41.7%	41.7%	16.7%	15.0%	7.7%
転勤のため	23	14	9	0	1	4	4	13
	13.7%	14.1%	13.6%	0.0%	8.3%	16.7%	10.0%	16.7%
家族の都合のため (親の転勤等)	14	3	10	2	1	2	2	6
	8.3%	3.0%	15.2%	16.7%	8.3%	8.3%	5.0%	7.7%
親(子)と一緒に住むため	3	2	1	1	0	0	1	1
	1.8%	2.0%	1.5%	8.3%	0.0%	0.0%	2.5%	1.3%
他の自治体に住みたかったため	1	0	1	0	0	1	0	0
	0.6%	0.0%	1.5%	0.0%	0.0%	4.2%	0.0%	0.0%
その他	7	4	3	0	1	0	2	3
	4.2%	4.0%	4.5%	0.0%	8.3%	0.0%	5.0%	3.8%
無回答	5	3	2	0	0	2	1	2
	3.0%	3.0%	3.0%	0.0%	0.0%	8.3%	2.5%	2.6%

⑤ 転入経験の有無

転入経験の有無については、全体では「ある」が53.9%、「ない」が37.9%となっています。

年代別では、20歳代以下は「ない」の割合が62.0%と他の年代と比較して高くなっています。

問 10 あなたはこれまで柳川市外から転入したことがありますか。【○は1つ】



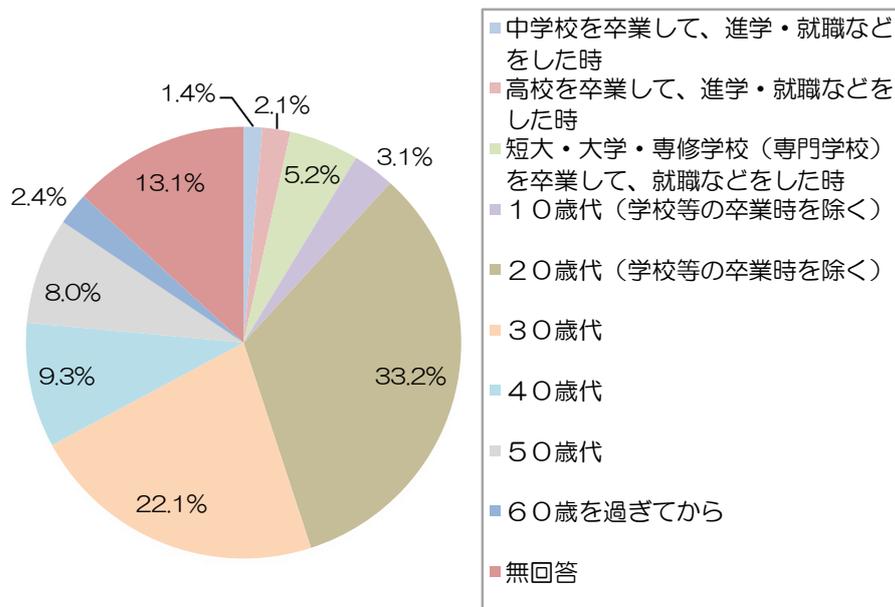
	単純集計	性別		年代別				
	全体	男性	女性	20歳代以下	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代以上
調査数	536	251	275	50	57	78	133	213
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
ある	289	137	149	18	27	46	74	122
	53.9%	54.6%	54.2%	36.0%	47.4%	59.0%	55.6%	57.3%
ない	203	100	98	31	23	26	50	70
	37.9%	39.8%	35.6%	62.0%	40.4%	33.3%	37.6%	32.9%
無回答	44	14	28	1	7	6	9	21
	8.2%	5.6%	10.2%	2.0%	12.3%	7.7%	6.8%	9.9%

⑥ 転入時期

転入時期については、全体では「20歳代（学校等の卒業時を除く）」が33.2%と最も高く、次いで、「30歳代」の22.1%、「40歳代」の9.3%の順となっています。

転出時期（129ページ）と比較して、転入時期は若干遅くなっています。

問10-1（直近の転入について）転入したのはいつのことですか。【○は1つ】



	単純集計 全体	性別		年代別				
		男性	女性	20歳代以下	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代以上
調査数	289	137	149	18	27	46	74	122
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
中学校を卒業して、進学・就職などをした時	4	2	2	2	2	0	0	0
	1.4%	1.5%	1.3%	11.1%	7.4%	0.0%	0.0%	0.0%
高校を卒業して、進学・就職などをした時	6	4	2	0	2	0	1	3
	2.1%	2.9%	1.3%	0.0%	7.4%	0.0%	1.4%	2.5%
短大・大学・専修学校（専門学校）を卒業して、就職などをした時	15	6	9	4	1	1	3	6
	5.2%	4.4%	6.0%	22.2%	3.7%	2.2%	4.1%	4.9%
10歳代（学校等の卒業時を除く）」	9	6	3	2	2	2	3	0
	3.1%	4.4%	2.0%	11.1%	7.4%	4.3%	4.1%	0.0%
20歳代（学校等の卒業時を除く）」	96	46	48	7	10	17	27	34
	33.2%	33.6%	32.2%	38.9%	37.0%	37.0%	36.5%	27.9%
30歳代	64	28	36	0	6	18	15	25
	22.1%	20.4%	24.2%	0.0%	22.2%	39.1%	20.3%	20.5%
40歳代	27	10	17	0	0	3	7	17
	9.3%	7.3%	11.4%	0.0%	0.0%	6.5%	9.5%	13.9%
50歳代	23	16	7	0	0	0	10	13
	8.0%	11.7%	4.7%	0.0%	0.0%	0.0%	13.5%	10.7%
60歳を過ぎてから	7	2	5	0	0	0	0	7
	2.4%	1.5%	3.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	5.7%
無回答	38	17	20	3	4	5	8	17
	13.1%	12.4%	13.4%	16.7%	14.8%	10.9%	10.8%	13.9%

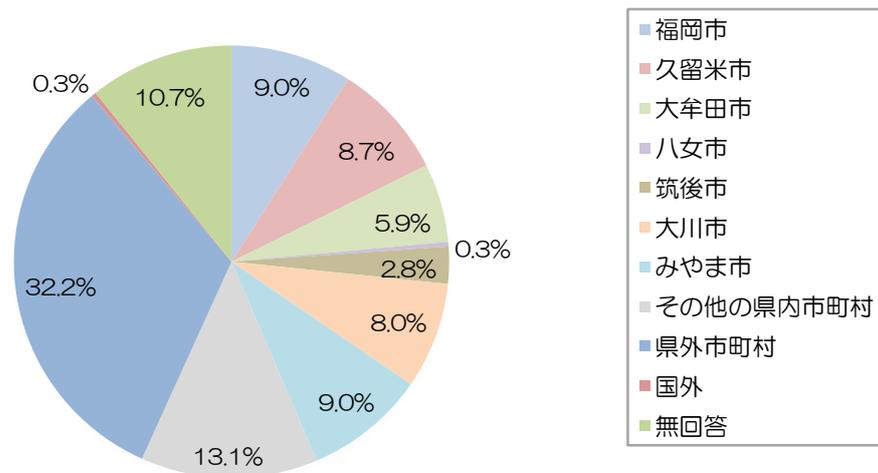
⑦ 転入元

転入元については、全体では「県内」が56.8%、「県外（国外を含む）」が32.5%となっています。

年代別では、30歳代の「県外（国外を含む）」の割合が48.1%と他の年代と比較して高く、「県内」の40.7%を上回っています。

転出先（130ページ）と比較して、転入元は「県内」が高くなっています。

問 10-2 転入前に住んでいた場所は次のどれにあてはまりますか。【○は1つ】



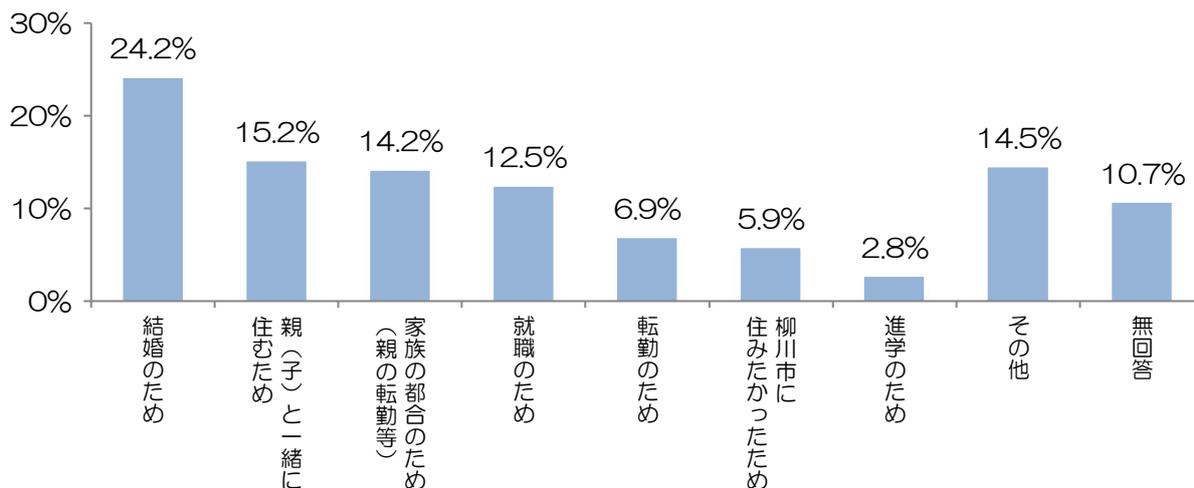
	単純集計 全体	性別		年代別				
		男性	女性	20歳代以下	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代以上
調査数	289	137	149	18	27	46	74	122
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
福岡市	26	11	15	0	0	3	8	15
	9.0%	8.0%	10.1%	0.0%	0.0%	6.5%	10.8%	12.3%
久留米市	25	10	15	3	3	3	11	5
	8.7%	7.3%	10.1%	16.7%	11.1%	6.5%	14.9%	4.1%
大牟田市	17	9	8	1	2	4	5	5
	5.9%	6.6%	5.4%	5.6%	7.4%	8.7%	6.8%	4.1%
八女市	1	0	0	0	1	0	0	0
	0.3%	0.0%	0.0%	0.0%	3.7%	0.0%	0.0%	0.0%
筑後市	8	2	6	0	1	1	1	4
	2.8%	1.5%	4.0%	0.0%	3.7%	2.2%	1.4%	3.3%
大川市	23	6	17	0	1	7	9	6
	8.0%	4.4%	11.4%	0.0%	3.7%	15.2%	12.2%	4.9%
みやま市	26	12	14	2	1	4	6	13
	9.0%	8.8%	9.4%	11.1%	3.7%	8.7%	8.1%	10.7%
その他の県内市町村	38	21	17	5	2	6	12	13
	13.1%	15.3%	11.4%	27.8%	7.4%	13.0%	16.2%	10.7%
県外市町村	93	52	40	5	13	13	16	45
	32.2%	38.0%	26.8%	27.8%	48.1%	28.3%	21.6%	36.9%
国外	1	0	1	0	0	0	0	1
	0.3%	0.0%	0.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.8%
無回答	31	14	16	2	3	5	6	15
	10.7%	10.2%	10.7%	11.1%	11.1%	10.9%	8.1%	12.3%

⑧ 転入理由

転入理由については、全体では「結婚のため」が24.2%と最も高く、次いで、「親（子）と一緒に住むため」の15.2%となっています。

性別では、男性は「親（子）と一緒に住むため」（19.0%）、女性は「結婚のため」（34.9%）の割合がそれぞれ最も高くなっています。

問10-3 転入した理由はどのような理由からですか。【〇はいくつでも】



※柳川市に住みたかったための回答内容：「利便性が良いため」「夫の遺言」他

※その他の回答内容：「家を購入したため」「柳川が地元のため」他

	単純集計	性別		年代別				
	全体	男性	女性	20歳代以下	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代以上
調査数	289	137	149	18	27	46	74	122
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
結婚のため	70	17	52	2	7	16	22	23
	24.2%	12.4%	34.9%	11.1%	25.9%	34.8%	29.7%	18.9%
親（子）と一緒に住むため	44	26	18	2	0	3	13	25
	15.2%	19.0%	12.1%	11.1%	0.0%	6.5%	17.6%	20.5%
家族の都合のため（親の転勤等）	41	18	23	4	6	8	12	11
	14.2%	13.1%	15.4%	22.2%	22.2%	17.4%	16.2%	9.0%
就職のため	36	24	11	4	7	6	8	11
	12.5%	17.5%	7.4%	22.2%	25.9%	13.0%	10.8%	9.0%
転勤のため	20	12	8	0	1	4	3	12
	6.9%	8.8%	5.4%	0.0%	3.7%	8.7%	4.1%	9.8%
柳川市に住みたかったため	17	10	7	2	2	2	5	6
	5.9%	7.3%	4.7%	11.1%	7.4%	4.3%	6.8%	4.9%
進学のため	8	4	4	2	1	1	2	2
	2.8%	2.9%	2.7%	11.1%	3.7%	2.2%	2.7%	1.6%
その他	42	18	24	1	3	5	11	21
	14.5%	13.1%	16.1%	5.6%	11.1%	10.9%	14.9%	17.2%
無回答	31	15	15	2	3	5	5	16
	10.7%	10.9%	10.1%	11.1%	11.1%	10.9%	6.8%	13.1%

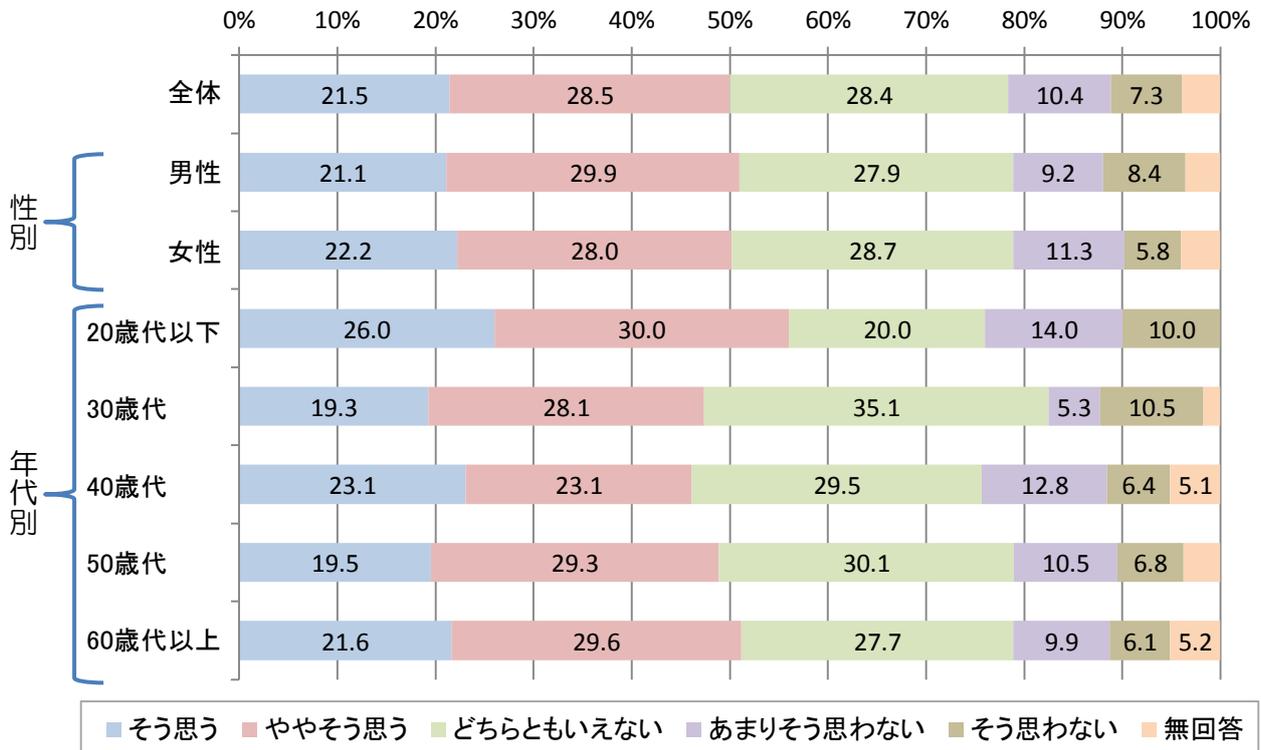
(4) 住みやすさの満足度・重要度他

① 居住する小学校区の住環境

居住する小学校区の住環境については、全体では「そう思う」「ややそう思う」の合計（満足層）が50.0%となっており、「そう思わない」「あまりそう思わない」の合計（不満層）の17.7%を上回っています。

小学校区別では、柳河、城内、東宮永、蒲池、垂見、中山の6校区は「満足層」が6割を上回っている一方、両開、昭代第二の2校区は「不満層」が「満足層」を上回っています。

問11 現在お住まいの小学校区は、快適な住環境だと思いますか。【〇は1つ】



	単純集計	性別		年代別				
	全体	男性	女性	20歳代以下	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代以上
調査数	536	251	275	50	57	78	133	213
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
そう思う	115	53	61	13	11	18	26	46
	21.5%	21.1%	22.2%	26.0%	19.3%	23.1%	19.5%	21.6%
ややそう思う	153	75	77	15	16	18	39	63
	28.5%	29.9%	28.0%	30.0%	28.1%	23.1%	29.3%	29.6%
どちらともいえない	152	70	79	10	20	23	40	59
	28.4%	27.9%	28.7%	20.0%	35.1%	29.5%	30.1%	27.7%
あまりそう思わない	56	23	31	7	3	10	14	21
	10.4%	9.2%	11.3%	14.0%	5.3%	12.8%	10.5%	9.9%
そう思わない	39	21	16	5	6	5	9	13
	7.3%	8.4%	5.8%	10.0%	10.5%	6.4%	6.8%	6.1%
無回答	21	9	11	0	1	4	5	11
	3.9%	3.6%	4.0%	0.0%	1.8%	5.1%	3.8%	5.2%

		調査数	そう思う	やや そう思う	どちらとも いえない	あまり そう思わない	そう 思わない	無回答
集 単 計 純	全体	536	115	153	152	56	39	21
		100.0%	21.5%	28.5%	28.4%	10.4%	7.3%	3.9%
中 学 校 区 別	柳城	99	27	35	26	8	1	2
		100.0%	27.3%	35.4%	26.3%	8.1%	1.0%	2.0%
	柳南	58	8	14	18	7	7	4
		100.0%	13.8%	24.1%	31.0%	12.1%	12.1%	6.9%
	昭代	62	14	11	18	10	8	1
		100.0%	22.6%	17.7%	29.0%	16.1%	12.9%	1.6%
	蒲池	58	14	22	12	5	2	3
100.0%		24.1%	37.9%	20.7%	8.6%	3.4%	5.2%	
大和	121	27	32	30	14	13	5	
	100.0%	22.3%	26.4%	24.8%	11.6%	10.7%	4.1%	
三橋	130	25	37	46	10	8	4	
	100.0%	19.2%	28.5%	35.4%	7.7%	6.2%	3.1%	
小 学 校 区 別	柳河	38	11	14	9	3	0	1
		100.0%	28.9%	36.8%	23.7%	7.9%	0.0%	2.6%
	城内	28	8	9	7	4	0	0
		100.0%	28.6%	32.1%	25.0%	14.3%	0.0%	0.0%
	矢留	35	5	12	10	4	3	1
		100.0%	14.3%	34.3%	28.6%	11.4%	8.6%	2.9%
	東宮永	33	8	12	10	1	1	1
		100.0%	24.2%	36.4%	30.3%	3.0%	3.0%	3.0%
	両開	23	3	2	8	3	4	3
		100.0%	13.0%	8.7%	34.8%	13.0%	17.4%	13.0%
	昭代第一	37	9	8	11	4	5	0
		100.0%	24.3%	21.6%	29.7%	10.8%	13.5%	0.0%
	昭代第二	25	5	3	7	6	3	1
		100.0%	20.0%	12.0%	28.0%	24.0%	12.0%	4.0%
	蒲池	58	14	22	12	5	2	3
		100.0%	24.1%	37.9%	20.7%	8.6%	3.4%	5.2%
	皿垣	20	5	3	3	5	3	1
		100.0%	25.0%	15.0%	15.0%	25.0%	15.0%	5.0%
	有明	16	7	2	4	2	0	1
		100.0%	43.8%	12.5%	25.0%	12.5%	0.0%	6.3%
中島	26	4	7	10	2	3	0	
	100.0%	15.4%	26.9%	38.5%	7.7%	11.5%	0.0%	
六合	18	2	7	3	2	4	0	
	100.0%	11.1%	38.9%	16.7%	11.1%	22.2%	0.0%	
大和	16	4	5	5	1	1	0	
	100.0%	25.0%	31.3%	31.3%	6.3%	6.3%	0.0%	
豊原	25	5	8	5	2	2	3	
	100.0%	20.0%	32.0%	20.0%	8.0%	8.0%	12.0%	
藤吉	65	14	18	25	3	3	2	
	100.0%	21.5%	27.7%	38.5%	4.6%	4.6%	3.1%	
矢ヶ部	10	2	2	3	2	1	0	
	100.0%	20.0%	20.0%	30.0%	20.0%	10.0%	0.0%	
二ッ河	28	2	7	12	4	3	0	
	100.0%	7.1%	25.0%	42.9%	14.3%	10.7%	0.0%	
垂見	19	4	8	4	1	0	2	
	100.0%	21.1%	42.1%	21.1%	5.3%	0.0%	10.5%	
中山	8	3	2	2	0	1	0	
	100.0%	37.5%	25.0%	25.0%	0.0%	12.5%	0.0%	

②-1 生活環境に対する現在の満足度

生活環境に対する現在の満足度については、全体では「自然の豊かさ」「地域の治安のよさ」「公民館、図書館などの社会教育施設」の順に高く、「飲食・娯楽のための施設」「公共交通の利便性」「公園、広場、緑地などの施設」の順に低くなっています。

	単純集計		性別		年代別				
	全体	順位	男性	女性	20歳以下	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代以上
道路の利便性	57.7	4	57.6	58.3	60.0	54.5	62.5	53.1	59.3
公共交通の利便性	44.2	18	45.7	43.1	50.0	53.1	46.2	40.3	42.3
買物の利便性	55.6	7	53.6	57.6	51.5	55.3	57.8	53.1	57.6
飲食・娯楽のための施設	38.6	19	36.9	40.6	38.0	35.5	38.6	37.2	40.1
自然の豊かさ	63.0	1	58.6	66.8	64.5	62.3	61.2	64.0	62.6
街並みや景観の美しさ	51.8	13	47.1	56.2	54.5	49.1	51.9	50.6	52.4
水辺の景観や掘割の保全状況	47.1	16	43.5	50.4	48.0	46.5	47.1	47.7	46.6
地域の治安のよさ	60.6	2	60.2	61.3	59.5	59.1	60.3	60.1	62.1
地震などの災害への安全対策	48.0	14	47.0	48.9	52.5	45.5	51.3	48.9	45.6
病院、診療所などの医療施設	55.9	6	55.7	56.2	57.5	51.8	56.8	55.2	56.8
子育てしやすい環境	53.4	10	52.5	54.3	53.5	52.2	51.9	54.5	53.5
義務教育の水準	53.8	9	54.0	53.9	56.5	52.6	50.6	51.9	55.9
公民館、図書館などの社会教育施設	59.5	3	58.0	61.3	67.0	61.0	58.3	57.4	59.3
市民会館や水の郷などの文化施設	55.6	8	54.5	56.9	62.5	54.4	55.1	55.7	54.3
文化芸術活動の活発さ	52.1	12	51.0	53.2	54.1	47.8	52.6	51.7	52.7
公園、広場、緑地などの施設	44.5	17	43.0	46.2	44.5	37.3	43.9	44.7	46.1
グラウンドや体育館などのスポーツ施設	47.4	15	46.0	49.2	48.5	40.4	47.4	49.2	47.6
近所付き合いのよさ	57.1	5	54.7	59.2	57.5	59.2	58.0	55.0	57.2
市民活動などの地域コミュニティの活発さ	53.0	11	52.2	53.8	58.5	50.9	52.6	52.7	52.5
平均	52.6	-	51.2	54.1	54.7	51.0	52.9	51.7	52.9

	単純集計		中学校区別					
	全体	順位	柳城	柳南	昭代	蒲池	大和	三橋
道路の利便性	57.7	4	52.3	50.4	46.4	69.6	61.2	61.2
公共交通の利便性	44.2	18	42.9	27.2	35.1	49.1	43.8	55.0
買物の利便性	55.6	7	57.7	47.3	50.8	57.5	49.8	64.0
飲食・娯楽のための施設	38.6	19	39.8	34.1	35.4	37.1	35.8	44.0
自然の豊かさ	63.0	1	63.0	62.3	63.9	64.2	63.8	61.5
街並みや景観の美しさ	51.8	13	52.8	51.3	52.9	47.8	50.8	52.7
水辺の景観や掘割の保全状況	47.1	16	46.6	49.1	46.7	45.7	46.5	47.7
地域の治安のよさ	60.6	2	64.2	61.6	61.1	59.5	60.9	58.1
地震などの災害への安全対策	48.0	14	51.6	43.6	41.3	48.7	49.6	48.2
病院、診療所などの医療施設	55.9	6	61.3	55.5	57.5	46.5	50.4	60.6
子育てしやすい環境	53.4	10	57.9	49.5	48.8	56.0	51.1	55.0
義務教育の水準	53.8	9	57.6	48.6	54.6	53.4	51.7	55.1
公民館、図書館などの社会教育施設	59.5	3	63.4	55.4	60.4	61.6	52.9	63.8
市民会館や水の郷などの文化施設	55.6	8	59.0	54.9	54.6	57.5	52.3	56.2
文化芸術活動の活発さ	52.1	12	52.9	48.6	49.6	54.4	50.6	54.3
公園、広場、緑地などの施設	44.5	17	44.8	43.3	40.3	40.9	44.2	48.2
グラウンドや体育館などのスポーツ施設	47.4	15	48.2	47.3	39.9	44.4	47.7	51.6
近所付き合いのよさ	57.1	5	56.2	58.2	59.3	62.7	54.3	56.4
市民活動などの地域コミュニティの活発さ	53.0	11	53.9	51.3	52.4	52.2	52.3	54.5
平均	52.6	-	54.0	49.5	50.0	53.1	51.0	55.2

※満足度（重要度）の算出については、満足（重要）を100点、やや満足（やや重要）を75点、どちらともいえない・わからないを50点、やや不満（あまり重要ではない）を25点、不満（重要ではない）を0点として、回答者（無回答者を除く）の平均を算出した。

②-2 生活環境に対する今後の重要度

生活環境に対する今後の重要度については、全体では「地震などの災害への安全対策」「地域の治安のよさ」「病院、診療所などの医療施設」の順に高く、「文化芸術活動の活発さ」「市民活動などの地域コミュニティの活発さ」「市民会館や水の郷などの文化施設」の順に低くなっています。

年代別では、30歳代は「子育てしやすい環境」の重要度が最も高くなっています。

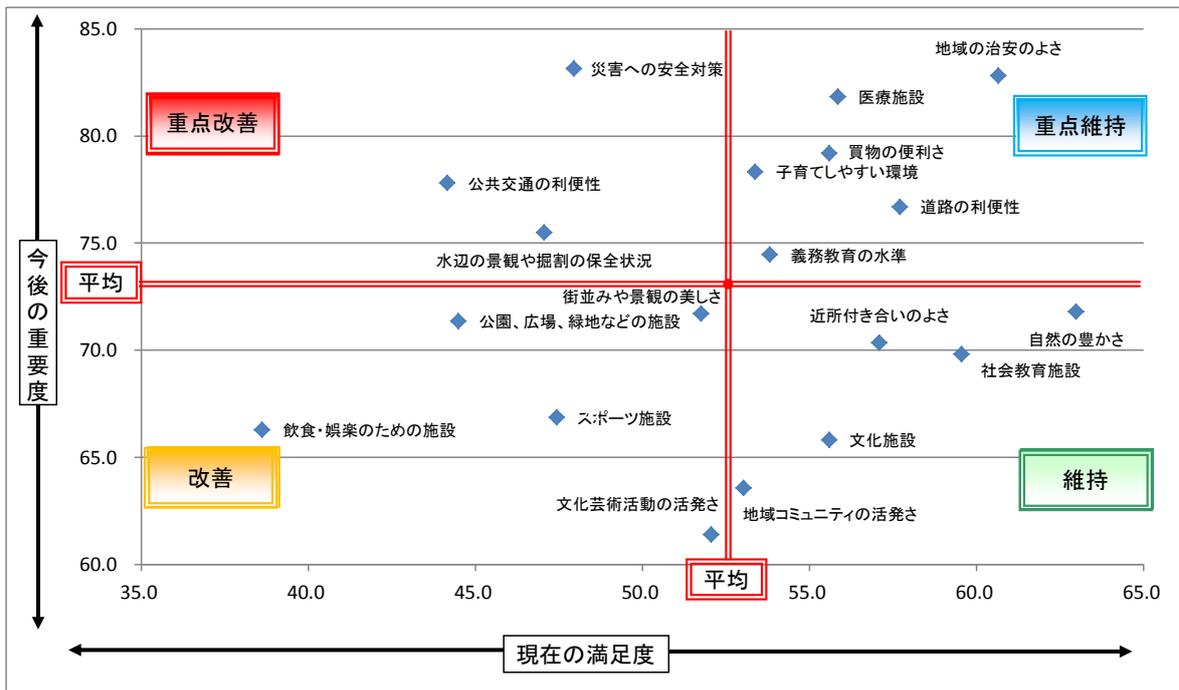
	単純集計		性別		年代別				
	全体	順位	男性	女性	20歳代以下	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代以上
道路の利便性	76.7	7	76.5	76.8	77.7	79.4	73.1	77.1	77.0
公共交通の利便性	77.8	6	75.6	79.9	80.4	74.6	75.0	81.0	77.4
買物の利便さ	79.2	4	76.6	81.4	83.2	81.1	79.9	77.3	79.0
飲食・娯楽のための施設	66.3	16	65.6	66.7	75.0	71.5	64.1	67.2	63.4
自然の豊かさ	71.8	10	70.9	72.7	66.3	73.2	66.3	73.0	74.2
街並みや景観の美しさ	71.7	11	71.4	72.1	71.1	74.1	65.6	74.2	72.1
水辺の景観や掘割の保全状況	75.5	8	75.8	75.1	72.8	74.6	71.5	75.8	78.0
地域の治安のよさ	82.8	2	82.9	83.0	82.1	81.1	83.7	84.4	82.8
地震などの災害への安全対策	83.2	1	81.6	84.8	81.5	84.2	84.0	81.7	84.1
病院、診療所などの医療施設	81.8	3	80.8	82.7	80.4	83.3	83.8	80.7	81.8
子育てしやすい環境	78.3	5	78.1	78.6	80.4	84.6	77.3	77.4	77.3
義務教育の水準	74.5	9	75.6	73.7	76.1	83.8	72.8	73.2	73.1
公民館、図書館などの社会教育施設	69.8	14	67.9	71.7	66.8	69.7	66.3	69.0	73.0
市民会館や水の郷などの文化施設	65.8	17	63.9	67.8	63.0	65.4	60.9	65.9	69.1
文化芸術活動の活発さ	61.4	19	59.0	63.9	61.4	58.3	57.8	61.5	64.0
公園、広場、緑地などの施設	71.4	12	71.4	71.3	73.4	78.5	67.0	69.1	72.7
グラウンドや体育館などのスポーツ施設	66.9	15	66.8	66.8	69.0	69.3	65.1	65.1	68.1
近所付き合いのよさ	70.4	13	67.8	72.6	72.3	69.7	68.3	67.8	72.8
市民活動などの地域コミュニティの活発さ	63.6	18	62.2	64.9	64.1	63.6	59.3	61.5	66.7
平均	73.1	-	72.1	74.0	73.5	74.7	70.6	72.8	74.0

	単純集計		中学校区別					
	全体	順位	柳城	柳南	昭代	蒲池	大和	三橋
道路の利便性	76.7	7	78.2	72.2	77.9	74.1	74.8	79.8
公共交通の利便性	77.8	6	79.7	76.8	72.5	75.9	77.8	79.6
買物の利便さ	79.2	4	79.7	75.0	77.2	79.8	78.3	81.3
飲食・娯楽のための施設	66.3	16	70.2	58.2	65.4	68.1	65.7	68.0
自然の豊かさ	71.8	10	76.3	70.5	69.3	66.4	70.2	73.8
街並みや景観の美しさ	71.7	11	77.4	70.9	67.2	67.7	70.2	73.0
水辺の景観や掘割の保全状況	75.5	8	80.3	75.0	68.2	74.6	73.7	77.4
地域の治安のよさ	82.8	2	84.6	81.8	80.5	83.2	80.4	85.3
地震などの災害への安全対策	83.2	1	84.8	84.1	80.5	81.0	80.2	86.2
病院、診療所などの医療施設	81.8	3	80.3	80.6	78.4	83.6	81.1	84.8
子育てしやすい環境	78.3	5	79.3	77.8	75.8	78.0	77.6	80.0
義務教育の水準	74.5	9	74.2	75.0	71.7	75.9	74.3	75.8
公民館、図書館などの社会教育施設	69.8	14	72.6	68.2	64.6	68.0	71.4	70.4
市民会館や水の郷などの文化施設	65.8	17	70.7	66.4	59.6	68.1	63.9	65.4
文化芸術活動の活発さ	61.4	19	66.9	57.4	55.8	63.8	61.5	60.0
公園、広場、緑地などの施設	71.4	12	76.9	69.0	67.1	71.1	69.2	72.8
グラウンドや体育館などのスポーツ施設	66.9	15	70.2	61.8	65.6	69.4	67.5	65.6
近所付き合いのよさ	70.4	13	71.3	68.2	67.9	74.1	71.6	69.0
市民活動などの地域コミュニティの活発さ	63.6	18	66.0	60.0	60.4	68.1	63.6	62.6
平均	73.1	-	75.8	71.0	69.8	73.2	72.3	74.3

②-3 生活環境に対する満足度・重要度による分析

生活環境に対する各項目について、満足度・重要度により4つに分類した結果、特に重点的に改善する必要があると考えられる重点改善項目として、「地震などの災害への安全対策」「公共交通の利便性」「水辺の景観や掘割の保全状況」の3項目が該当しました。

問12 あなたの生活環境について、どのくらい満足しているか、また、どのくらい重要と考えているかをお聞きします。以下のすべての項目について、「現在の評価」と「今後の要望」の回答欄から、それぞれ該当するものを1つずつ選んで○を付けてください。



※分類内容

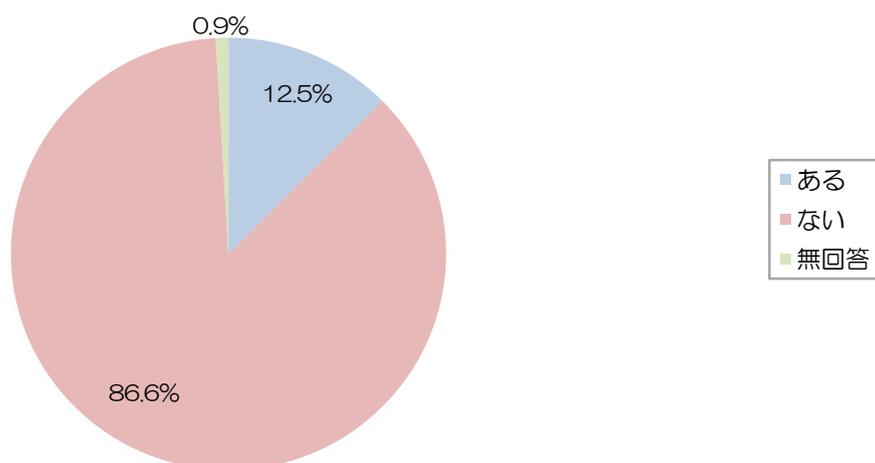
- 重点改善：満足度が低く、重要度が高い
- 改善：満足度が低いが、重要度も低い
- 重点維持：満足度が高く、重要度も高い
- 維持：満足度が高いが、重要度は低い

③ 直近1年間の川下りの経験の有無

直近1年間の川下りの経験の有無については、全体では「ある」が12.5%、「ない」が86.6%となっています。

中学校区別では、柳南及び大和の「ある」の割合が他の校区と比較してかなり低くなっています。

問13 この1年以内に川下りをしたことがありますか。【○は1つ】



	単純集計	性別		年代別				
	全体	男性	女性	20歳代以下	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代以上
調査数	536	251	275	50	57	78	133	213
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
ある	67	33	33	5	11	10	21	20
	12.5%	13.1%	12.0%	10.0%	19.3%	12.8%	15.8%	9.4%
ない	464	215	240	45	45	68	110	191
	86.6%	85.7%	87.3%	90.0%	78.9%	87.2%	82.7%	89.7%
無回答	5	3	2	0	1	0	2	2
	0.9%	1.2%	0.7%	0.0%	1.8%	0.0%	1.5%	0.9%

	単純集計	中学校区別					
	全体	柳城	柳南	昭代	蒲池	大和	三橋
調査数	536	99	58	62	58	121	130
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
ある	67	15	2	8	9	8	24
	12.5%	15.2%	3.4%	12.9%	15.5%	6.6%	18.5%
ない	464	84	56	52	48	113	104
	86.6%	84.8%	96.6%	83.9%	82.8%	93.4%	80.0%
無回答	5	0	0	2	1	0	2
	0.9%	0.0%	0.0%	3.2%	1.7%	0.0%	1.5%

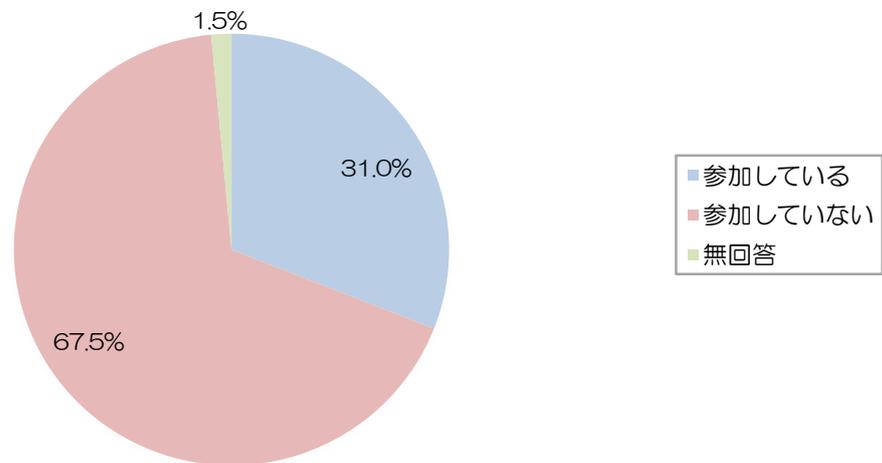
④ 地域活動やボランティアへの参加状況

地域活動やボランティアへの参加状況については、全体では「参加している」が31.0%、「参加していない」が67.5%となっています。

性別では、男性の「参加している」の割合が37.8%と女性と比較して10ポイント以上高くなっています。

年代別では、20歳代以下の「参加している」の割合が10.0%と他の年代と比較して20ポイント以上低くなっています。

問14 地域活動やボランティアに参加していますか。【○は1つ】



	単純集計	性別		年代別				
	全体	男性	女性	20歳代以下	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代以上
調査数	536 100.0%	251 100.0%	275 100.0%	50 100.0%	57 100.0%	78 100.0%	133 100.0%	213 100.0%
参加している	166 31.0%	95 37.8%	69 25.1%	5 10.0%	20 35.1%	27 34.6%	40 30.1%	71 33.3%
参加していない	362 67.5%	152 60.6%	202 73.5%	45 90.0%	36 63.2%	51 65.4%	91 68.4%	137 64.3%
無回答	8 1.5%	4 1.6%	4 1.5%	0 0.0%	1 1.8%	0 0.0%	2 1.5%	5 2.3%

	単純集計	中学校区別					
	全体	柳城	柳南	昭代	蒲池	大和	三橋
調査数	536 100.0%	99 100.0%	58 100.0%	62 100.0%	58 100.0%	121 100.0%	130 100.0%
参加している	166 31.0%	34 34.3%	15 25.9%	16 25.8%	18 31.0%	35 28.9%	48 36.9%
参加していない	362 67.5%	65 65.7%	42 72.4%	44 71.0%	39 67.2%	85 70.2%	79 60.8%
無回答	8 1.5%	0 0.0%	1 1.7%	2 3.2%	1 1.7%	1 0.8%	3 2.3%

⑤ 地域活動やボランティアへの参加内容

問 14 で「参加している」と回答した方 166 人に、地域活動やボランティアへの参加内容について尋ねたところ、「環境美化に関する活動」が最も多く、次いで、「地域団体等に関する活動」「イベント・行事等に関する活動」の順となっています。

問 14-1 参加した内容または名称をお書きください。【自由記述式】

回答内容	回答件数
環境美化に関する活動：清掃、花植え 等	93 件
地域団体等に関する活動：公民館・行政区活動 等	33 件
イベント・行事等に関する活動：地域の祭・イベント 等	25 件
子どもに関する活動：子ども会、本の読み聞かせ、児童の見守り 等	16 件
防災・防犯等に関する活動：消防団 等	13 件
福祉に関する活動：手話ボランティア、老人クラブ 等	8 件
その他の活動：災害ボランティア 等	10 件
計	198 件

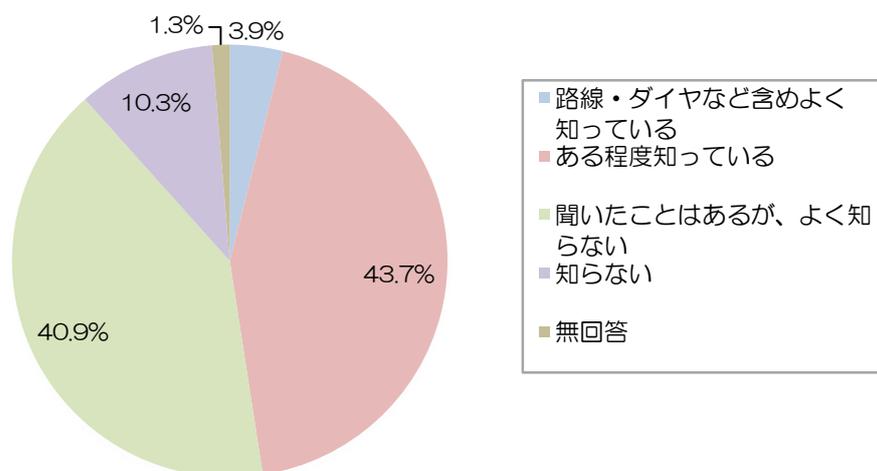
⑥ コミュニティバスの認知度

コミュニティバスの認知度については、全体では「路線・ダイヤなど含めよく知っている」「ある程度知っている」の合計が 47.6%となっており、「聞いたことはあるが、よく知らない」「知らない」の合計の 51.2%を下回っています。

年代別では、40 歳代の「路線・ダイヤなど含めよく知っている」「ある程度知っている」の合計が 30.8%と他の年代と比較して低くなっています。

中学校区別では、昭代及び三橋の認知度が他の校区と比較して低くなっています。

問 15 柳川市が運行しているコミュニティバスを知っていますか。【○は1つ】



	単純集計	性別		年代別				
	全体	男性	女性	20歳代以下	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代以上
調査数	536	251	275	50	57	78	133	213
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
路線・ダイヤなど含めよく知っている	21	13	7	0	1	0	10	10
	3.9%	5.2%	2.5%	0.0%	1.8%	0.0%	7.5%	4.7%
ある程度知っている	234	99	130	17	20	24	54	117
	43.7%	39.4%	47.3%	34.0%	35.1%	30.8%	40.6%	54.9%
聞いたことはあるが、よく知らない	219	108	108	20	24	45	55	72
	40.9%	43.0%	39.3%	40.0%	42.1%	57.7%	41.4%	33.8%
知らない	55	28	27	13	11	9	12	10
	10.3%	11.2%	9.8%	26.0%	19.3%	11.5%	9.0%	4.7%
無回答	7	3	3	0	1	0	2	4
	1.3%	1.2%	1.1%	0.0%	1.8%	0.0%	1.5%	1.9%

	単純集計	中学校区別					
	全体	柳城	柳南	昭代	蒲池	大和	三橋
調査数	536	99	58	62	58	121	130
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
路線・ダイヤなど含めよく知っている	21	3	1	3	1	6	7
	3.9%	3.0%	1.7%	4.8%	1.7%	5.0%	5.4%
ある程度知っている	234	53	26	24	31	52	46
	43.7%	53.5%	44.8%	38.7%	53.4%	43.0%	35.4%
聞いたことはあるが、よく知らない	219	37	27	26	21	48	54
	40.9%	37.4%	46.6%	41.9%	36.2%	39.7%	41.5%
知らない	55	5	3	7	4	15	21
	10.3%	5.1%	5.2%	11.3%	6.9%	12.4%	16.2%
無回答	7	1	1	2	1	0	2
	1.3%	1.0%	1.7%	3.2%	1.7%	0.0%	1.5%

⑦ 公共交通機関の利用意向

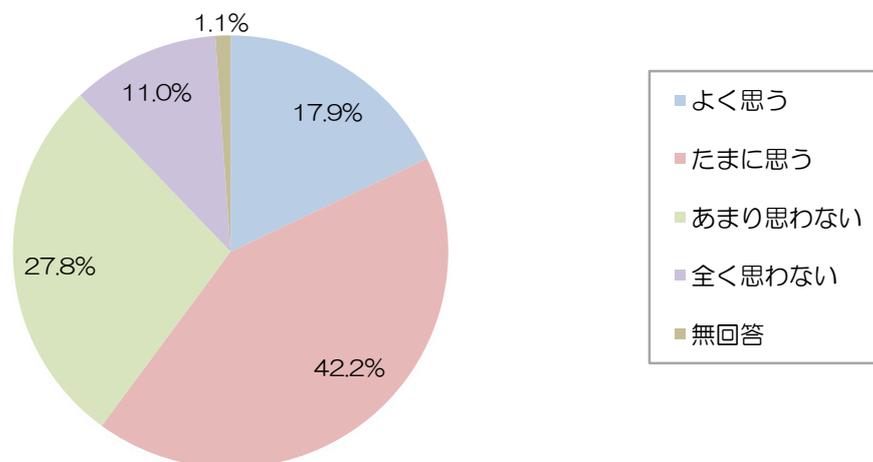
公共交通機関の利用意向については、全体では「よく思う」「たまに思う」の合計が60.1%となっており、「あまり思わない」「全く思わない」の合計の38.8%を上回っています。

年代別では、30歳代の「よく思う」「たまに思う」の合計が49.1%と他の年代と比較して低くなっています。

中学校区別では、昭代及び蒲池の利用意向が他の校区と比較して低くなっています。

問16 外出する際、路線バスや電車などの公共交通を利用しようと思うことはありますか。

【〇は1つ】



	単純集計	性別		年代別				
	全体	男性	女性	20歳代以下	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代以上
調査数	536	251	275	50	57	78	133	213
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
よく思う	96	41	55	10	6	15	20	44
	17.9%	16.3%	20.0%	20.0%	10.5%	19.2%	15.0%	20.7%
たまに思う	226	99	123	22	22	36	59	87
	42.2%	39.4%	44.7%	44.0%	38.6%	46.2%	44.4%	40.8%
あまり思わない	149	72	74	14	14	21	33	66
	27.8%	28.7%	26.9%	28.0%	24.6%	26.9%	24.8%	31.0%
全く思わない	59	36	21	4	14	6	19	13
	11.0%	14.3%	7.6%	8.0%	24.6%	7.7%	14.3%	6.1%
無回答	6	3	2	0	1	0	2	3
	1.1%	1.2%	0.7%	0.0%	1.8%	0.0%	1.5%	1.4%

	単純集計	中学校区別					
	全体	柳城	柳南	昭代	蒲池	大和	三橋
調査数	536	99	58	62	58	121	130
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
よく思う	96	17	10	5	7	21	35
	17.9%	17.2%	17.2%	8.1%	12.1%	17.4%	26.9%
たまに思う	226	50	23	24	21	56	49
	42.2%	50.5%	39.7%	38.7%	36.2%	46.3%	37.7%
あまり思わない	149	24	17	20	22	31	33
	27.8%	24.2%	29.3%	32.3%	37.9%	25.6%	25.4%
全く思わない	59	7	8	11	7	13	11
	11.0%	7.1%	13.8%	17.7%	12.1%	10.7%	8.5%
無回答	6	1	0	2	1	0	2
	1.1%	1.0%	0.0%	3.2%	1.7%	0.0%	1.5%

(5) 定住意向・郷土愛他

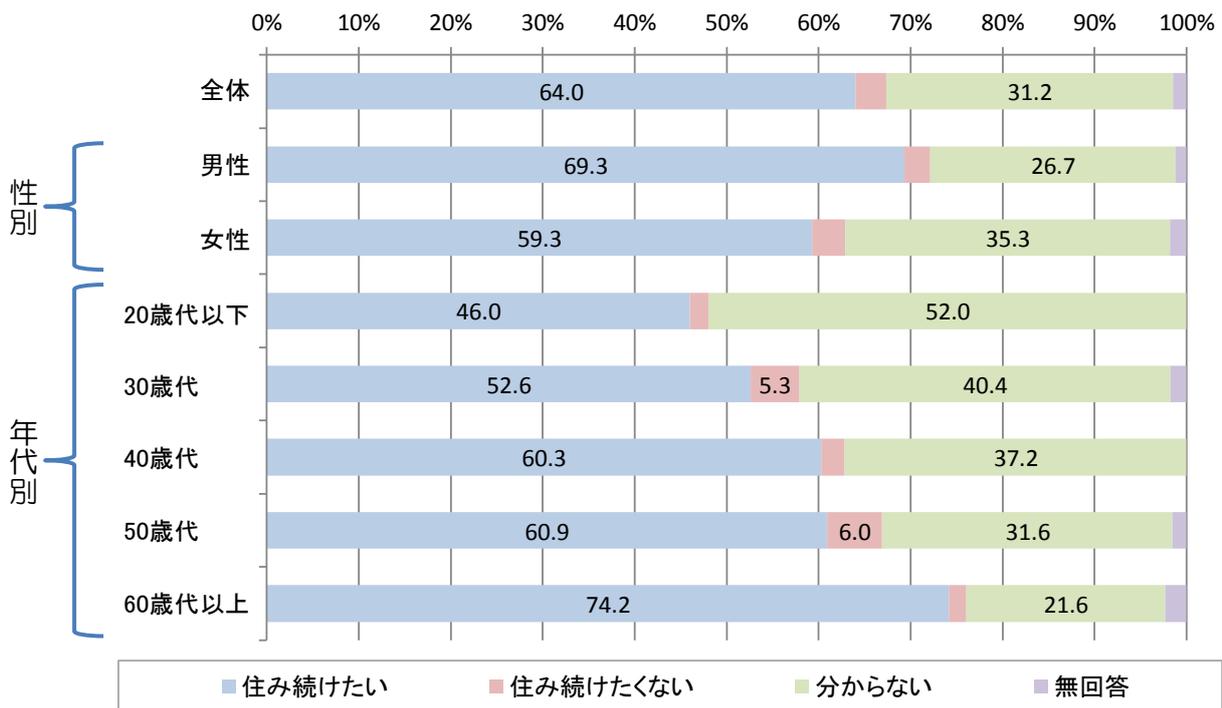
① 定住意向

定住意向については、全体では「住み続けたい」が64.0%、「住み続けたくない」が3.4%、「分からない」が31.2%となっています。

性別では、男性の「住み続けたい」の割合が69.3%と女性と比較して10ポイント以上高くなっています。

中学校区別では、蒲池の「住み続けたい」の割合が他の校区と比較して高くなっています。

問17 あなたはこれからも柳川市に住み続けたいと思いますか。【〇は1つ】



	単純集計	性別		年代別				
	全体	男性	女性	20歳代以下	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代以上
調査数	536	251	275	50	57	78	133	213
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
住み続けたい	343	174	163	23	30	47	81	158
	64.0%	69.3%	59.3%	46.0%	52.6%	60.3%	60.9%	74.2%
住み続けたくない	18	7	10	1	3	2	8	4
	3.4%	2.8%	3.6%	2.0%	5.3%	2.6%	6.0%	1.9%
分からない	167	67	97	26	23	29	42	46
	31.2%	26.7%	35.3%	52.0%	40.4%	37.2%	31.6%	21.6%
無回答	8	3	5	0	1	0	2	5
	1.5%	1.2%	1.8%	0.0%	1.8%	0.0%	1.5%	2.3%

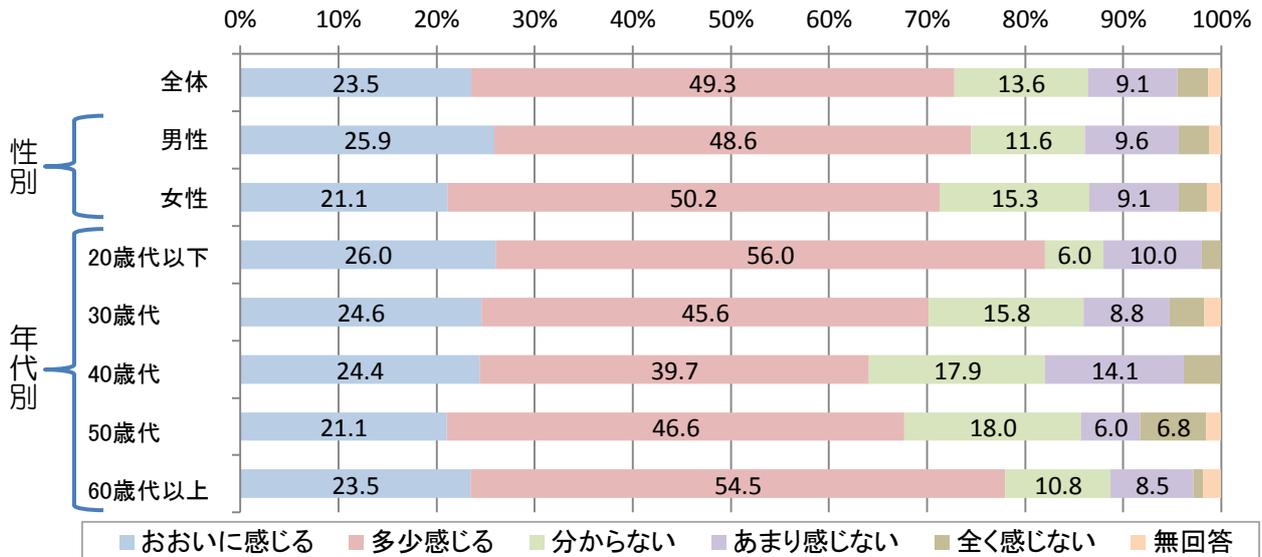
	単純集計	中学校区別					
	全体	柳城	柳南	昭代	蒲池	大和	三橋
調査数	536	99	58	62	58	121	130
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
住み続けたい	343	69	38	37	42	75	78
	64.0%	69.7%	65.5%	59.7%	72.4%	62.0%	60.0%
住み続けたくない	18	4	3	3	1	5	2
	3.4%	4.0%	5.2%	4.8%	1.7%	4.1%	1.5%
分からない	167	25	17	20	14	41	46
	31.2%	25.3%	29.3%	32.3%	24.1%	33.9%	35.4%
無回答	8	1	0	2	1	0	4
	1.5%	1.0%	0.0%	3.2%	1.7%	0.0%	3.1%

② 柳川市に対する愛着や誇り

柳川市に対する愛着や誇りについては、全体では「おおいに感じる」「多少感じる」の合計が72.8%となっており、「全く感じない」「あまり感じない」の合計の12.3%を大きく上回っています。

年代別では、20歳代以下の「おおいに感じる」「多少感じる」の合計が82.0%と他の年代と比較して高くなっています。

問 18 柳川市に愛着や誇りを感じますか。【○は1つ】



	単純集計 全体	性別		年代別				
		男性	女性	20歳代以下	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代以上
調査数	536	251	275	50	57	78	133	213
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
おおいに感じる	126	65	58	13	14	19	28	50
	23.5%	25.9%	21.1%	26.0%	24.6%	24.4%	21.1%	23.5%
多少感じる	264	122	138	28	26	31	62	116
	49.3%	48.6%	50.2%	56.0%	45.6%	39.7%	46.6%	54.5%
分からない	73	29	42	3	9	14	24	23
	13.6%	11.6%	15.3%	6.0%	15.8%	17.9%	18.0%	10.8%
あまり感じない	49	24	25	5	5	11	8	18
	9.1%	9.6%	9.1%	10.0%	8.8%	14.1%	6.0%	8.5%
全く感じない	17	8	8	1	2	3	9	2
	3.2%	3.2%	2.9%	2.0%	3.5%	3.8%	6.8%	0.9%
無回答	7	3	4	0	1	0	2	4
	1.3%	1.2%	1.5%	0.0%	1.8%	0.0%	1.5%	1.9%

	単純集計 全体	中学校区別					
		柳城	柳南	昭代	蒲池	大和	三橋
調査数	536	99	58	62	58	121	130
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
おおいに感じる	126	22	10	13	19	26	35
	23.5%	22.2%	17.2%	21.0%	32.8%	21.5%	26.9%
多少感じる	264	55	31	33	23	60	57
	49.3%	55.6%	53.4%	53.2%	39.7%	49.6%	43.8%
分からない	73	10	10	4	8	17	22
	13.6%	10.1%	17.2%	6.5%	13.8%	14.0%	16.9%
あまり感じない	49	7	3	10	5	13	11
	9.1%	7.1%	5.2%	16.1%	8.6%	10.7%	8.5%
全く感じない	17	4	4	0	2	5	2
	3.2%	4.0%	6.9%	0.0%	3.4%	4.1%	1.5%
無回答	7	1	0	2	1	0	3
	1.3%	1.0%	0.0%	3.2%	1.7%	0.0%	2.3%

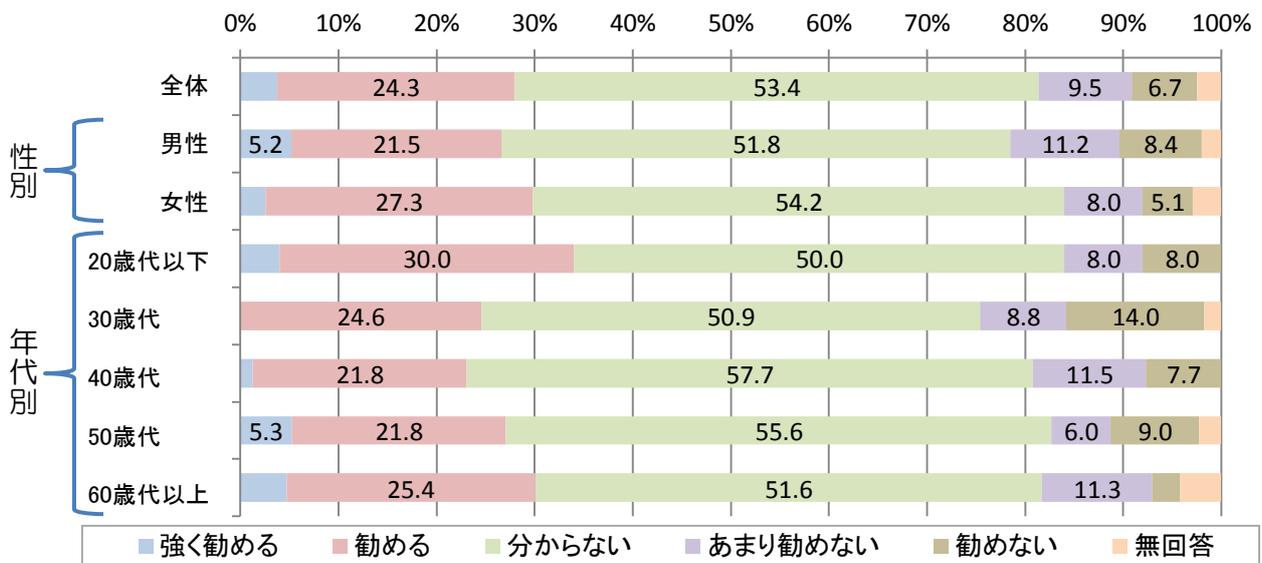
③ 柳川市に住むことに対する推奨

柳川市に住むことに対する推奨については、全体では「強く勧める」「勧める」の合計が28.0%となっており、「勧めない」「あまり勧めない」の合計の16.2%を上回っています。

年代別では、20歳代以下の「強く勧める」「勧める」の合計が34.0%と他の年代と比較して高くなっています。

中学校区別では、柳城の「強く勧める」「勧める」の合計が38.4%と他の校区と比較して高くなっています。

問19 あなたは友人や知人に柳川市に住むことをお勧めしますか。【○は1つ】



	単純集計	性別		年代別				
	全体	男性	女性	20歳代以下	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代以上
調査数	536	251	275	50	57	78	133	213
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
強く勧める	20	13	7	2	0	1	7	10
	3.7%	5.2%	2.5%	4.0%	0.0%	1.3%	5.3%	4.7%
勧める	130	54	75	15	14	17	29	54
	24.3%	21.5%	27.3%	30.0%	24.6%	21.8%	21.8%	25.4%
分からない	286	130	149	25	29	45	74	110
	53.4%	51.8%	54.2%	50.0%	50.9%	57.7%	55.6%	51.6%
あまり勧めない	51	28	22	4	5	9	8	24
	9.5%	11.2%	8.0%	8.0%	8.8%	11.5%	6.0%	11.3%
勧めない	36	21	14	4	8	6	12	6
	6.7%	8.4%	5.1%	8.0%	14.0%	7.7%	9.0%	2.8%
無回答	13	5	8	0	1	0	3	9
	2.4%	2.0%	2.9%	0.0%	1.8%	0.0%	2.3%	4.2%

	単純集計	中学校区別					
	全体	柳城	柳南	昭代	蒲池	大和	三橋
調査数	536	99	58	62	58	121	130
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
強く勧める	20	1	1	4	2	5	7
	3.7%	1.0%	1.7%	6.5%	3.4%	4.1%	5.4%
勧める	130	37	5	14	17	26	30
	24.3%	37.4%	8.6%	22.6%	29.3%	21.5%	23.1%
分からない	286	43	36	35	29	64	72
	53.4%	43.4%	62.1%	56.5%	50.0%	52.9%	55.4%
あまり勧めない	51	10	7	4	5	14	11
	9.5%	10.1%	12.1%	6.5%	8.6%	11.6%	8.5%
勧めない	36	7	6	3	4	10	6
	6.7%	7.1%	10.3%	4.8%	6.9%	8.3%	4.6%
無回答	13	1	3	2	1	2	4
	2.4%	1.0%	5.2%	3.2%	1.7%	1.7%	3.1%

④ 柳川市の自慢できるところ

柳川市の自慢できるところについては、391人から452件の回答を得ました。
回答内容別に分類すると、「観光」が最も多く、次いで、「生活環境」「特産物」の順となっています。

問20 柳川市の自慢できるところを1つお書きください。【自由記述式】

回答項目	主な回答内容	回答件数
観光	川下り・掘割 御花 花火大会 さげもんめぐり・ひなまつり その他（観光客が多い等）	148件
生活環境	自然の豊かさ・景観の美しさ 交通の利便性 災害の少なさ・治安の良さ 人柄の良さ（人が温かい、人情に熱い等） 施設（温泉施設、雲龍の郷等） 住みやすさ その他（平野であること等）	145件
特産物	うなぎ 海苔 その他（農水産物等）	62件
歴史・文化	北原白秋 立花宗茂 祭（おにぎえ、水天宮、中島祇園等） その他（伝統文化、文化人が多い等）	58件
その他	県外での認知度が高い等	5件
特にない・分からない	特にない・分からない	34件
計		452件

⑤ まちづくりに対する自由意見

まちづくりに対する自由意見については、256人から357件の回答を得ました。

「生活環境」が最も多く、次いで、「行政全般」「安全・安心」の順となっています。

生活環境については、観光とも関連して、掘割とその周辺の景観の改善を要望する意見が多く寄せられました。

問21 最後に柳川市のまちづくりについて、ご意見等がありましたらご自由にお書きください。【自由記述式】

回答項目	主な要望	回答件数
生活環境	公共交通の利便性向上 掘割とその周辺の改善 飲食・娯楽施設の誘致 不法投棄 悪臭の改善（野焼きに対する指導 等） 空き家対策の充実 騒音の改善 その他（家賃が高い 等）	107件
安全・安心	歩道整備や舗装の維持・管理等の道路整備 街灯の設置 防災の強化	44件
子育て・教育	公園等の子どもが遊べる施設の整備 医療費助成の強化等の子育て支援の充実 子どもへの教育の強化 その他	41件
観光	観光施策の強化 観光のための景観の向上 その他（市民のおもてなしの意識の向上 等）	39件
産業振興	企業誘致等による若者が働ける場所の確保 商店街の活性化 農業・漁業の強化	39件
公共施設	運動施設・公園等の整備 道の駅の建設 その他（図書館の利便性の向上 等）	26件
福祉	弱者に優しいまちづくりの推進	8件
行政全般	行政・議会運営の改善 税負担の軽減 その他	53件
計		357件

Ⅷ 高校生アンケート結果

1 アンケート概要

(1) 調査概要

① 趣旨

2020年度から始まる「第2次柳川市総合計画～後期基本計画～」の策定に向け、高校生の自分の生まれ育った地域の現状や課題に対する考えを把握し、計画策定の基礎資料とする。

② 対象者

伝習館高等学校、柳川高等学校、杉森高等学校の最上級生

③ 回収方法及びスケジュール

学校による直接配布・直接回収

・調査時期 2018年11月

④ 分析方法

・単純集計

・クロス集計

(性別、出身地別、進路希望別、Uターン希望別、進学・就職希望地域別、高校別)

⑤ 回収数

・全回答数 590件 (伝習館高等学校 187件、柳川高等学校 307件、杉森高等学校 96件)

(2) 調査結果概要

① 回答者の属性

- ・ 性別は、概ね半数ずつ。
- ・ 出身地は、柳川市が34.9%、筑後地域の他市が45.3%、それ以外が19.6%

② 地元に対する愛着

- ・ 地元の衰退については、衰退していると思わない層が51.1%。
- ・ 地元に対する愛着や誇りを感じている割合は70.9%で、市内出身者では67.9%とやや低い。
- ・ 地元を離れることへの抵抗感を感じている割合は、28.0%に留まる。市内出身者では27.1%。
- ・ Uターンしたいと思っている割合は62.9%。市内出身者では62.2%。Uターンしたいと思う理由として、「地元へ愛着がある」「生活しやすい」「家族や友人が住んでいる」が多く挙げられた。
- ・ 地元のために何か出来ることがあれば参加したいと思う割合は34.8%。市内出身者では34.5%。参加したい活動内容は環境美化に関する活動が最も多い。
- ・ 市内出身者の7割弱が地元に対する愛着や誇りを感じているが、地元を離れることへの抵抗感は低く、Uターンしたいと思っている割合は6割強に留まる。

③ 進学・就職希望

- ・ 高校卒業後の進路希望は、進学が78.3%、就職が18.1%。
- ・ 卒業後に進学・就職を希望する地域は、県内が54.6%、県外が30.7%。全体と比べて、筑後地域出身者の県内に留まる意向は強いが、出身地に固執していない。
- ・ 通勤時間の許容範囲は、1時間以内が55.1%と最も多く、1時間を超えても許容できるとした割合は7.2%に留まる。女性の許容できる時間は男性と比べて短い。
- ・ 進学・就職する際の決め手は、進学希望者は「自分の意見だけで決める」、就職希望者は「親の意見」が最も多い。

④ 柳川市の住みやすさ

- ・ 柳川市の住みやすさは、満足している層が52.7%で、満足していない層の12.4%を大きく上回っている。
- ・ 柳川市の生活環境について、満足度が低く、重要度が高い項目は、「公共交通の利便性」「買物の便利さ」「地震などの災害への安全対策」「地域の治安のよさ」「飲食・娯楽のための施設」「水辺の景観や掘割の保全状況」「子育てしやすい環境」
- ・ まちづくりに対する自由意見は、「生活環境」や「まちづくり全般」に関する意見・要望が多く寄せられた。

⑤ その他

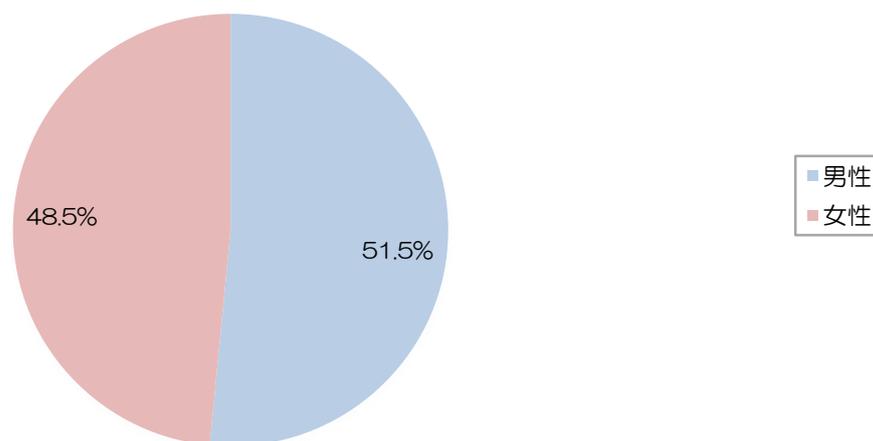
- ・ 地方の衰退については、関心のない層が54.5%。
- ・ 川下りを経験したことがある割合は71.0%。市内出身者では93.7%。

2 各設問調査結果

(1) 回答者の属性

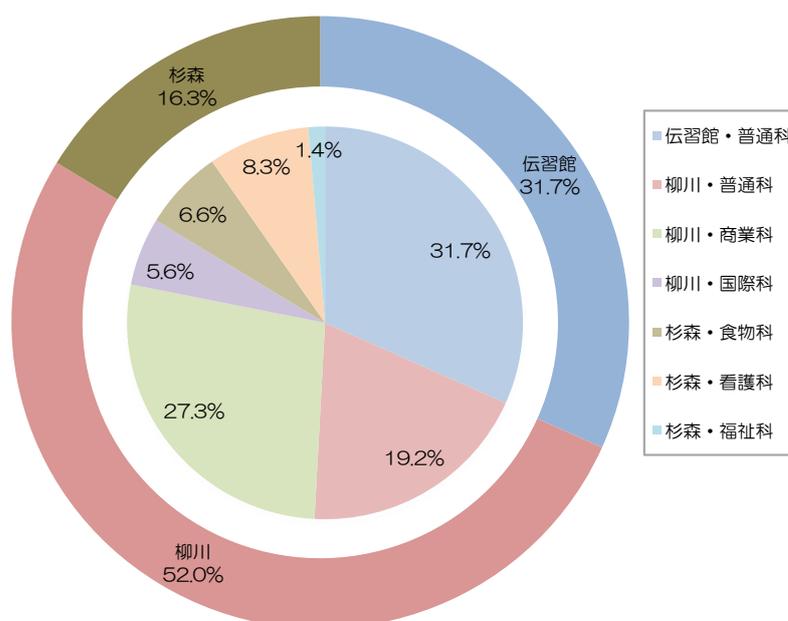
① 性別

問1 性別【〇は1つ】



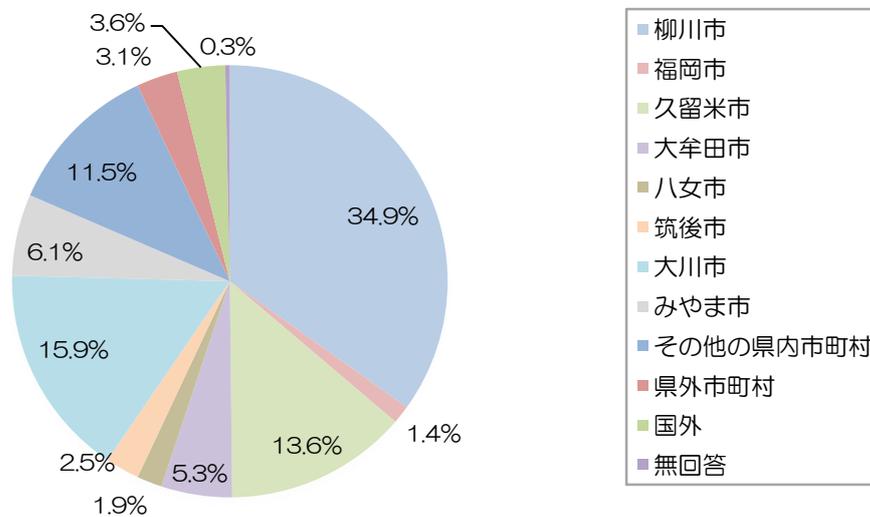
② 学科

問2 学科【記述式】



③ 出身地

問3 出身地【〇は1つ】



(2) 地方・地元に対する関心・認識

① 地方の衰退への関心

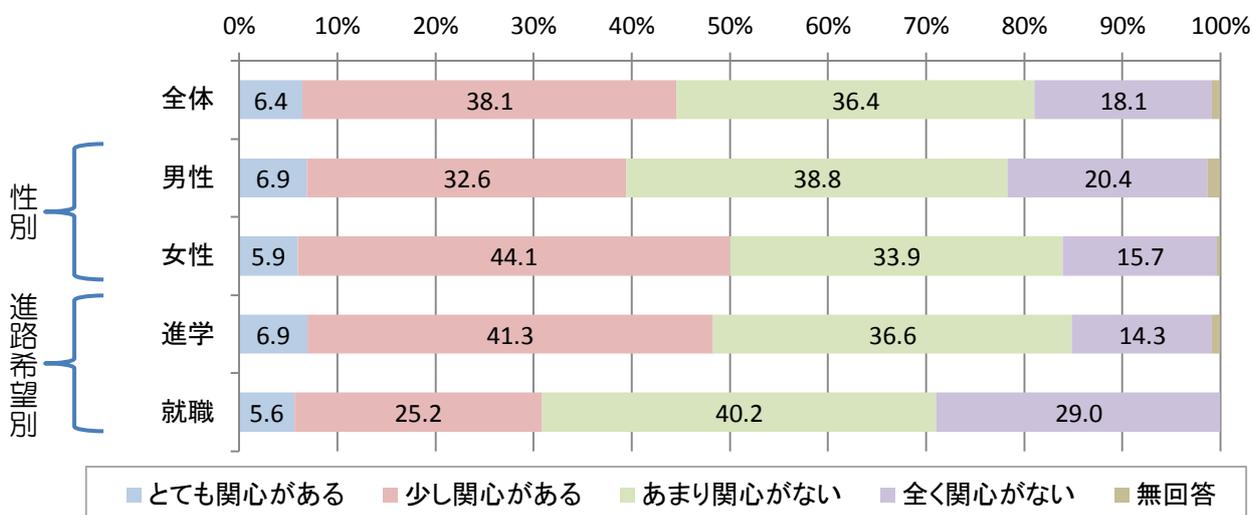
地方の衰退への関心については、全体では「とても関心がある」「少し関心がある」の合計（関心層）が44.5%となっており、「全く関心がない」「あまり関心がない」の合計（無関心層）の54.5%を下回っています。

前回調査の41.3%と比べると「関心層」が高くなっています。

性別では、女性の「関心層」50.0%が、男性の39.5%を上回っています。

進路希望別では、進学希望者の「関心層」48.2%に対して、就職希望者の「無関心層」が69.2%と逆転しています。

問5 あなたは、「地方の衰退」という問題に関心がありますか。【〇は1つ】



	単純集計	性別		進路希望別	
	全体	男性	女性	進学	就職
調査数	590	304	286	462	107
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
とても関心がある	38	21	17	32	6
	6.4%	6.9%	5.9%	6.9%	5.6%
少し関心がある	225	99	126	191	27
	38.1%	32.6%	44.1%	41.3%	25.2%
あまり関心がない	215	118	97	169	43
	36.4%	38.8%	33.9%	36.6%	40.2%
全く関心がない	107	62	45	66	31
	18.1%	20.4%	15.7%	14.3%	29.0%
無回答	5	4	1	4	0
	0.8%	1.3%	0.3%	0.9%	0.0%

② 地元の衰退に対する認識

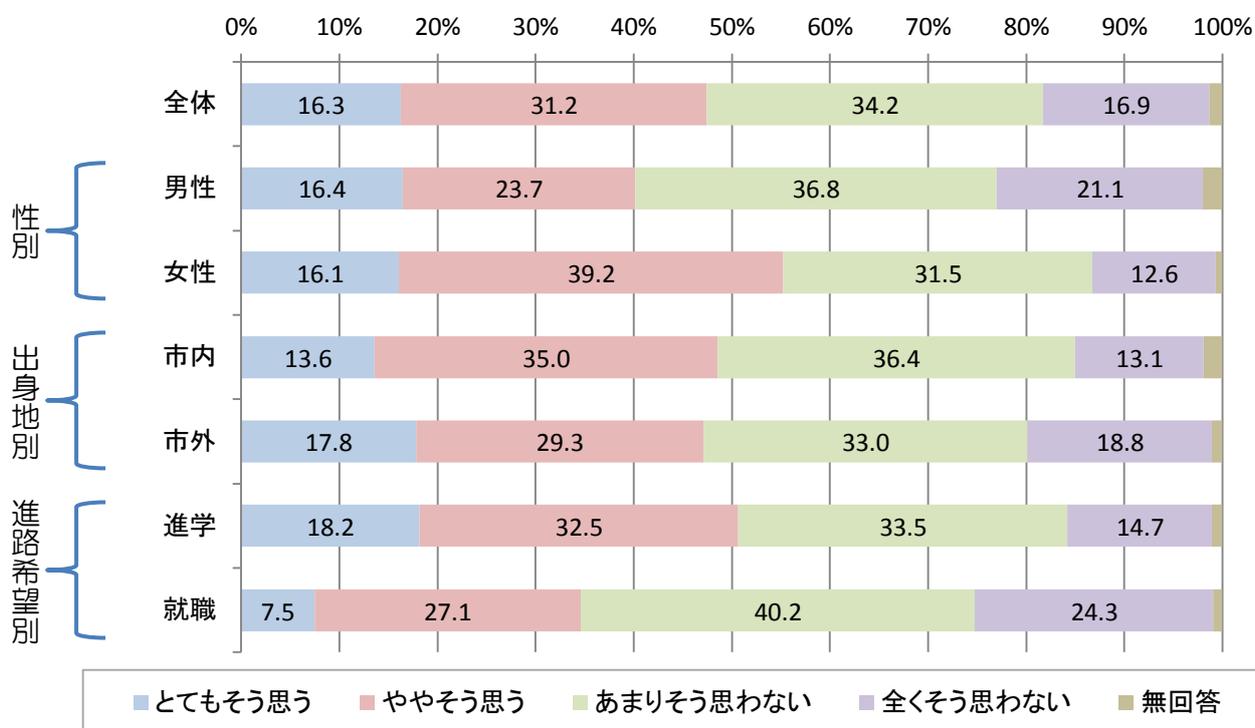
地元の衰退に対する認識は、全体では「とてもそう思う」「ややそう思う」の合計（肯定層）が47.5%となっており、「全くそう思わない」「あまりそう思わない」の合計（否定層）の51.1%を下回っています。

前回調査（「肯定層」50.7%、「否定層」48.7%）と比べると、認識が逆転しています。

性別では、女性の「肯定層」55.3%が、男性の40.1%を上回っており、女性の認識が高くなっています。

進路希望別では、進学希望者の「肯定層」50.7%に対して、就職希望者の「否定層」が64.5%と逆転しています。

問6 あなたは、出身地が衰退していると思いますか。【○は1つ】



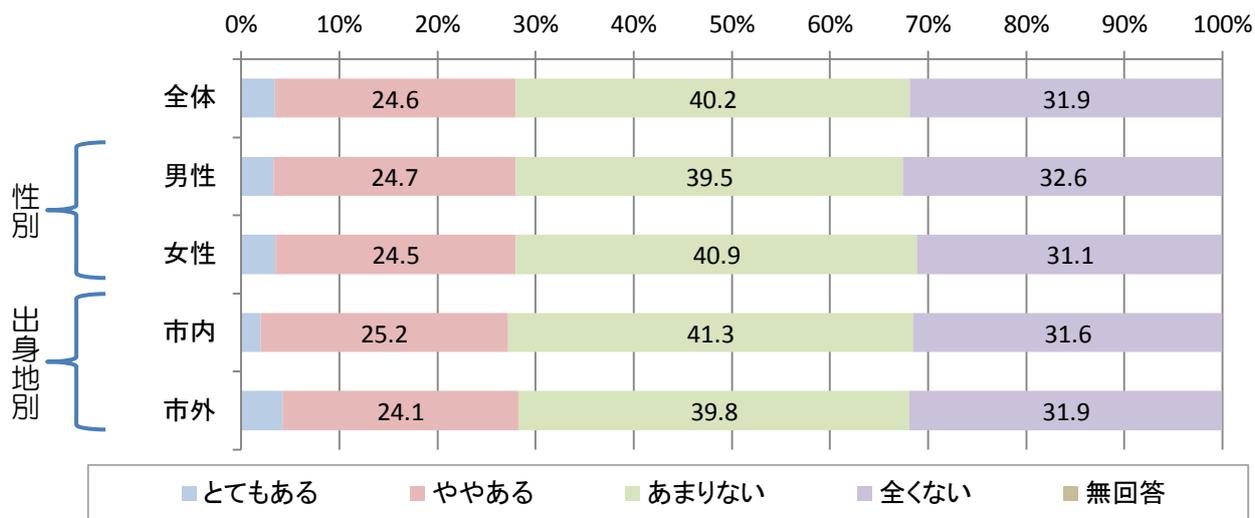
	単純集計	性別		出身地別		進路希望別	
	全体	男性	女性	市内	市外	進学	就職
調査数	590	304	286	206	382	462	107
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
とてもそう思う	96	50	46	28	68	84	8
	16.3%	16.4%	16.1%	13.6%	17.8%	18.2%	7.5%
ややそう思う	184	72	112	72	112	150	29
	31.2%	23.7%	39.2%	35.0%	29.3%	32.5%	27.1%
あまりそう思わない	202	112	90	75	126	155	43
	34.2%	36.8%	31.5%	36.4%	33.0%	33.5%	40.2%
全くそう思わない	100	64	36	27	72	68	26
	16.9%	21.1%	12.6%	13.1%	18.8%	14.7%	24.3%
無回答	8	6	2	4	4	5	1
	1.4%	2.0%	0.7%	1.9%	1.0%	1.1%	0.9%

③ 地元を離れることへの抵抗感

地元を離れることへの抵抗感については、全体では「とてもある」「ややある」の合計が28.0%となっており、「全くない」「あまりない」の合計の72.1%を大きく下回っており、抵抗感は低くなっています。

前回調査（「とてもある」「ややある」32.1%、「全くない」「あまりない」67.7%）と比べると、抵抗感は一層低くなっています。

問7 あなたは、進学や就職のため出身地を離れることに抵抗感がありますか。【○は1つ】

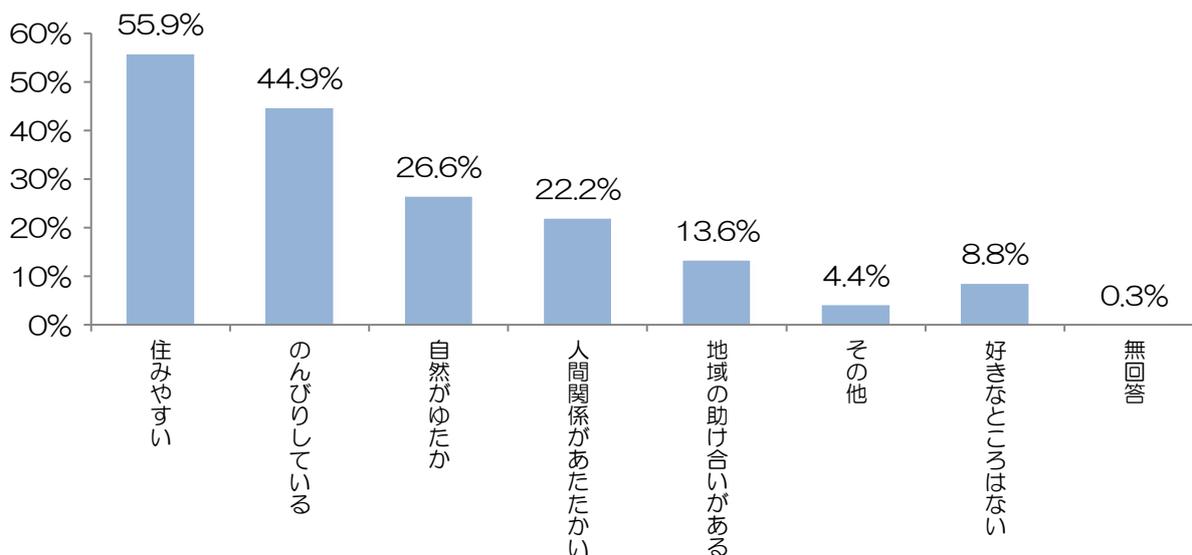


	単純集計	性別		出身地別	
	全体	男性	女性	市内	市外
調査数	590	304	286	206	382
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
とてもある	20	10	10	4	16
	3.4%	3.3%	3.5%	1.9%	4.2%
ややある	145	75	70	52	92
	24.6%	24.7%	24.5%	25.2%	24.1%
あまりない	237	120	117	85	152
	40.2%	39.5%	40.9%	41.3%	39.8%
全くない	188	99	89	65	122
	31.9%	32.6%	31.1%	31.6%	31.9%
無回答	0	0	0	0	0
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

④-1 地元の好きなおとこ

地元の好きなおとこについては、全体では「住みやすい」が 55.9%と最も高く、次いで、「のんびりしている」の 44.9%、「自然がゆたか」の 26.6%の順となっています。前回調査（7.3%）と比べて、「好きなおとこはない」の割合が高くなっています。

問8 あなたは、出身地のどこが好きですか。【〇はいくつでも】



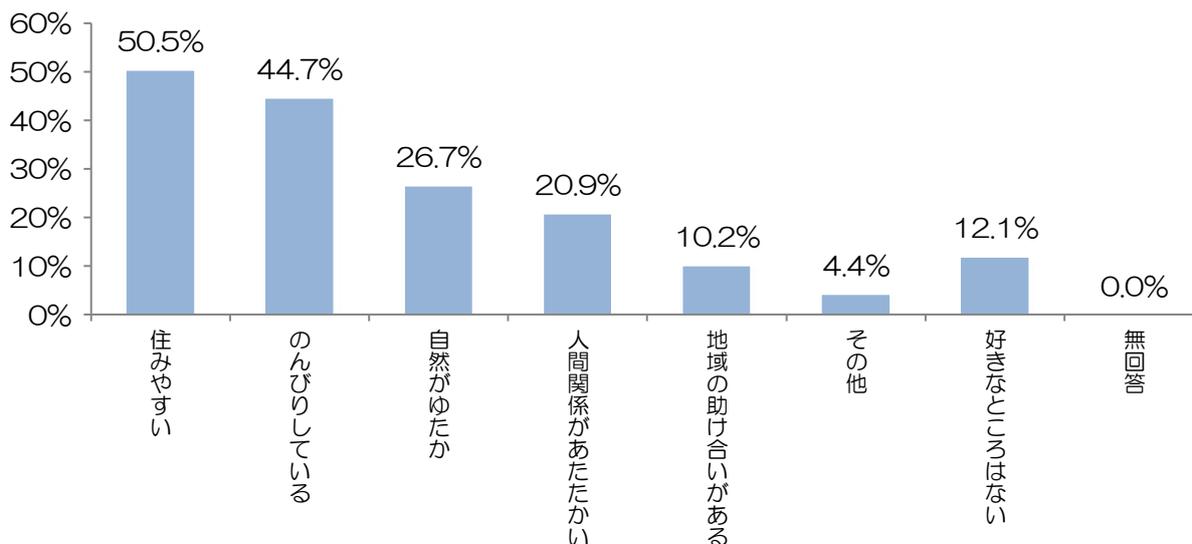
※その他の回答内容：「交通の便が良い」他

	単純集計	性別	
	全体	男性	女性
調査数	590	304	286
	100.0%	100.0%	100.0%
住みやすい	330	178	152
	55.9%	58.6%	53.1%
のんびりしている	265	136	129
	44.9%	44.7%	45.1%
自然がゆたか	157	67	90
	26.6%	22.0%	31.5%
人間関係があたたかい	131	66	65
	22.2%	21.7%	22.7%
地域の助け合いがある	80	38	42
	13.6%	12.5%	14.7%
その他	26	10	16
	4.4%	3.3%	5.6%
好きなおとこはない	52	27	25
	8.8%	8.9%	8.7%
無回答	2	1	1
	0.3%	0.3%	0.3%

④-2 地元の好きなところ【柳川市出身の高校生】

柳川市出身の高校生を抽出・分析したところ、全体では「住みやすい」が50.5%と最も高く、次いで、「のんびりしている」の44.7%、「自然がゆたか」の26.7%の順となっています。全体と比較して、「住みやすい」の割合が低く、「好きなところはない」の割合が高くなっています。

問8 あなたは、出身地のどこが好きですか。【〇はいくつでも】



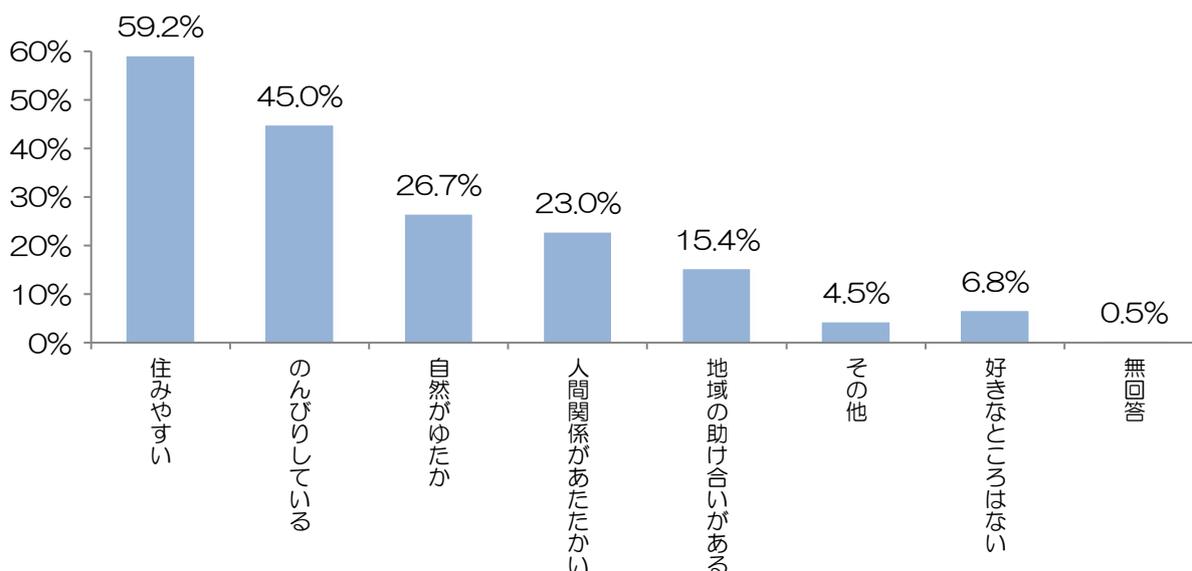
※その他の回答内容：「交通の便が良い」他

	単純集計	性別	
	全体	男性	女性
調査数	206	105	101
	100.0%	100.0%	100.0%
住みやすい	104	49	55
	50.5%	46.7%	54.5%
のんびりしている	92	47	45
	44.7%	44.8%	44.6%
自然がゆたか	55	28	27
	26.7%	26.7%	26.7%
人間関係があたたかい	43	22	21
	20.9%	21.0%	20.8%
地域の助け合いがある	21	9	12
	10.2%	8.6%	11.9%
その他	9	3	6
	4.4%	2.9%	5.9%
好きなところはない	25	14	11
	12.1%	13.3%	10.9%
無回答	0	0	0
	0.0%	0.0%	0.0%

④-3 地元の好きなおところ【柳川市以外の市町村出身の高校生】

柳川市以外の市町村出身の高校生を抽出・分析したところ、地元の好きなおところについては、全体では「住みやすい」が59.2%と最も高く、次いで、「のんびりしている」の45.0%、「自然がゆたか」の26.7%の順となっています。

問8 あなたは、出身地のどこが好きですか。【〇はいくつでも】



※その他の回答内容：「交通の便が良い」他

	単純集計	性別	
	全体	男性	女性
調査数	382 100.0%	197 100.0%	185 100.0%
住みやすい	226 59.2%	129 65.5%	97 52.4%
のんびりしている	172 45.0%	88 44.7%	84 45.4%
自然がゆたか	102 26.7%	39 19.8%	63 34.1%
人間関係があたたかい	88 23.0%	44 22.3%	44 23.8%
地域の助け合いがある	59 15.4%	29 14.7%	30 16.2%
その他	17 4.5%	7 3.6%	10 5.4%
好きなおところはない	26 6.8%	12 6.1%	14 7.6%
無回答	2 0.5%	1 0.5%	1 0.5%

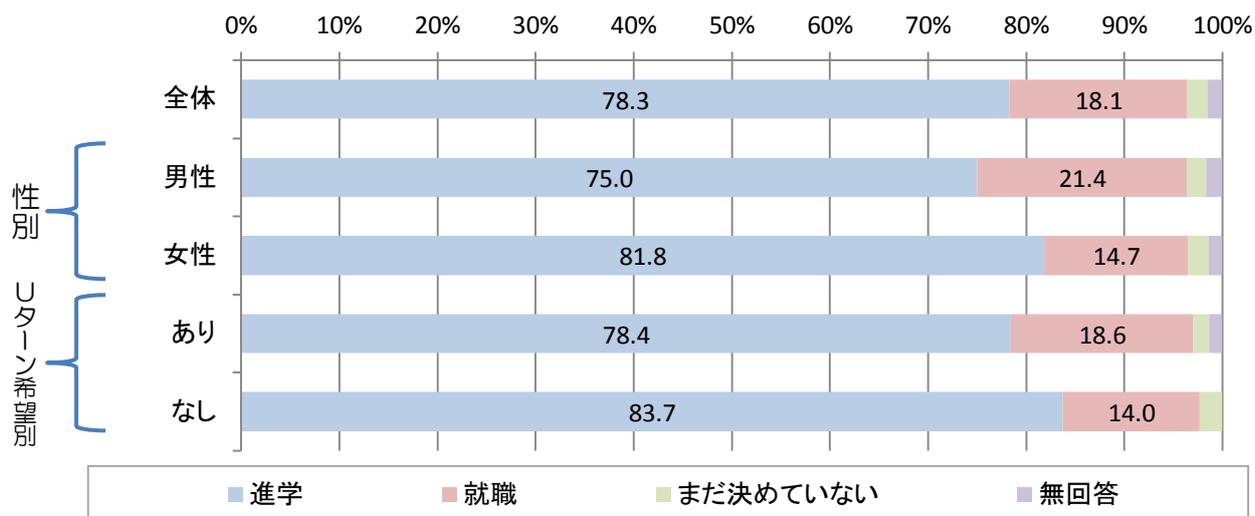
(3) 進学・就職希望

① 高校卒業後の進路希望

高校卒業後の進路希望については、全体では「進学」が78.3%、「就職」が18.1%、「まだ決めていない」が2.0%となっています。

性別では、女性の「進学」の割合が81.8%と男性と比較して高くなっています。

問9 あなたは、高校を卒業後、どのような進路を希望していますか。【○は1つ】



	単純集計	性別		Uターン希望別		高校別		
	全体	男性	女性	あり	なし	伝習館	柳川	杉森
調査数	590	304	286	371	129	187	307	96
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
進学	462	228	234	291	108	182	216	64
	78.3%	75.0%	81.8%	78.4%	83.7%	97.3%	70.4%	66.7%
就職	107	65	42	69	18	3	80	24
	18.1%	21.4%	14.7%	18.6%	14.0%	1.6%	26.1%	25.0%
まだ決めていない	12	6	6	6	3	0	6	6
	2.0%	2.0%	2.1%	1.6%	2.3%	0.0%	2.0%	6.3%
無回答	9	5	4	5	0	2	5	2
	1.5%	1.6%	1.4%	1.3%	0.0%	1.1%	1.6%	2.1%

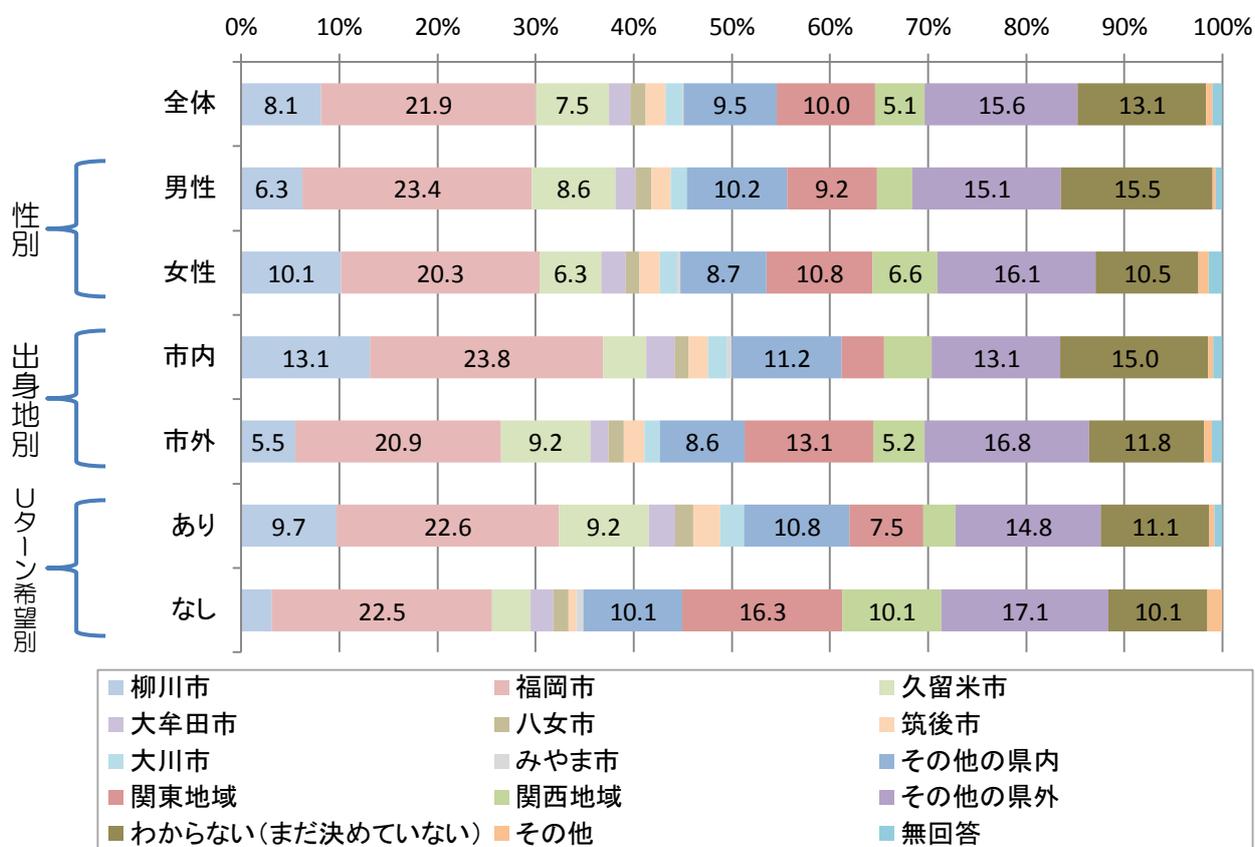
②-1 卒業後に進学や就職を希望する地域

卒業後に進学や就職を希望する地域については、全体では「福岡市」が21.9%と最も高く、次いで、「その他の県外」の15.6%、「わからない（まだ決めていない）」の13.1%の順となっています。

出身地別では、市内出身者の「県内」を希望する割合61.2%が、市外出身者の51.3%を上回っています。

Uターン希望別では、ありの「県内」を希望する割合62.0%が、なしの45.1%を上回っています。

問10 あなたの現在の気持ちとして、高校を卒業後、進学や就職を希望する地域はどこですか。【○は1つ】



※その他の回答内容：「国外」「県内のどこか」

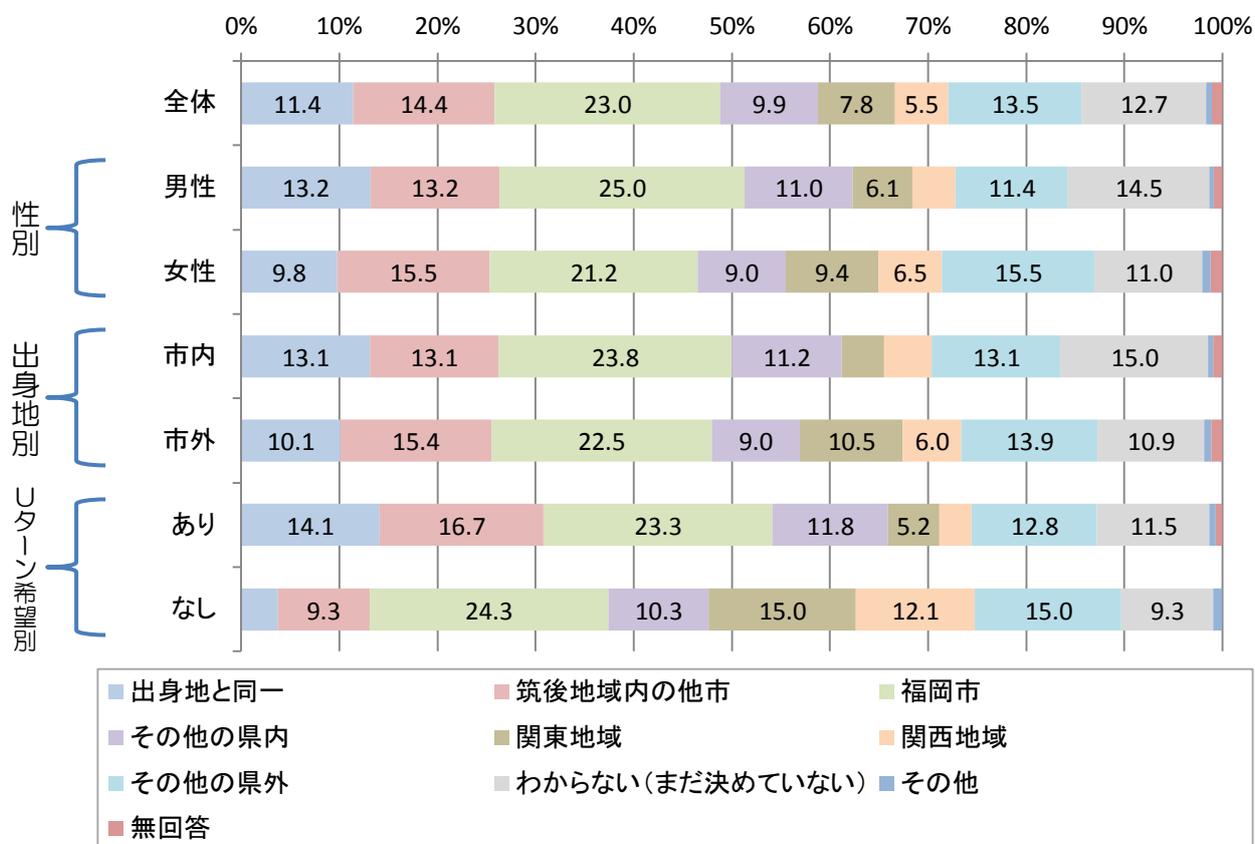
	単純集計	性別		出身地別		Uターン希望別	
	全体	男性	女性	市内	市外	あり	なし
調査数	590	304	286	206	382	371	129
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
柳川市	48	19	29	27	21	36	4
	8.1%	6.3%	10.1%	13.1%	5.5%	9.7%	3.1%
福岡市	129	71	58	49	80	84	29
	21.9%	23.4%	20.3%	23.8%	20.9%	22.6%	22.5%
久留米市	44	26	18	9	35	34	5
	7.5%	8.6%	6.3%	4.4%	9.2%	9.2%	3.9%
大牟田市	13	6	7	6	7	10	3
	2.2%	2.0%	2.4%	2.9%	1.8%	2.7%	2.3%
八女市	9	5	4	3	6	7	2
	1.5%	1.6%	1.4%	1.5%	1.6%	1.9%	1.6%
筑後市	12	6	6	4	8	10	1
	2.0%	2.0%	2.1%	1.9%	2.1%	2.7%	0.8%
大川市	10	5	5	4	6	9	0
	1.7%	1.6%	1.7%	1.9%	1.6%	2.4%	0.0%
みやま市	1	0	1	1	0	0	1
	0.2%	0.0%	0.3%	0.5%	0.0%	0.0%	0.8%
その他の県内	56	31	25	23	33	40	13
	9.5%	10.2%	8.7%	11.2%	8.6%	10.8%	10.1%
関東地域	59	28	31	9	50	28	21
	10.0%	9.2%	10.8%	4.4%	13.1%	7.5%	16.3%
関西地域	30	11	19	10	20	12	13
	5.1%	3.6%	6.6%	4.9%	5.2%	3.2%	10.1%
その他の県外	92	46	46	27	64	55	22
	15.6%	15.1%	16.1%	13.1%	16.8%	14.8%	17.1%
わからない（まだ決めていない）	77	47	30	31	45	41	13
	13.1%	15.5%	10.5%	15.0%	11.8%	11.1%	10.1%
その他	4	1	3	1	3	2	2
	0.7%	0.3%	1.0%	0.5%	0.8%	0.5%	1.6%
無回答	6	2	4	2	4	3	0
	1.0%	0.7%	1.4%	1.0%	1.0%	0.8%	0.0%

②-2 卒業後に進学や就職を希望する地域【筑後地域出身の高校生】

筑後地域（柳川市、久留米市、大牟田市、八女市、筑後市、大川市、みやま市）出身の高校生を抽出・分析したところ、全体では「福岡市」が23.0%と最も高く、次いで、「筑後地域内の他市」の14.4%、「その他の県外」の13.5%の順となっており、「出身地と同一」は11.4%に留まっています。

筑後地域出身者は、全体と比べて、県内に留まる意向が強いものの、出身地に固執していないと考えられます。

問10 あなたの現在の気持ちとして、高校を卒業後、進学や就職を希望する地域はどこですか。【○は1つ】



※その他の回答内容：「国外」

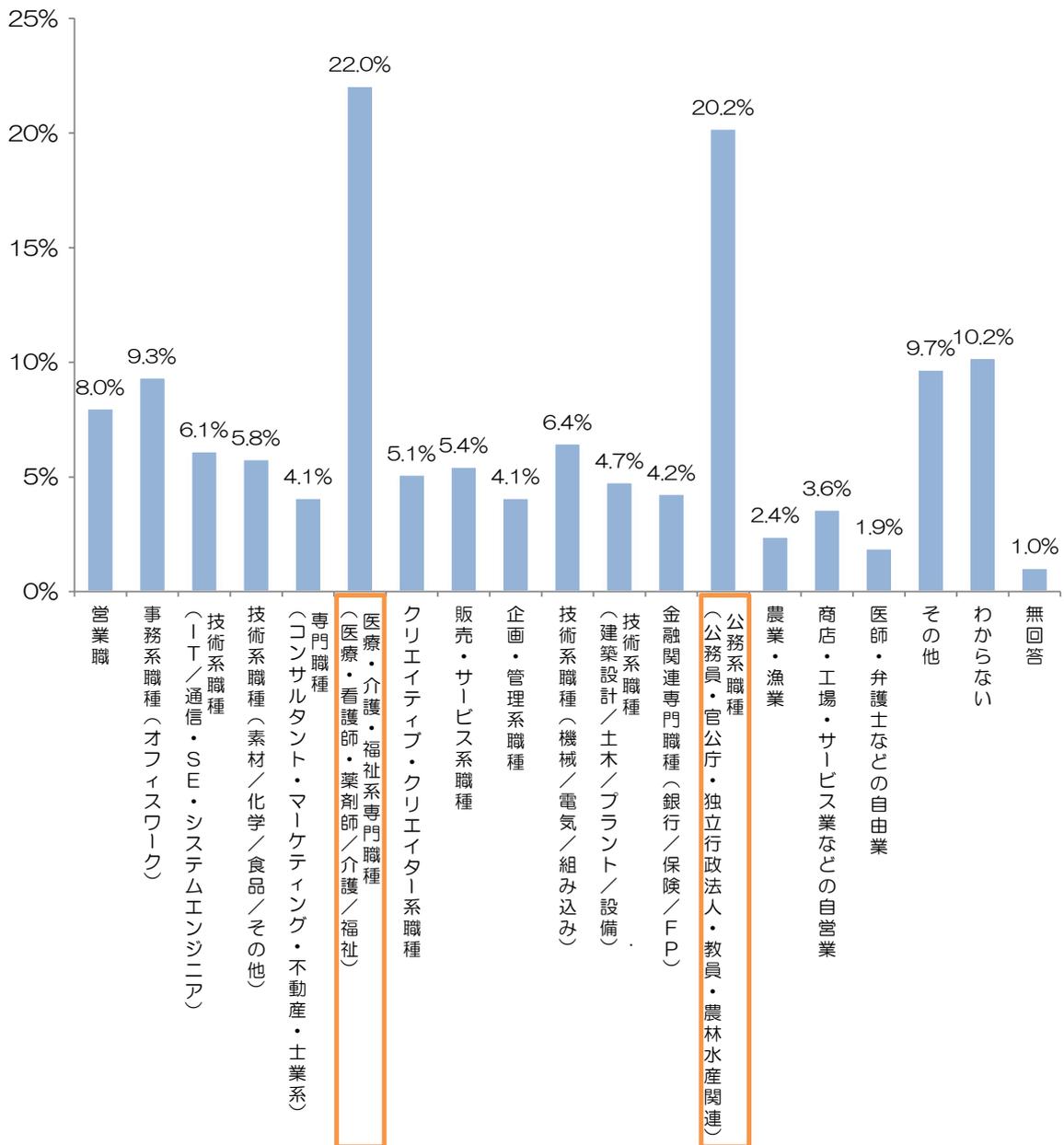
	単純集計	性別		出身地別		Uターン希望別	
	全体	男性	女性	市内	市外	あり	なし
調査数	473	228	245	206	267	305	107
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
出身地と同一	54	30	24	27	27	43	4
	11.4%	13.2%	9.8%	13.1%	10.1%	14.1%	3.7%
筑後地域内の他市	68	30	38	27	41	51	10
	14.4%	13.2%	15.5%	13.1%	15.4%	16.7%	9.3%
福岡市	109	57	52	49	60	71	26
	23.0%	25.0%	21.2%	23.8%	22.5%	23.3%	24.3%
その他の県内	47	25	22	23	24	36	11
	9.9%	11.0%	9.0%	11.2%	9.0%	11.8%	10.3%
関東地域	37	14	23	9	28	16	16
	7.8%	6.1%	9.4%	4.4%	10.5%	5.2%	15.0%
関西地域	26	10	16	10	16	10	13
	5.5%	4.4%	6.5%	4.9%	6.0%	3.3%	12.1%
その他の県外	64	26	38	27	37	39	16
	13.5%	11.4%	15.5%	13.1%	13.9%	12.8%	15.0%
わからない（まだ決めていない）	60	33	27	31	29	35	10
	12.7%	14.5%	11.0%	15.0%	10.9%	11.5%	9.3%
その他	3	1	2	1	2	2	1
	0.6%	0.4%	0.8%	0.5%	0.7%	0.7%	0.9%
無回答	5	2	3	2	3	2	0
	1.1%	0.9%	1.2%	1.0%	1.1%	0.7%	0.0%

③-1 将来希望する職業・職種

将来希望する職業・職種については、全体では「医療・介護・福祉系専門職種（医療・看護師・薬剤師／介護／福祉）」が22.0%と最も高く、次いで、「公務系職種（公務員・官公庁・独立行政法人・教員・農林水産関連）」の20.2%、「わからない」の10.2%の順となっています。

性別では、男性は「公務系職種（公務員・官公庁・独立行政法人・教員・農林水産関連）」（21.4%）、女性は「医療・介護・福祉系専門職種（医療・看護師・薬剤師／介護／福祉）」（35.0%）の割合がそれぞれ最も高くなっています。

問11 あなたの現在の気持ちとして、将来希望する職業・職種は何ですか。【〇はいくつでも】



※その他の回答内容：「航空業」「スポーツ関係」他

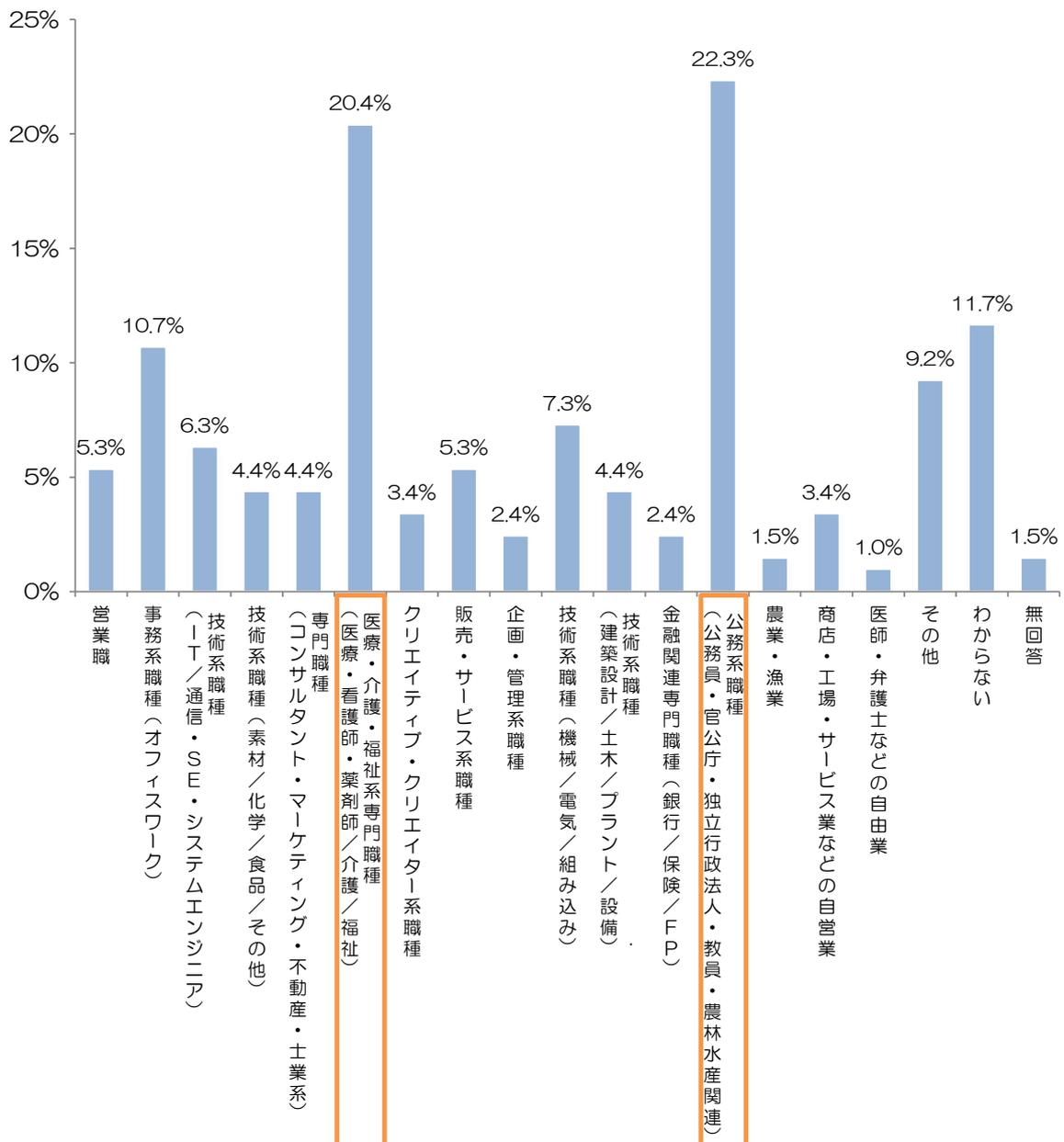
	単純集計	性別	
	全体	男性	女性
調査数	590 100.0%	304 100.0%	286 100.0%
営業職	47 8.0%	34 11.2%	13 4.5%
事務系職種（オフィスワーク）	55 9.3%	13 4.3%	42 14.7%
技術系職種（IT／通信・SE・システムエンジニア）	36 6.1%	30 9.9%	6 2.1%
技術系職種（素材／化学／食品／その他）	34 5.8%	15 4.9%	19 6.6%
専門職種（コンサルタント・マーケティング・不動産・土業系）	24 4.1%	14 4.6%	10 3.5%
医療・介護・福祉系専門職種（医療・看護師・薬剤師／介護／福祉）	130 22.0%	30 9.9%	100 35.0%
クリエイティブ・クリエイター系職種	30 5.1%	18 5.9%	12 4.2%
販売・サービス系職種	32 5.4%	13 4.3%	19 6.6%
企画・管理系職種	24 4.1%	3 1.0%	21 7.3%
技術系職種（機械／電気／組み込み）	38 6.4%	34 11.2%	4 1.4%
技術系職種（建築設計／土木／プラント／設備）	28 4.7%	24 7.9%	4 1.4%
金融関連専門職種（銀行／保険／FP）	25 4.2%	15 4.9%	10 3.5%
公務系職種（公務員・官公庁・独立行政法人・教員・農林水産関連）	119 20.2%	65 21.4%	54 18.9%
農業・漁業	14 2.4%	10 3.3%	4 1.4%
商店・工場・サービス業などの自営業	21 3.6%	12 3.9%	9 3.1%
医師・弁護士などの自由業	11 1.9%	7 2.3%	4 1.4%
その他	57 9.7%	35 11.5%	22 7.7%
わからない	60 10.2%	40 13.2%	20 7.0%
無回答	6 1.0%	3 1.0%	3 1.0%

③-2 将来希望する職業・職種【柳川市出身の高校生】

柳川市出身の高校生を抽出・分析したところ、全体では「公務系職種（公務員・官公庁・独立行政法人・教員・農林水産関連）」が22.3%と最も高く、次いで、「医療・介護・福祉系専門職種（医療・看護師・薬剤師／介護／福祉）」の20.4%、「わからない」の11.7%の順となっています。

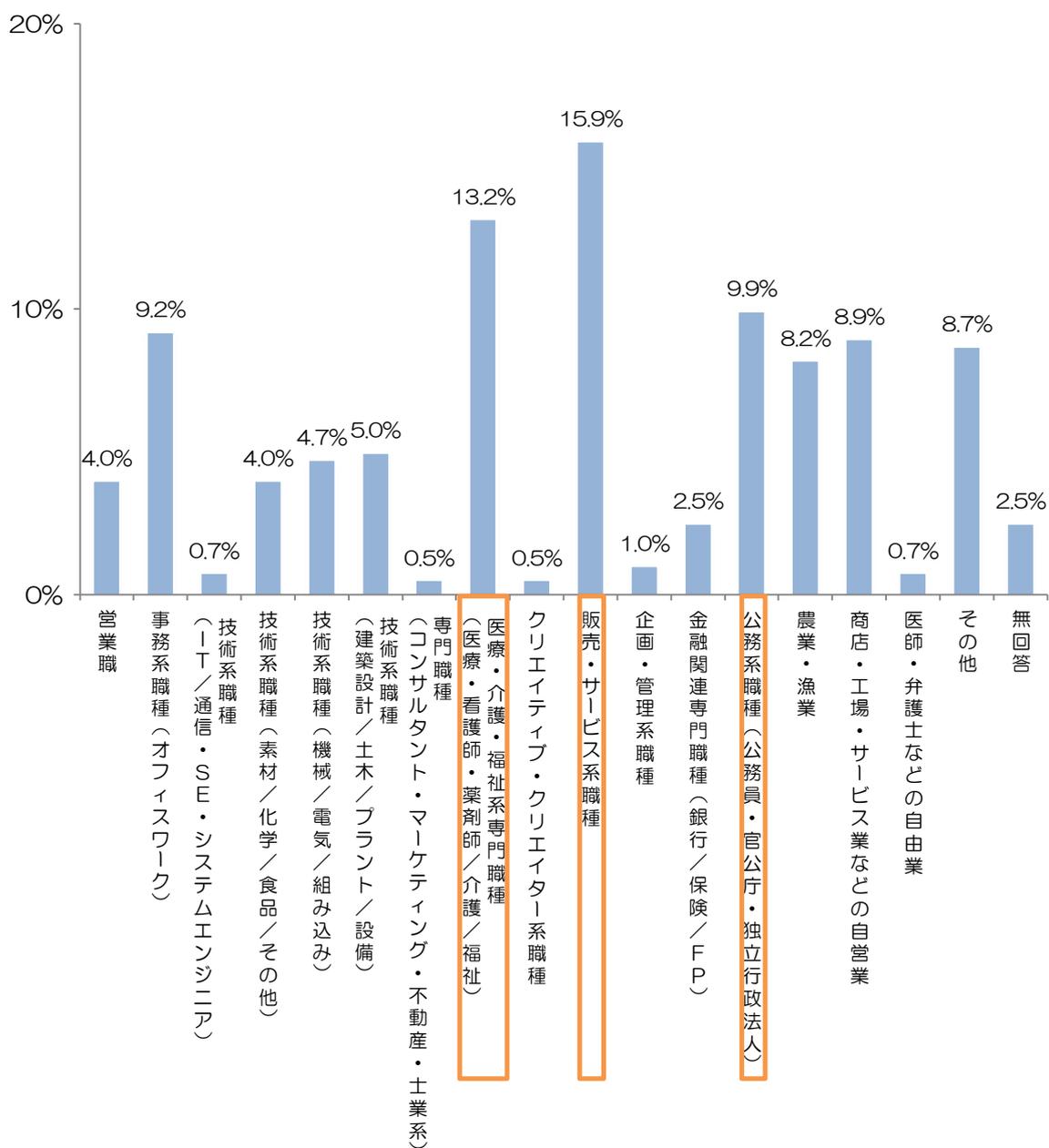
市民アンケート（124 ページ）と比べると、「販売・サービス系職種」や「農業・漁業」において、現実と希望との乖離がみられ、後継者不足等が懸念されます。

問 11 あなたの現在の気持ちとして、将来希望する職業・職種は何ですか。【〇はいくつでも】



※その他の回答内容：「航空業」「スポーツ関係」他

【参考】 市民アンケート：問 8-2 どのような職業・職種で働いていますか。【〇は1つ】



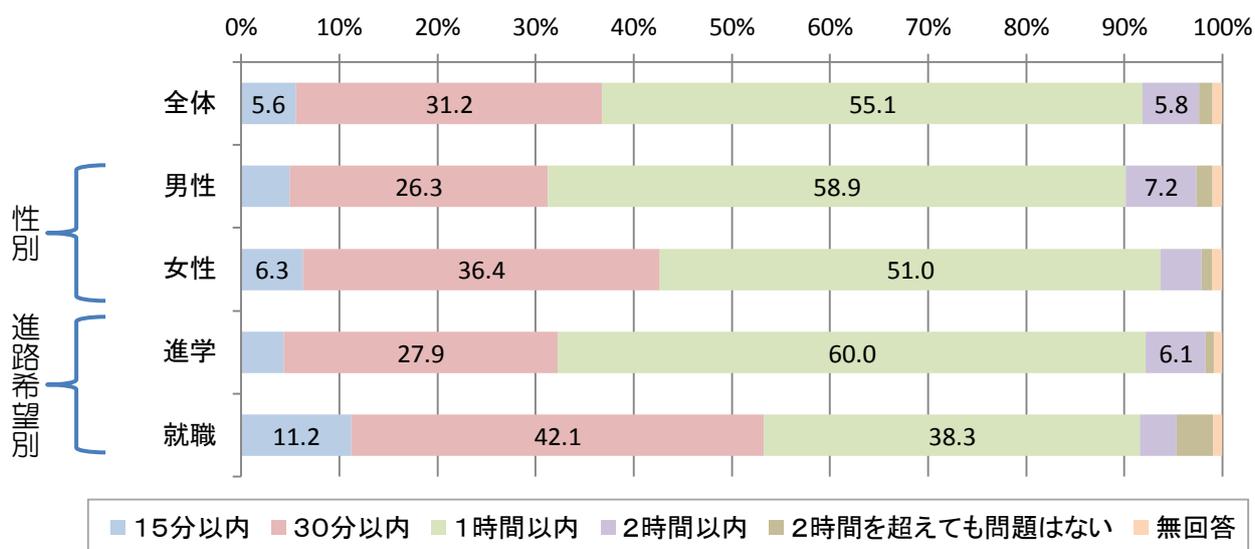
※その他の回答内容：「製造業」「運送業」他

④ 通勤時間の許容範囲

通勤時間の許容範囲については、全体では「1時間以内」が55.1%と最も高く、次いで、「30分以内」の31.2%、「2時間以内」の5.8%の順となっており、1時間を超えても許容できるとする割合は7.2%に留まっています。

性別では男性より女性、進路希望別では進学希望者より就職希望者の許容できる時間が短くなっています。

問12 あなたが将来就職した場合、仕事場までの通勤時間はどれくらいまでだったら通えると思いますか。【○は1つ】



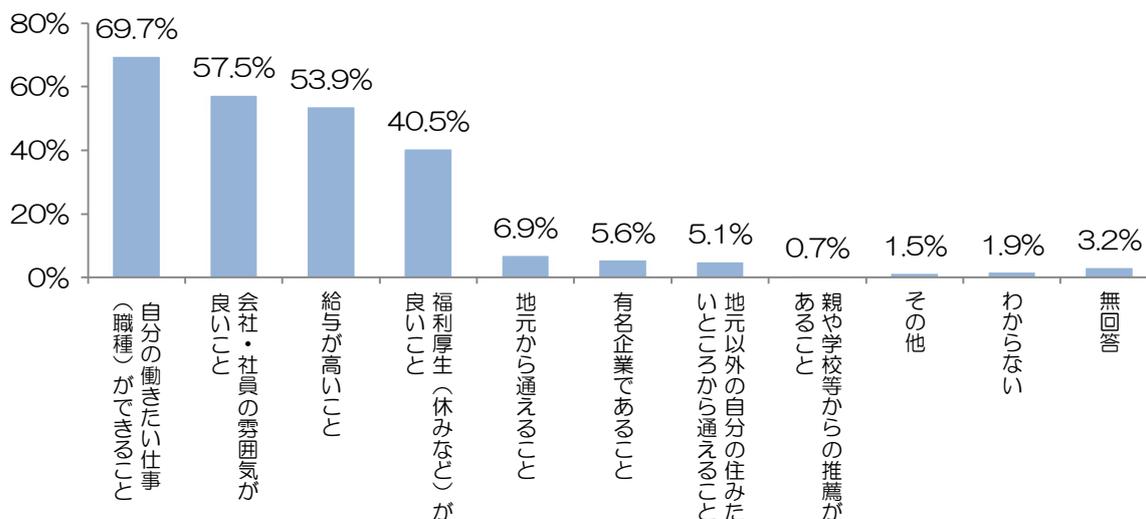
	単純集計	性別		進路希望別	
	全体	男性	女性	進学	就職
調査数	590	304	286	462	107
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
15分以内	33	15	18	20	12
	5.6%	4.9%	6.3%	4.3%	11.2%
30分以内	184	80	104	129	45
	31.2%	26.3%	36.4%	27.9%	42.1%
1時間以内	325	179	146	277	41
	55.1%	58.9%	51.0%	60.0%	38.3%
2時間以内	34	22	12	28	4
	5.8%	7.2%	4.2%	6.1%	3.7%
2時間を超えても問題はない	8	5	3	4	4
	1.4%	1.6%	1.0%	0.9%	3.7%
無回答	6	3	3	4	1
	1.0%	1.0%	1.0%	0.9%	0.9%

⑤ 就職の際に重視する点

就職の際に重視する点については、全体では「自分の働きたい仕事（職種）ができること」が69.7%と最も高く、次いで、「会社・社員の雰囲気が良いこと」の57.5%、「給与が高いこと」の53.9%の順となっています。

進路希望別では、進学希望者は「自分の働きたい仕事（職種）ができること」（74.9%）、就職希望者は「会社・社員の雰囲気が良いこと」（56.1%）の割合がそれぞれ最も高くなっています。

問13 あなたは将来就職する際に、どのような点を重視すると思いますか。【○は3つまで】



※その他の回答内容：「コミュニケーション」「社会貢献」他

	単純集計	性別		進路希望別	
	全体	男性	女性	進学	就職
調査数	590	304	286	462	107
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
自分の働きたい仕事（職種）ができること	411 69.7%	210 69.1%	201 70.3%	346 74.9%	53 49.5%
会社・社員の雰囲気が良いこと	339 57.5%	170 55.9%	169 59.1%	267 57.8%	60 56.1%
給与が高いこと	318 53.9%	152 50.0%	166 58.0%	254 55.0%	55 51.4%
福利厚生（休みなど）が良いこと	239 40.5%	125 41.1%	114 39.9%	186 40.3%	50 46.7%
地元から通えること	41 6.9%	18 5.9%	23 8.0%	24 5.2%	16 15.0%
有名企業であること	33 5.6%	26 8.6%	7 2.4%	23 5.0%	9 8.4%
地元以外の自分の住みたいところから通えること	30 5.1%	14 4.6%	16 5.6%	26 5.6%	4 3.7%
親や学校等からの推薦があること	4 0.7%	3 1.0%	1 0.3%	2 0.4%	2 1.9%
その他	9 1.5%	8 2.6%	1 0.3%	8 1.7%	0 0.0%
わからない	11 1.9%	9 3.0%	2 0.7%	6 1.3%	3 2.8%
無回答	19 3.2%	8 2.6%	11 3.8%	12 2.6%	5 4.7%

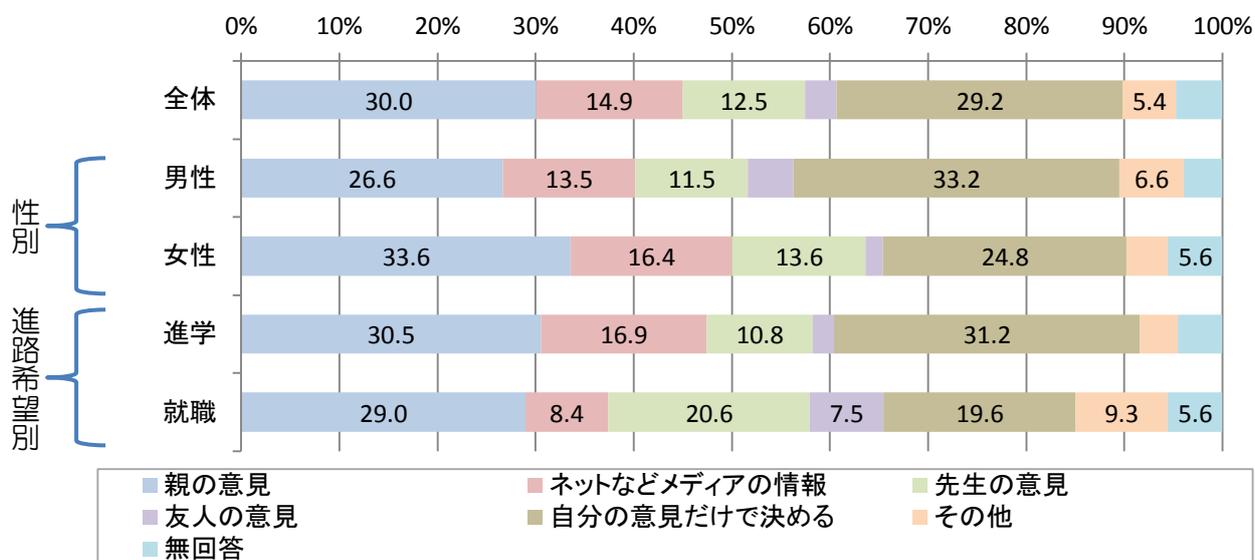
⑥ 進学・就職する際の決め手

進学・就職する際の決め手については、全体では「親の意見」が30.0%と最も高く、次いで、「自分の意見だけで決める」の29.2%、「ネットなどメディアの情報」の14.9%の順となっています。

前回調査と比べると、「親の意見」(43.9%)が最も多いことは変わらないものの、「先生の意見」(27.4%)が大きく減少し、「自分の意見だけで決める」(18.4%)が増加しています。

進路希望別では、進学希望者は「自分の意見だけで決める」(31.2%)、就職希望者は「親の意見」(29.0%)の割合がそれぞれ最も高くなっています。

問14 あなたが、進学・就職する際に決め手になるものは何ですか。【○は1つ】



※その他の回答内容：「色々な情報を加味して自分で決める」「進路先について詳しい人の意見」他

	単純集計	性別		進路希望別	
	全体	男性	女性	進学	就職
調査数	590	304	286	462	107
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
親の意見	177	81	96	141	31
	30.0%	26.6%	33.6%	30.5%	29.0%
ネットなどメディアの情報	88	41	47	78	9
	14.9%	13.5%	16.4%	16.9%	8.4%
先生の見解	74	35	39	50	22
	12.5%	11.5%	13.6%	10.8%	20.6%
友人の見解	19	14	5	10	8
	3.2%	4.6%	1.7%	2.2%	7.5%
自分の意見だけで決める	172	101	71	144	21
	29.2%	33.2%	24.8%	31.2%	19.6%
その他	32	20	12	18	10
	5.4%	6.6%	4.2%	3.9%	9.3%
無回答	28	12	16	21	6
	4.7%	3.9%	5.6%	4.5%	5.6%

⑦ Uターンの意向

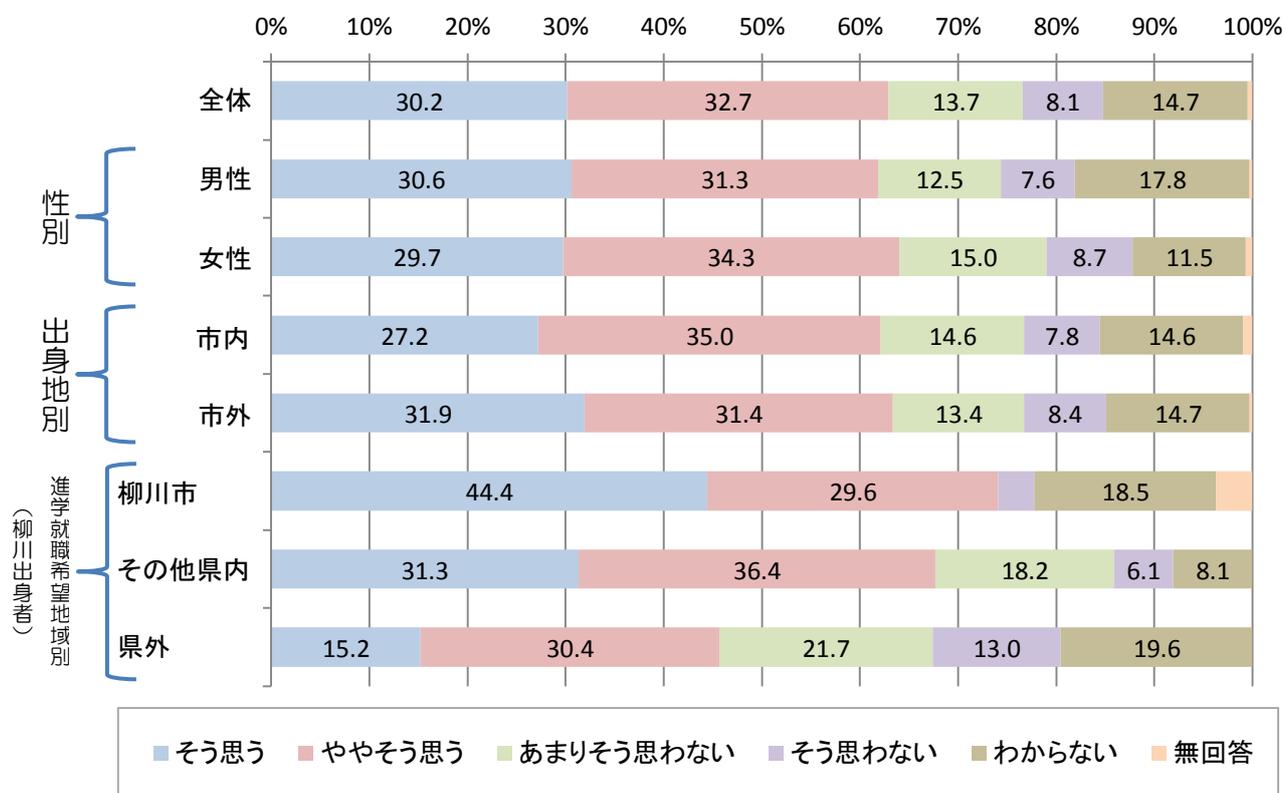
Uターンの意向については、全体では「そう思う」「ややそう思う」の合計が 62.9%となっており、「そう思わない」「あまりそう思わない」の合計の 21.8%を大きく上回っています。

前回調査の 73.8%と比べると、「そう思う」「ややそう思う」の合計が低くなっています。

「そう思う」「ややそう思う」と回答した理由として、「地元へ愛着があるから」「生活しやすいから」「家族や友人が住んでいるから」が多く挙げられ、「そう思わない」「あまりそう思わない」と回答した理由として、「生活しにくいから」「他の地域に住みたいから」「仕事がないから」が多く挙げられています。

柳川出身者の進学就職希望地域別では、遠方への進学・就職を希望するほど、Uターンを希望する割合が低くなっています。

問 15 あなたは、進学や就職などで出身地を離れることがあっても、将来は、また戻ってきたいと思いますか。また、そのように思う理由を教えてください。【○は1つ】



	単純集計	性別		出身地別		(柳川出身者) 進学・就職希望地域別		
	全体	男性	女性	市内	市外	柳川市	その他県内	県外
調査数	590	304	286	206	382	27	99	46
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
そう思う	178	93	85	56	122	12	31	7
	30.2%	30.6%	29.7%	27.2%	31.9%	44.4%	31.3%	15.2%
ややそう思う	193	95	98	72	120	8	36	14
	32.7%	31.3%	34.3%	35.0%	31.4%	29.6%	36.4%	30.4%
あまりそう思わない	81	38	43	30	51	0	18	10
	13.7%	12.5%	15.0%	14.6%	13.4%	0.0%	18.2%	21.7%
そう思わない	48	23	25	16	32	1	6	6
	8.1%	7.6%	8.7%	7.8%	8.4%	3.7%	6.1%	13.0%
わからない	87	54	33	30	56	5	8	9
	14.7%	17.8%	11.5%	14.6%	14.7%	18.5%	8.1%	19.6%
無回答	3	1	2	2	1	1	0	0
	0.5%	0.3%	0.7%	1.0%	0.3%	3.7%	0.0%	0.0%

・「そう思う」「ややそう思う」と回答した理由

回答理由	回答件数
地元にあ着があるから：地元が好き、安心して生活できる 等	143 件
生活しやすいから：住み慣れている、住みやすい 等	67 件
家族や友人が住んでいるから	60 件
地元で働きたいから：家業を継ぐ、地元で起業したい	4 件
その他：何となく、一人暮らしは寂しい 等	27 件

・「そう思わない」「あまりそう思わない」と回答した理由

回答理由	回答件数
生活しにくいから：住みにくい、店が少ない、交通が不便 等	29 件
他の地域に住みたいから：都会に住みたい、色々な場所で生活してみたい 等	20 件
仕事がないから：地元で働きたい場所がない、通勤に時間がかかる 等	18 件
地元にあ着がないから：地元が好きではない、思い入れがない 等	13 件
地元に戻る必要性を感じないから	8 件
家族から離れたたいから：親から離れたたい、家を出たい 等	2 件
その他：転出先で定住する可能性がある、地元の間関係が面倒くさい 等	13 件

(4) 柳川市の住みやすさ

① 生活環境に対する現在の満足度

生活環境に対する現在の満足度については、全体では「自然の豊かさ」「公民館、図書館などの社会教育施設」「市民会館や水の郷などの文化施設」の順に高く、「飲食・娯楽のための施設」「買物の便利さ」「地震などの災害への安全対策」の順に低くなっています。

市民アンケートとの比較では、満足度の平均は市民を上回っていますが、「地域の治安のよさ」「買物の便利さ」は市民の満足度を下回っています。

	単純集計		性別		出身地別		(参考) 市民アンケート	
	全体	順位	男性	女性	市内	市外	全体	順位
道路の利便性	58.3	7	58.3	58.3	63.2	55.8	57.7	4
公共交通の利便性	57.5	9	59.0	55.9	58.4	57.1	44.2	18
買物の便利さ	53.0	18	53.9	52.1	52.6	53.2	55.6	7
飲食・娯楽のための施設	43.3	19	45.4	41.1	40.1	45.0	38.6	19
自然の豊かさ	64.6	1	62.3	67.0	68.9	62.4	63.0	1
街並みや景観の美しさ	61.7	5	61.3	62.3	60.7	62.4	51.8	13
水辺の景観や掘割の保全状況	54.3	16	55.1	53.5	52.5	55.3	47.1	16
地域の治安のよさ	57.0	14	59.8	54.0	59.4	55.6	60.6	2
地震などの災害への安全対策	53.6	17	55.9	51.1	54.9	53.0	48.0	14
病院、診療所などの医療施設	63.3	4	63.1	63.4	67.9	60.9	55.9	6
子育てしやすい環境	55.5	15	56.5	54.4	59.0	53.6	53.4	10
義務教育の水準	57.1	12	57.9	56.2	59.6	55.7	53.8	9
公民館、図書館などの社会教育施設	64.0	2	63.6	64.5	67.7	62.1	59.5	3
市民会館や水の郷などの文化施設	63.5	3	64.1	62.9	65.1	62.8	55.6	8
文化芸術活動の活発さ	57.1	11	58.0	56.2	57.1	57.2	52.1	12
公園、広場、緑地などの施設	57.1	13	56.2	57.9	57.6	56.9	44.5	17
グラウンドや体育館などのスポーツ施設	57.5	10	57.0	58.1	57.1	57.7	47.4	15
近所付き合いのよさ	58.7	6	59.4	57.9	64.6	55.6	57.1	5
市民活動などの地域コミュニティの活発さ	57.6	8	58.9	56.3	60.1	56.4	53.0	11
平均	57.6	-	58.2	57.0	59.3	56.8	52.6	-

※満足度（重要度）の算出については、満足（重要）を100点、やや満足（やや重要）を75点、どちらともいえない・わからないを50点、やや不満（あまり重要ではない）を25点、不満（重要ではない）を0点として、回答者（無回答者を除く）の平均を算出した。

② 生活環境に対する今後の重要度

生活環境に対する今後の重要度については、全体では「公共交通の利便性」「買物の便利さ」「地震などの災害への安全対策」の順に高く、「文化芸術活動の活発さ」「市民活動などの地域コミュニティの活発さ」「市民会館や水の郷などの文化施設」の順に低くなっています。

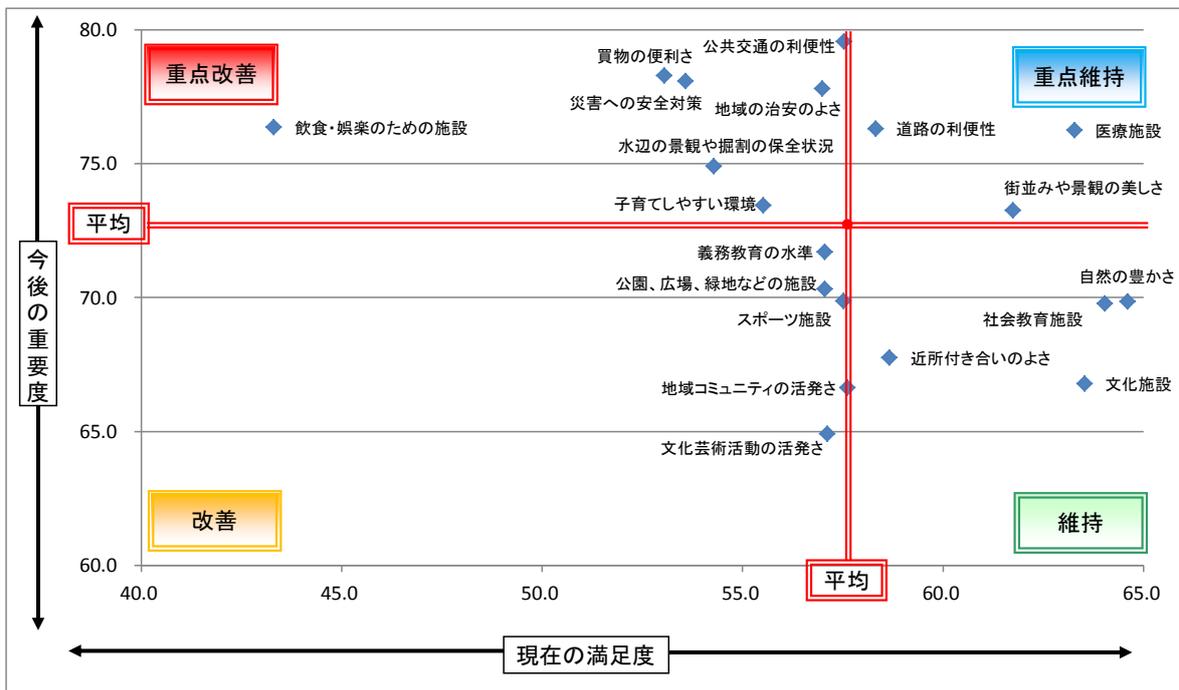
市民アンケートとの比較では、下位3項目は同一項目となっている一方、「飲食・娯楽のための施設」の重要度が10ポイント以上高くなっており、市民と比較して重要視しているとみられます。

	単純集計		性別		出身地別		(参考) 市民アンケート	
	全体	順位	男性	女性	市内	市外	全体	順位
道路の利便性	76.3	6	76.3	76.3	78.6	75.3	76.7	7
公共交通の利便性	79.6	1	77.9	81.3	83.1	78.0	77.8	6
買物の便利さ	78.3	2	78.2	78.4	82.4	76.4	79.2	4
飲食・娯楽のための施設	76.4	5	77.0	75.7	78.6	75.4	66.3	16
自然の豊かさ	69.9	14	71.0	68.6	69.8	69.9	71.8	10
街並みや景観の美しさ	73.3	10	74.4	72.0	73.4	73.2	71.7	11
水辺の景観や掘割の保全状況	74.9	8	75.3	74.5	78.0	73.5	75.5	8
地域の治安のよさ	77.8	4	78.3	77.3	79.6	77.0	82.8	2
地震などの災害への安全対策	78.1	3	78.7	77.4	84.3	75.0	83.2	1
病院、診療所などの医療施設	76.3	7	77.4	75.0	80.1	74.6	81.8	3
子育てしやすい環境	73.5	9	73.6	73.3	78.5	71.1	78.3	5
義務教育の水準	71.7	11	73.0	70.2	74.7	70.3	74.5	9
公民館、図書館などの社会教育施設	69.8	15	70.4	69.1	70.8	69.4	69.8	14
市民会館や水の郷などの文化施設	66.8	17	69.9	63.4	66.6	67.0	65.8	17
文化芸術活動の活発さ	64.9	19	67.6	62.0	65.3	64.9	61.4	19
公園、広場、緑地などの施設	70.3	12	74.3	66.0	74.0	68.7	71.4	12
グラウンドや体育館などのスポーツ施設	69.9	13	74.9	64.5	73.0	68.4	66.9	15
近所付き合いのよさ	67.8	16	70.2	65.1	71.8	65.9	70.4	13
市民活動などの地域コミュニティの活発さ	66.6	18	69.5	63.6	68.0	66.1	63.6	18
平均	72.7	-	74.1	71.3	75.3	71.6	73.1	-

③ 生活環境に対する満足度・重要度による分析

生活環境に対する各項目について、満足度・重要度により4つに分類した結果、特に重点的に改善する必要があると考えられる重点改善項目として、「公共交通の利便性」「買物の便利さ」「地震などの災害への安全対策」「地域の治安のよさ」「飲食・娯楽のための施設」「水辺の景観や掘割の保全状況」「子育てしやすい環境」の7項目が該当しました。

問 16 柳川市の生活環境について、どのくらい満足しているか、また、どのくらい重要と考えているかをお聞きします。以下のすべての項目について、「現在の評価」と「今後の要望」の回答欄から、それぞれ該当するものを1つずつ選んで○を付けてください。



※分類内容

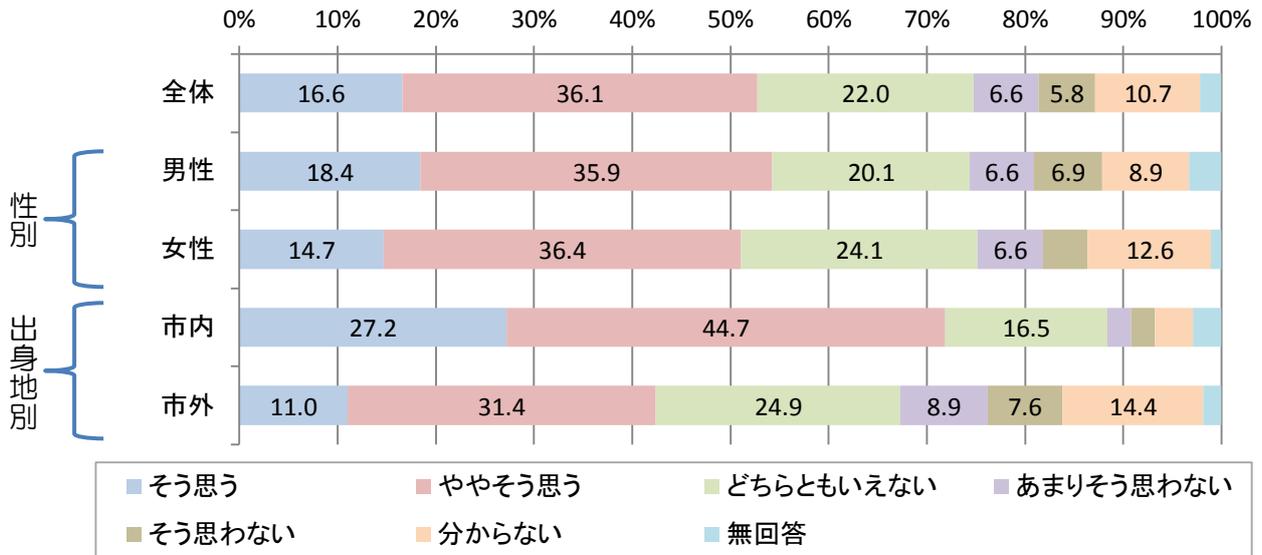
- 重点改善：満足度が低く、重要度が高い
- 改善：満足度が低いが、重要度も低い
- 重点維持：満足度が高く、重要度も高い
- 維持：満足度が高いが、重要度は低い

④ 柳川市の住みやすさ

柳川市の住みやすさについては、全体では「そう思う」「ややそう思う」の合計（満足層）が52.7%となっており、「そう思わない」「あまりそう思わない」の合計（不満層）の12.4%を大きく上回っています。

出身地別では、市内出身者の「満足層」が71.9%と、市外出身者の42.4%を大きく上回っています。

問17 柳川市は、住みやすいまちであると思いますか。【○は1つ】



	単純集計	性別		出身地別	
	全体	男性	女性	市内	市外
調査数	590	304	286	206	382
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
そう思う	98	56	42	56	42
	16.6%	18.4%	14.7%	27.2%	11.0%
ややそう思う	213	109	104	92	120
	36.1%	35.9%	36.4%	44.7%	31.4%
どちらともいえない	130	61	69	34	95
	22.0%	20.1%	24.1%	16.5%	24.9%
あまりそう思わない	39	20	19	5	34
	6.6%	6.6%	6.6%	2.4%	8.9%
そう思わない	34	21	13	5	29
	5.8%	6.9%	4.5%	2.4%	7.6%
分からない	63	27	36	8	55
	10.7%	8.9%	12.6%	3.9%	14.4%
無回答	13	10	3	6	7
	2.2%	3.3%	1.0%	2.9%	1.8%

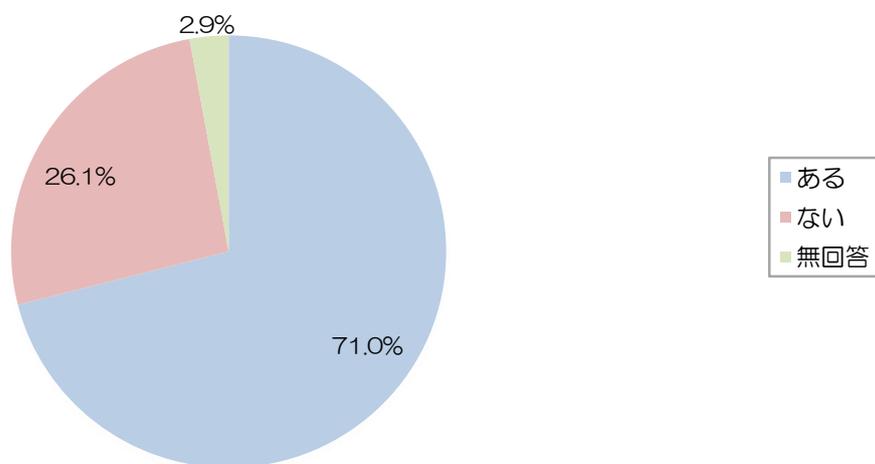
(5) その他

① 川下りの経験の有無

川下りの経験の有無については、全体では「ある」が71.0%、「ない」が26.1%となっています。

出身地別では、市内出身者の「ある」の割合が93.7%に達しています。

問18 柳川の川下りをしたことがありますか。【○は1つ】



	単純集計	性別		出身地別	
	全体	男性	女性	市内	市外
調査数	590	304	286	206	382
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
ある	419	211	208	193	225
	71.0%	69.4%	72.7%	93.7%	58.9%
ない	154	81	73	5	149
	26.1%	26.6%	25.5%	2.4%	39.0%
無回答	17	12	5	8	8
	2.9%	3.9%	1.7%	3.9%	2.1%

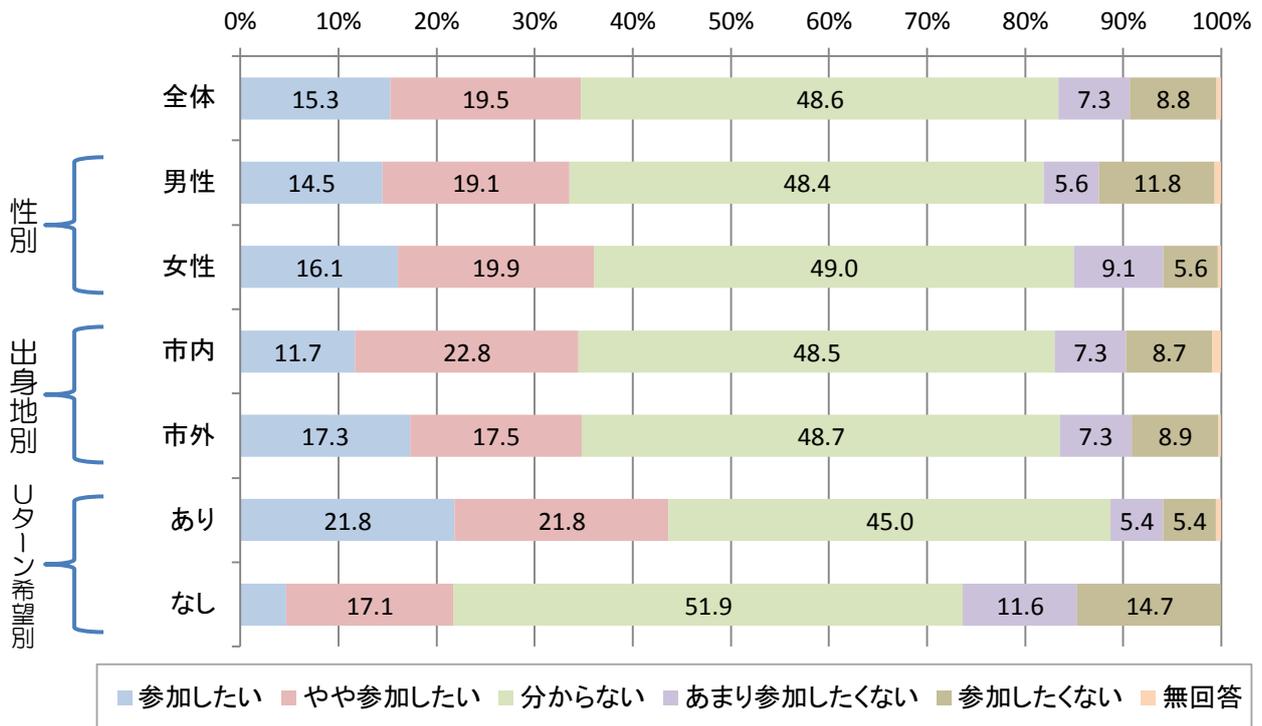
② 地元への貢献に対する考え

地元への貢献に対する考えについては、全体では「参加したい」「やや参加したい」の合計が34.8%となっており、「参加したくない」「あまり参加したくない」の合計の16.1%を大きく上回っています。

Uターン希望別では、ありの「参加したい」「やや参加したい」の合計43.6%が、なしの21.8%を大きく上回っています。

問19 あなたは、出身地のために、何か出来ることがあれば参加したいと思いますか。

【〇は1つ】



	単純集計	性別		出身地別		Uターン希望別	
	全体	男性	女性	市内	市外	あり	なし
調査数	590	304	286	206	382	371	129
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
参加したい	90	44	46	24	66	81	6
	15.3%	14.5%	16.1%	11.7%	17.3%	21.8%	4.7%
やや参加したい	115	58	57	47	67	81	22
	19.5%	19.1%	19.9%	22.8%	17.5%	21.8%	17.1%
分からない	287	147	140	100	186	167	67
	48.6%	48.4%	49.0%	48.5%	48.7%	45.0%	51.9%
あまり参加したくない	43	17	26	15	28	20	15
	7.3%	5.6%	9.1%	7.3%	7.3%	5.4%	11.6%
参加したくない	52	36	16	18	34	20	19
	8.8%	11.8%	5.6%	8.7%	8.9%	5.4%	14.7%
無回答	3	2	1	2	1	2	0
	0.5%	0.7%	0.3%	1.0%	0.3%	0.5%	0.0%

③ 地元のために参加したいこと

問 19 で「参加したい」または「やや参加したい」と回答した方 205 人に、参加したい内容について尋ねたところ、「環境美化に関する活動」が最も多く、次いで、「イベント・行事等に関する活動」「ボランティア活動」の順となっています。

問 20 あなたは出身地のためにどんなことをしてみたいですか。具体的に書いてください。

【自由記述式】

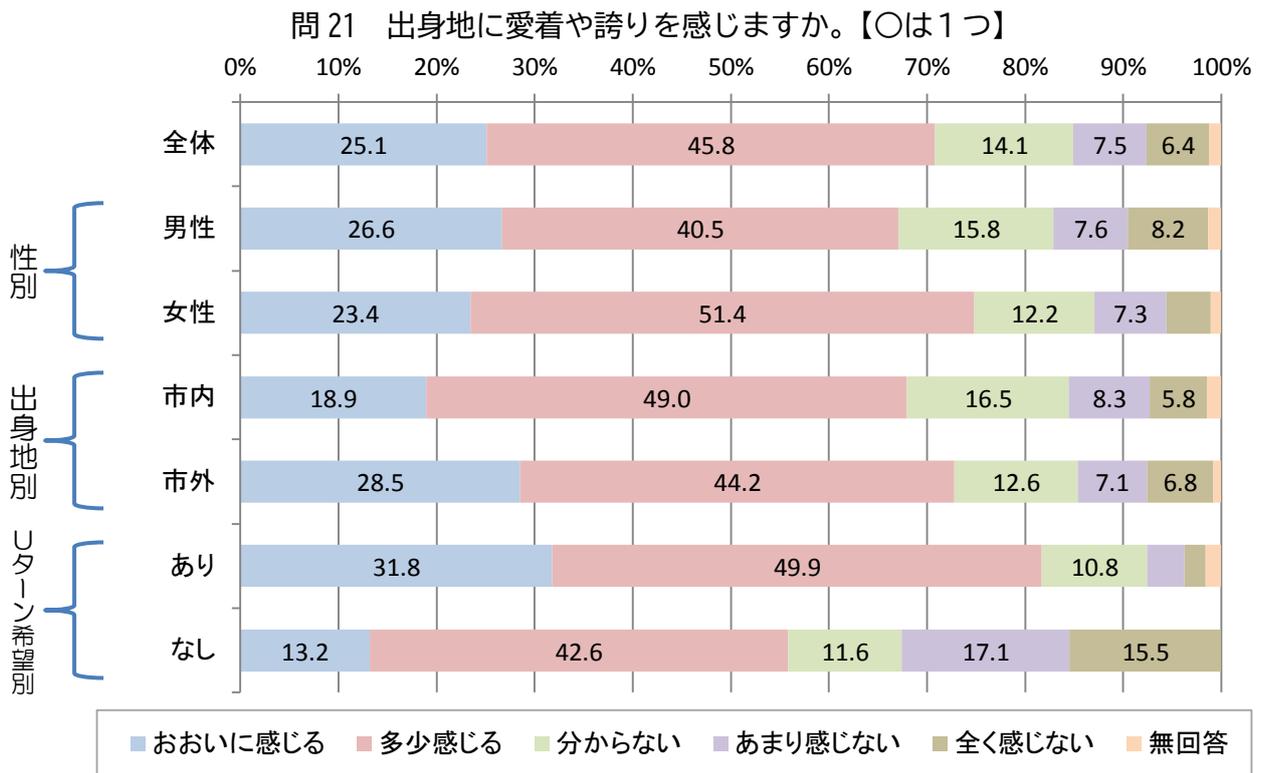
回答内容	回答件数
環境美化に関する活動：清掃活動 等	62 件
イベント・行事等に関する活動：地域の祭・イベント 等	39 件
ボランティア活動：寄付・募金活動 等	33 件
広報に関する活動：地元のPR 等	15 件
産業に関する活動：特産品に関する活動 等	8 件
観光に関する活動：観光ボランティア、大河ドラマの招致活動 等	7 件
災害に関する活動：災害ボランティア、消防団 等	4 件
福祉に関する活動：高齢者支援、子ども支援	3 件
文化に関する活動：文化財保護、劇団活動 等	2 件
その他の活動：青年団活動、地域の活性化、やれることなら何でも 等	25 件
計	198 件

④ 地元に対する愛着や誇り

地元に対する愛着や誇りについては、全体では「おおいに感じる」「多少感じる」の合計が70.9%となっており、「全く感じない」「あまり感じない」の合計の13.9%を大きく上回っています。

出身地別では、市外出身者の「おおいに感じる」の割合28.5%が、市内出身者の18.9%を上回っており、地元に対する愛着や誇りを感じています。

Uターン希望別では、ありの「おおいに感じる」「多少感じる」の合計81.7%が、なしの55.8%を大きく上回っています。



	単純集計	性別		出身地別		Uターン希望別	
	全体	男性	女性	市内	市外	あり	なし
調査数	590	304	286	206	382	371	129
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
おおいに感じる	148	81	67	39	109	118	17
	25.1%	26.6%	23.4%	18.9%	28.5%	31.8%	13.2%
多少感じる	270	123	147	101	169	185	55
	45.8%	40.5%	51.4%	49.0%	44.2%	49.9%	42.6%
分からない	83	48	35	34	48	40	15
	14.1%	15.8%	12.2%	16.5%	12.6%	10.8%	11.6%
あまり感じない	44	23	21	17	27	14	22
	7.5%	7.6%	7.3%	8.3%	7.1%	3.8%	17.1%
全く感じない	38	25	13	12	26	8	20
	6.4%	8.2%	4.5%	5.8%	6.8%	2.2%	15.5%
無回答	7	4	3	3	3	6	0
	1.2%	1.3%	1.0%	1.5%	0.8%	1.6%	0.0%

⑤ 柳川市に対する自由意見

柳川市に対する自由意見については、373人から443件の回答を得ました。
「生活環境」が最も多く、次いで、「まちづくり全般」「観光」の順となっています。

問22 あなたは柳川市がどのようなまちになったらよいと思いますか。意見や要望等を自由に書いてください。

回答項目	主な意見・要望	回答件数
生活環境	ゴミのないきれいなまちづくり (45件) 川・掘割の景観の改善 (33件) カラスの駆除 (15件) バイク等による騒音の改善 (8件) 飲食・娯楽施設等の充実 (64件) 公共交通の利便性向上 (23件) その他 (野焼きに対する指導等) (5件)	193件
観光	観光客で賑わうまちづくり (34件) 外国人観光客が多く来訪するまちづくり (7件)	41件
安全・安心	治安が良い安全なまちづくり (18件) 歩道整備や舗装の維持・管理等の道路整備 (14件) 街灯の設置 (5件) その他 (交通マナーの改善等) (2件)	39件
産業振興	活気のあるまちづくり (25件) 若者がたくさんいるまちづくり (3件) その他 (農業が盛んなまち、企業の発展) (2件)	30件
子育て・教育	子育てがしやすいまちづくり (3件) 学習スペースの確保 (4件) その他 (学校における週休5日制の実施等) (2件)	9件
福祉	子どもからお年寄りに優しいまちづくり (8件)	8件
まちづくり全般	住みやすいまちづくり (35件) 今のままでよい (10件) その他 (明るいまち、楽しいまち等) (66件)	111件
その他	上記以外のご意見	12件
計		443件

<参考資料>

1 市民アンケート調査票

まちづくりに関するアンケート調査

～第2次柳川市総合計画後期基本計画策定のための市民意識調査～

アンケート調査へのご協力をお願い

市民の皆様には、日頃から市政に対しご理解、ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。柳川市では、平成29年6月に市のまちづくりの基本的な指針となる「第2次柳川市総合計画」を策定しました。

第2次柳川市総合計画は将来像を「水と人とまちが輝く柳川」とし、4つの目標から成っています。1つ目は1人でも多くの市民が柳川に愛着や誇りを持てるような取り組みを行う「柳川の歴史・文化・風土に誇りと愛着を持つふるさとづくり」、2つ目は若い世代が子育てや暮らしやすさを実感しながら、住み続ける「若い世代の希望を叶え、柳川の子育て、暮らしに幸せを感じるひとづくり」、3つ目は市民の満足度を上げることで市外に住む人が惹きつけられる「水郷柳川の風情や快適さに共感し人を惹きつけるまちづくり」、4つ目が地域資源を活かして柳川の稼ぐ力を育てる「柳川の地域資源や産物を誇れるしごとづくり」に取り組んでいます。

このアンケートは、2020年度から始まる後期基本計画の策定に向け、市民の皆様の生活の実態やまちづくりに対する考えを把握し、今後のまちづくりに活用するために実施するものです。

多くの市民の皆様の声や、柳川市のまちづくりに反映させていきたいと考えておりますので、ご協力の程よろしくお願い致します。

平成30年11月

柳川市長 金子 健次

1. アンケート調査の対象者

- ◆ このアンケート調査は、11月1日現在で柳川市在住の19歳以上の方から、無作為に抽出した1,000人を対象としています。

2. ご記入、ご返送について

- ◆ ご回答は、あて名のご本人が記入してください。
(なお、ご本人による記入が難しい場合は、代理人による代筆で記入してください。)
- ◆ ご回答は、あてはまる番号を○で囲んでください。
- ◆ 「○は1つ」や「○は3つまで」と回答の数が指定されている質問などがありますので、それぞれ文章に従ってお答えください。
- ◆ ご記入は鉛筆またはボールペンをお願いします。
- ◆ 記入された調査票は、同封の返信用封筒(切手不要)で12月3日(月)までに郵便ポストに投函してください。

3. 調査票の取扱いについて

- ◆ 調査結果は、統計的に処理を行いますので、個人が特定される形で外部に伝わることはありません。

4. お問い合わせ先

- ◆ ご不明な点等は、柳川市 総務部 企画課 総合戦略推進係 電話 0944-77-8179 まで

転入・転出の経験について

問9. あなたはこれまで柳川市外へ転出したことがありますか。【〇は1つ】

1. ある 2. ない (→問 10 に進む)

問 9-1～問 9-3 までは、問 9 で「1. ある」と回答された方におたずねします。

2回以上転出のご経験がある方は、直近の転出についてご回答ください。

問9-1. 転出したのはいつですか。【〇は1つ】

1. 中学校を卒業して、進学・就職などをした時
2. 高校を卒業して、進学・就職などをした時
3. 短大・大学・専修学校（専門学校）を卒業して、就職などをした時
4. 10歳代（学校等の卒業時を除く） 5. 20歳代（学校等の卒業時を除く）
6. 30歳代 7. 40歳代
8. 50歳代 9. 60歳を過ぎてから

問9-2. 転出先はどこですか。【〇は1つ】

1. 福岡市 2. 久留米市 3. 大牟田市 4. 八女市 5. 筑後市
6. 大川市 7. みやま市 8. その他の県内市町村 9. 県外市町村
10. 国外

問9-3. 転出した理由はどのような理由からですか。【〇はいくつでも】

1. 就職のため 2. 転勤のため
3. 進学のため 4. 結婚のため
5. 親（子）と一緒に住むため 6. 家族の都合のため（親の転勤等）
7. 他の自治体に住みたかったため 8. その他（ ）

問10. あなたはこれまで柳川市外から転入したことがありますか。【〇は1つ】

1. ある 2. ない (→問 11 に進む)

問 10-1～問 10-3 までは、問 10 で「1. ある」と回答された方におたずねします。

2回以上転入のご経験がある方は、直近の転入についてご回答ください。

問10-1. 転入したのはいつのことですか。【〇は1つ】

1. 中学校を卒業して、進学・就職などをした時
2. 高校を卒業して、進学・就職などをした時
3. 短大・大学・専修学校（専門学校）を卒業して、就職などをした時
4. 10歳代（学校等の卒業時を除く） 5. 20歳代（学校等の卒業時を除く）
6. 30歳代 7. 40歳代
8. 50歳代 9. 60歳を過ぎてから

まちの住みやすさについて

問11. 現在お住まいの小学校区は、快適な住環境であると思いますか。【○は1つ】

- | | | |
|--------------|-----------|--------------|
| 1. そう思う | 2. ややそう思う | 3. どちらともいえない |
| 4. あまりそう思わない | 5. そう思わない | |

問12. あなたの生活環境について、どのくらい満足しているか、また、どのくらい重要と考えているかをお聞きます。以下のすべての項目について、「現在の評価」と「今後の要望」の回答欄から、それぞれ該当するものを1つずつ選んで○を付けてください。

		あなたが感じる満足度 (現在の評価)					あなたが感じる重要度 (今後の要望)				
		満足	やや満足	どちらともいえない・わからない	やや不満	不満	重要	やや重要	どちらともいえない・わからない	あまり重要ではない	重要ではない
1	道路の利便性	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
2	公共交通の利便性	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
3	買物の便利さ	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
4	飲食・娯楽のための施設	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
5	自然の豊かさ	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
6	街並みや景観の美しさ	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
7	水辺の景観や掘割の保全状況	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
8	地域の治安のよさ	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
9	地震などの災害への安全対策	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
10	病院、診療所などの医療施設	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
11	子育てしやすい環境	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
12	義務教育の水準	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
13	公民館、図書館などの社会教育施設	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
14	市民会館や水の郷などの文化施設	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
15	文化芸術活動の活発さ	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
16	公園、広場、緑地などの施設	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
17	グラウンドや体育館などのスポーツ施設	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
18	近所付き合いのよさ	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
19	市民活動などの地域コミュニティの活発さ	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5

問13. この1年以内に川下りをしたことがありますか。【〇は1つ】

1. ある 2. ない

問14. 地域活動やボランティアに参加していますか。【〇は1つ】

1. 参加している 2. 参加していない

問14で「1. 参加している」と回答された方におたずねします。

問14-1. 参加した内容または名称をお書きください。

--

問 15. 柳川市が運行しているコミュニティバスを知っていますか。【〇は1つ】

1. 路線・ダイヤなど含めよく知っている 2. ある程度知っている
3. 聞いたことはあるが、よく知らない 4. 知らない

問 16. 外出する際、路線バスや電車などの公共交通を利用しようと思うことはありますか。

【〇は1つ】

1. よく思う 2. たまに思う 3. あまり思わない 4. 全く思わない

定住意向について

問17. あなたはこれからも柳川市に住み続けたいと思いますか。【〇は1つ】

1. 住み続けたい 2. 住み続けたくない 3. 分からない

問18. 柳川市に愛着や誇りを感じますか。【〇は1つ】

1. おおいに感じる 2. 多少感じる 3. 分からない
4. あまり感じない 5. 全く感じない

問19. あなたは友人や知人に柳川市に住むことをお勧めしますか。【〇は1つ】

1. 強く勧める 2. 勧める 3. 分からない
4. あまり勧めない 5. 勧めない

問20. 柳川市の自慢できるところを1つお書きください。

--

問21. 最後に柳川市のまちづくりについて、ご意見等がありましたらご自由にお書きください。

--

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

記入された調査票は、同封の返信用封筒（切手不要）で12月3日（月）までに郵便ポストに投函してください。

問9. あなたは、高校を卒業後、どのような進路を希望していますか。【○は1つ】

1. 進学 2. 就職 3. まだ決めていない

問10. あなたの現在の気持ちとして、高校を卒業後、進学や就職を希望する地域はどこですか。

【○は1つ】

1. 柳川市 2. 福岡市 3. 久留米市 4. 大牟田市
5. 八女市 6. 筑後市 7. 大川市 8. みやま市
9. その他の県内 10. 関東地域 11. 関西地域 12. その他の県外
13. わからない（まだ決めていない） 14. その他（ ）

問11. あなたの現在の気持ちとして、将来希望する職業・職種は何ですか。【○はいくつでも】

1. 営業職
2. 事務系職種（オフィスワーク）
3. 技術系職種（IT／通信・SE・システムエンジニア）
4. 技術系職種（素材／化学／食品／その他）
5. 専門職種（コンサルタント・マーケティング・不動産・士業系）
6. 医療・介護・福祉系専門職種（医療・看護師・薬剤師／介護／福祉）
7. クリエイティブ・クリエイター系職種
8. 販売・サービス系職種
9. 企画・管理系職種
10. 技術系職種（機械／電気／組み込み）
11. 技術系職種（建築設計／土木／プラント／設備）
12. 金融関連専門職種（銀行／保険／FP）
13. 公務系職種（公務員・官公庁・独立行政法人・教員・農林水産関連）
14. 農業・漁業
15. 商店・工場・サービス業などの自営業
16. 医師・弁護士などの自由業
17. その他（具体的に： ）
18. わからない

問12. あなたが将来就職した場合、仕事場までの通勤時間はどれくらいまでだったら通えると思いますか。【○は1つ】

1. 15分以内 2. 30分以内 3. 1時間以内 4. 2時間以内
5. 2時間を超えても問題はない

問16. 柳川市の生活環境について、どのくらい満足しているか、また、どのくらい重要と考
えているかをお聞きします。以下のすべての項目について、「現在の評価」と「今後の要
望」の回答欄から、それぞれ該当するものを1つずつ選んで○を付けてください。

		あなたが感じる満足度 (現在の評価)					あなたが感じる重要度 (今後の要望)				
		満 足	や や 満 足	い ど ち ら と も い え な い ・ わ か ら な い	や や 不 満	不 満	重 要	や や 重 要	い ど ち ら と も い え な い ・ わ か ら な い	は あ ま り 重 要 で は な い	重 要 で は な い
1	道路の利便性	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
2	公共交通の利便性	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
3	買物の便利さ	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
4	飲食・娯楽のための施設	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
5	自然の豊かさ	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
6	街並みや景観の美しさ	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
7	水辺の景観や掘割の保全状況	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
8	地域の治安のよさ	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
9	地震などの災害への安全対策	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
10	病院、診療所などの医療施設	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
11	子育てしやすい環境	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
12	義務教育の水準	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
13	公民館、図書館などの社会教育施設	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
14	市民会館や水の郷などの文化施設	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
15	文化芸術活動の活発さ	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
16	公園、広場、緑地などの施設	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
17	グラウンドや体育館などのスポーツ施設	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
18	近所付き合いのよさ	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
19	市民活動などの地域コミュニティの活発さ	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5

問17. 柳川市は、住みやすいまちであると思いますか。【○は1つ】

1. そう思う 2. ややそう思う 3. どちらともいえない
4. あまりそう思わない 5. そう思わない 6. 分からない

問18. 柳川の川下りをしたことがありますか。【○は1つ】

1. ある 2. ない

問19. あなたは、出身地のために、何か出来ることがあれば参加したいと思いますか。

【○は1つ】

1. 参加したい 2. やや参加したい 3. 分からない
4. あまり参加したくない 5. 参加したくない

問20. 問 19 で「1. 参加したい」「2. やや参加したい」と回答した方におたずねします。
あなたは、出身地のためにどんなことをしてみたいですか。

具体的に書いてください。

問 21. 出身地に愛着や誇りを感じますか。【○は1つ】

1. おおいに感じる 2. 多少感じる 3. 分からない
4. あまり感じない 5. 全く感じない

問22. あなたは柳川市がどのようなまちになったらよいと思いますか。

意見や要望等を自由に書いてください。

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

柳川市人口ビジョン【第2期】

平成31年3月

発行 柳川市 総務部 企画課
〒832-8601 福岡県柳川市本町87番地1
TEL (0944)73-8111